LIXIL

ビルサッシ
ビル商品取扱い説明書
お施主さま用

ビル商品取扱い説明書



ご使用にあたって

- この取扱い説明書を読んで理解した上で、「ビル商品」の操作およびお手入れをしてください。
- この取扱い説明書は、ご使用中に不明な点やお手入れの方法などをいつでも調べられるよう大切に保管してください。

LIXIL Link to Good Living

2021.9

はじめに

このたびは、当社商品をご採用いただき誠にありがとうございます。

本書は、商品をながく安全にお使いいただくための、主なご注意·お願いおよび商品の調整·お手入れ方法などをまとめたものです。

本書をよくお読みいただいた上で、当社商品をご使用いただきますようお願いいたします。

なお、電動商品等の特別な機能を有している商品や特有な操作方法がある商品については、別途、個別の取扱い説明書がありますので、併せてご覧ください。

重要なお知らせ

ご使用の前に

●安全のために必ずお守りください。

「ビル商品」のご使用およびお手入れを行う場合は、必ずこの取扱い説明書にしたがってください。なお、この取扱い説明書にしたがわず、乱用または誤用によって、ケガおよび損害が発生した場合は、株式会社 LIXIL およびその販売会社に責任はないものといたします。

1. この取扱い説明書の記載事項の他にも、あらゆる危険が想定されます。したがって、「ビル商品」のご使用およびお手入れの際は、この取扱い説明書の記載事項に限らず、安全対策に関して十分な配慮が必要です。
2. この取扱い説明書は版権を有し、その権利は留保されています。

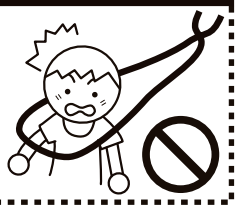
安全に正しくお使いいただくために

●商品をご使用いただく上で、人身事故や財産の損害を未然に防止するために、守っていただきたいこととして下記のような警告表示をしています。内容をよくご理解の上、商品をご使用ください。
●窓、ドア、引戸、網戸の開閉は、人がぶつかったり、指を挟んだり、思わぬケガや事故につながるおそれがありますので、周囲に人がいないことを確認し、引手やハンドルを持ち、ゆっくりと行ってください。
●窓、ドア、引戸、網戸の開閉時、指を挟んだり、思わぬケガや事故につながるおそれがありますので、操作部品や可動部品のすき間、窓（網戸）と枠のすき間やドア（引戸）と枠のすき間に手や足を置かないでください。
●窓、ドア、引戸、網戸の取りはずしや調整を行う前に、必ずこの取扱い説明書を読んで正しい操作を行ってください。
●窓、ドア、引戸、網戸の取りはずしや取付け・調整などを行う際は、周囲に人がいないことを確認し、安全に十分注意して行ってください。
●窓、ドア、引戸をしっかり閉め、確実に鍵をかけてください。施錠後は、錠がかかっていることを確認してください。
●窓、ドア、引戸、網戸に寄りかかるなど荷重をかけないでください。
●長期間商品をご使用になりますとねじのゆるみが発生することがあります。商品のねじがはずれたり、ゆるんでいないか時々点検してください。
●お手入れなどで窓から身を乗り出さないでください。
●お手入れなどのために障子や網戸をはずした後、再び窓枠に取付けたときは、表示ラベルに従ってはずれ止め部品を必ずかけてください。
●外出時や就寝時、また強風時には必ず窓、ドア、引戸を閉め、主錠だけでなくクレセントロックや補助錠も必ず施錠してください。
●サッシやドアの錠を分解しないでください。故障して施解錠できなくなるおそれがあります。
●窓やドアの近くに、小さなお子さまが飲み込んでしまうような部品が落ちていないかご確認ください。
●開閉時や操作時に異常（がたつき、異音、重い、固いなど）を感じた場合は、ご使用を中止し、管理会社さままたは当社お客さま相談センターにお問い合わせください。

■操作ひもまたはボールチェーンについての注意事項

⚠ 警　告

操作ひもまたはボールチェーンが小さなお子さまの首や体に巻きつくなど思わぬ事故の原因となりますので、下記事項をお守りください。
●小さなお子さまを操作ひもまたはボールチェーンやその周囲で遊ばせないようにご注意ください。
●ご使用後は必ず付属のコードクリップを使用しお子さまの手が届かない位置で束ねて留めてください。



⚠ 注　意

●開いている窓から身を乗り出さないでください。特にお子さまにはご注意ください。思わぬケガや事故につながるおそれがあります。
●窓の近くや操作ひもまたはボールチェーンの下には踏み台になるような物を置かないでください。窓から落下したり、操作ひもやボールチェーンが首や体に巻きつくなど思わぬケガや事故につながるおそれがあります。



警告用語の種類と意味

警告用語	意　味
⚠警 告	取扱いを誤った場合に、使用者などが死亡又は重傷を負う危険が想定されます。
⚠注 意	取扱いを誤った場合に、使用者などが中程度の傷害・軽傷を負う危険又は物的損害の発生が想定されます。 商品毎の冒頭にまとめて記載していますので必ずお読みください。
お 願 い	特に注意を促したり強調したい情報で、指示に従わないと使用者などが思わぬケガをするおそれや、機器の損傷・故障等につながる場合があります。

目次

商品種類	商品名	ページ
■ 共通事項	管理責任者様向け取扱い説明書　お手入れ方法　使用上のご注意 商品保証について　BL認定品の商品保証について	5〜14
□ フロアヒンジドア	アルミ　スチール　ステンレス　PRO	15〜16
□ 開きドア （かまちドア、FD含む）	アルミ　スチール　ステンレス　PRO PRO-SE　RM-100N·TB　RXシリーズ　E-SHAPEシリーズ	17〜20
□ 通風ドア	PRO-SE	21〜22
□ ノンレール（かまちドア）	PRO-SE	23
□ 軽量·重量ドア	開き戸	24〜25
□ 引違い窓	PRO　RMA-70G·TC　PRO-SE　RMA-100 RMN-100 RM-100N·TB　SAMOS-H RF　PRESEA-S	26〜41
□ ノンレール（引違い窓）	PRO-SE	42〜43
□ 引戸	PRO　PRO-SE	44
□ 片引き窓	PRO　TBH-100AT　PRO-SE　PRO-SE100 RMA-100　RMN-100　RM-100N·TB　PRESEA-S	45〜48
□ ノンレール（片引き窓）	PRO-SE	49〜50
□ 換気小窓·換気かまち	PRO-SE　PRO　SAMOS-H RF	51〜52
□ 網戸	可動網戸　固定網戸　自走防止ストッパー付網戸	53〜64
□ 横引き収納網戸	内付け	65〜68
□ 横引きロール網戸	額縁付タイプ　テラスタイプ	69〜73
□ すべり出し窓 □ 突き出し窓	PRO　PRO-SE	74〜75
□ 内倒し窓 □ 外倒し窓	PRO　PRO-SE	76〜77
□ 上げ下げ窓	PRO-SE	78〜79
□ ガラスルーバー	PRO-SE	80
□ オーニング窓	PRO-SE	81
□ 排煙窓·換気窓	ワンタッチ　オペレータ	82〜85
□ 開き窓	PRO　PRO-SE　RM-100N·TB RXシリーズ	86〜89
□ たてすべり出し窓	PRO　RMA-70G·TC PRO-SE　PRO-SE100　EXシリーズ　RXシリーズ	90〜93

商品種類	商品名	ページ
□ たて軸回転窓	PRO　RM-100N･AT　RM-100N･TB EXシリーズ　PRO-SE	94～96
□ 横軸回転窓	RM-100N･AT　RM-100N･TB	97
□ ブラインド内蔵たて軸回転窓	RM-100N･AT　RM-100N･TB	98
□ ブラインド内蔵横軸回転窓	RM-100N･AT　RM-100N･TB	99～100
□ ブラインド内蔵内開き窓	RM-100N･AT　RM-100N･TB	101
□ ブラインド内蔵FIX窓	RM-100N･AT　RM-100N･TB	102
□ ブラインドの取扱い		103
□ ドリーキップ	ツープレイオープン	104
□ 大型片引き窓･引違い窓	ヘーベシーベフェンスター	105～107
□ 折れ戸	ウィングオープン	108～111
□ 縦型換気ユニット	シーガルウィンドウ	112～117
□ 風量調整機構付縦型換気ユニット	シーガルスリット	118～119
□ 引違い窓（内窓） □ FIX窓（内窓） □ 開き窓（内窓）	インプラス	120～121
□ 手すり		122
□ Vルーバ		123
□ 網付面格子		124
□ 換気口用消音ボックス	クレール	125
□ カーテンウォール	E-SHAPE　E-SHAPE Window　E-SHAPE Window TYPE-S E-SHAPE Window+Wood　Segel Swing	126～141
□ エアート（通風換気機能付玄関ドア）	マンションドア NXPⅡ	142
□ 共通事項	アフターメンテナンスについて	144

管理責任者様向け取扱い説明書

ビル用

ご使用いただいている窓や扉等の建材商品を、安全に正しくお使いいただくために、必ず取扱い説明書をお読みください。また、いつでもお読みいただけるように大切に保管してください。

管理責任者様は、下記事項をお守りください。

(1)次の項目について点検をしてください。

□注意ラベルが汚損またはなくなっていないか点検してください。

→該当する場合は、新しい注意ラベルを弊社へお求めください。

→注意ラベルは、引違い窓、網戸、外開き窓、非常進入口、たてすべり出し窓、反転窓、たて軸回転窓、横軸回転窓等に貼付けしてありますので、ご確認ください。

□引違い窓等や網戸には、脱落防止のために外れ止め部品を設けています。

外れ止め部品が正しくかかっているか、部品のはずれや変形･破損がないか定期的に(半年に1回程度)点検してください。(26～30、32、44、45～47、53～68頁参照)

また、清掃、修繕等の折に外された場合、必ずもと通り調整されているかどうか点検してください。

→もと通りに調整されていない場合は、調整してください。

→調整の方法は、ラベルまたは取扱い説明書の方法により行ってください。

□台風、暴風雨等が予測される場合、必ず出入口や窓が閉まり、施錠されていることを点検してください。

また、台風、暴風雨等が通過後、出入口や窓に不具合がないかどうか点検してください。

→不具合を発見された場合は、応急処置を行い、弊社へご相談ください。

(2)その他、日常点検において、開閉や施錠等に不具合を発見された場合は、早急に弊社へご相談ください。

(3)メンテナンス、修理は必ず販売店、弊社の地域ごとの営業事業所またはLIXIL修理受付センターへご用命ください。

集合住宅用

ご使用いただいている窓や扉等の建材商品を、安全に正しくお使いいただくために、必ず取扱い説明書をお読みください。また、いつでもお読みいただけるように大切に保管してください。

管理責任者様は、下記事項をお守りください。

(1)入居者の方に取扱い説明書を手渡してください。

□弊社では、入居されている方に建材製品を正しく安全にご使用いただくために、取扱い説明書を用意しております。

→入居されている方に確実にお渡しください。

□入居者が入れ替った場合、新しい入居者に取扱い説明書をお渡しください。

→お手元に取扱い説明書がない場合、弊社オフィシャルサイトからダウンロードするか弊社営業事業所へ必要部数をお申し付けください。(有償)

(2)共用部分は、管理責任者様が点検してください。

□注意ラベルが汚損またはなくなっていないか点検してください。

→該当する場合は、新しい注意ラベルを弊社へお求めください。

→注意ラベルは、引違い窓、網戸、外開き窓、非常進入口、たてすべり出し窓、反転窓、たて軸回転窓、横軸回転窓等に貼付けしてありますので、ご確認ください。

□引違い窓等や網戸には、脱落防止のために外れ止め部品を設けています。外れ止め部品が正しくかかっているか、部品のはずれや変形･破損がないか定期的に(半年に1回程度)点検してください。(26～30、32、44、45～47、53～68頁参照)また、清掃、修繕等の折に外された場合、必ずもと通り調整されているかどうか点検してください。

→もと通りに調整されていない場合は、調整してください。

→調整の方法は、ラベルまたは取扱い説明書の方法により行ってください。

□台風、暴風雨等の異常気象が予測される場合、必ず出入口や窓が閉まり、施錠されていることを点検してください。

また、台風、暴風雨等が通過後、出入口や窓に不具合がないかどうか点検してください。

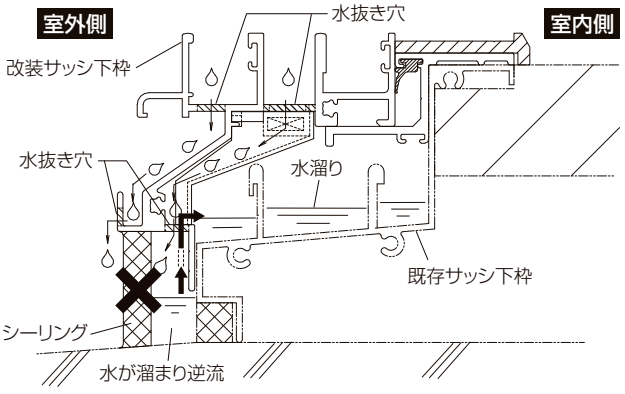
→不具合を発見された場合は、応急処置を行い、弊社へご相談ください。

(3)入居者が行う点検は、管理責任者様が点検事項を指示してください。

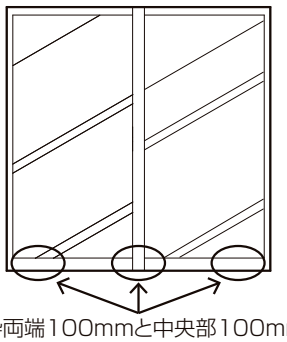
(4)改装サッシ取付後の取扱いについて

□防水工事などでサッシ下枠の下側にシーリングを打たないでください。排水孔をふさぐ事になり、水が逆流して室内側へ漏水するおそれがあります。

やむを得ずシーリングを打つ場合は、排水孔を避けてシーリングを打つ様にしてください。※図



※図(外観)



下枠両端100mmと中央部100mmの位置に排水孔があります

(5)不具合がありましたらご連絡ください。

□入居者から製品の使用にあたって不具合のお申し出があった場合は、早急に弊社へご相談ください。

(6)メンテナンス、修理は必ず販売店、弊社の地域ごとの営業事業所またはLIXIL修理受付センターへご用命ください。

お手入れ方法（清掃方法）

いつまでも美しく商品をお使いいただくために、それぞれの性質に応じた方法で、定期的なお手入れが必要です。

1.アルミ・スチール・ステンレス製商品のお手入れ

お手入れはなるべくこまめに

●長期間、清掃しないままにしておきますと、表面に付着した汚れは、しみや腐食の原因となります。汚れが軽微なうちに清掃してください。清掃の目安は、月に1回程度です。レール部分にたまった砂やゴミをそのままにして使用を続けると、汚れや傷の原因となりますので、なるべくこまめなお手入れをおすすめします。

　特に沿岸地域（日本海側では沿岸から離れていても）交通量の多い道路沿い、凍結防止剤を使用している地域では、塩分や排気ガスによる汚損が進みやすいので、清掃の頻度をこまめにして頂くことをおすすめします。

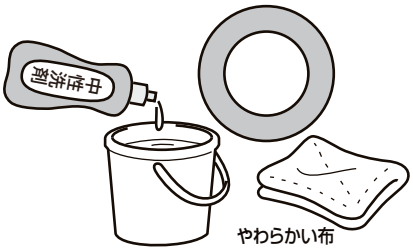
※特に台風の後は、塩分等が付着しやすく、腐食の原因となりますので、必ず清掃をお願いします。

お手入れ方法

①表面についた砂やほこりをていねいに取除きます。隅の清掃は歯ブラシを利用すると便利です。

②水でぬらしたやわらかい布またはスポンジで全体の汚れをふき取ります。特に汚れがひどい場合は、中性洗剤をうすめた液で汚れを落とし、そのあと水洗いします。

③最後にかたく絞ったやわらかい布またはスポンジで全体をふき取ります。





お手入れのご注意

●洗浄剤や薬品は、中性のものを使用してください。酸性薬品、アルカリ性薬品、塩素系薬品などの化学薬品は、アルミサッシやステンレスなどの金属部分を腐食させたり、塗膜はがれを引き起しますので、絶対に使用しないでください。

　気密材や水切材等に油性潤滑剤をふきかけますと、部品の破損につながりますので使用しないでください。

●お手入れの際には、やわらかい布またはスポンジなどを使い、ワイヤーブラシやサンドペーパーなどのご使用はさけてください。

●ステンレス製金物部品、網戸のステンレス網も環境条件により放置するとサビ発生のおそれがありますので、定期的な（年数回）お手入れをおすすめします。

●ステンレスが腐食に対して強いのは、表面に保護皮膜が形成されるからです。この皮膜は空気中の酸素が触れている間は優れた耐食性を示す性質を持っています。そのため、ステンレスの表面が汚れてくると、酸素との接触が妨げられるので、サビが発生することがあります。したがって、ステンレスは決して「サビない」ものではなく、「サビにくい」金属と言えます。

　ステンレスにサビが発生するのは、例えば次のような場合です。

・ハウスクリーニングの際、塩素系の洗剤がステンレス部分に付着した場合
・海岸沿いなどの住環境において、塩分が付着した場合
・大気中に浮遊する鉄分や有害ガス中の成分が付着した場合
・ドアの下枠部分のステンレス仕上げで、特にたて枠と下枠のコーナー部分に汚れが溜まった場合
・ドアの下枠部分のステンレス仕上げ面で、ヘアライン仕上げ等のヘアライン部に汚れが付着した場合

　そのままにしておくと、サビが発生しますので、日頃からこまめにお手入れをしてください。

●ステンレスのサビとして「もらいサビ」と言われるものがあります。例えば、鉄くぎのサビが表面に付着したり、土ぼこりの中に含まれる微細な鉄粉が雨水などによってサビてこびりついたりすることで、あたかもステンレス自身がサビたように見える現象です。いったん発生したサビは落とすことが難しいので、日頃からこまめにお手入れをしてください。

●樹脂製部品についても、本頁の樹脂製商品と同様のお手入れをおすすめします。

●電装部品（電気錠・照明・インターフォンなど）が組み込まれている場合には、電装部品に水がかからないようご注意ください。水がかかると、故障するおそれがあります。
電装部品に不具合が生じた場合には、最寄りの弊社事業所またはLIXIL修理受付センターへご連絡ください。

2.樹脂製商品のお手入れ

断熱商品には性能を高めるため、枠および障子が樹脂でつくられているものがあります。樹脂の中でも特に酸、アルカリに対して強い材質を選択していますが、長く快適に使用していただくために、樹脂製商品に対して注意すべき点があります。

お手入れはなるべくこまめに

樹脂は、アルミニウムなど他の材質と比べると、傷つきやすい性質があります。レール部分にたまった砂やゴミをそのままにして使用を続けると、汚れや傷の原因となりますので、なるべくこまめなお手入れをおすすめします。

お手入れは布やスポンジで

傷をさけるため、布やスポンジのような柔らかいものを使い、金属ブラシや金ベラなどは使用しないようにしてください。

ベンジンやシンナーはさけてください

樹脂は酸、アルカリに強い特性をもっていますが、ベンジン、ガソリン、エーテル、アセトン、シンナーなど有機溶剤は使用しないようにしてください。



薬品に対して

塩素系薬品（次亜塩素酸ナトリウムを含む漂白剤・カビ取り剤等）が、サッシに付着したまま放置された場合、表面が変化することがあります。付着した場合はすみやかに洗い落としてください。

お手入れ方法

①表面についた砂やほこりをていねいに取り除きます。隅の清掃は歯ブラシを利用すると便利です。
②水でぬらしたやわらかい布やスポンジで、全体の汚れを拭きとります。特に汚れがひどい場合は、中性洗剤、アルカリ性洗剤をうすめた液で落とし、そのあと水洗いします。



③最後に、かたく絞ったぞうきんで全体を拭きます。

3.網戸商品のお手入れ

お手入れはなるべくこまめに

●網戸は虫の侵入を防ぐように網を設定していますが通風時にゴミやホコリが付着することがあり、それだけ汚れるのも早く風通しも悪くなります。なるべくこまめなお手入れをおすすめします。

お手入れ方法

●お手入れのために網戸を外す時は、網戸の頁（53頁～）の注意事項をお守りください。

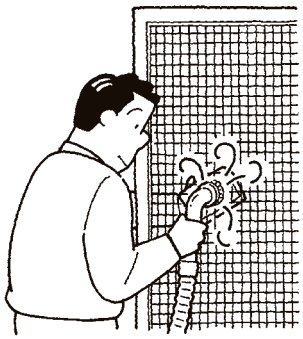
①外れ止め部品を解除して網戸を外し（ベランダ・廊下がない場合、横引き収納網戸、ロール網戸は取り付いた状態で可）庭やベランダでブラシなどで全体を軽くこすります。そしてゴミやホコリを落としてから中性洗剤をスポンジにつけ網の部分に塗るような気持ちでつけます。このとき、力をいれすぎると網が外れることがあります。

②最後に全体を水で洗い、乾かします。

③網戸を取り付けたら、必ず外れ止め金具が機能するように調整してください。

●取り外した網戸を元に戻した時には、外れ止め部品が機能しているかを確認してください。

④網戸が外せない場合は、乾いた大きめのスポンジを網戸の裏側に当て、その部分をブラシのついた吸込み口を取付けた掃除機で吸取ってください。



⑤横引き収納網戸の場合は網をはさみ込み、両側から同時に水ぶきしてください。汚れがひどい場合は、中性洗剤をうすめて使用し、その後、洗剤が残らないようによくふき取ってください。

⑥横引き収納網戸、ロール網戸の場合は、下枠レール枠に砂や埃がたまらないように掃除機で吸取り、水ぶきをしてください。特に汚れがひどい場合は、歯ブラシ等で汚れを落としてください。汚れを放置しておくと開閉できなくなります。

お手入れのご注意

●清掃時に網を強く押すと、網が外れることがあります。力を入れすぎないでください。

●横引き収納網戸・ロール網戸はご自分で取り外したり分解しないでください。分解すると開閉操作に支障が生じるおそれがあります。

●網戸の網や網を押えている網押え部分は、樹脂部品です。直射日光があたったり、風雨にさらされる等、ご使用いただいている住宅立地条件や自然環境によって、劣化が早く進むことがあります。劣化したままにしておきますと、網が破れたり、網が外れることがあります。時々点検して、網破れ、大きなたるみ、周辺部の外れのほか網押えのひび割れなどないか確認してください。異常があれば、お早めに張替えてください。

●洗浄剤や薬品は、中性のものを使用してください。酸性薬品、アルカリ性薬品、塩素系薬品、およびエタノール以外の有機溶剤は、アルミ部分などの金属部分を腐食させたり、塗膜はがれを引き起こしますので、絶対使用しないでください。同様に網戸の網や網を押えている網押えの樹脂部品を溶かしたりします。

●網戸の網がステンレスの場合、サビにくい材質ですが、環境条件によっては、汚れや塩分やもらいサビを放置するとサビが発生するおそれがあります。「お手入れ方法」を参照の上、汚れの軽いうちに清掃してください。

●海岸に近い所では年3～4回水洗いをしてください。

●高圧洗浄機やホース等による散水で窓や網戸を洗い流す場合、水が室内側へ浸入するおそれがありますのでご注意ください。
（漏水ではありません。）

●ご使用の初期に、網の糸が端から飛び出す場合があります。その際は、引っ張らずにハサミなどでカットしてください。



使用上のご注意

1.台風に備えて

台風などの暴風雨は、サッシの性能を超える風雨を伴うこともありますので、暴風雨になる前に事前の対策を図ることが必要です。

台風がくる前に

●網戸が飛ばされないよう、網戸の外れ止め部品がかかり網戸が外れないことを確認してください。（網戸の頁（53頁～）を参照願います）
●窓やドアを閉めて、確実に施錠してください。風にあおられて窓やドアが破損、落下するおそれがあります。
●ベランダに置いてある物が飛ばされて、ガラスが破損したりすると危険ですので、植木や空き箱などを室内に入れてください。

台風がきたら

●窓やドアの開閉はできるだけ控えてください。どうしても開閉しなければならない時は、手をはさんだり、ドアがあおられたりしないよう十分に気をつけてください。
●サッシの性能を超えた暴風雨の場合には、風の吹き方によっては雨水が浸入する場合がありますので、このときは、タオルなどを内部からサッシ枠内に詰めるなど対応してください。

2.結露について

窓ガラスやサッシ枠に結露が発生した場合、床や壁の汚損防止、木部の腐食防止のために、十分に拭き取ってください。

結露は、室内外の温度差が大きく室内の湿度が高い場合に、自然現象として季節を問わず発生し、窓の不具合ではありません。（室内の環境条件によっては、複層ガラスを使用していてもあるいは断熱サッシを使用していても、結露が発生する場合があります。）

一般的には、秋、冬の季節は暖房により結露が一層発生しやすく、乾燥防止のために加湿器をご使用の場合は、さらに結露が発生しやすい状況になります。特に、新築の家では、使用した木材などの建材に水分が含まれているため、冬の暖房時に、地域によっては乾燥しやすい時期に、その水分が放出されやすい室内環境になり、結露が発生しやすくなります。

内外二重サッシの場合、内部サッシには結露が発生しなくても、外部サッシのみ結露が発生する場合があります。室内の湿気を含んだ空気が内部サッシと外部サッシの間に閉じ込められることで、冷やされた外部サッシ側に結露が発生する事があります。窓の不具合ではありません。

結露を完全に無くすことはできませんが、できるだけ抑える方法として、次のようなことを心がけてください。

●換気をこまめにおこない、水分を含んだ室内の空気を排出すること。
●水蒸気の発生をへらし空気中の水分を減らすこと。（室内で洗濯物を干さない、灯油ストーブの上でやかんの湯を沸かさない等）

3.サッシの気密性とすきま風について

●サッシの気密性は、サッシから出入りする空気量で示し、少ない程性能が良いと言えますが、日本産業規格（JIS）ではこの空気の出入りを認めたものとなっており、出入りを遮断しなければならないとは規程していません。例えば気密性A-4等級のサッシは、室内外の圧力差が10Pa（約1kgf/㎡）のときに、サッシ面1㎡当り1時間に2m³以下の空気の出入りが認められています。（サッシ1窓全体の出入り量は、この数値にサッシ面積を掛け算します）さらに、換気扇やレンジフードの使用時は、強制的に空気を室外に排出することになるため、適切な面積の吸気孔がないと室内外に圧力差が生じて、サッシの微小隙間（気密材の接触部や押縁端部等）から入る空気の量が増えることになります。強風時も同様で、サッシに直接風があたり室内外に圧力差が生じた時には、サッシの微小なすきまからの空気の流入が増えることになります。

4.サッシの遮音性について

●サッシの遮音性とは、サッシを通して室外から室内へ侵入する音、室内から室外へ漏れる音をどれくらい遮ることができるのかを表す性能であり、音を完全に遮断し、住居内を無音状態にするというものではありません。住居ではサッシ以外に、換気口、換気扇など空気が出入りするところがあり、また、ベランダの有無、ベランダの構造、家具の配置などによっては、同じ遮音性能のサッシが付いたとしても、部屋ごとに室内の騒音レベルが異なります。カタログなどに記載しているサッシの遮音性能値は、サッシ単体の遮音性能のみを測定できる専用の実験室で測定した性能であり、お部屋で実測する数値とは異なります。
室内の騒音レベルを低くする簡単な対策としては、室内に厚地のカーテンや絨毯など、吸音効果のあるものを使用するという方法があります。

5.サッシおよびサッシ周辺からの音鳴り現象について

●アルミニウムの特性として、太陽の日射熱の影響を受けて部材の温度上昇により熱膨張が発生して部材が伸縮するという特徴が有ります。
また、アルミサッシの構造上、様々な形状の形材や部品にて構成されているため、各部材間のわずかな膨張率の違い等により音（パキパキ･ギシギシ･コーンなど）が鳴ることがあります。さらにアルミサッシに取り合う内装材（木額縁･床材･間仕切り等）の熱伸縮により摩擦･こすれ音が発生こともあります。
この現象はアルミサッシの性能に影響するものではありません。

6.取扱い上について

強風時の障子の開閉について

●テラス部分等に取付けられている大型の引違い窓や片引き窓では、外部からの強風により障子が枠側に押し付けられ、開閉操作が重くなることがあります。（24時間換気をしている場合も同様に発生する場合があります。）強風時の開閉は極力控えてください。

換気扇･レンジフード使用時の笛鳴りについて

●換気扇やレンジフードを作動させると、大量の空気を排出させると同時に、ほぼ同量の空気の流入が起こり、サッシから笛鳴りが発生する場合があります。この現象は、建物全体の気密性が高く、かつ流入する空気の導入口が設けられていなかったり、換気口等の導入口の大きさが適切でない場合に、サッシの小さなすきまから高速で空気が流入することにより生じる現象で、サッシの欠陥ではありません。適切な吸気口の設定や、窓を少し開けるなどの対応で笛鳴りは防げますので、外気の取り入れ口を確保して頂けますようお願いします。（24時間換気している場合や強風時にも同様に笛鳴りが発生する場合がありますので同じように対応して頂けますようお願いします。）

二重サッシ取り扱い上の注意

●二重サッシ（2組のサッシを一対として構成されたサッシ納まり）では、内外のサッシを閉じた状態で諸性能が発揮されます。したがって窓を閉める時は、必ず内外のサッシとも閉めて、施錠してご使用ください。
●あとから室内側にサッシを取付ける場合は、該当商品の取扱い説明書を読んでください。

ガラスの取扱い（破損時の入れ替えに際して）

●窓に使用されるガラスの種類と厚さは、サッシに要求される諸性能に応じて決定されています。
万一、ガラスが破損または、ヒビ割れた場合は安全のため、速やかに入れ替えてください。
その際、ガラスは必ず以前から入っているものと同等のものを入れてください。

商品保証について

本書は、当社の商品に関し、ここに記載の保証期間、保証内容の範囲において無料修理を行なうことをお約束するものです。保証期間中に故障・損傷などの不具合（以下「不具合」といいます）が発生した場合には、お取扱いの建築会社様、工務店様、販売店様または、当社営業事業所にご相談ください。

■対象商品
□ビル用建材商品

■保証期間
建築会社様よりの引き渡し日（注1、注2）から2年間（電装・排煙開閉装置部品については1年間）。ただし、商品の不具合による雨水浸入については10年間。
注1）改修工事の場合は、改修部分の工事完了の日とします。
注2）分譲住宅（建売住宅）・分譲マンションの場合は、工事完了後建築主様への引き渡し日とします。

■保証内容
取扱説明書、本体ラベルまたはその他の注意書きに基づく適正なご使用状態で、保証期間内に不具合が発生した場合には、下記に例示する免責事項を除き無料修理いたします。
なお、強風雨時に、サッシ下枠に雨水がたまることがありますが、これは商品上の特性であり不具合ではありません。不具合といえる雨水浸入は、サッシ下枠を超えて室内に雨水が流れ出したり、あふれ出たりすることです。

■免責事項
保証期間内でも、次の様な場合には有料修理となります。
①当社の手配によらない第三者の加工、組立て、施工、管理、メンテナンスなどに起因する不具合(例えば、海砂や急結材を使用したモルタルによる腐食。中性洗剤以外のクリーニング剤を使用したことによる変色や腐食。工事中の養生不良に起因する変色や腐食など)
②表示された商品の性能を超えた性能を必要とする場所に取付けられた場合の不具合
③建築躯体の変形など商品以外の不具合に起因する商品の不具合
④商品または部品の経年変化(使用に伴う消耗、摩耗など)や経年劣化(樹脂部品の変質、変色など)またはこれらに伴うさび、かびまたはその他の不具合
⑤商品周辺の自然環境、住環境などに起因する結露、腐食またはその他の不具合(例えば、塩害による腐食。大気中の砂塵、煤煙・各種金属粉、亜硫酸ガス、アンモニア、車の排気ガスなどが付着して起きる腐食。異常な高温・低温・多湿による不具合など)
⑥商品または部品の材料特性に伴う現象（例えば木製品の反り、干割れ、色あせ、木目違い、節抜け、樹液のにじみ出しなど）
⑦天災その他の不可抗力(例えば、暴風、豪雨、高潮、地震、落雷、洪水、地盤沈下、火災など)による不具合またはこれらによって商品の性能を超える事態が発生した場合の不具合
⑧実用化されている技術では予測することが不可能な現象またはこれが原因で生じた不具合
⑨犬、猫、鳥、鼠などの小動物に起因する不具合
⑩引き渡し後の操作誤り、調整不備または適切な維持管理を行わなかったことによる不具合（例えば、クレセント・錠などの部品が、使用中にがたついたり異音などが発生し、異常が生じたまま使用し続けたことが原因で発生した傷・破損などの不具合）
⑪お客様自身の組立て、取付け、修理、改造(必要部品の取外しを含む)に起因する不具合
⑫本来の使用目的以外の用途に使用された場合の不具合または使用目的と異なる使用方法による場合の不具合
⑬犯罪などの不法な行為に起因する破損や不具合

※保証期間経過後の修理、交換などは有料とさせていただきます。
※本書によって、お客様の法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理についてご不明の場合は、当社営業事業所にお問合わせください。
※BL認定商品については別途定められた保証期間・保証内容・免責事項によります。
※本商品保証は、日本国内においてのみ有効です。

BL認定品の商品保証について

本書は、当社の商品に関し、ここに記載の保証期間、保証内容の範囲において無料修理を行うことをお約束するものです。保証期間中に故障・損傷などの不具合（以下「不具合」といいます）が発生した場合には、お取り扱いの建築会社様、工務店様、販売店様、または、当社営業事務所にご相談ください。

■保証期間・保証内容

建築会社様よりの引き渡し日（注1、注2）から2年間（電装部品については1年間）。
ただし、商品の不具合による雨水浸入については10年間、サビに起因するものについては2年間。
（注1）改修工事の場合は、改修部分の工事完了の日とします。
（注2）分譲住宅（建築住宅）・分譲マンションの場合は、工事完了後、建築主様への引き渡しの日とします。
取扱い説明書、本体ラベルまたはその他の注意書きに基づく適正なご使用状態で、保証期間内に不具合が発生した場合には、下記に例示する免責事項を除き無料修理いたします。
なお、強風雨時、サッシ下枠に雨水がたまることがありますが、これは商品上の特性であり不具合ではありません。不具合といえる雨水浸入は、サッシ枠を超えて室内に雨水が流れ出したり、あふれ出たりすることです。
また、特定機能については下記のごとく別途定められています。
ただし、ドア・クローザ、錠前については保証期間、保証内容、免責事項が別途定められています。

品　目	特定機能	保証期間
サッシ、改修用サッシ	雨水の浸入を防止する機能	10年
玄関ドア（戸建住宅用玄関ドア以外）、改修用玄関ドア	手動での開閉機能	5年
墜落防止手すり	全般（取付金物の埋め込みに係るものを除く）	5年

■免責事項

保証期間内でも、次の様な場合には有料修理となります。
①住宅用途以外で使用した場合の不具合
②当社の手配によらない第三者の加工、組み立て、施工、管理、メンテナンスなどに起因する不具合
（例えば、海砂や急結材を使用したモルタルによる腐食。中性洗剤以外のクリーニング剤を使用したことによる変色や腐食。工事中の養生不良による変色や腐食など）
③表示された商品の性能を超えた性能を必要とする場所に取り付けられた場合の不具合
④商品または部品の経年変化（使用に伴う消耗・摩耗など）や経年劣化（樹脂部品の変質・変色など）またはこれらに伴うさび、かびまたはその他類似の不具合
⑤商品周辺の自然環境、住環境に起因する結露、腐食またはその他の不具合
（例えば、塩害による腐食。大気中の砂塵、煤煙、各種金属粉、亜硫酸ガス、アンモニア、車の排気ガスなどが付着して起きる腐食。異常な高温・低温・多湿による不具合など）
⑥天災その他の不可抗力（例えば、暴風、豪雨、高潮、地震、落雷、津波、噴火、洪水、地盤沈下、火災など）による不具合またはこれらによって商品の性能を超える事態が発生した場合の不具合
⑦犬、猫、鳥、鼠などの小動物に起因する不具合
⑧引き渡し後の操作誤り、調整不備または適切な維持管理を行なわなかったことによる不具合
⑨お客様自身の組立て、取付け、修理、改造（必要部品の取外しを含む）に起因する不具合
⑩本来の使用目的以外の用途に使用された場合の不具合または使用目的と異なる使用方法による場合の不具合
⑪犯罪などの不法な行為に起因する破損や不具合
⑫建築躯体の変形など住宅部品本体以外の不具合に起因する当該住宅部品の不具合。

＊保証期間経過後の修理、交換などは有料とさせていただきます。
＊本書によって、お客様の法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理についてご不明の場合は、当社営業事業所にお問い合わせください。
※BL認定品の取り替え部品の供給については、生産中止後10年間と致します。
※本商品保証は、日本国内においてのみ有効です。
※BL認定品には、部品および施工の瑕疵並びにその瑕疵に起因する損害に係る優良住宅部品瑕疵担保責任保険・損害賠償責任保険が付されています。

フロアヒンジドアの取扱い

□アルミ □スチール □ステンレス □PRO

⚠注　意

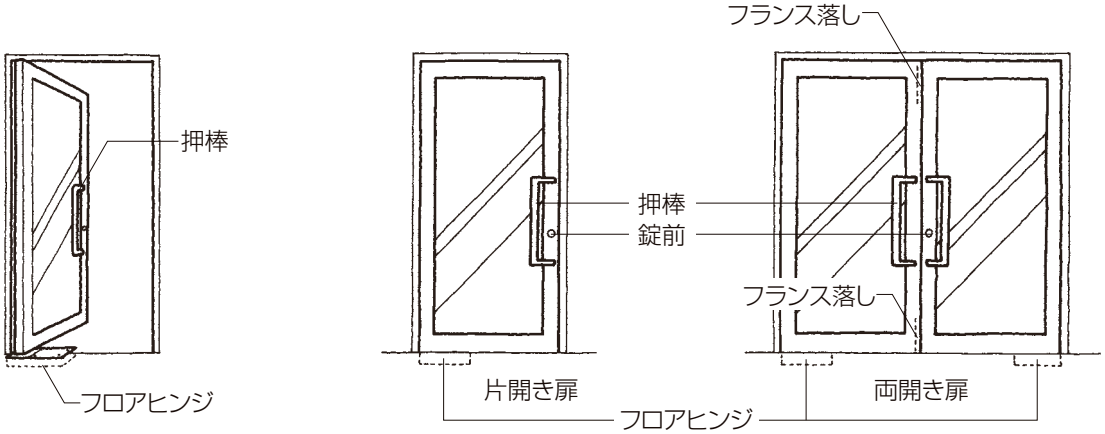
●ドアの開閉時には、吊元側のすき間に手を置かないでください。指を挟んで大ケガのおそれがあります。特にお子さまにはご注意ください。
●風の強いときはドアを閉めて、必ず錠をかけてください。風によりドアが急に開閉することがあり、ドアの破損やケガにつながるおそれがあります。
●ドアの開閉にあたっては、必ずハンドルを持って操作してください。ハンドルから手を放したり、ドアの先端に手を置くと、突風等でドアが急に閉まったとき、ドアと枠の間で指を挟み、思わぬケガをするおそれがあります。特にお子さまにはご注意ください。

お願い

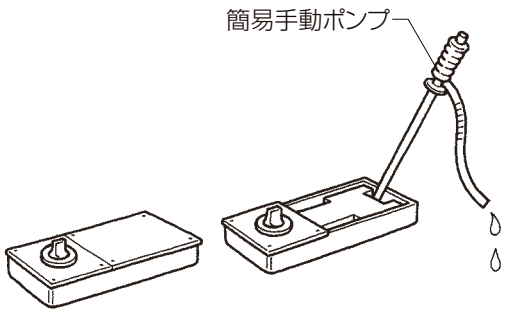
●ドアの開閉時に、下端部が足にあたらないようにご注意ください。足を挟んで大ケガをするおそれがあります。特にお子さまやサンダル履きでの開閉にはご注意ください。

■フロアヒンジ（自閉装置）

●開けた扉を自動的に閉める装置で、ストップ付きとストップなしの2種類の商品があります。（ストップ付は90°以上開けたときに、閉鎖時90°でストップします。閉まる方向に力を加えるとストップは解除されます。）
●フロアヒンジは引渡し時に閉鎖速度調整をしておりますが、使用中に閉鎖速度が変化してきますので定期的な点検が必要です。また、同室内で扉以外の開口部（窓など）が開いていると、風の流動により閉鎖速度が速くなったり完全に閉まりきらない場合がありますので注意してください。



●フロアヒンジが油もれをした場合は、閉鎖スピードの調整が不可能になり危険ですので、交換の必要があります。
※床の清掃時の水洗いや雨水などにより、フロアヒンジ内にたまった水をそのまま長期間放置されますと、フロアヒンジ本体が腐食します。フロアヒンジのプレートを取外し、簡易手動ポンプなどで水抜きをしてください。（右図）
※フロアヒンジは保証期間が1年となります。



■押棒

●扉を開閉するための棒で、固定ボルトにより扉に固定されています。押棒にガタつきが発生した場合は、固定ボルトのゆるみが原因です。そのまま使用されますと外れる場合もあり、危険ですので固定ボルトの締付けなおしが必要です。

■錠前

■日常の簡単なメンテナンスの方法

●キーの抜き差しや回転が悪くなったら、鉛筆（軟らかい芯）の粉や黒鉛粉または、シリンダー専用潤滑剤を使用してください。鉛筆を使用する場合は、キーの切り込み面を鉛筆でなぞったあと、キーで抜き差しを数回行ってください。鍵穴には絶対に油を注さないでください。注入直後は良くてもホコリを吸着し、かえって動きを悪くします。

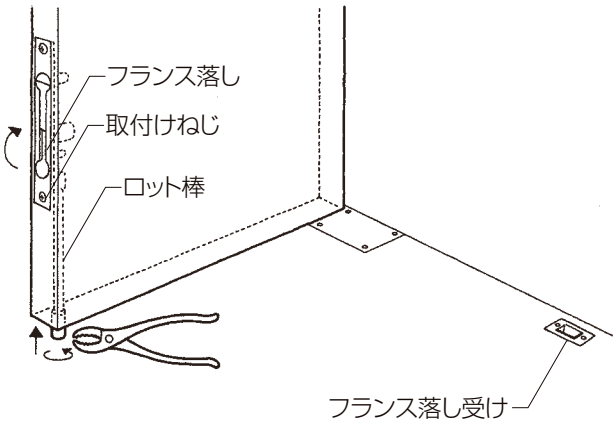
●錠･ストライク、ハンドルまたはノブの取付ねじに緩みが生じたら、ねじを締め直してください。

■フランス落し

■メンテナンス方法

●両開きの場合には、片側の扉を固定する金具（フランス落し）が上下に取付けられています。固定忘れや破損があると、施錠しても扉が開いてしまいますので確認をしてください。

※フランス落しに破損がなく、動かしても扉の上下がスムーズに開かない場合は、フランス落しのロット棒のゆるみが原因ですので、フランス落しの取付けねじを取外し、フランス落しを手前に引きながら10mm程度引上げて扉を開いてください。
扉を90°まで開き、フランス落しをもと通りに戻して取付け、ロット棒をプライヤーなどで締付けてください。



開きドアの取扱い(かまちドア・フラッシュドア含む)

□アルミ □スチール □ステンレス □PRO
□PRO-SE □RM-100N·TB □RXシリーズ □E-SHAPEシリーズ

⚠注　意

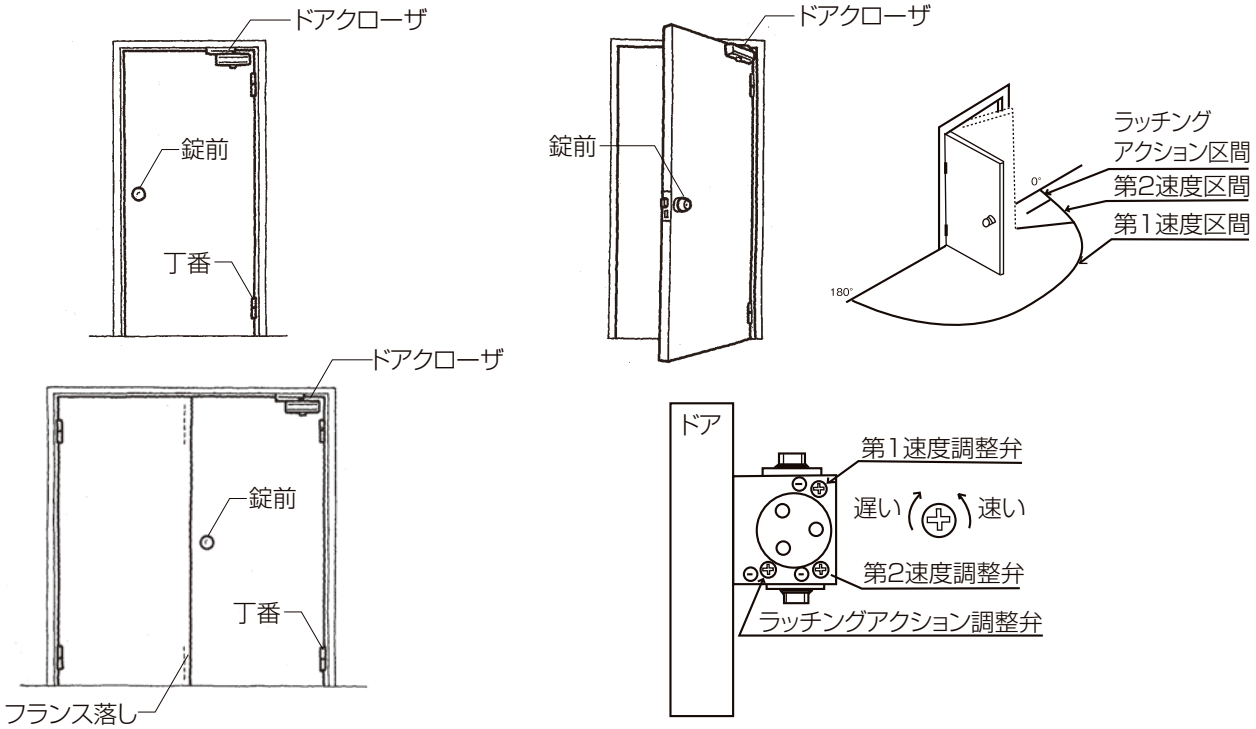
●ドアの開閉時には、吊元側のすき間に手を置かないでください。指を挟んで大ケガのおそれがあります。特にお子さまにはご注意ください。
●風の強いときはドアを閉めてください。風によりドアが急に開閉することがあり、ドアの破損やケガにつながるおそれがあります。(アームストッパーは簡易固定金具のため、特に注意願います。)
●ドアの開閉にあたっては、必ずハンドルを持って操作してください。ハンドルから手を放したり、ドアの先端に手を置くと、突風等でドアが急に閉まったとき、ドアと枠の間で指を挟み、思わぬケガをするおそれがあります。特にお子さまにはご注意ください。

お願い

●ドアの開閉時に、下端部が足にあたらないようにご注意ください。足を挟んで大ケガをするおそれがあります。特にお子さまやサンダル履きでの開閉にはご注意ください。

■ドアクローザ(自閉装置)

●開けた扉を自動的に閉める装置で、ストップ付きとストップなしの2種類の商品があります。(ストップ付は90°以上開けたときに、閉鎖時90°でストップします。閉まる方向に力を加えるとストップは解除されます。)
●ドアクローザは引渡し時に閉鎖速度調整をしておりますが、使用中に閉鎖速度が変化してきますので定期的な点検が必要です。また、同室内で扉以外の開口部(窓など)が開いていると、風の流動により閉鎖速度が速くなったり完全に閉まりきらない場合がありますので注意してください。



■閉鎖速度の調整方法

●ドアの閉鎖速度は、ドアクローザ本体の調整バルブ横の第1、第2速度調整弁を確認し、ドライバーで調整してください。(調整は、2mm程度の微小な回転で行ってください。)
●ドアを強くすばやく閉める場合は、ラッチングアクション調整ねじを反時計方向に回転すると、すばやくドアが閉まります。ただし、BL認定ドアクローザーについては、速度調整は、ドアの閉鎖速度の調整が必要な場合は、建物管理責任者、施工業者または当社にご連絡ください。

■ドアクローザのご使用上のお願い

【お手入れについて】

●本体およびアーム、取付ブラケットの取付ねじやアームの連結ねじにゆるみが生じていないか時々点検して、締め直してください。締付けがゆるいと落下や故障の原因になります。

●ドアの開閉で異常が感じられた場合は、メンテナンス方法に従い、点検と調整をおこなってください。(調整が難しい場合は、施工業者様に調整を依頼してください。)

●ドアクローザの調整弁は、ゆるめすぎると弁が抜け油モレしますので、ゆるめすぎないようにしてください。

※ドアクローザ本体が油もれをした場合は、閉鎖速度の調整が不可能になり危険ですので、交換の必要があります。

※ドアクローザは、保証期間が2年になっています。

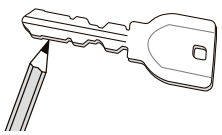
■メンテナンス方法

(現象)	(考えられる原因)	(点検箇所)	(対処方法)
ドアの閉じる速度が徐々に速く、または遅くなった	季節の温度変化など	速度調整ねじ	閉鎖速度の調整方法を参照願います(17頁)
ドアの閉じる速度が急に速くなった	油漏れ	ドアクローザ本体	施工された業者様に修理依頼願います
ドアの閉じる速度が急に遅くなった	油の流れが遅くなっている	速度調整ねじ	閉鎖速度の調整方法を参照願います(17頁)
閉じる際『バタン』と大きな音がするようになった	ねじのゆるみ	取付ねじ	ねじを締付けてください
	油漏れ	ドアクローザ本体	施工された業者様に修理依頼願います
	ラッチング機構が強すぎる	ラッチングアクション調整ねじ	閉鎖速度の調整方法を参照願います(17頁)
ドアが所定の開放位置で止まらなくなった(ストップ付)	ストップつまみ(ねじ)のゆるみ	ストップ装置	施工された業者様に修理依頼願います
ドアがスムーズに閉まらなくなったり異音がするようになった	ねじのゆるみ	ドアクローザ本体	ねじを締付けてください
	1、2速のバランスが早い	速度調整ねじ	閉鎖速度の調整方法を参照願います(17頁)

●ラッチングアクションはドアが閉鎖位置直前(約2°)まできた時点でドアをすばやく閉める機構です。
風が強くドアが閉まりきらない場合などに使用します。

■錠前

■日常の簡単なメンテナンスの方法



①キーの抜き差しや回転が悪くなったら、鉛筆（軟らかい芯）の粉や黒鉛粉または、シリンダー専用潤滑剤を使用してください。鉛筆を使用する場合は、キーの切り込み面を鉛筆でなぞったあと、キーで抜き差しを数回行ってください。鍵穴には絶対に油を注さないでください。注入直後は良くてもホコリを吸着し、かえって動きを悪くします。

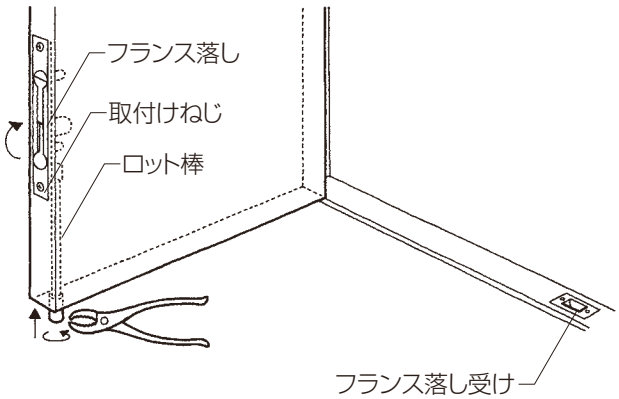
②錠･ストライク、ハンドルまたはノブの取付ねじに緩みが生じたら、ねじを締め直してください。

■フランス落し

■ご使用上のお願いおよびメンテナンス方法

●両開きの場合には、片側の扉を固定する金具（フランス落し）が上下に取付けられています。障子を閉める場合は、上下のフランス落しを固定してください。固定忘れがあると、施錠しても扉が開いてしまうおそれがあります。

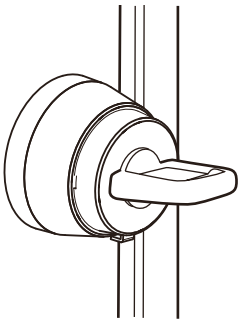
※フランス落しに破損がなく、動かしても扉の上下がスムーズに開かない場合は、フランス落しのロット棒のゆるみが原因ですので、フランス落しの取付けねじを取外し、フランス落しを手前に引きながら10mm程度引上げて扉を開いてください。
扉を90°まで開き、フランス落しをもと通りに戻して取付け、ロット棒をプライヤーなどで締付けてください。



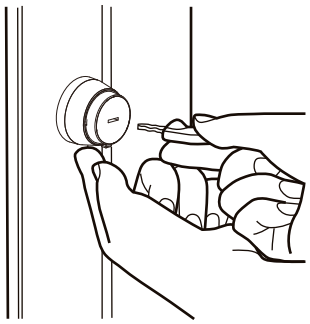
■セキュリティサムターン（オプション）

●防犯のため、就寝時や外出時は、室内側のサムターンを取外してください。

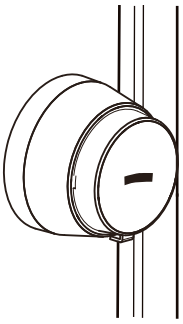
●室内側に付いているサムターンは、ボタンを押すだけで簡単に取外すことができます。万一ガラスを割られて外から手を入れられても、サムターンがないため鍵が開けられないシステムです。（なおサムターンのキーで外部シリンダーは操作できません。）



サムターンが装着されている状態



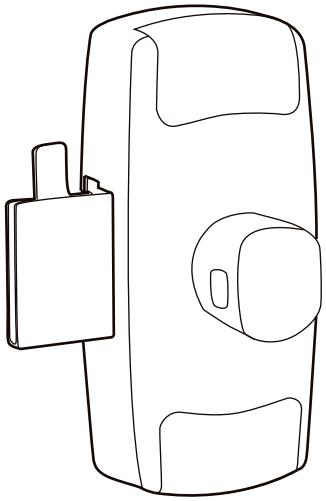
シリンダー下部のボタンを押すだけでサムターンを取外せます。



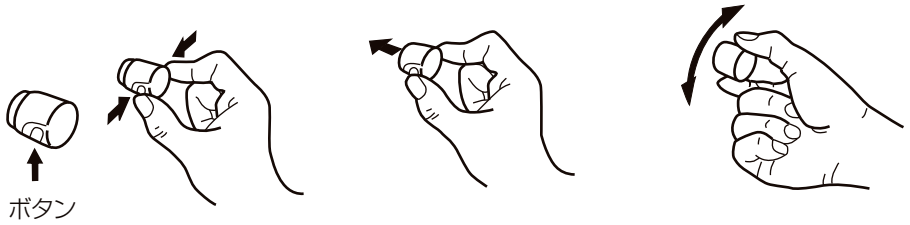
サムターンを取外した状態

■面付本締り錠（防犯仕様）

●サムターンは普通に回すだけでは空転して施解錠できません。
サムターンの両側のボタンを指ではさんだまま押して回してください。



サムターンの使用方法



通風ドアの取扱い

□PRO-SE

⚠注　意

●ドアの開閉時には、吊元側のすき間に手を置かないでください。指を挟んで大ケガのおそれがあります。特にお子さまにはご注意ください。
●風の強いときはドアを閉めてください。風によりドアが急に開閉することがあり、ドアの破損やケガにつながるおそれがあります。（アームストッパーは簡易固定金具のため、特に注意願います。）
●ドアの開閉にあたっては、必ずハンドルを持って操作してください。
ハンドルから手を放したり、ドアの先端に手を置くと、突風等でドアが急に閉まったとき、ドアと枠の間で指を挟み、思わぬケガをするおそれがあります。
特にお子さまにはご注意ください。

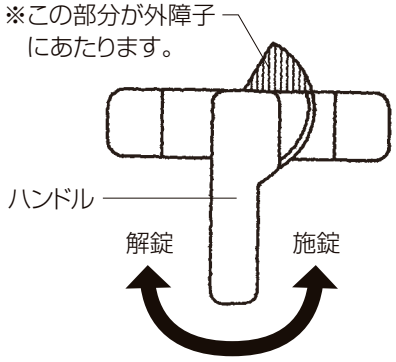
お願い

●ドアの開閉時に、下端部が足にあたらないようにご注意ください。足を挟んで大ケガをするおそれがあります。特にお子さまやサンダル履きでの開閉にはご注意ください。

■ご使用上のお願い

【クレセント操作について】

●ハンドルを左に180°回転させてから障子の開閉を行ってください。ハンドルを途中で止めると、障子に当たり形材にキズを付けたり、部品が破損したりします。
●外出やおやすみの際には、上げ下げ窓を全閉しクレセントをかけてください。



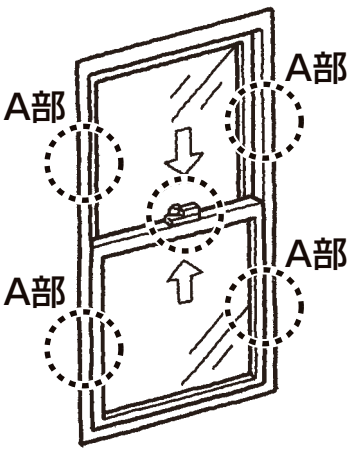
■メンテナンス時のお願い

●上げ下げ窓部の障子ストッパーは、ガラスの交換などのメンテナンス以外は外さないでください。外したときは、必ず取付けてください。手や指をはさむ原因になるおそれがあります。
※障子ストッパーは、左右両側についています。（下記A部）
※ドアクローザの調整方法、錠前のメンテナンス方法は、開きドアの頁をご覧ください。

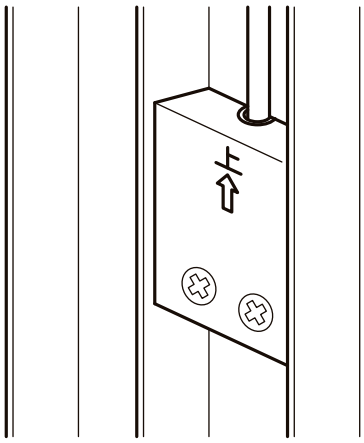
■障子の開閉

■クレセント方式

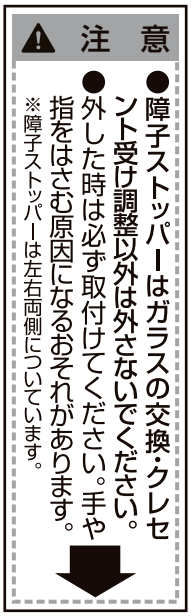
①ハンドルを左に180°回してください。ロックが解除され、障子が移動可能になります。
※ハンドルは必ず180°回転させてください。ハンドルを途中で止めると、障子が当たり、破損します。
②閉めるときは、ハンドルが当たらないことを確認し、障子をスライドさせてからハンドルを回してロックしてください。



■A部詳細図



※上下の障子がすれ違わないように、障子ストッパー部品が取付いています。商品に**注意ラベルを**貼付けしています。表示内容をお守りください。



■網戸の脱着

■網戸を取外すには

①窓を全開し、室内側から上枠アタッチ固定ねじ(2ヵ所)を外します。

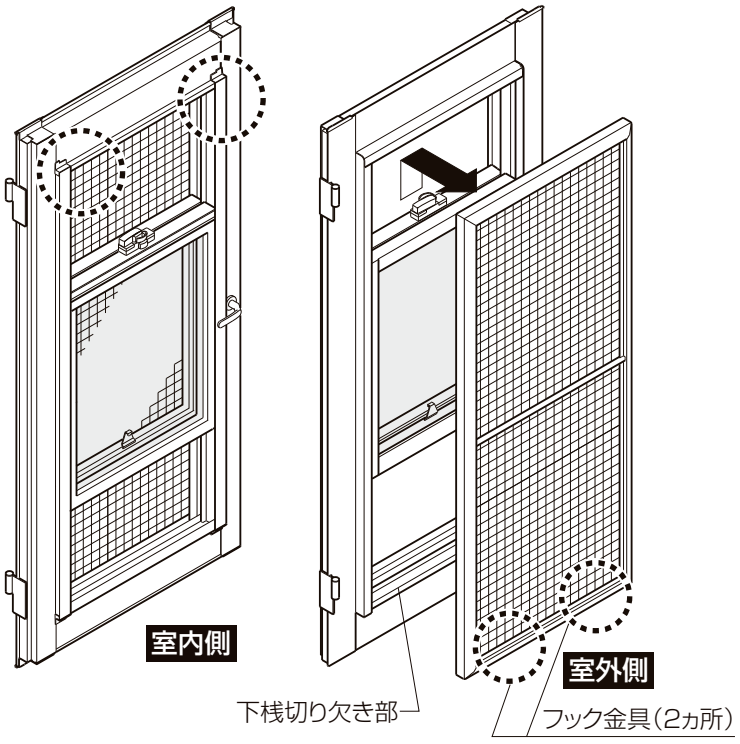
②室外側から網戸の左右をつかみ、持上げながら外します。

■網戸を取付けるには

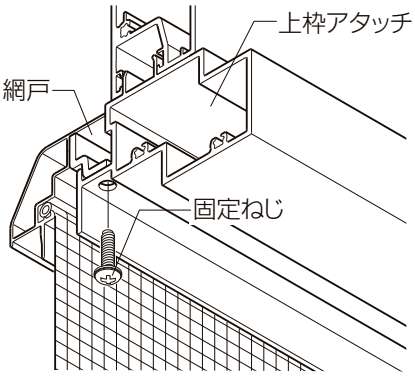
①室外側から網戸のフック金具(2ヵ所)を下桟の切欠きに差込み、網戸を持上げながら上部をかぶせます。

②室内側からねじを固定します。

上枠アタッチ(2ヵ所)



■上枠アタッチ詳細図



ノンレール（かまちドア）のメンテナンス方法

□PRO-SE

■メンテナンス時のお願い

●清掃時等に下枠アタッチメントを外すときは、下枠アタッチメントの両端部や下枠の水抜き穴にふれないでください。思わぬケガをするおそれがあります。また、外したアタッチメントは清掃後、すぐにもとの通りに固定してください。歩行中に踏みつけるなどしてケガをするおそれがあります。

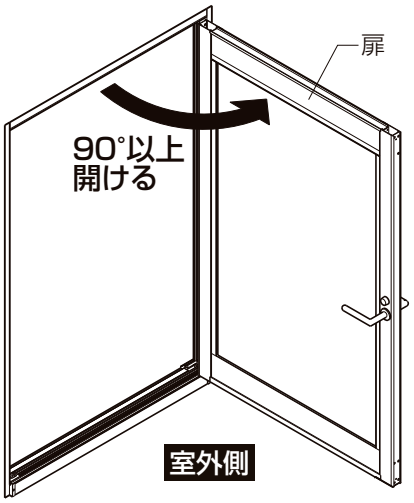
■お手入れについて

●日常の清掃は、下枠の上面のゴミを掃除機で吸い取ったり、雑巾がけを行ってください。

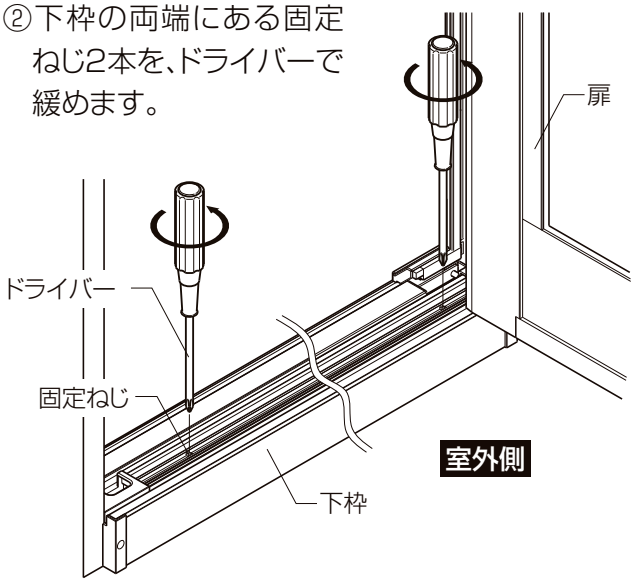
●下枠内にゴミなどがたまってきた場合は、破損や漏水の原因となりますので、下枠アタッチメントを外して下枠および下枠アタッチメントを掃除機、雑巾、ホースの水などで時々清掃してください。

●下枠アタッチメントの外し方

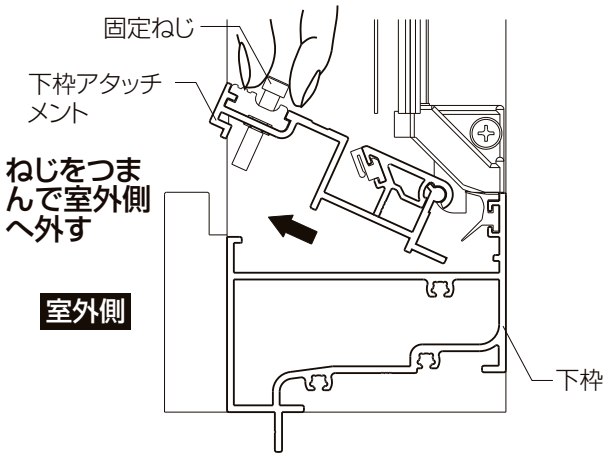
①扉を90°以上開きます。



②下枠の両端にある固定ねじ2本を、ドライバーで緩めます。



③緩めたねじを両手の指先でつまみ、下枠アタッチメントを室外側へ外します。



※清掃後は逆の手順で、下枠アタッチメントを下枠へ固定します。（固定ねじを確実に締付けてください。）

軽量・重量ドア（開き戸）の取扱い

⚠注　意

●ドアの開閉時には、吊元側のすき間に絶対に手を置かないでください。指を挟んで大ケガのおそれがあります。特にお子さまにはご注意ください。
●風の強いときはドアを閉めて、必ず鍵をかけてください。風によりドアが急に開閉することがあり、ドアの破損やケガにつながるおそれがあります。
●ドアの開閉にあたっては、必ずハンドルを持って操作してください。ハンドルから手を放したり、ドアの先端に手を置くと、突風等でドアが急に閉まったとき、ドアと枠の間で指を挟み、思わぬケガをするおそれがあります。特にお子さまにはご注意ください。



お願い

●ドアの開閉時に、下端部が足にあたらないようにご注意ください。足を挟んで大ケガをするおそれがあります。特にお子さまやサンダル履きでの開閉にはご注意ください。

■ドアガードの操作

お願い

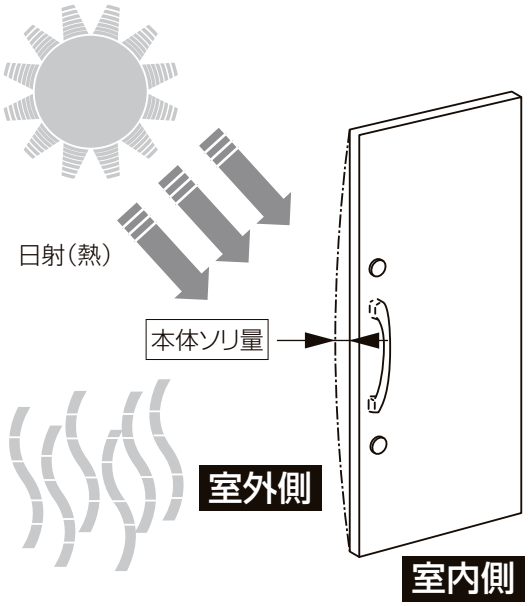
●ドアガード操作時は、ドアガードアームの溝部に指を入れないでください。
●ドアガード操作時は、ドアガードアームに体を近づけないでください。
体をぶつけるおそれがあります。

■その他ご留意いただきたいこと

※ご使用にあたっては、以下の点にご留意ください。

●出入口のドアは、防火設備の場合は、防火管理上いつも閉まった状態にしておくことが必要です。ドアにくさび、ストッパー、ドアガードなどをかませて開放状態にしておきますと、火災発生時、延焼するなど被害の拡大につながるおそれがありますので、開放状態にしないでください。
●不用意にドア丁番側に、くさびなどをかませて開放状態にしますと、ドアの変形や開閉に支障をきたす場合がありますので、絶対にくさびなどをかませないでください。
●玄関ドアに使用される用心鎖やドアガードは、錠の代用として使用しないでください。用心鎖やドアガードは、来訪者の確認などのために使用する防犯上の補助的な役割を果たす金物です。錠と同様の防犯効果はありません。
●台風などの暴風雨時にはドアの性能を超えて、雨水が玄関や屋内に浸入することがあります。下枠部分に雑巾やタオルをあてておきますと、吹き込みを防止できます。
●ドアクローザの本体内には油が入っており、油圧を利用してドアの閉じる速度を制御する機能を有しています。ドアクローザ本体内の油が低温化の状況で収縮し、空気が流れる音（流動音）が発生する場合がございます。発生している製品においては、機能や耐久性を低下させることはなく、また気温が上昇すると共に解消されます。

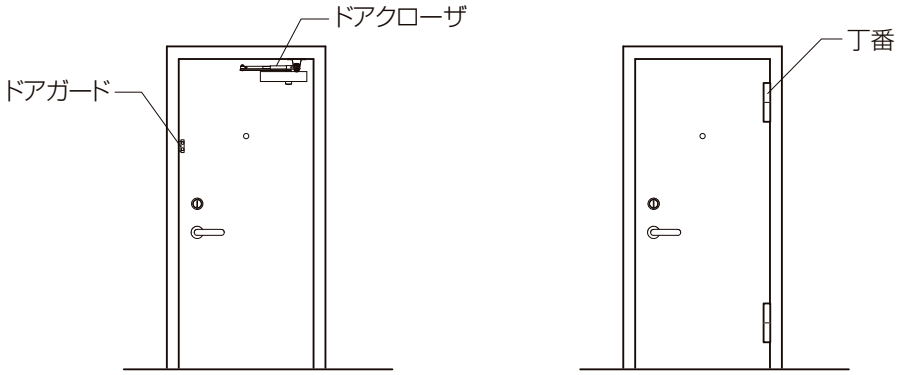
●一般的に玄関ドアは、断熱性を高めるよう室内外で熱を伝えにくい構造にしています。
したがって、ドア表面に太陽の光が当たったり、室内外の温度差があったりした場合、ドア内外面に温度差が発生し、ドアに反りが発生する場合があります。
この反りにより、扉と枠のすき間から光の漏れや、錠の施解錠がしにくくなる現象が発生しますが、内外の温度差が小さくなるとともに解消します。
この反りにより、錠の施解錠がしにくい時は、取っ手をしっかり持ち、扉を閉め込んでから、操作してください。



■困った場合には

●長期間ご使用になりますと、丁番のねじのゆるみ、ドアのがたつきなどの不具合が発生することがあります。そのままにしておきますと、人身事故や家財の損害などの原因になります。ドアの使用にあたり、異常を感じた場合、次のように対処してください。

不具合状況	対処
□ドアの開閉速度が変化するなど動きがおかしくなった。	□ドアクローザの不調が考えられます。調整によって直ることがあります。詳細はドアクローザの取扱い説明書をよくお読みの上、調整してください。 ※ドアクローザの取扱い説明書がない場合、弊社までご連絡ください。 ※BLマーク貼付商品のドアクローザについては、BL認定の基準として「特殊な工具以外では閉じ速度を調整できない構造とする」となっておりますので、建物管理責任者に依頼してください。
□ドアががたついたり、開閉時に枠にあたる。	□丁番を止めているねじがゆるんでいることが考えられます。このときは、ドアの下に木片をあてがってドアを水平に保持してねじを締め直してください。
□鍵の抜き差しが悪くなった。	□キーの抜き差しや回転が悪くなったら、鉛筆(軟らかい芯)の粉や黒鉛粉または、シリンダー専用潤滑剤を使用してください。鉛筆を使用する場合は、キーの切り込み面を鉛筆でなぞったあと、キーで抜き差しを数回行ってください。鍵穴には絶対に油を注さないでください。注入直後は良くてもホコリを吸着し、かえって動きを悪くします。



引違い窓の取扱い

□PRO □RMA-70G･TCシリーズ
□PRO-SE □RM-100N･TB □RMA-100 □RMN-100 □SAMOS-H RF □PRESEA-S

⚠注　意

●外れ止め部品が正しくかかっていないと、ガラス障子が窓枠から外れて落下し、人身事故や物損事故につながるおそれがありますので、下記事項をお守りください。
・お手入れなどでガラス障子を外し、再び窓枠に取付けるときは、表示ラベルに従って外れ止め部品を必ずかけてください。
・外れ止め部品が正しくかかっているか、ズレや破損がないか時々点検してください。
●子供部屋等、窓の近くにベッドや机等を配置する場合は、踏み台にならないように配置し、踏み台になるような物がある場合は、小さなお子さまが一人で窓を開けられないように配慮してください。転落など、人身事故につながるおそれがあります。
●開閉時、引手やハンドルなど指定された場所を持って操作してください。指定場所以外のところを持つと手や指を挟まれる等、人身事故につながるおそれがあります。
●開閉時、枠と障子の間や障子が交差する所に手や指を置かないでください。手や指を挟まれる等人身事故につながるおそれがあります。(図2)

■ご使用上のお願い

【クレセント操作について】

●ハンドルを下に180°回転させてから障子の開閉を行ってください。ハンドルを途中で止めると、障子に当たり形材にキズを付けたり、部品が破損したりします。(図1)また、開閉時にハンドルを閉まった状態に戻して障子を閉めてしまうとクレセントの鎌と受が乗りあげて障子が重くなります。(ロック付き、キー付きはその解除を先に操作してください。)
●内蔵クレセントの施錠は、窓を閉めて召合せかまちをそろえてから操作してください。実施しないと障子形材にキズを付けたり、部品が破損したりします。
●窓を閉めてクレセントを施錠しないと、サッシ諸性能(耐風圧、気密、水密等)の保持および、強風時に障子が開いてしまうことがあります。
●グレモン方式の場合は、一般クレセントと比べて、作動が重くなります。これは機構上によるもので、不具合ではありません。
●ダブルロックの場合ボタンが解除(開の位置)されていることを確かめてからハンドルを回してください。また、キー付きの場合もキーが解除されていることを確かめてからハンドルを回してください。
解除されていない状態でハンドルを回すと故障の原因になります。

【障子開閉について】

●4枚建障子を開け閉めするときは、反対側の施錠されているクレセントに強い衝撃を与えないようにしてください。クレセントおよび受けが破損するおそれがあります。(図3)
●障子を開けるときに障子ストッパーに強い衝撃を与えないでください。障子や部品の変形･破損が生じたり、それによるクレセントの施解錠が困難になるなどのおそれがあります。

【安全にお使いいただくために】

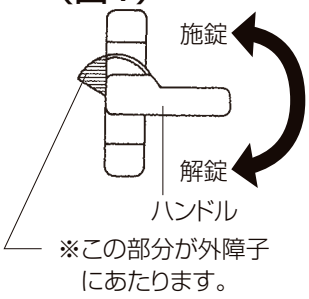
●外出時や就寝時には必ず窓を閉め、クレセントや補助錠も必ず施錠してください。

【お手入れについて】

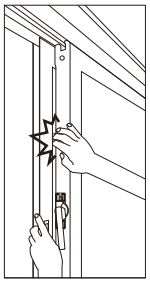
●下枠にゴミなどをためないよう時々清掃してください。水抜き穴がつまり漏水したり、戸車が破損するおそれがあります。(図4)

●空かけ防止付クレセントのトリガー部(34頁)は、時々汚れを布などで拭き取ってください。ハンドルの開閉時に引っ掛かりが発生する場合があります。

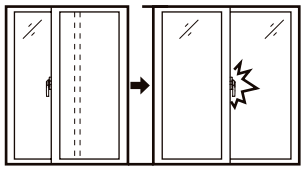
(図1)



(図2)

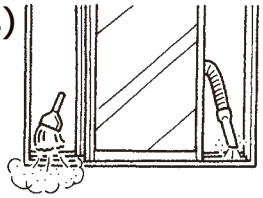


(図3)



※強く閉めないでください。

(図4)



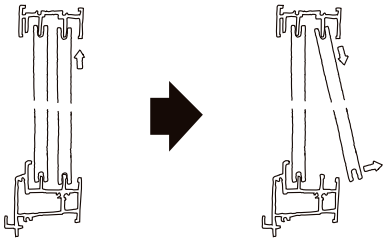
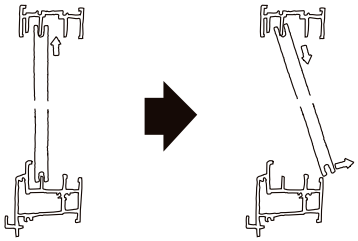
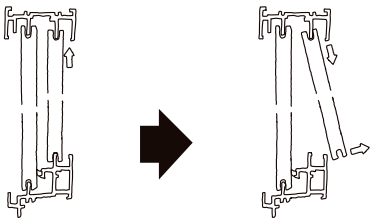
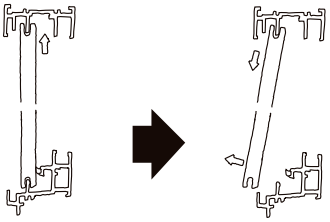
※バリアフリー用下枠のときは、掃除機で清掃してください。

■障子の外し方

⚠注　意

●障子を外す場合は極力専門業者さまへ依頼してください。ガラスの仕様・サイズによって、障子の重量が100kgを超える場合があり、人身事故や物損事故につながるおそれがあります。

●引違い窓の障子は内々はずし・内外はずし方式を採用しています。

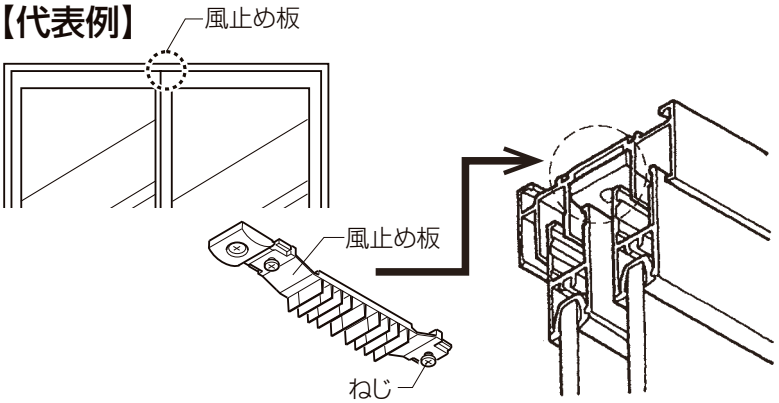
内々はずし	●内障子  ●外障子  ※内障子、外障子とも室内側へ外します。
内外はずし	●内障子  ●外障子  ※内障子は室内へ、外障子はいったん外側へ持出してから、室内側へ外します。

■風止め板

●召合せ上部からの風の進入を防ぐためにサッシの上枠に取付けられている、樹脂製またはゴム製の部品です。

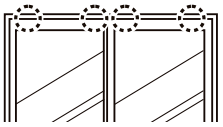
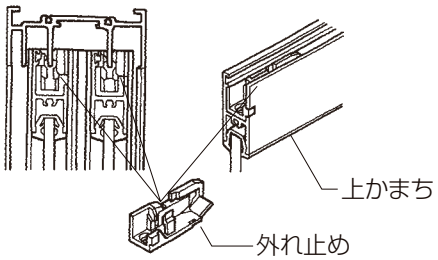
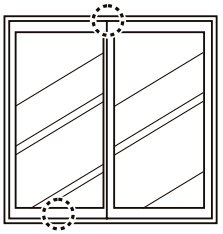
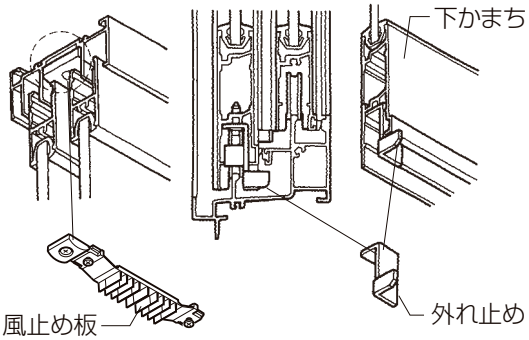
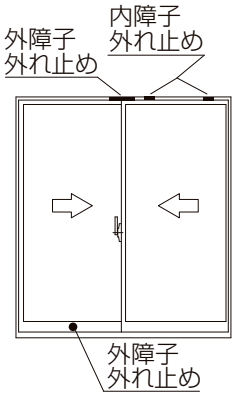
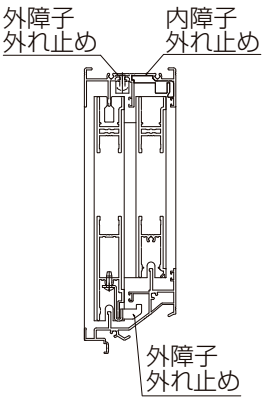
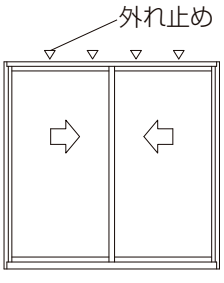
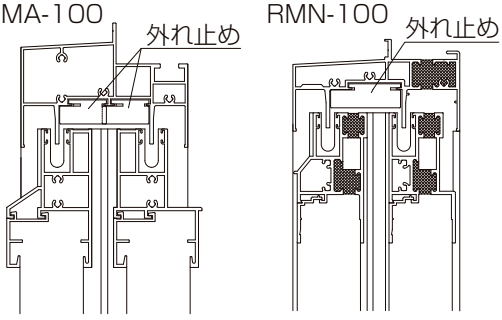
※障子の脱着時にずらしたときや、位置がずれていたときは、召合せ上部の位置にもどしてください。水密、気密性能に影響します。

【代表例】

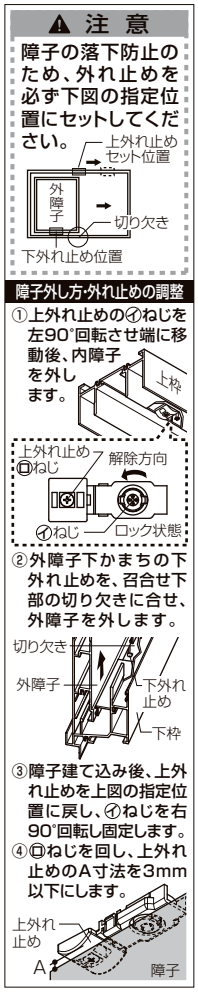


■外れ止め部品のセット

●外れ止め部品は障子の落下を防止するために、取付けられている部品です。必ずセットしてください。
●掲載以外の商品は、外れ止め形式が異なりますので商品貼付の本体表示ラベルの表示内容をお守りください。

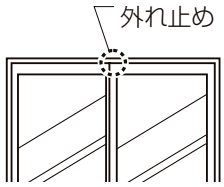
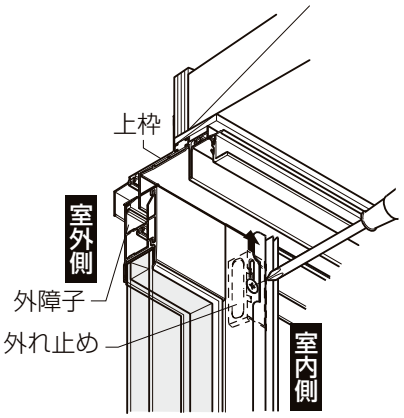
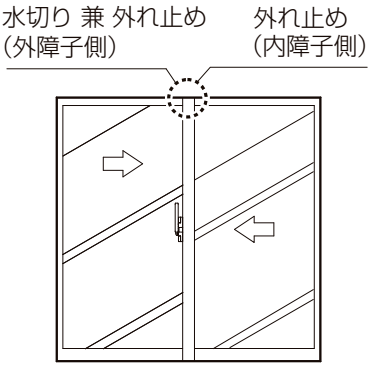
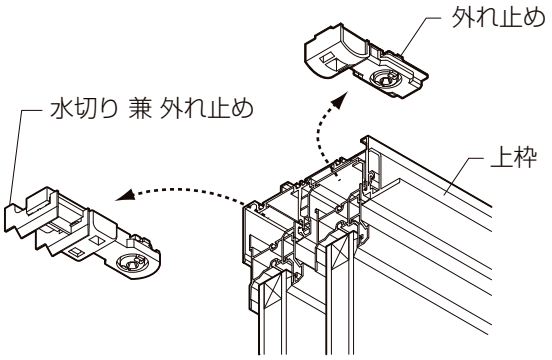
商品名	外れ止め位置	商品形状と部位	セット方法
一部のPRO			※商品に本体表示ラベルを貼付けしています。表示内容をお守りください。
PRO-SE PRO			
RMA-70G·TC			
RMA-100 RMN-100			

■本体表示ラベルの表示例(PRO-SE)



■外れ止め部品のセット

●外れ止め部品は障子の落下を防止するために、取付けられている部品です。必ずセットしてください。
●掲載以外の商品は、外れ止め形式が異なりますので商品貼付の本体表示ラベルの表示内容をお守りください。

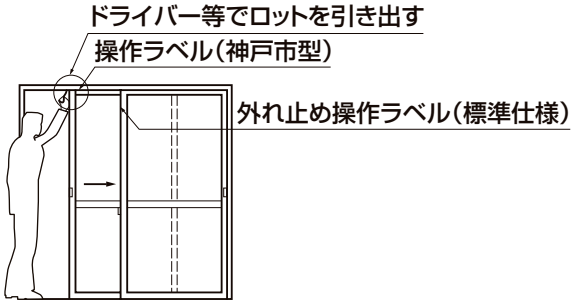
商品名	外れ止め位置	商品形状と部位	セット方法
SAMOS-H RF			※商品に本体表示ラベルを貼付けしています。表示内容をお守りください。
PRESEA-S			

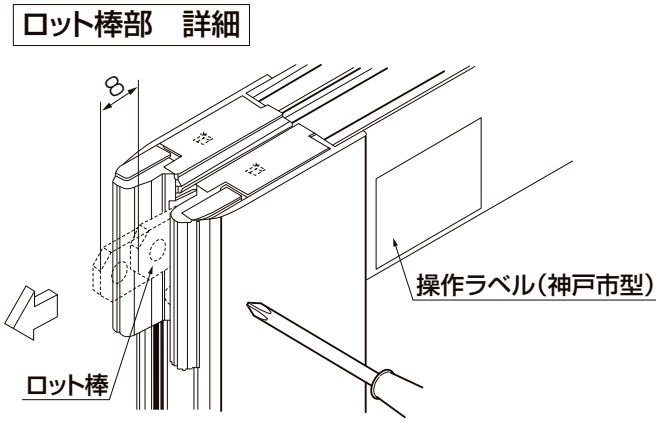
■外れ止め部品の解除

●一般商品の外れ止め解除については、セット時の逆の手順にて解除願います。
●お手入れなどでガラス障子を外す必要がある時以外は、外れ止め部品を解除しないで下さい。

■神戸市型自動外れ止めの解除方法

1.クレセントを解除して外障子をスライドして開ける。
2.左たてかまち上部振れ止め部にロット棒が見えて孔(φ4)が開いているのでドライバー等でロット棒を引き出し、自動外れ止めを解除する。(ストローク8mm)
3.一般サッシと同様、外れ止め操作ラベルに従い(風止め板、外れ止め、下かまち外れ止め)取り外す。



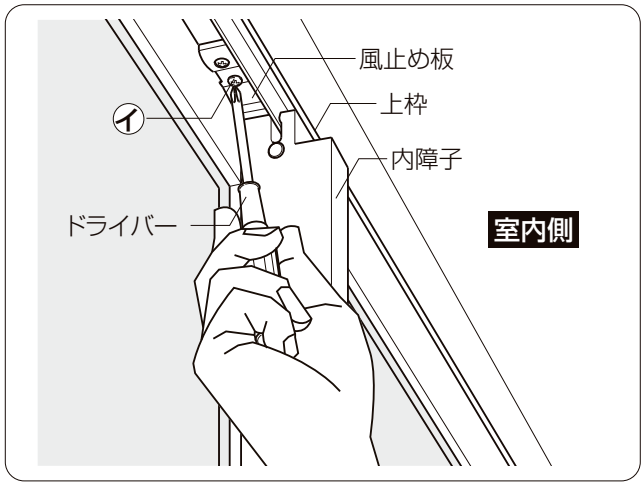


■障子の外し方（PRO-SE･PRO　引違い（内外はずし））

●障子を外すときは、以下の手順で実施してください。
●障子の建込みは、以下と逆の手順で実施してください。
●障子建込み後、風止め板が中央に㋑ねじで固定されていることを確認してください。

---

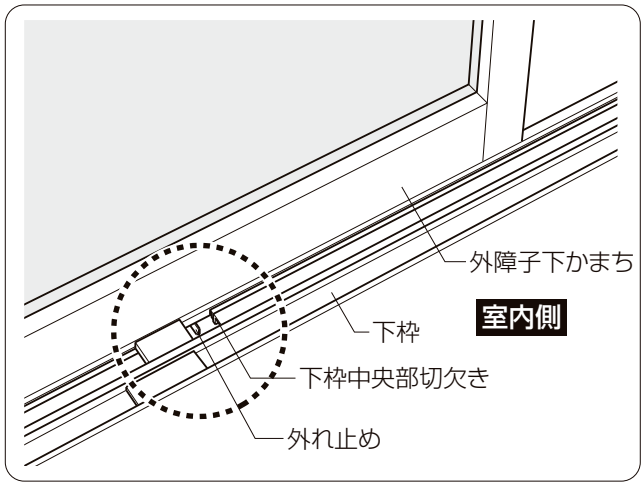
①上枠の風止め板を㋑ねじをゆるめて左端へ移動します。

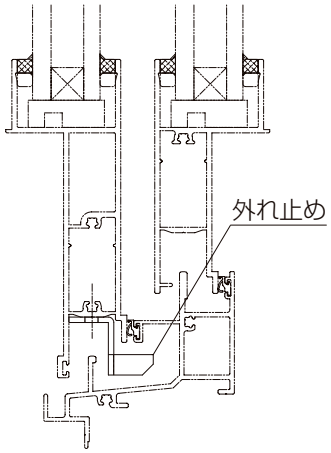


②内障子を持上げて室内側へ外します。



③外障子下かまち中央の外れ止めを、下枠中央の切欠きに合わせます。





④外障子を持上げ、室外側へ外します。



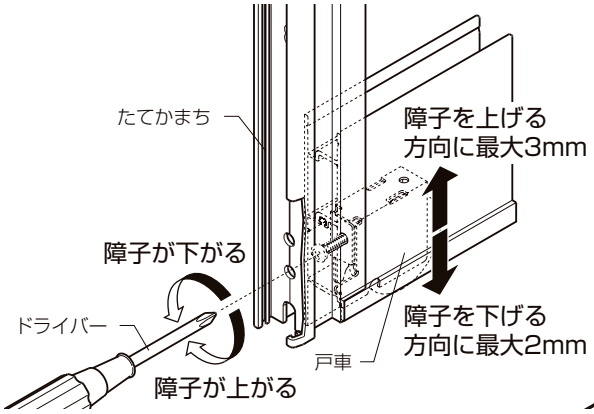
■障子の建付け調整(PRO-SE)

●調整は戸先かまち側の戸車で行なってください。

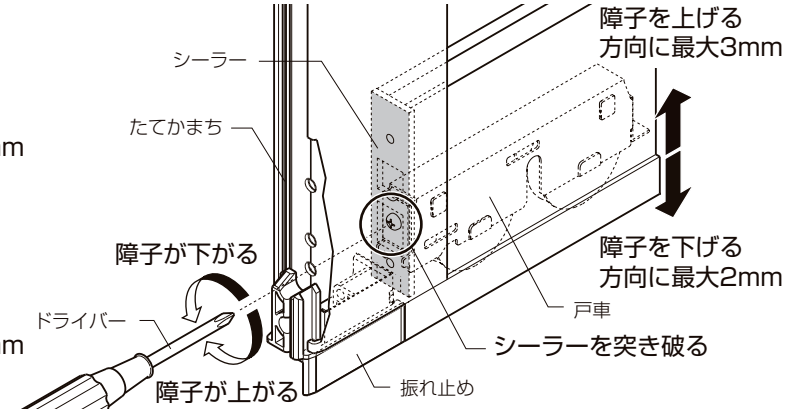
■戸車調整方法

●下図のようにたてかまちからドライバーを差込み、戸車調整ねじを回して調整します。

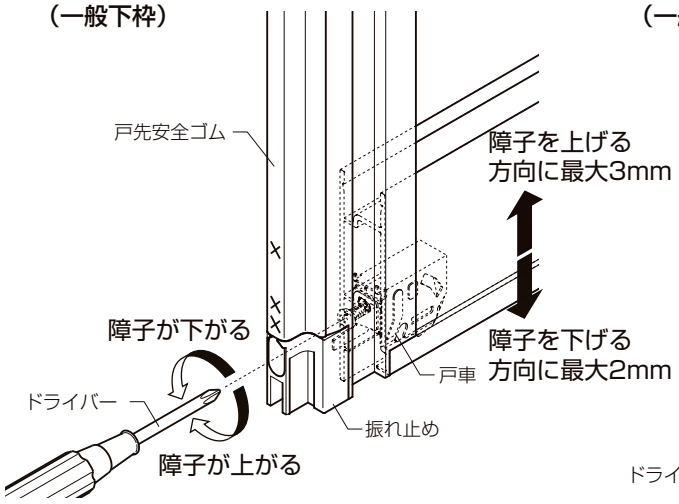
●一般下枠仕様／カウンター窓



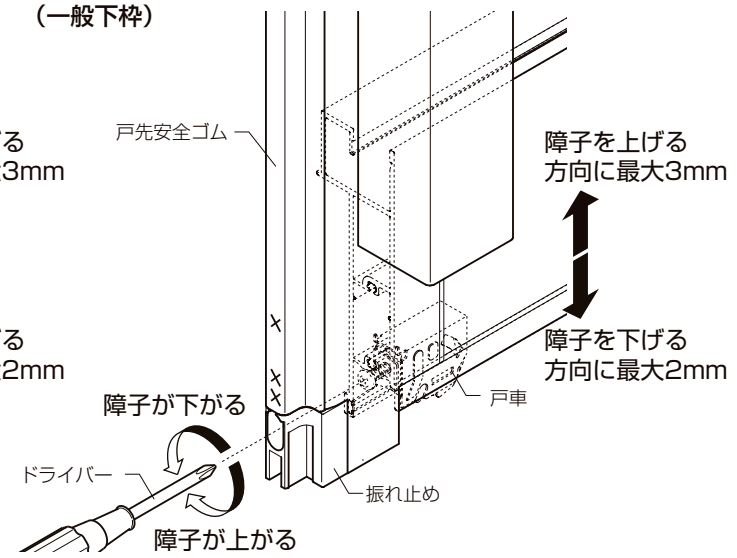
●ノンレール下枠仕様



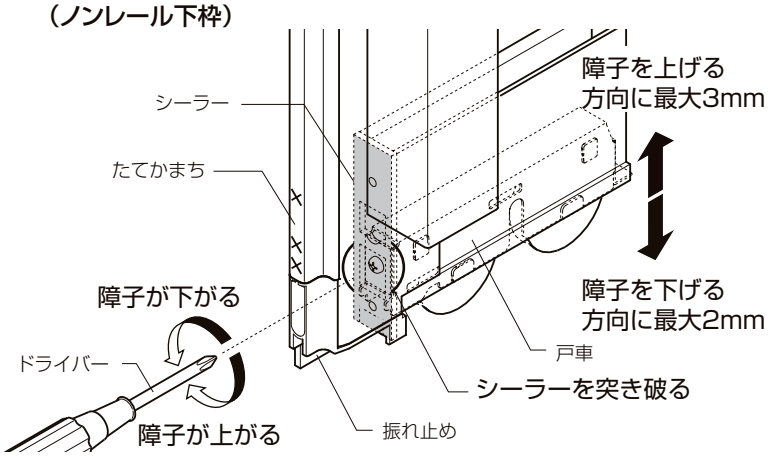
●戸先安全ゴム仕様、A_1・A_2タイプ
（一般下枠）



●戸先安全ゴム仕様、B・C・Dタイプ
（一般下枠）



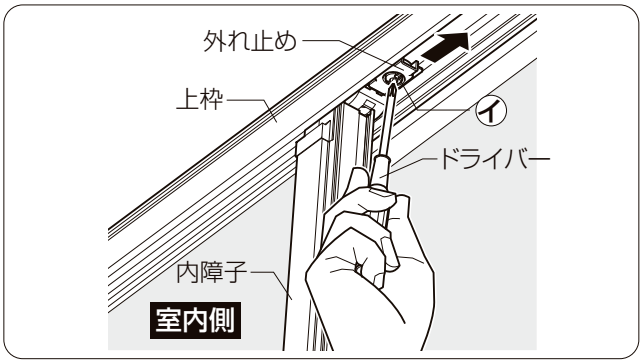
●戸先安全ゴム仕様、全タイプ
（ノンレール下枠）



■障子の外し方(PRESEA-S　引違い(内外はずし))

●障子を外すときは、以下の手順で実施してください。
●障子の建込みは、以下と逆の手順で実施してください。

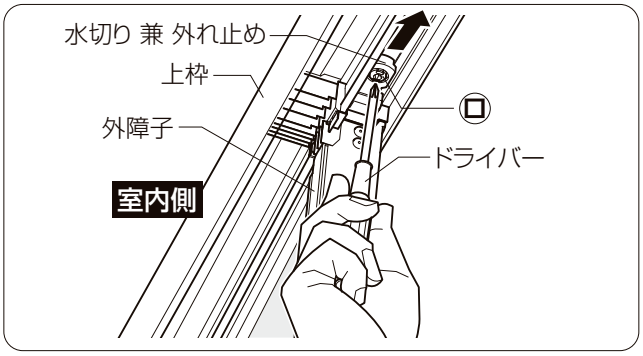
①上枠の外れ止めを㋑ねじをゆるめて、室内側から見て右側へ移動します。



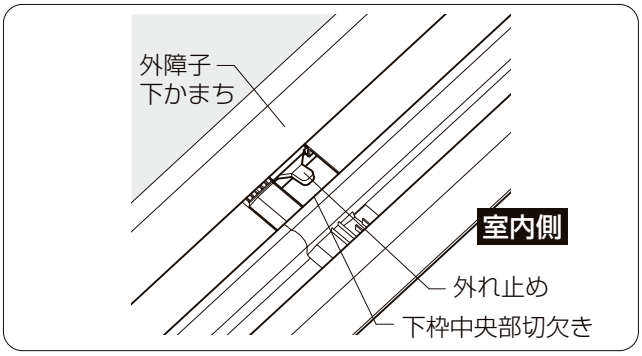
②内障子を持上げて室内側へ外します。



③上枠の水切り兼外れ止めを㋺ねじをゆるめて、室内側から見て右側へ移動します。



④外障子下かまち中央の外れ止めを下枠中央の切欠きに合わせます。



⑤外障子を持上げ、室外側へ外します。

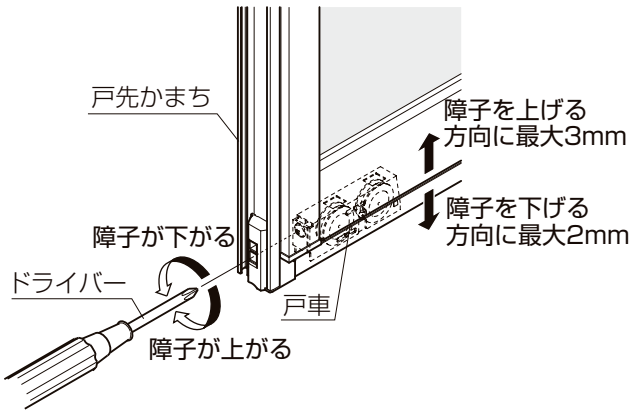


■障子の建付け調整(PRESEA-S)

●調整は戸先かまち側の戸車で行なってください。

■戸車調整方法

●下図のように戸先かまちからドライバーを差込み、戸車調整ねじを回して調整します。

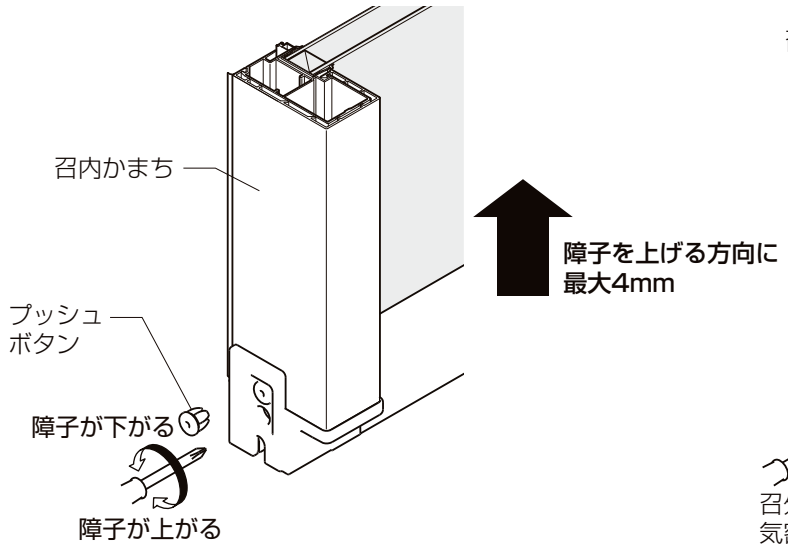


■障子の建付け調整(SAMOS-H RF)

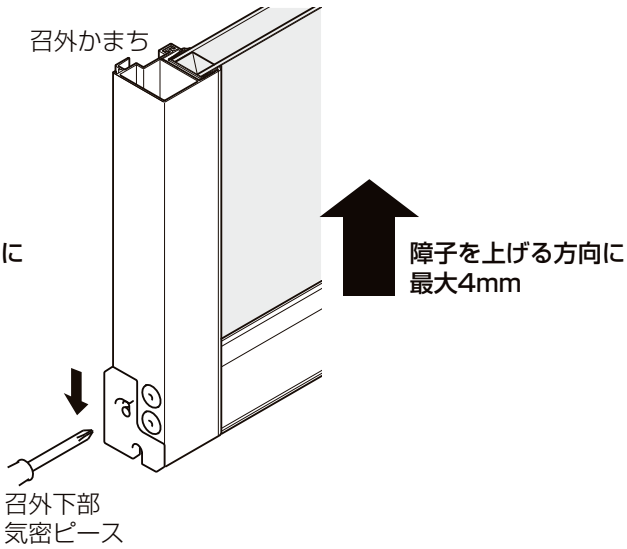
■戸車調整方法

●下図のように召合せ部材からドライバーを差込み、戸車調整ねじを回して調整します。

■内障子

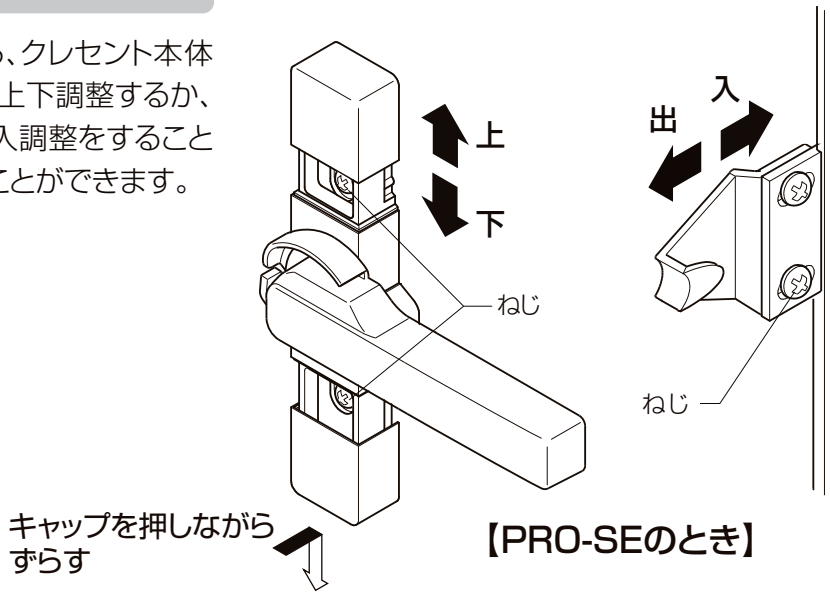


■外障子



■クレセントのかかり調整

●クレセントのかかりが悪くなったら、クレセント本体のキャップをずらしてねじをゆるめ上下調整するか、クレセント受のねじをゆるめて、出入調整をすることで、クレセントのかかりを調整することができます。



【PRO-SEのとき】

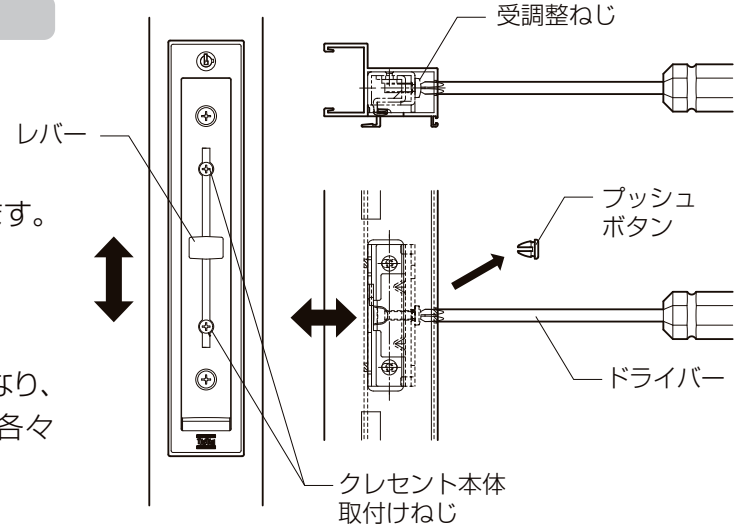
■内蔵クレセントのかかり調整

■クレセント本体

①カバーを下げてレバーを水平にします。
②クレセント本体取付けねじをゆるめます。
③レバーを持ってクレセント本体を上下に動かします。
④クレセント本体取付ねじを締めます。

■クレセント受

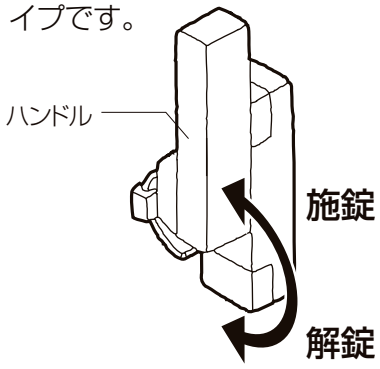
①召外かまちのプッシュボタンを外します。
②受調整ねじを時計回りに回すと引分けが強くなり、反時計回りに回すと引分けが弱くなります。(各々2mm調整可能)



■クレセントの操作と種類（代表例）

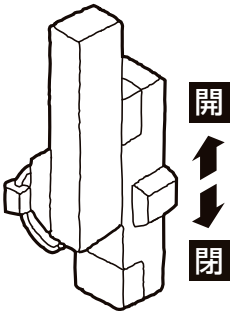
■シングルロック

●標準型のクレセントでハンドルを180°回転させることにより、施解錠することができるタイプです。



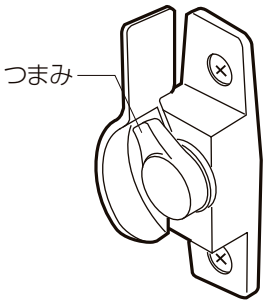
■ダブルロック

●クレセントの横についているボタンを上下に動かすことにより、ハンドルの回転を止めたり、動かしたりすることができるタイプです。



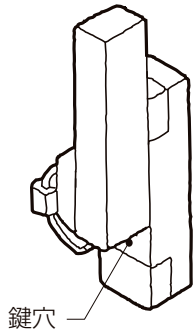
■ダブルロック

●自動的にハンドルのロックが掛かるタイプです。内々のつまみを押しながら解錠します。（MSシリーズの一部に使用）

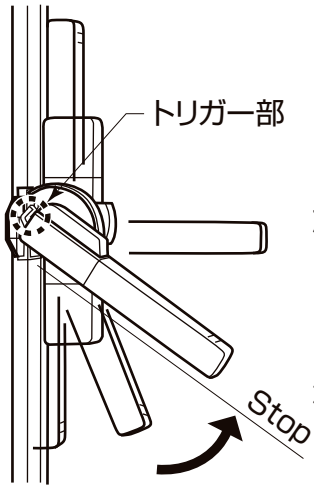


■キー付き

●クレセントの鍵穴にキーを挿入して操作することにより、ハンドルの回転を止めたり、動かしたりすることができるタイプです。



■空かけ防止付き（トリガー付）



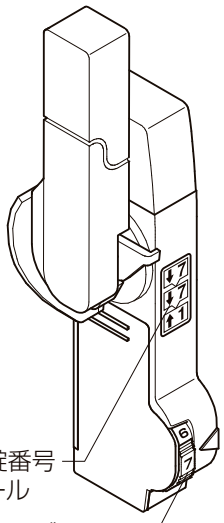
障子が最後まで閉まっていない場合、トリガーが受けに押されないためハンドルが回らず、空かけを防止します。

■ダイヤルロック付き

解錠:解錠番号シールの上から順番の「方向」と「番号」にダイヤルを回して合せることで、クレセントが解錠できます。

施錠:クレセントをかけて、ダイヤルを1回転以上回すとロック状態になります。

注）解錠番号シールは、1例を示しています。解錠番号シールは剥がさないでください。



■内蔵式クレセント（キー付）

●クレセントを召合せかまちに内蔵し、すっきりとした意匠を実現しました。外部からはクレセントが見えないため防犯性も向上します。

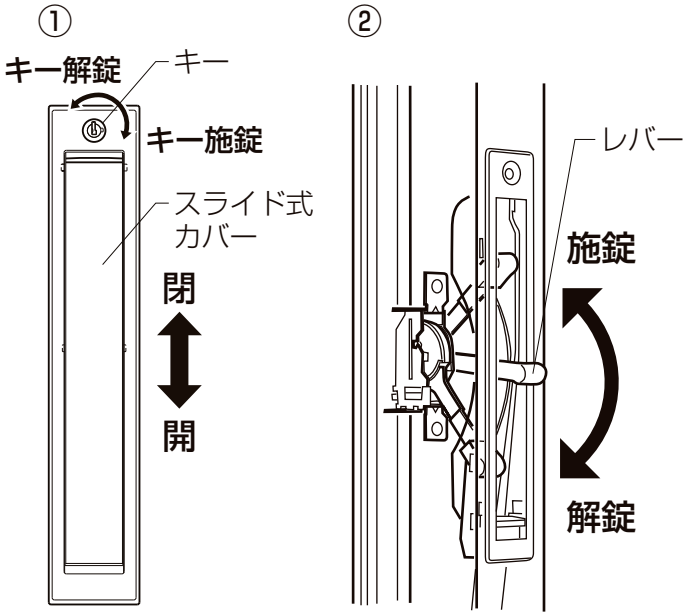
※召合せかまち見付け寸法は60mmのみの設定になります。

①解錠はカバーを開けて、レバーを下へ下げます。

②施錠はレバーを上へ上げてからカバーを閉めます。

③キーを90°右に回すとカバーがロックされ開かなくできます。

注）施錠は召合せかまちを内外そろえてから行ってください。トリガー付ですので召合せかまちをそろえないと施錠できません。

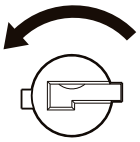


■PRO-SE非防火 空かけ防止付、キー付クレセント操作方法

●キー付クレセントの施解錠は、下記に示す要領にて行ってください。(※SAMOS-H RFも同じです。)

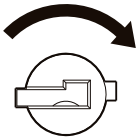
●鍵をかけるとき

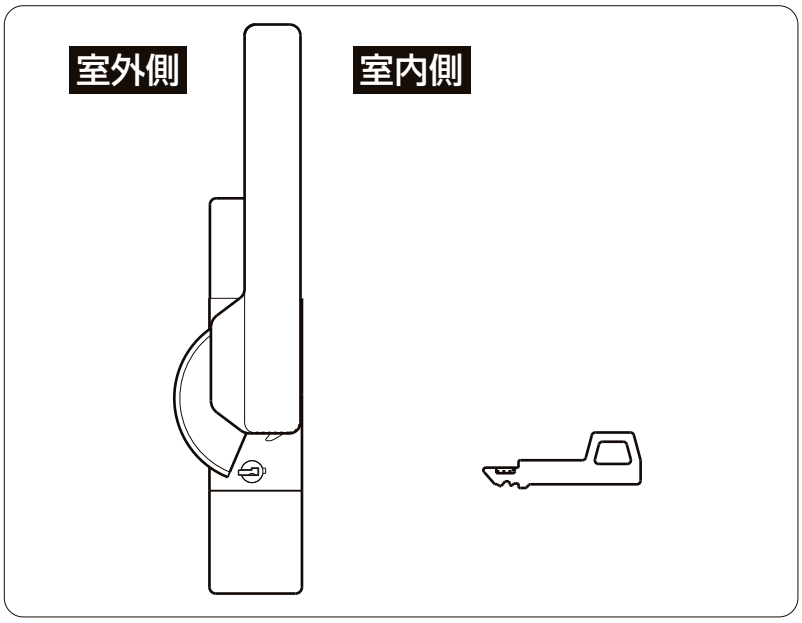
●鍵を差込み反時計回りに回す。



●鍵をあけるとき

●鍵を差込み時計回りに回す。



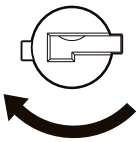


■PRO-SE防火　キー付クレセント操作方法

●キー付クレセントの施解錠は、下記に示す要領にて行ってください。

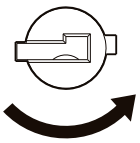
●鍵をかけるとき

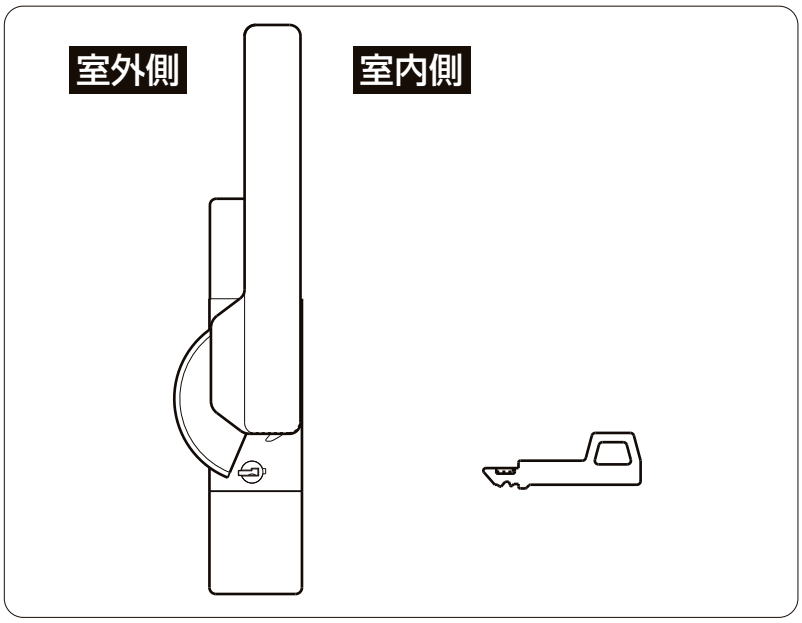
●鍵を差込み時計回りに回す。



●鍵をあけるとき

●鍵を差込み反時計回りに回す。





【サッシ金物の鍵について】

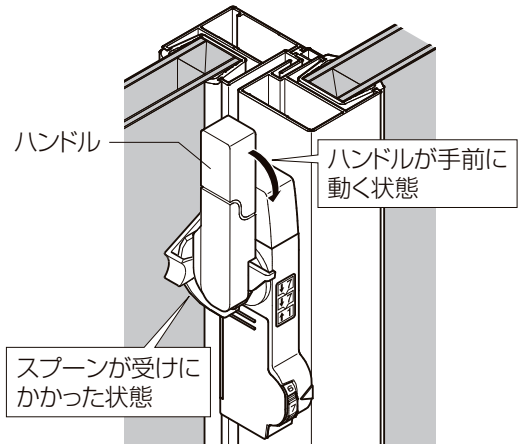
クレセントや小開口ストッパー等のサッシ金物の鍵は、堅固な施錠を保証するものではありません。いたずらや不正な解錠およびキーを完全に差し込まずに無理な力でキーを回す等の誤操作では、開いてしまう場合があります。

■ダイヤルロック付クレセントの施錠番号の変更方法

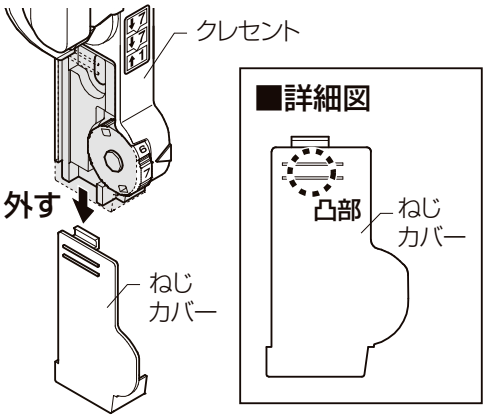
●変更可能な番号は最終解錠番号（3番目に合せる数字）のみとなります。最終番号の前に2回合せている番号は初期設定のパターンをもとに自動で決定されます。

●ハンドルがロックされた状態では番号を変更しないでください。正しい番号に変更できません。

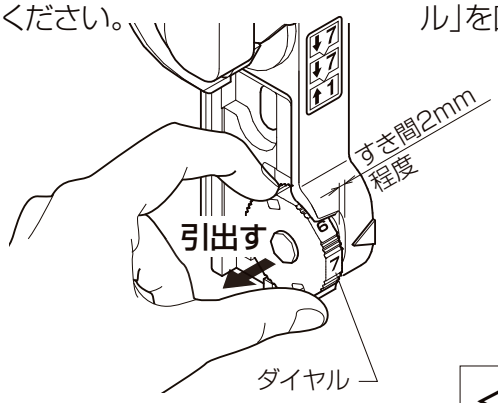
①クレセントを施錠状態にしてください。



②クレセント下部の「ねじカバー」を下方向にスライドさせ、外してください。（下図凸部に指をかけて外してください）

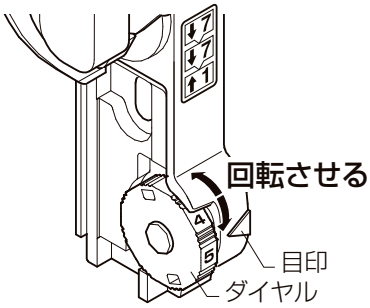


③「ダイヤル」を下図のようにつまんで垂直に引っ張ってください。

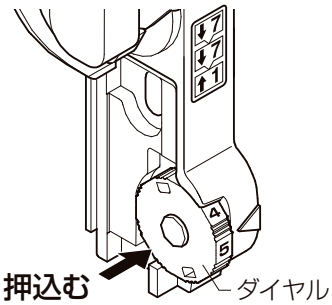


※ダイヤルをつまんで上記のようにすき間ができるまで引っ張ってください。

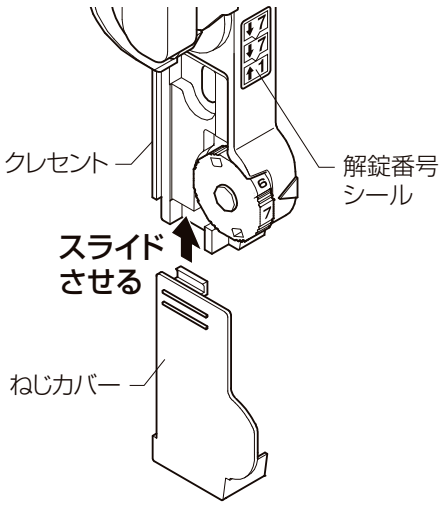
④「目印」に合うように、変更したい番号になるまで「ダイヤル」を回転させてください。



⑤「目印」と変更したい番号が合っていることを確認後、引き上げた「ダイヤル」を元の位置に押し込んでください。



⑥「ねじカバー」を上方向にスライドさせながら、取付けてください。



<変更後の施錠番号の確認方法>

●解錠番号の変更で、最終解錠番号を設定すると、それ以外の番号は下表のように自動的に変更されます。下表のA～Fの初期設定パターンを元に右の一覧表から変更後の番号を確認してください。

	初期設定	お客さまが設定可能な解錠番号						
A	↓8 ↓8 ↑1	↓1 ↓1 ↑2	↓2 ↓2 ↑3	↓3 ↓3 ↑4	↓4 ↓4 ↑5	↓5 ↓5 ↑6	↓6 ↓6 ↑7	↓7 ↓7 ↑8
B	↓7 ↓7 ↑1	↓8 ↓8 ↑2	↓1 ↓1 ↑3	↓2 ↓2 ↑4	↓3 ↓3 ↑5	↓4 ↓4 ↑6	↓5 ↓5 ↑7	↓6 ↓6 ↑8
C	↓6 ↓6 ↑1	↓7 ↓7 ↑2	↓8 ↓8 ↑3	↓1 ↓1 ↑4	↓2 ↓2 ↑5	↓3 ↓3 ↑6	↓4 ↓4 ↑7	↓5 ↓5 ↑8
D	↓5 ↓5 ↑1	↓6 ↓6 ↑2	↓7 ↓7 ↑3	↓8 ↓8 ↑4	↓1 ↓1 ↑5	↓2 ↓2 ↑6	↓3 ↓3 ↑7	↓4 ↓4 ↑8
E	↓4 ↓4 ↑1	↓5 ↓5 ↑2	↓6 ↓6 ↑3	↓7 ↓7 ↑4	↓8 ↓8 ↑5	↓1 ↓1 ↑6	↓2 ↓2 ↑7	↓3 ↓3 ↑8
F	↓3 ↓3 ↑1	↓4 ↓4 ↑2	↓5 ↓5 ↑3	↓6 ↓6 ↑4	↓7 ↓7 ↑5	↓8 ↓8 ↑6	↓1 ↓1 ↑7	↓2 ↓2 ↑8

（例）↓7 ↓7 ↑1 の最終解錠番号を「1」から「5」に変更した場合

●左の一覧表の「初期設定」のうち、↓7 ↓7 ↑1 の行（B行目）を見ます。

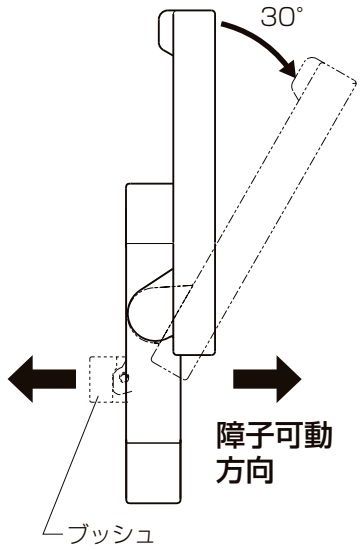
●「お客さまが設定可能な解錠番号」の中で、最終解錠番号が「5」のものは ↓3 ↓3 ↑5 となります。

□ …最終解錠番号

■把手、引手、錠の種類（代表例）

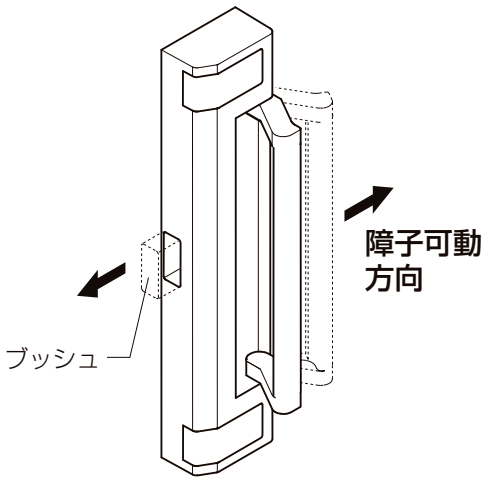
■アシスト把手（オプション）

①クレセントを解錠してから操作してください。
②障子の可動方向にハンドルを傾けスライドさせます。
③ブッシュが出てきて、枠をけり出します。



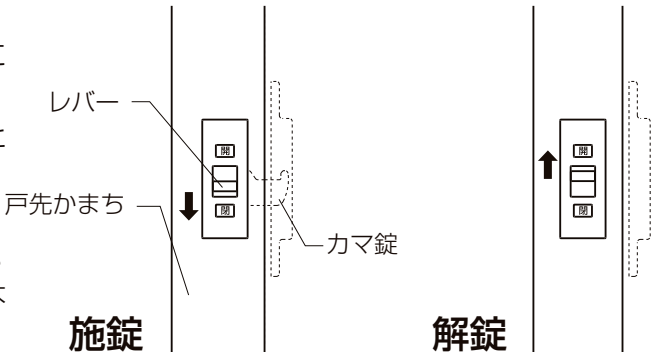
■アシスト引手（オプション）

①クレセントを解錠してから操作してください。
②障子の可動方向に引手をスライドさせます。
③ブッシュが出てきて、枠をけり出します。



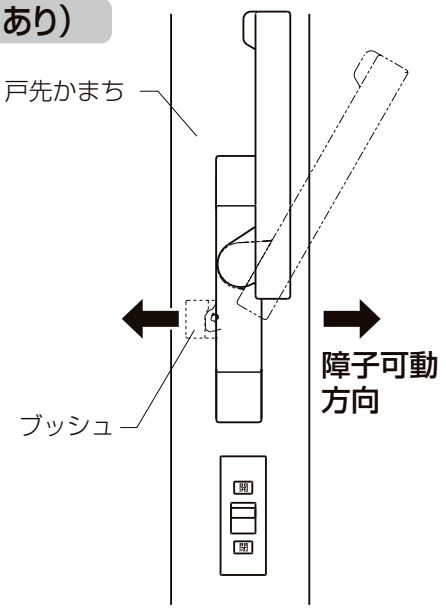
■戸先錠（オプション）（外部シリンダー付もあり）（PRO-SE）

①レバーを下へさげると閉状態になり施錠されます。
②レバーを上へあげるとカマ錠が収納されて開状態になり解錠されます。
※RMA-70G·TCについては、つまみを上へあげると閉状態になり施錠されます。
つまみを下へさげると解錠されます。
※お出かけの際は、必ずクレセントと併用してください。
クレセントを施錠しないと、気密性や水密性など、本来のサッシ性能値が保証できません。



■アシスト把手連動戸先錠（オプション）（外部シリンダー付もあり）

①クレセントを解錠してから操作してください。
②アシスト把手のハンドルを傾けると、戸先錠の施解錠にかかわらず、連動して戸先錠が解錠状態になり、窓が開けられます。
※お出かけの際は、必ずクレセントと併用してください。
クレセントを施錠しないと、気密性や水密性など、本来のサッシ性能値が保証できません。



指はさみ防止ストッパーの取扱い

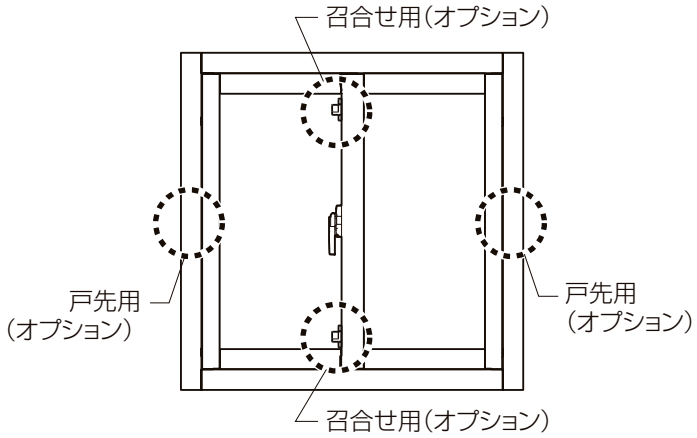
■ご使用上のお願い

●クレセントを解錠したら指はさみ防止ストッパーをセット状態にしてお使いください。また清掃時や網戸使用時は、解除状態でお使いください。

●外障子を開けて網戸を使用するときは、解除状態で使用してください。虫などが侵入するおそれがあります。

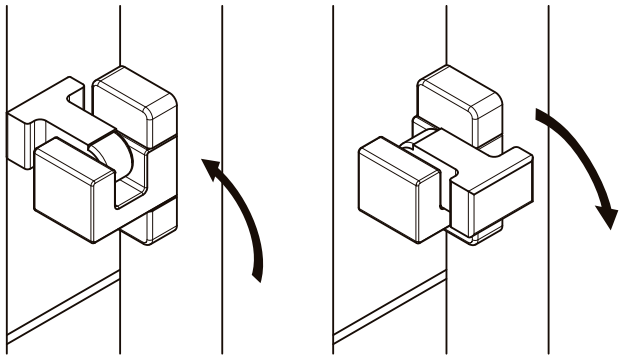
●上下2ヶ所付の場合は、セット時、解除時とも、2ヵ所のストッパー部は同じ状態で使用してください。(どちらか一方でのご使用はおやめください。)

●障子を開閉する際強い衝撃を与えないでください。部品や形材が破損するおそれがあります。



●戸先かまちと召合せかまちの間に約25mmのクリアランスをつくり、指はさみによるケガに配慮しています。

■起倒式(召合せ用・PRO-SE、PRESEA-S)

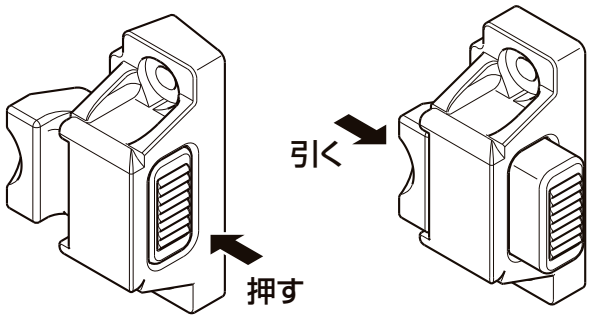


<セット状態>　　<解除状態>

(※SAMOS-H RFも同じです。)

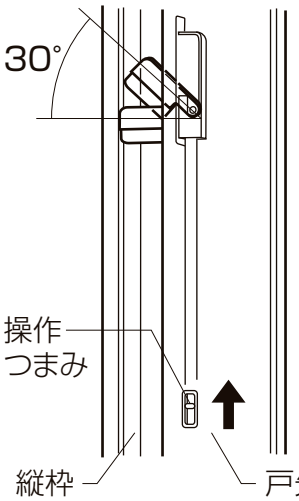
(※RMA-70G•TC、RMA-100、RMN-100用も形態はちがいますが起倒式です。)

■プッシュ式(召合せ用・PRO)



<セット状態>　　<解除状態>

■戸先用(PRO-SE)

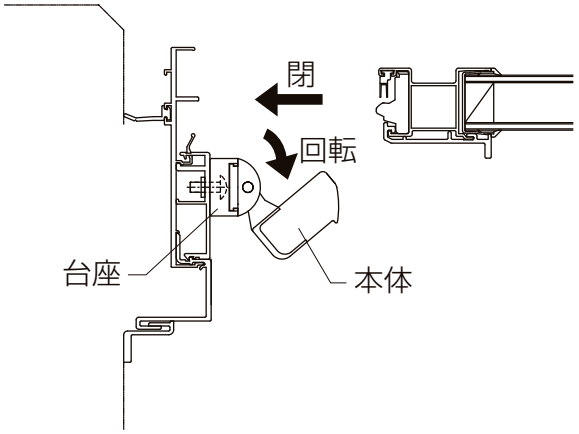


●常時セット状態になっています。障子を閉めるときは、操作つまみを上へ押し上げながら閉めると、ストッパーが30°位回転しますので、そのまま閉めることができます。

●戸先かまちとたて枠の間に約25mmのクリアランスをつくり、指挟みによるケガに配慮しています。

■戸先用(SAMOS-H RF)

●障子を閉める際は、指はさみ防止部品本体を回転させた状態で、障子を操作してください。



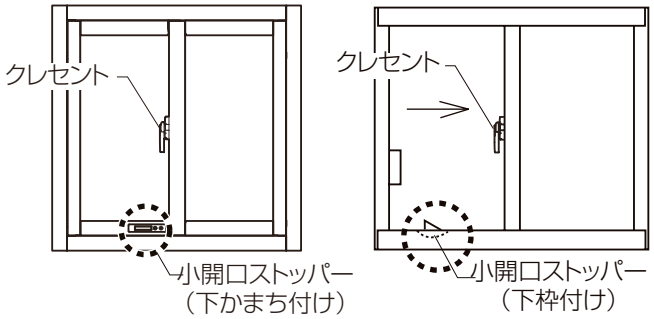
小開口ストッパーの取扱い

■ご使用上のお願い

●小開口ストッパーは、換気のため窓を少し開けてストップさせる部品です。就寝時、外出時は、必ずクレセントを施錠してお使いください。
●障子を開閉する際、強い衝撃を与えないでください。部品が破損するおそれがあります。
●お掃除の際などに操作部が完全に回っている状態であることを定期的に確認してください。
●室外へ出られる際は、操作部が解除状態にあることを確認してください。特に小さなお子さまが触れることのないよう、十分にご注意ください。

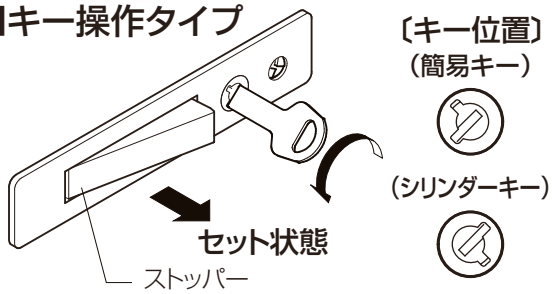
■小開口ストッパー（オプション）

●障子の開口寸法を規制する部品です。

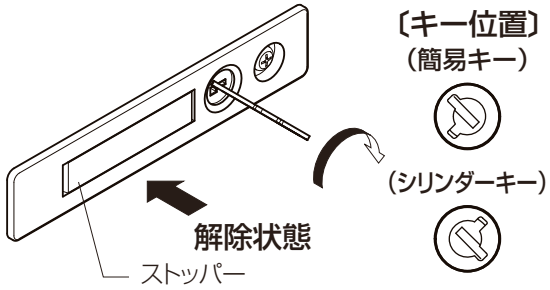


●操作方法

■キー操作タイプ

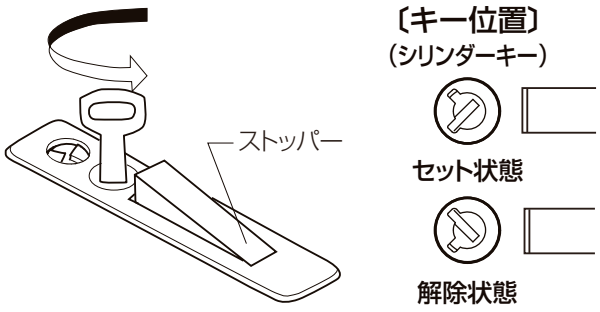


●キーを差し、左に回すとストッパーが起き、セット状態となります。セット後はキーを抜き、なくさないように保管ください。



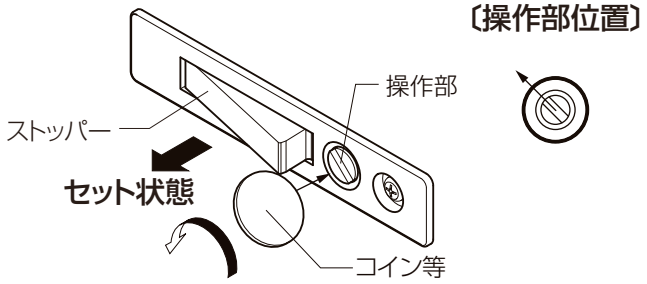
●右に回すとストッパーが戻り、解除状態になります。

■キー操作タイプ（下枠付け）

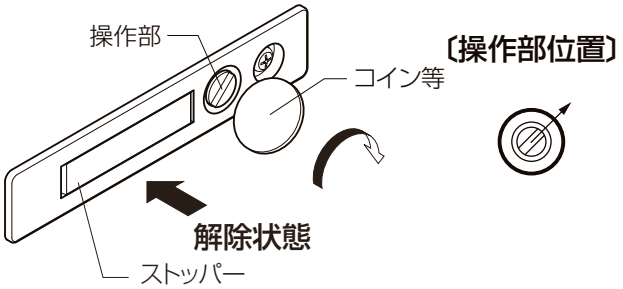


●キーを左に回すとセット状態になり、ストッパーがでます。逆に回すと解除します。

■コイン操作タイプ



●コイン等を使用し、操作部を左にストップするまで回すとストッパーが起き、セット状態となります。



●操作部を右にストップするまで回すとストッパーが戻り、解除状態になります。

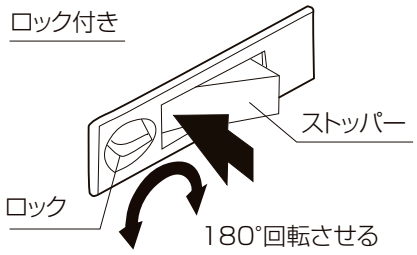
⚠注　意

●使用状況によっては、小開口ストッパーがセットもしくは解除状態となることがありますので、下記事項をお守りください。
・セットや解除の際は、操作部を中間位置の状態にせず、ストップするまで回してください。
・急激な障子の開閉はせず、引手部に手をかけてゆっくり行ってください。

〔中間位置の状態〕

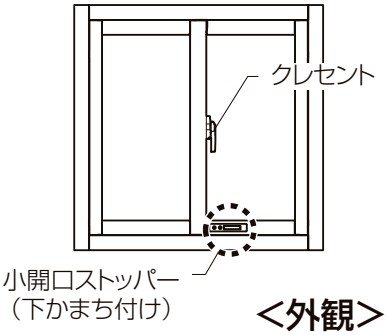


■ロック機構タイプ



●指でストッパーの端を押すとストッパーが起き上がってきます。起き上がらない場合は、ロックを反時計回りに180°回転させてからストッパーを押してください。
●ストッパーが起きた状態でロックを時計回りに180°回転させると固定されます。
●ストッパーが引っ込んだ状態でロックを180°回転させておくとストッパーは起きません。(誤作動防止)

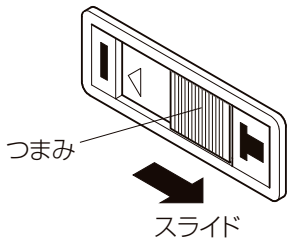
■外部操作連動タイプ



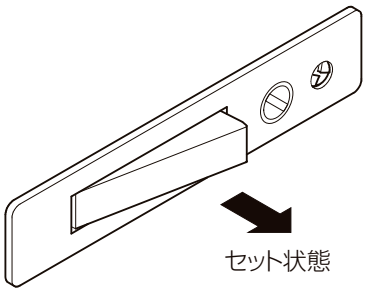
<外観>

●ツマミ部を凸方向にスライドするとセット状態になります。
●ツマミ部をI方向にスライドすると解除状態になります。

〔室外側〕

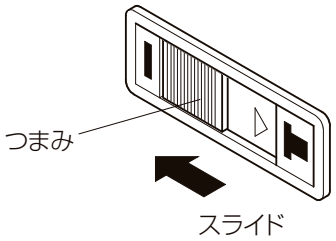


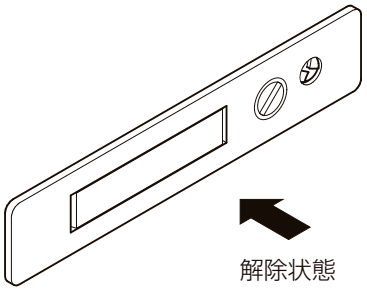
セット状態



〔室内側〕

解除状態





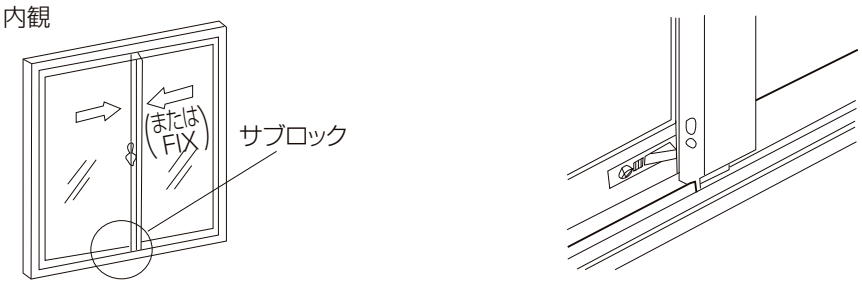
【サッシ金物の鍵について】
クレセントや小開口ストッパー等のサッシ金物の鍵は、堅固な施錠を保証するものではありません。いたずらや不正な解錠およびキーを完全に差し込まずに無理な力でキーを回す等の誤操作では、開いてしまう場合があります。

サブロックの取扱い

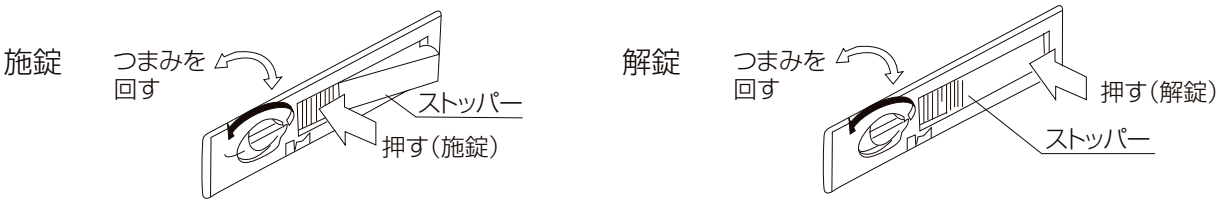
■ご使用上のお願い

●サブロック（防犯補助錠）は、必ずクレセントと併用して使用してください。

●お出かけや就寝の際は、クレセントを施錠するとともに、サブロック（防犯補助錠）もセットしてください。

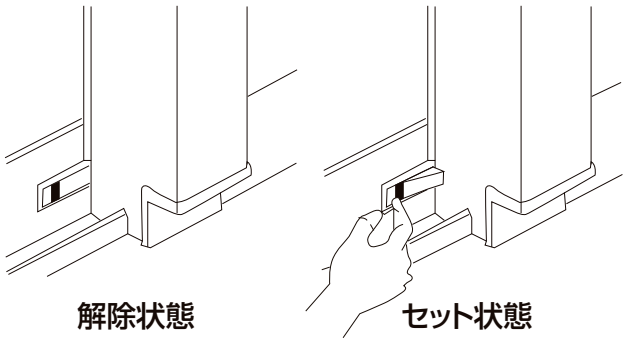


■ロック機構付（下かまち付け）



●つまみを左側にストップするまで回しストッパー部を起こしてください。
そしてつまみを右側にストップするまで戻します。それによりストッパーが固定されます。

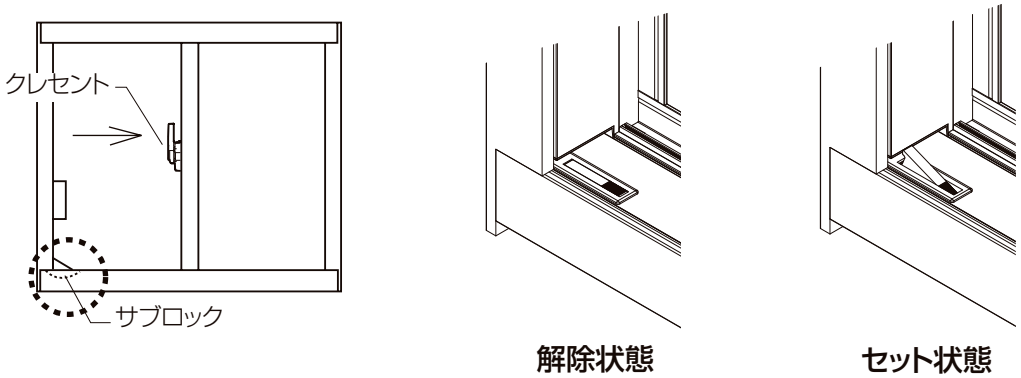
■ロック機構なし（下かまち付け）



①ストッパー部を押すことでセット状態にできます。
②セット状態を解除するときは、起き上がっている部分を押してください。
③下枠にサブロックが付いている場合もあります。

■ロック機構なし（下枠付け）

①ストッパー部を押すことでセット状態にできます。
②セット状態を解除するときは、起き上がっている部分を押してください。



ノンレール（引違い窓）のメンテナンス方法

□PRO-SE

■メンテナンス時のお願い

●清掃時等に下枠レール、アタッチメントを外すときは、下枠レールおよび下枠アタッチメントの両端部や下枠の水抜き穴にふれないでください。思わぬケガをするおそれがあります。また、外したレール、アタッチメントは清掃後、すぐにもとの通りに固定してください。歩行中に踏みつけるなどしてケガをするおそれがあります。

●下枠レールを外しているときは、障子を動かさないでください。障子が脱輪します。

■お手入れについて

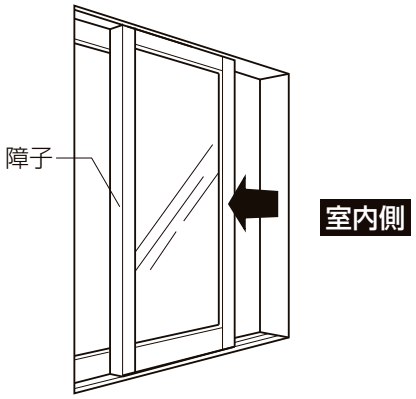
●日常の清掃は、下枠の上面のゴミを掃除機で吸い取ったり、雑巾がけを行ってください。

●下枠内にゴミなどがたまってきた場合は、破損や漏水の原因となりますので、下枠、アタッチメントを外して下枠およびアタッチメントを掃除機、雑巾、ホースの水などで時々清掃してください。

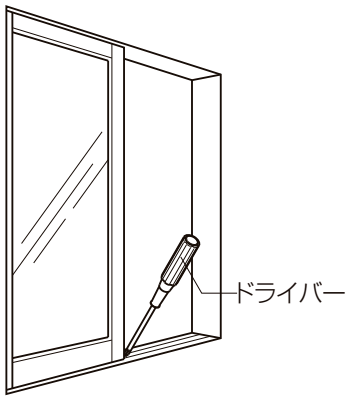
●下枠レール、アタッチメントの外し方

※本図は内観右側の障子を開いたときの場合を表します。左側の障子は、本図と逆側に障子を開けて、レールを外してください。

①障子をいっぱいに開きます。



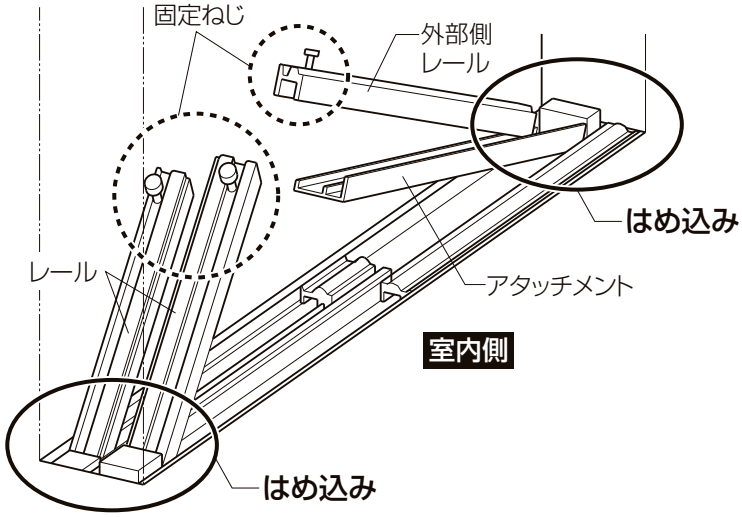
②召合かまち下部に近い所にあるレール固定ねじを緩めます。



③緩めたねじを指先でつまみ、レールを上に引張ります。内観右側には、外部側レールを外した後、アタッチメントを外してください。



【脱着可能な部材】



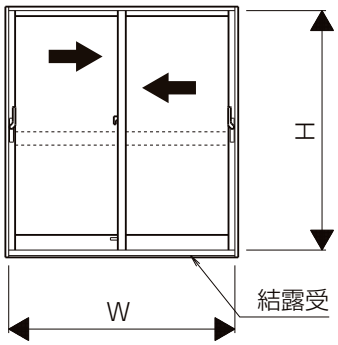
※清掃後は逆の手順で、下枠レール、アタッチメントを下枠へ固定します。（固定ねじを確実に締付けてください。）

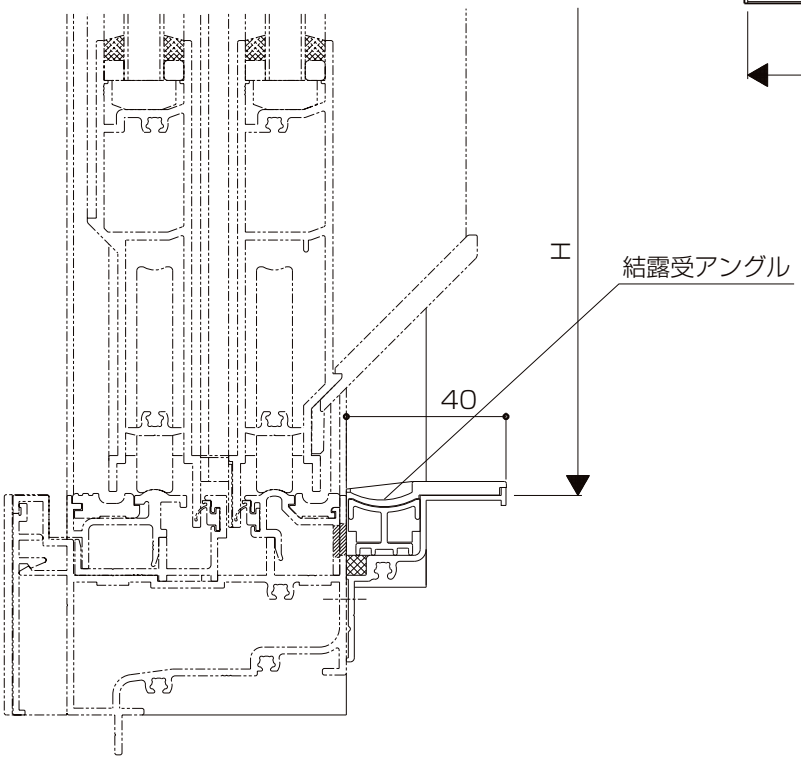
■結露受用アングル(オプション)のお手入れ方法

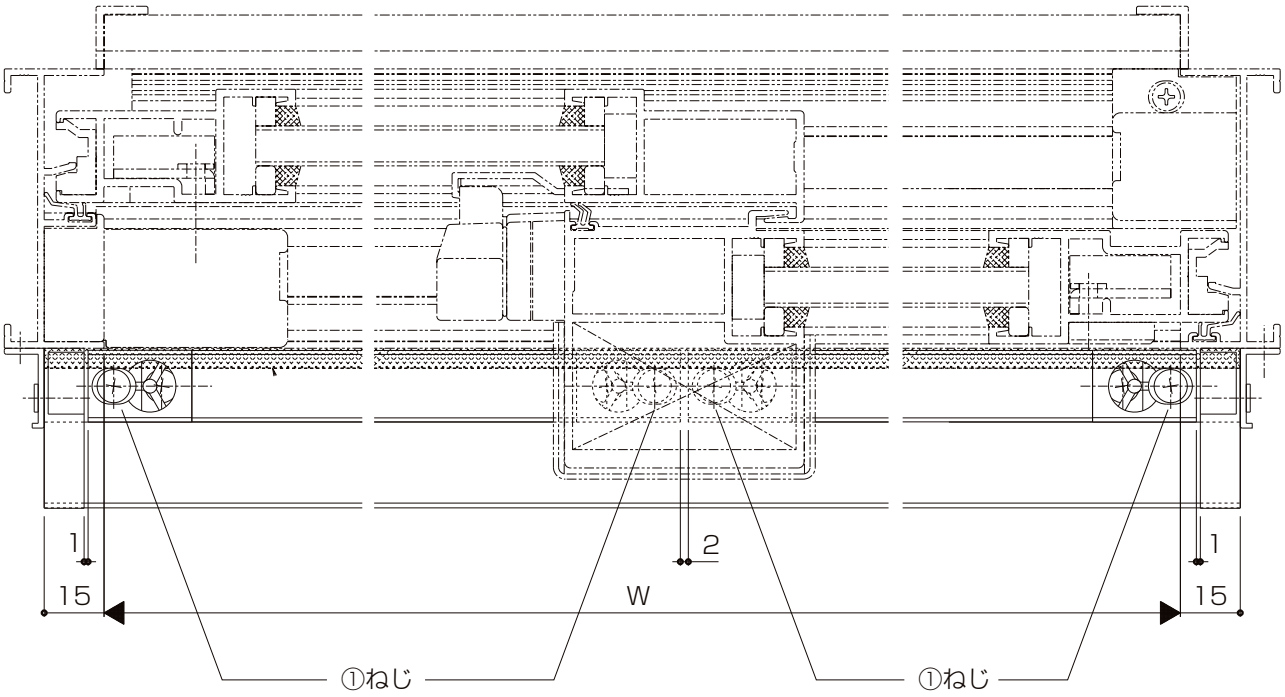
●ゴミ等がつまると結露水を排水できなくなりますので、時々清掃してください。

●結露受アングル(オプション)の取外し方

①結露受アングル両端の樹脂部品のねじを外します。
②樹脂部品に指をかけて持ち上げます。
③清掃が終ったら、元にもどしねじを締め付けてくださ
い。







引戸の取扱い

□PRO □PRO-SE

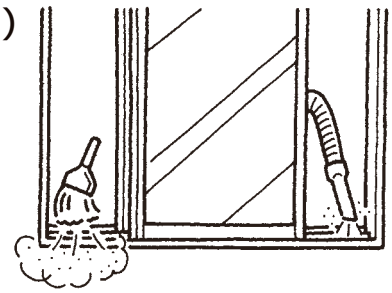
⚠注　意

●外れ止め部品が正しくかかっていないと、ガラス障子が窓枠から外れて落下し、人身事故や物損事故につながるおそれがありますので、下記事項をお守りください。
・お手入れなどでガラス障子を外し、再び窓枠に取付けるときは、表示ラベルに従って外れ止め部品を必ずかけてください。
・外れ止め部品が正しくかかっているか、ズレや破損がないか時々点検してください。
●子供部屋等、窓の近くにベッドや机等を配置する場合は、踏み台にならないように配置し、踏み台になるような物がある場合は、小さなお子さまが一人で窓を開けられないように配慮してください。転落など、人身事故につながるおそれがあります。
●開閉時、引手やハンドルなど指定された場所を持って操作してください。指定場所以外のところを持つと手や指を挟まれる等、人身事故につながるおそれがあります。
●開閉時、枠と障子の間や障子が交差する所に手や指を置かないでください。手や指を挟まれる等人身事故につながるおそれがあります。(図2)

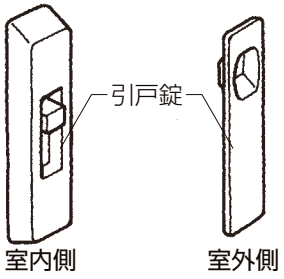
■ご使用上のお願い

●下枠にゴミなどをためないよう時々清掃してください。水抜き穴がつまり漏水したり、戸車が破損するおそれがあります。(図6)
●引戸錠は、戸が完全に閉まっている状態を確認して作動してください。閉まっていないと、作動不可の状態となり、無理に操作すると錠前が破損するおそれがあります。(図7)

(図6)



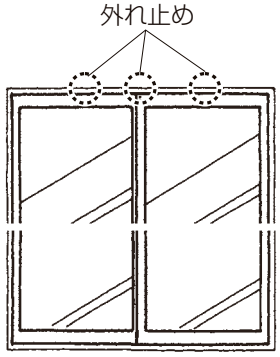
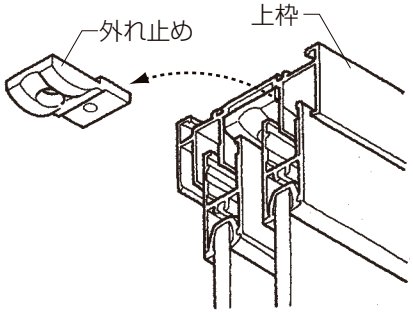
(図7)



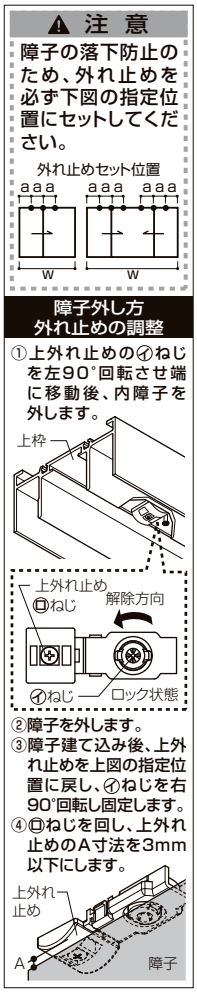
※引戸のクレセント仕様のクレセントは引違い窓の頁を参照願います。

■外れ止め部品のセット

●外れ止め部品は、障子の落下を防止するために取付けられている部品です。必ずセットしてください。

外れ止め位置	商品形状と部位	セット方法
		※商品に本体表示ラベルを貼付けしています。表示内容をお守りください。

■本体表示ラベルの表示例(PRO-SE)



片引き窓の取扱い

□PRO □TBH-100AT □PRO-SE □PRO-SE100
□RM-100N･TB □RMA-100 □RMN-100 □PRESEA-S

⚠注　意

●外れ止め部品が正しくかかっていないと、ガラス障子が窓枠から外れて落下し、人身事故や物損事故につながるおそれがありますので、下記事項をお守りください。
・お手入れなどでガラス障子を外し、再び窓枠に取付けるときは、表示ラベルに従って外れ止め部品を必ずかけてください。
・外れ止め部品が正しくかかっているか、ズレや破損がないか時々点検してください。
●子供部屋等、窓の近くにベッドや机等を配置する場合は、踏み台にならないように配置し、踏み台になるような物がある場合は、小さなお子さまが一人で窓を開けられないように配慮してください。転落など、人身事故につながるおそれがあります。
●開閉時、引手やハンドルなど指定された場所を持って操作してください。指定場所以外のところを持つと手や指を挟まれる等、人身事故につながるおそれがあります。
●開閉時、枠と障子の間や障子が交差する所に手や指を置かないでください。手や指を挟まれる等人身事故につながるおそれがあります。(図9)

■ご使用上のお願い

【クレセント操作について】

●ハンドルを下に180°回転させてから障子の開閉を行ってください。ハンドルを途中で止めると、障子に当たり形材にキズを付けたり、部品が破損したりします。(図8)また、開閉時にハンドルを閉まった状態に戻して障子を閉めてしまうとクレセントの鎌と受が乗りあげて障子が重くなります。(ロック付き、キー付きはその解除を先に操作してください。)
●内蔵クレセントの施錠は、窓を閉めて召合かまちをそろえてから操作してください。実施しないと障子形材にキズを付けたり、部品が破損したりします。
●窓を閉めてクレセントを施錠しないと、サッシ諸性能(耐風圧、気密、水密等)の保持および、強風時に障子が開いてしまうことがあります。
●グレモン方式の場合は、一般クレセントと比べて、作動が重くなります。これは機構上によるもので、不具合ではありません。

【障子開閉について】

●引分け障子を開け閉めするときは、反対側の施錠されているクレセントに強い衝撃を与えないようにしてください。クレセントおよび受けが破損するおそれがあります。(図10)
●障子を開けるときに障子ストッパーに強い衝撃を与えないでください。障子や部品の変形･破損が生じたり、それによるクレセントの施解錠が困難になるなどのおそれがあります。

【安全にお使いいただくために】

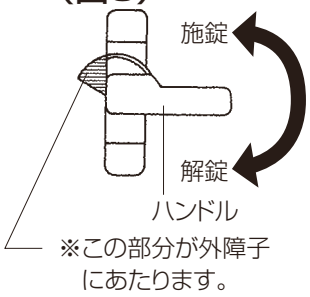
●外出時や就寝時には必ず窓を閉め、クレセントや補助錠も必ず施錠してください。

【お手入れについて】

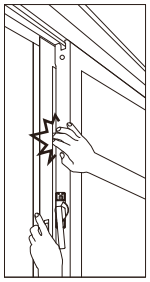
●下枠にゴミなどをためないよう時々清掃してください。水抜き穴がつまり漏水したり、戸車が破損するおそれがあります。(図11)

●空かけ防止付クレセントのトリガー部(34頁)は、時々汚れを布などで拭き取ってください。ハンドルの開閉時に引っ掛かりが発生する場合があります。

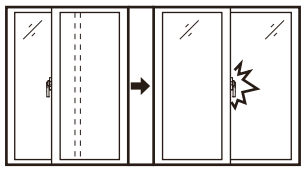
(図8)



(図9)

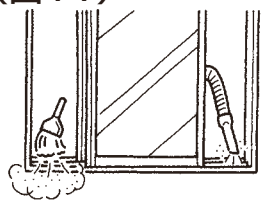


(図10)



※強く閉めないでください。

(図11)



※バリアフリー用下枠のときは、掃除機で清掃してください。

■引寄せ機能付

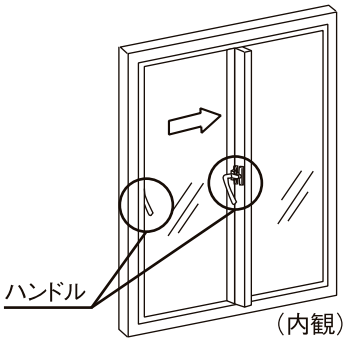
【操作時のお願い】

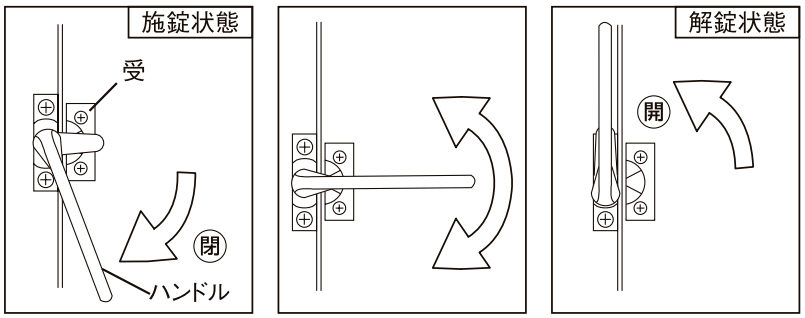
●ハンドルを回すと自動的に解除状態に戻りますが中途半端な操作では、ハンドルの破損のおそれがあります。

【操作方法】

●障子を開ける時は、左右のハンドルを垂直になるまで上に回転させてください。ロックが解除されます。

●障子を閉める時は、障子を完全に閉めてから、左右のハンドルを下に回してロックしてください。

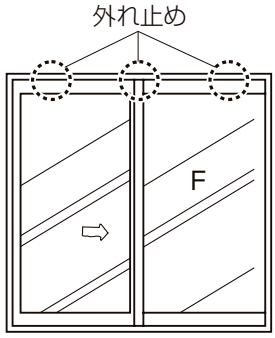
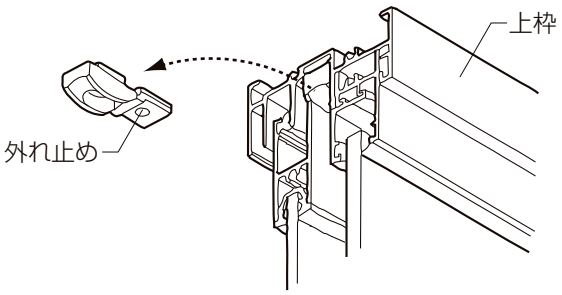
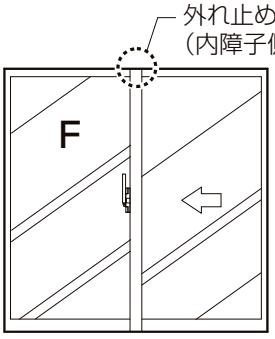
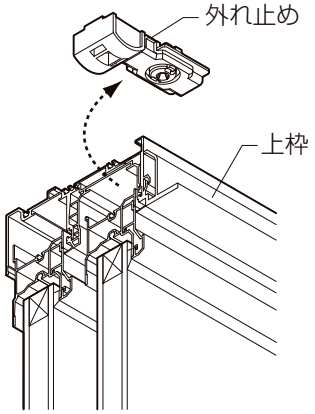




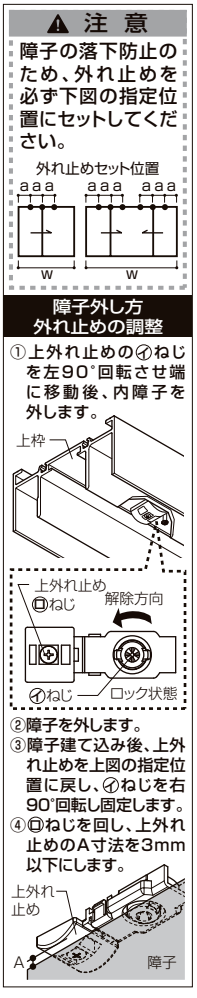
ハンドルが中途半端な位置では開閉操作しない

■外れ止め部品のセット

●外れ止め部品は、外障子の落下を防止するために取付けられている部品です。必ずセットしてください。
●商品によっては、外れ止め形式が下記と異なりますので、商品貼付の本体表示ラベルの表示内容をお守りください。

形式	外れ止め位置	商品形状と部位	セット方法
外動	 PRO-SE PRO-SE100		※商品に本体表示ラベルを貼付けしています。表示内容をお守りください。
内動	 PRESEA-S		

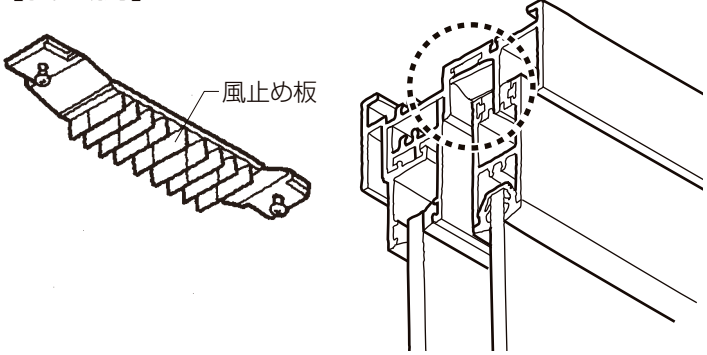
■本体表示ラベルの表示例(PRO-SE)



■風止め板

●召合せ上部からの風の進入を防ぐためにサッシの上枠に取付けられている、ナイロン樹脂製の部品です。
※障子の脱着時にずらしたときや、位置がずれていたら、召合せ上部の位置にもどしてください。

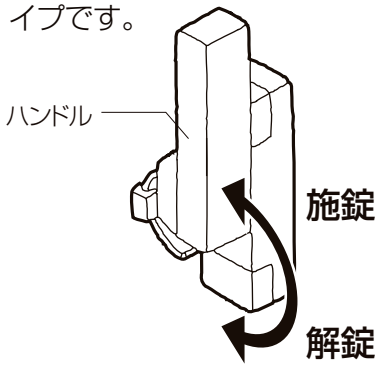
【代表例】



■クレセントの操作と種類（代表例）（その他金物は引違い窓を参照願います）

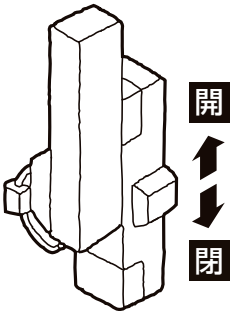
■シングルロック

●標準型のクレセントでハンドルを180°回転させることにより、施解錠することができるタイプです。



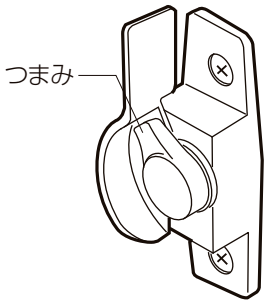
■ダブルロック

●クレセントの横についているボタンを上下に動かすことにより、ハンドルの回転を止めたり、動かしたりすることができるタイプです。



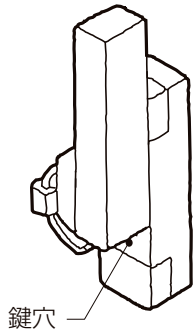
■ダブルロック

●自動的にハンドルのロックが掛かるタイプです。内々のつまみを押しながら解錠します。（MSシリーズの一部に使用）

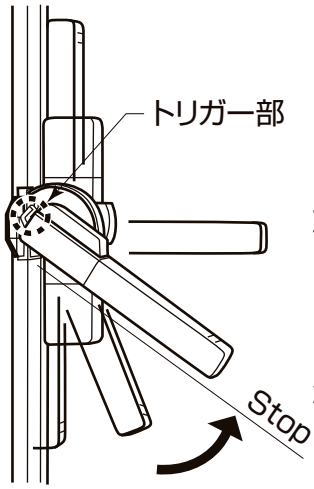


■キー付き

●クレセントの鍵穴にキーを挿入して操作することにより、ハンドルの回転を止めたり、動かしたりすることができるタイプです。



■空かけ防止付き（トリガー付）



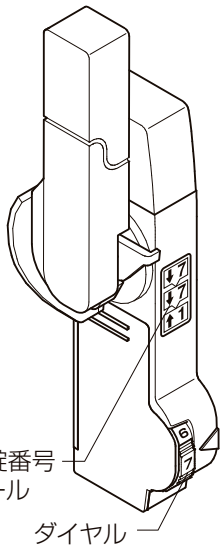
障子が最後まで閉まっていない場合、トリガーが受けに押されないためハンドルが回らず、空かけを防止します。

■ダイヤルロック付き

解錠:解錠番号シールの上から順番の「方向」と「番号」にダイヤルを回して合せることで、クレセントが解錠できます。

施錠:クレセントをかけて、ダイヤルを1回転以上回すとロック状態になります。

注）解錠番号シールは、1例を示しています。解錠番号シールは剥がさないでください。



■内蔵式クレセント（キー付）

●クレセントを召合せかまちに内蔵し、すっきりとした意匠を実現しました。外部からはクレセントが見えないため防犯性も向上します。

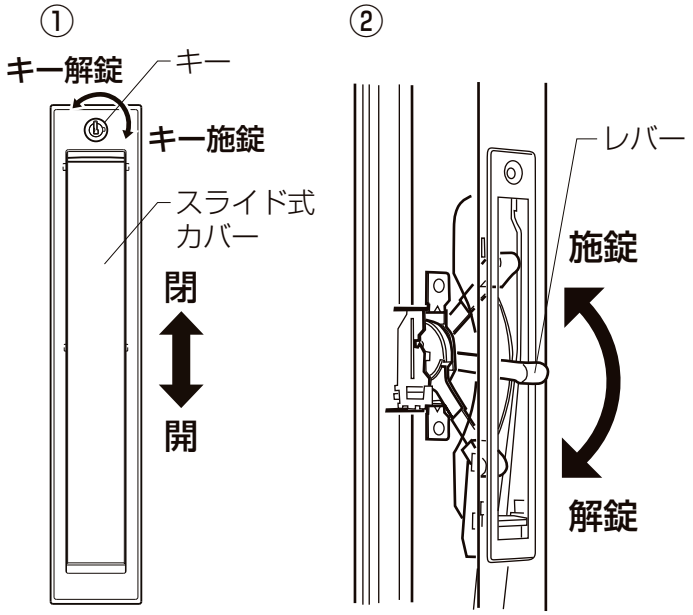
※召合せかまち見付け寸法は60mmのみの設定になります。

①解錠はカバーを開けて、レバーを下へ下げます。

②施錠はレバーを上へ上げてからカバーを閉めます。

③キーを90°右に回すとカバーがロックされ開かなくできます。

注）施錠は召合せかまちを内外そろえてから行ってください。トリガー付ですので召合せかまちをそろえないと施錠できません。



ノンレール（片引き窓）のメンテナンス方法

□PRO-SE

■メンテナンス時のお願い

●清掃時等に下枠レール、アタッチメントを外すときは、下枠レールおよび下枠アタッチメントの両端部や下枠の水抜き穴にふれないでください。思わぬケガをするおそれがあります。また、外したレール、アタッチメントは清掃後、すぐにもとの通りに固定してください。歩行中に踏みつけるなどしてケガをするおそれがあります。

■お手入れについて

●日常の清掃は、下枠の上面のゴミを掃除機で吸い取ったり、雑巾がけを行ってください。

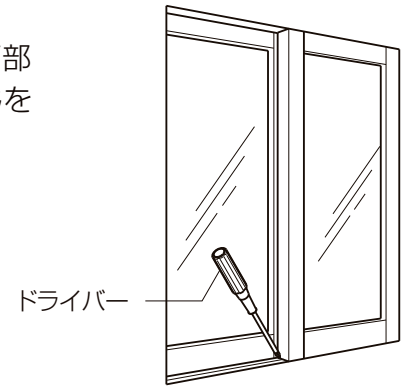
●下枠内にゴミなどがたまってきた場合は、破損や漏水の原因となりますので、下枠レール、アタッチメントを外して下枠および下枠アタッチメントを掃除機、雑巾、ホースの水などで時々清掃してください。

●下枠レール、アタッチメントの外し方

※本図は内観右側が障子の場合を表します。左側が障子の場合は、本図と逆になります。

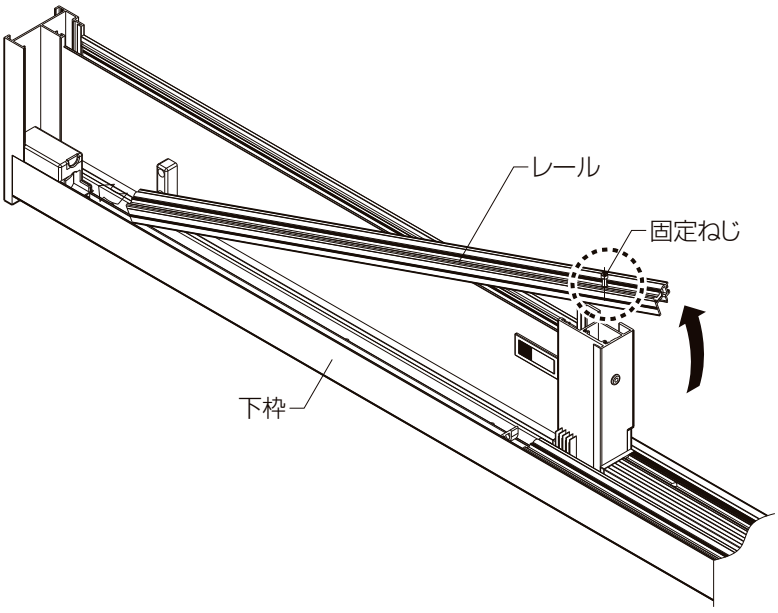
■レールの外し方

①障子を閉めた状態で召合せかまち下部に近いところにあるレール固定ねじを緩めます。



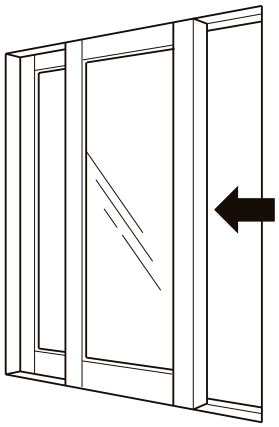
②緩めたねじを指先でつまみ、レールを上に引張ります。

※清掃後は、障子を動かす前にレールをもとにもどしてから、レール固定ねじを締付けてください。

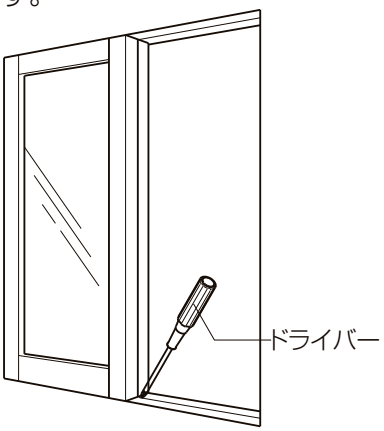


■アタッチメントの外し方

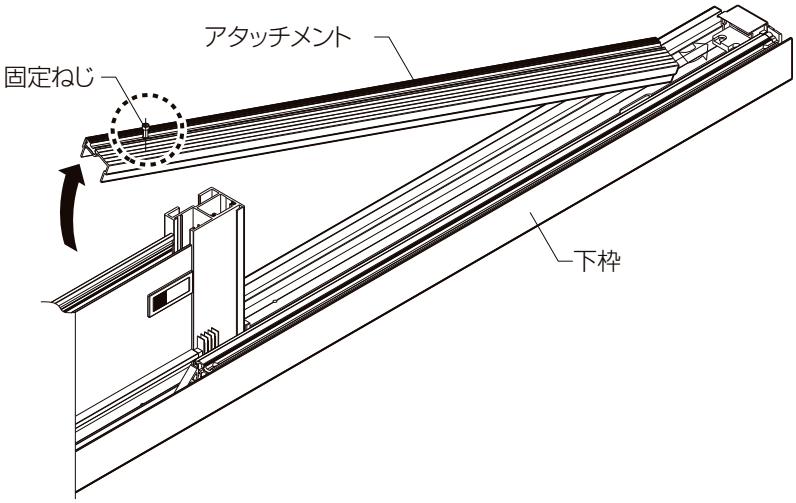
①障子をいっぱいに開けます。



②召合せ方立下部に近い所にある固定ねじをゆるめます。



③緩めたねじを指先でつまみ、アタッチメントを上に引っ張ります。



※清掃後は逆の手順で、アタッチメントを下枠へ固定します。（固定ねじを確実に締め付けてください。）

換気小窓・換気かまちの取扱い

□PRO □PRO-SE □SAMOS-H RF

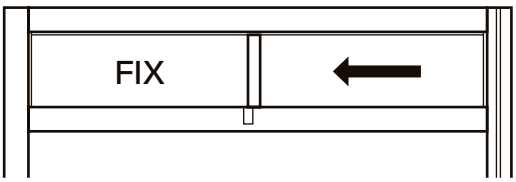
■ご使用上のお願い

●降雨、強風時には、換気小窓のガラスを閉めて小窓締りを施錠してください。また換気かまちも、操作つまみを「閉」の状態にして換気口を閉じてください。

●就寝、外出時には必ず換気小窓のガラスを閉めて施錠してください。

■換気小窓の操作方法

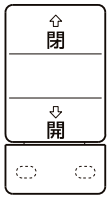
●小窓中央部の小窓締りの開閉操作をすることで施解錠できます。（商品により形式がちがいます。）



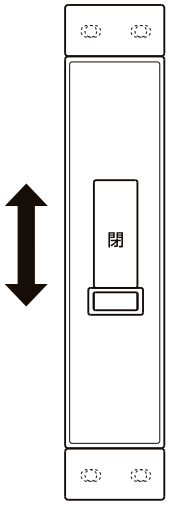


押しながら回転させると
開閉できます。

<回転式>（PRO-SE）



<プッシュ式>（PRO）

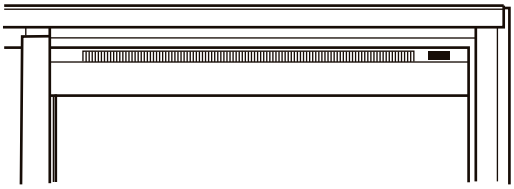


上下にスライド
させます。

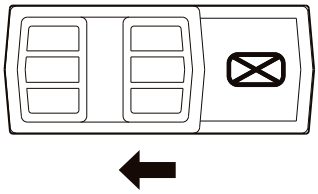
<スライド式>（PRO）

■換気かまちの操作方法

●換気かまちの操作つまみをスライドさせることにより開閉します。（商品により形式･表記がちがいます。）

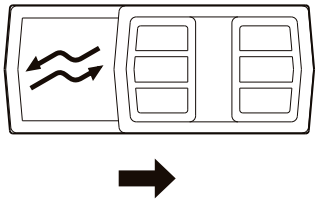


閉状態

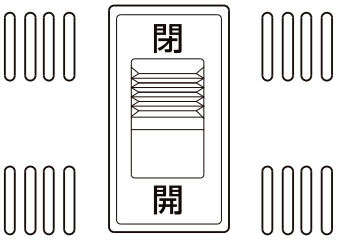


押しながら左右に
スライドさせると
開閉できます。

開状態



<スライド式>（PRO-SE）
（SAMOS-H RF）



上下にスライドさせます。

<スライド式>（PRO）

■換気小窓の網戸のメンテナンス

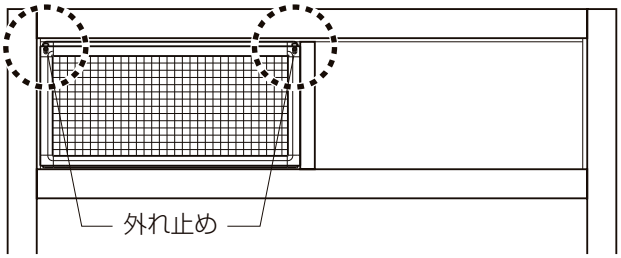
⚠注　意

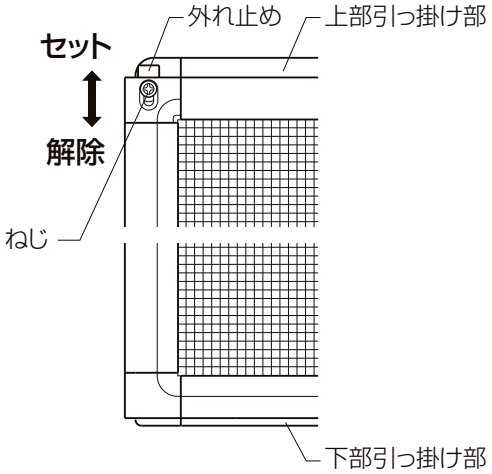
●お手入れなどの後、網戸を取付けたときは表示ラベルに従って外れ止めを必ずかけてください。また、ご使用中、外れ止めがずれることがあります。時々点検してください。外れ止めが正しくかかっていないと網戸の落下による事故（人身・物損）につながるおそれがあります。

●網戸外れ止めのセット方法

①網戸の上部引っ掛け部を換気小窓に引っ掛けます。
②次にケンドンで下部引っ掛け部を引っ掛けます。
③外れ止めのねじを上へずらして締め付けます。（左右2カ所）
④網戸が外れないことを確認してください。

〔外観〕





■換気かまちのフィルターのお手入れ

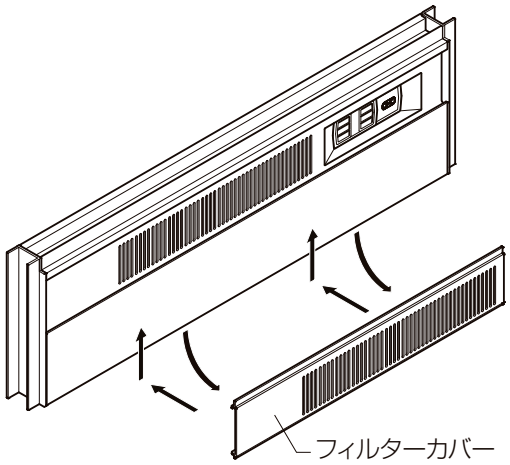
■お手入れ時のお願い

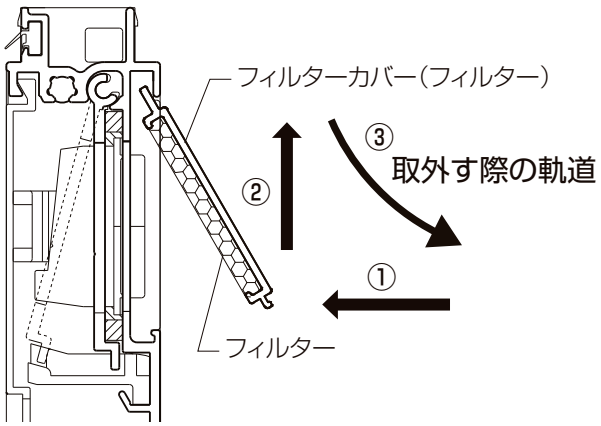
●目安として半年ごとの清掃をおすすめします。

●フィルターカバーを取付けた後は、換気かまちに正しく納まっていて、外れないことを確認してください。

●お手入れ方法

①フィルターカバーを上へ押し上げ、側面を指で引っ掛けて手前側に外します。
②取外したフィルターの汚れが少ない場合は、軽く手でたたいて落としてください。
③汚れがひどい場合は、フィルターカバーごと水またはぬるま湯につけて押し洗いをするか、シャワーなどで洗い流してください。
※その際、フィルター自体をもみ洗いしたり、強く絞ったりしますと、フィルターの繊維がほつれたり破れたりしますので注意してください。
④洗浄後は、自然乾燥を十分してください。
⑤換気かまちへの取付けは、取外しと逆の要領で行ってください。





【換気窓断面図】

※フィルターカバーが新規に必要なときは、当社お客様担当窓口へお問合せください。

網戸の取扱い

□可動 □固定 □自走防止ストッパー付網戸

⚠注　意

●外れ止め部品、自走防止部品が正しくかかっていないと、網戸が窓枠から外れて落下し、人身事故や物損事故につながるおそれがありますので、下記事項をお守りください。
・可動網戸を開閉した後は、 表示ラベルに従って外れ止め部品を必ずかけてください。
・お手入れなどで網戸を外し、再び窓枠に取付けるときは、表示ラベルに従って外れ止め部品を必ずかけてください。
・外れ止め部品、自走防止部品が正しくかかっているか、ズレや破損がないか時々点検してください。
・外部にベランダ、廊下が無い場所の網戸をお手入れなどで外すときは、必ず専門業者へ依頼してください。取外しの際に誤って網戸を落下させ、人身事故や物損事故につながるおそれがあります。
●網戸は定期的に清掃してください。網の目がほこりなどで目詰まりすると、性能値以上の風圧を受けて網戸が落下し、思わぬケガや事故につながるおそれがあります。
●網戸に寄りかかったりしないでください。この製品は防虫用であり、人が転落するおそれがあります。
●網戸に寄りかからないでください。また、押さないでください。網が破れたり、網戸が枠からはずれてケガをするおそれがあります。特に、お子さまにはご注意ください。

■ご使用上のお願い

●障子開閉した場合、すきまを防ぐための部品のあたりが強かったりすることで、網戸も一緒に動く時がありますが特に製品上の不具合ではありません。

■網戸の防虫性について

●網戸の防虫性は、網目より大きい虫などを防ぐには効果があります。しかし、網戸を可動させるために微小すき間があるため、使用環境によっては、網目より小さな虫やはい回る虫などが侵入する場合があります。はい回る虫（カメムシ、テントウムシ、アリ等）は、光や暖気、観葉植物を好みわずかなすき間からでも、押し入ろうとする習性があります。従って、網戸があっても、この様な習性を持つ虫の侵入を完全に止めることはできません。万一、虫が室内へ侵入した場合は、殺虫剤等による駆除をお願いします。

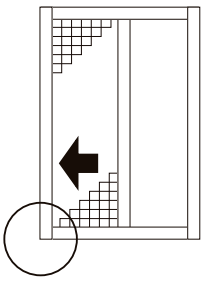
■可動網戸操作方法のお願い

●開閉操作は縦かまちの中央付近を持ってゆっくり行ってください。
上部や下部を持って操作すると網戸が斜めになり開閉が重くなったり、スムーズに作動しない場合があり無理な力がかかって破損の原因になります。

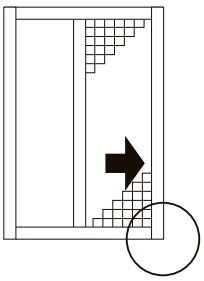
■PRO用可動網戸ご使用上のお願い

強風時に網戸が自走するのを防止する為、風が強い日等は次のようにご使用ください。

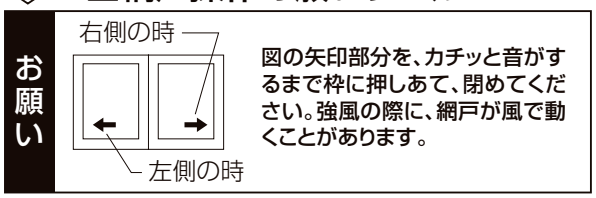
〈室内観左側の時〉



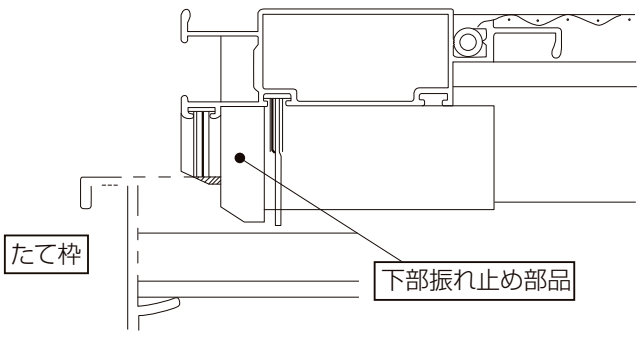
〈室内観右側の時〉



■網戸操作お願いラベル



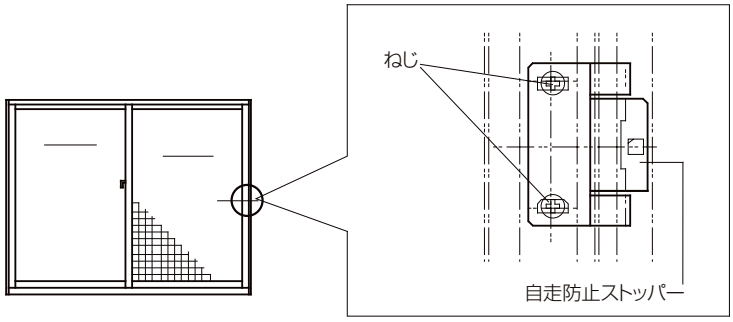
※網戸下部をやや強めに、たて枠にカチッと音がするまで押し当ててください。下図のように網戸下部振れ止め部品がたて枠に噛み込みます。



■自走防止ストッパー（オプション）（PRO-SE、PRESEA-S）

■ご使用上のお願い

●自走防止ストッパー付網戸は突風による網戸の自走を防止する為に固定式となっています。
網戸の開閉や逆側への移動はできません。
網戸使用時にはねじを外さないでください。
網戸の外れ止めも必ずセットした状態としておいてください。
網戸の外れ止めのセット方法は57頁を参照ください。



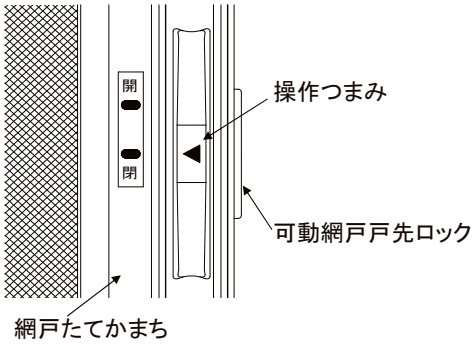
●網戸の清掃時は網戸を外さず、やわらかい布や電気掃除機を使用して行ってください。

■可動網戸戸先ロック（オプション）（PRO-SE）

■ご使用上のお願い

●通常時には、可動網戸戸先ロックを施錠してください。
風により網戸が自走し、部品等が破損するおそれがあります。
網戸の外れ止めも必ずセットした状態としておいてください。
（網戸の外れ止めのセット方法は57頁を参照ください）

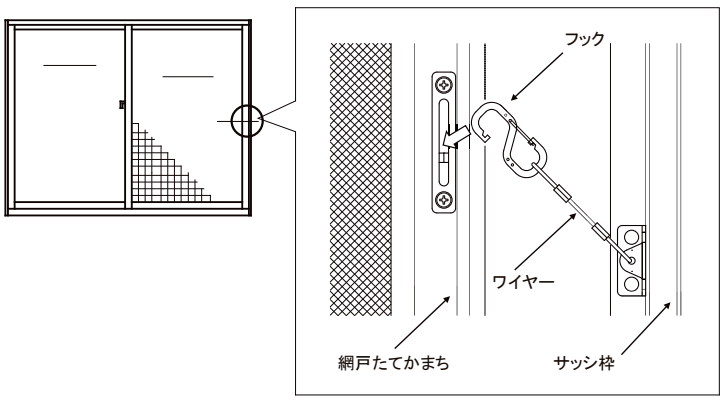
【操作方法】
①操作つまみを下げると網戸がロックされます。
②操作つまみを上げるとロックが解除され、網戸が開閉できるようになります。



■可動網戸自走防止 ワイヤーフック（オプション）（PRO、RMA-70G･TC、RMN-100、SAMOS-H RF、RMA-100、RM-100N･TB）

■ご使用上のお願い

●通常時には、網戸にフックをかけてください。風により網戸が自走しないようにしてください。
網戸の外れ止めも必ずセットした状態としておいてください。
網戸の外れ止めのセット方法は57頁を参照ください。

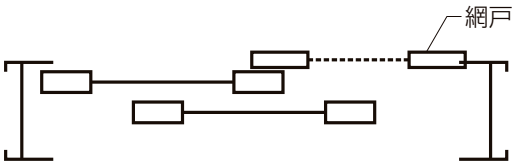


■可動網戸の使い方（戸先安全仕様およびアシスト把手・大型把手使用時の障子引残しがあるとき）

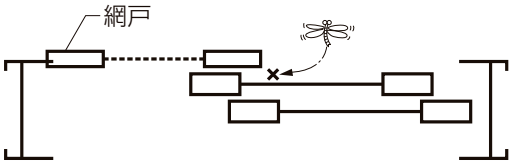
■2枚建ての場合

●網戸を使用するときは、右側の障子を開けて網戸を右に寄せて使用してください。左側の障子を開けて使用する場合には、障子を全開にして使用してください。
左側の障子を半開き状態で使用すると、虫が入るおそれがあります。

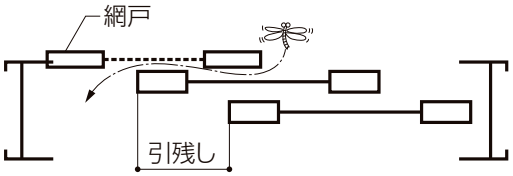
※戸先安全仕様およびアシスト把手・大型把手使用時は、右側の障子を開けて、使用してください。



○：使用可



○：使用可

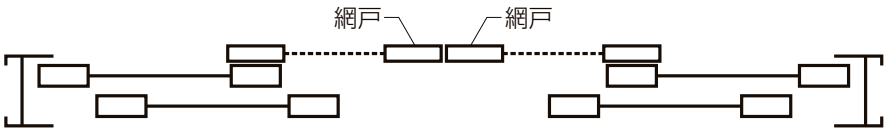


×：使用不可

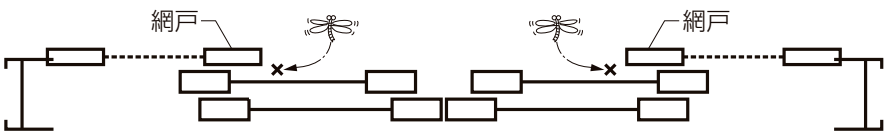
■4枚建ての場合

●網戸を使用するときは、中央の障子を開けて網戸を2枚とも中央に寄せて使用してください。左右たて枠側の障子を開けて使用する場合には、障子を全開にして使用してください。
左右たて枠側の障子を半開き状態で使用すると、虫が入るおそれがあります。

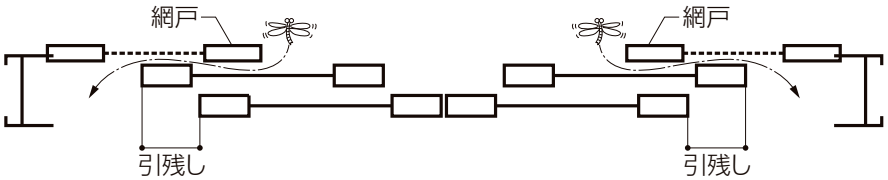
※戸先安全仕様およびアシスト把手・大型把手使用時は、中央の障子を開けて、使用してください。



○：使用可



○：使用可

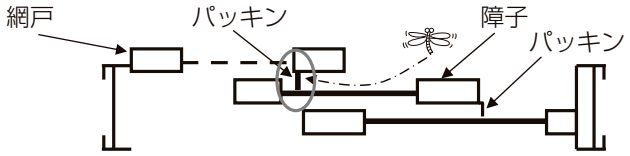


×：使用不可

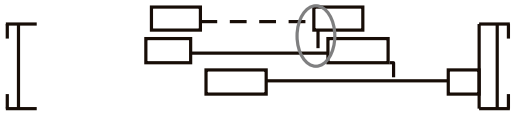
■可動網戸ご使用上のお願い(片引き窓(外動)、引分け窓(外動)で虫よけ用大パッキン付き網戸のとき)

●上記のタイプでは、虫が入りにくくするために、網戸とガラスの間をふさぐパッキンを取付しています。
そのため、網戸を開けた状態から障子を閉めると、網戸も一緒に動く場合があります。

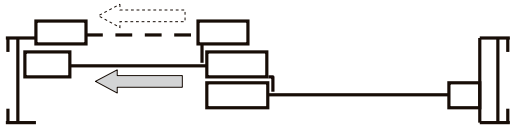
片引き窓
・網戸使用時



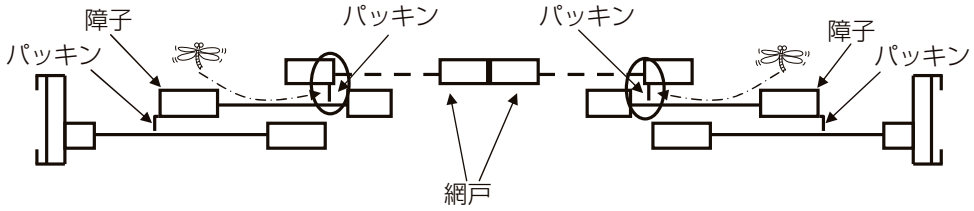
・網戸を開けたとき



・障子を閉めたとき



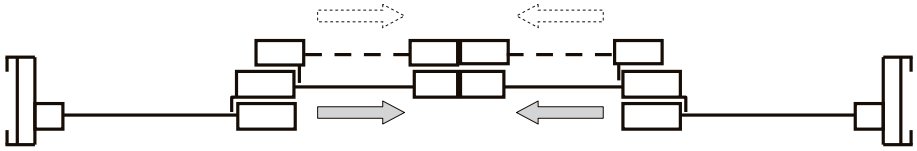
引分け窓
・網戸使用時



・網戸を開けたとき

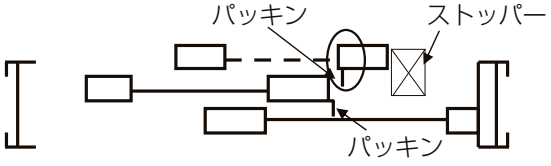


・障子を閉めたとき

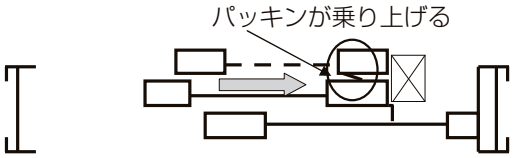


また、網戸を全開にした状態で障子を開けると、パッキンが障子に乗り上げた状態となるため、
障子および網戸の操作が重くなります。
また、このパッキンが障子に乗り上げた状態のまま放置しないでください。パッキンにクセがつき、
虫の侵入の原因になる場合があります。

・網戸を全開にした状態

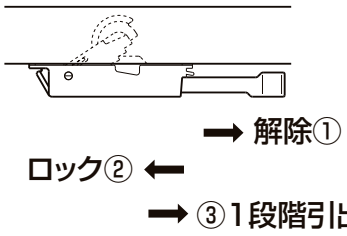
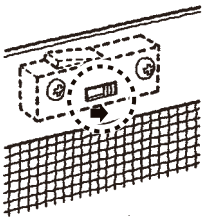
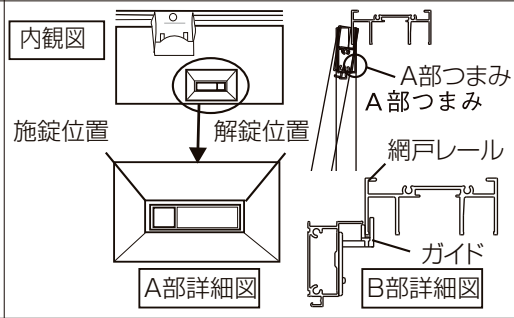
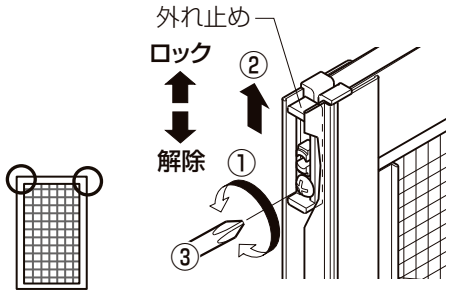
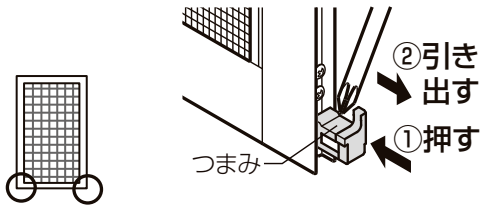


・網戸を全開にした状態で
障子を開けたとき

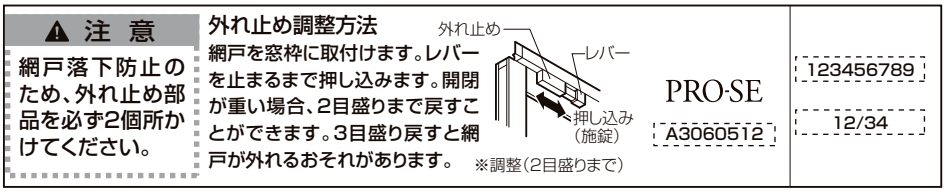


■外れ止め部品のセット（その1）

●外れ止め部品は網戸の落下を防止するために取付けられている部品です。必ずセットしてください。
●外れ止め部品セット後は、必ず網戸が外れないことを確認してください。
●掲載以外の商品は、外れ止め形式が異なりますので商品貼付の本体表示ラベルの表示内容をお守りください。

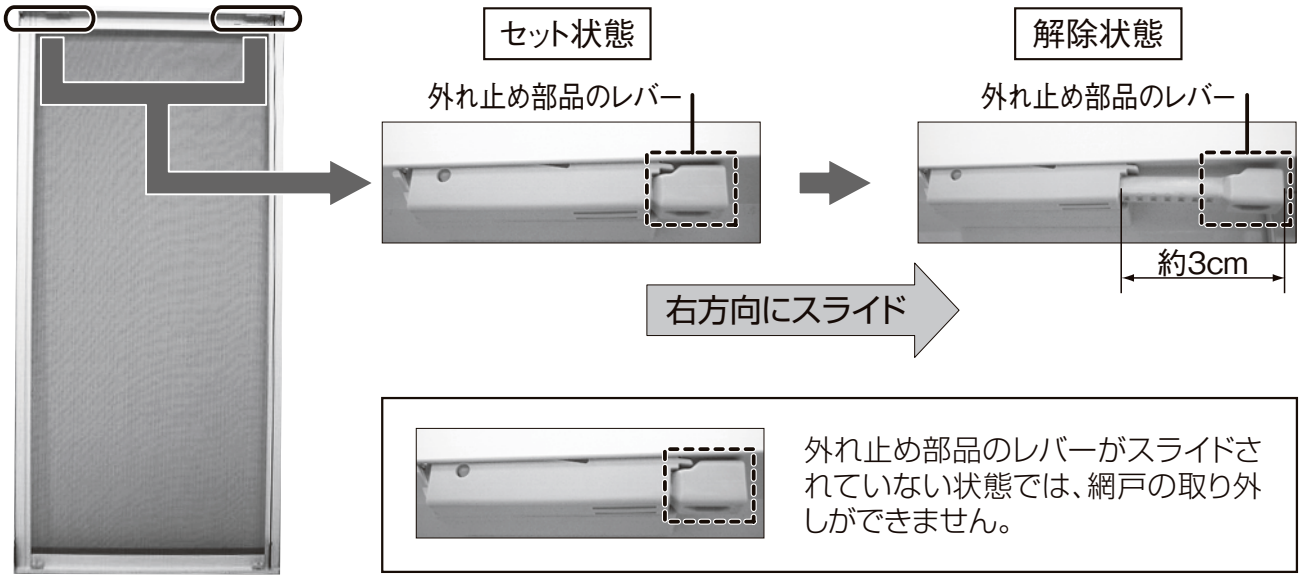
形式	商品名	外れ止め位置	取外し手順	セット手順	セット方法
可動網戸・自走防止ストッパー付き網戸	PRO-SE PRESEA-S		①レバーをいっぱいに引き出します。 ②網戸を持ち上げ外します。	①操作レバーをいっぱいに引出して網戸を建込みます。 ②建込み後、操作レバーをいっぱいに押込んで網戸の開閉をします。 ③スムースに開閉できなければ、操作レバーを1段階引出します。（最大の引出しは2段階までにしてください）	※商品により形式が異なります。本体表示ラベルを貼付けしています。表示内容をお守りください。
	PRO MS シリーズ	※両端に寄せると解除される。 	①つまみを両端に押します。 ②網戸を持ち上げ外します。	①つまみをドライバー等で両端に押します。 ②網戸を持上げ建込みます。 ③つまみが内側にもどっていることを確認します。また、網戸を持上げ、下を外に押して外れないことを確認します。	
	RMA−100 RMN−100		①つまみを解錠位置に移動します。 ②網戸を持ち上げ外します。	①つまみを解錠位置（右側）に移動します。 ②網戸を上枠レールに入れ建込みます。 外付けおよび持ち出し網戸はガイド（B部詳細図）をサッシレールに入れます。 ③建込み後、つまみが施錠位置にあることを必ず確認します。（自動で左側に戻ります） ※建て込みを途中で中断したりするとつまみが施錠位置に戻っていたりしますので、再度①〜③の手順でやり直してください。	
	S·Lシリーズ QS·QLシリーズ PRO-SE ES·EM·JS·JM シリーズ SAMOS-H RF		①外れ止め金具のねじをゆるめます。 ②外れ止めをいっぱいに下げます。 ③網戸を持ち上げ外します。	①外れ止め金具のねじをゆるめます。 ②網戸の開閉に支障のない範囲でいっぱいに上げます。 ③ねじを締めます。 ④網戸を持上げ、下部を外に押して外れないことを確認します。	
	PRO-SE JS·JM シリーズ SAMOS-H RF		①網戸を外す時は、つまみをドライバーなどで引き出してから外してください。	①つまみを手で押し込むか、縦枠に当てて押し込んでください。	

■本体表示ラベルの表示例（PRO-SE）



■網戸の取外し方（PRO-SE用網戸の場合）

①網戸上部の左右2箇所の外れ止め部品のレバーを止まるまでスライドし解除状態にしてください。



②網戸を上側に止まるところまで持ち上げた状態で室外側に引いて、網戸をサッシ下部のレールから取り外してください。



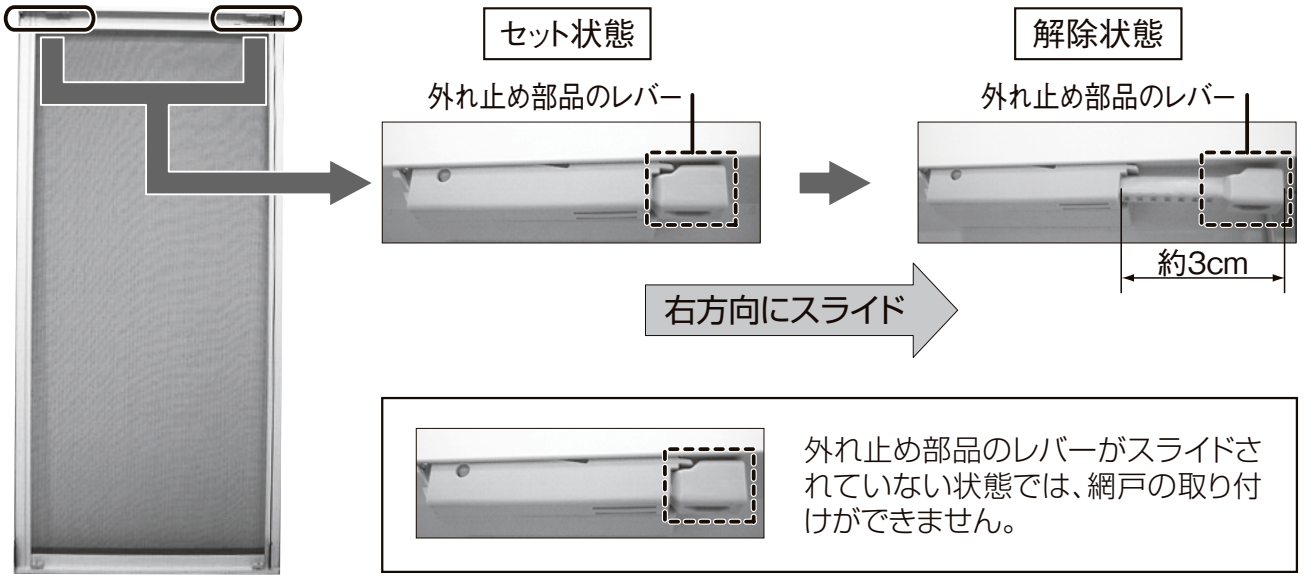
室外側に足場がない場合は、室内側から網戸を取り付けてください。

⚠注　意

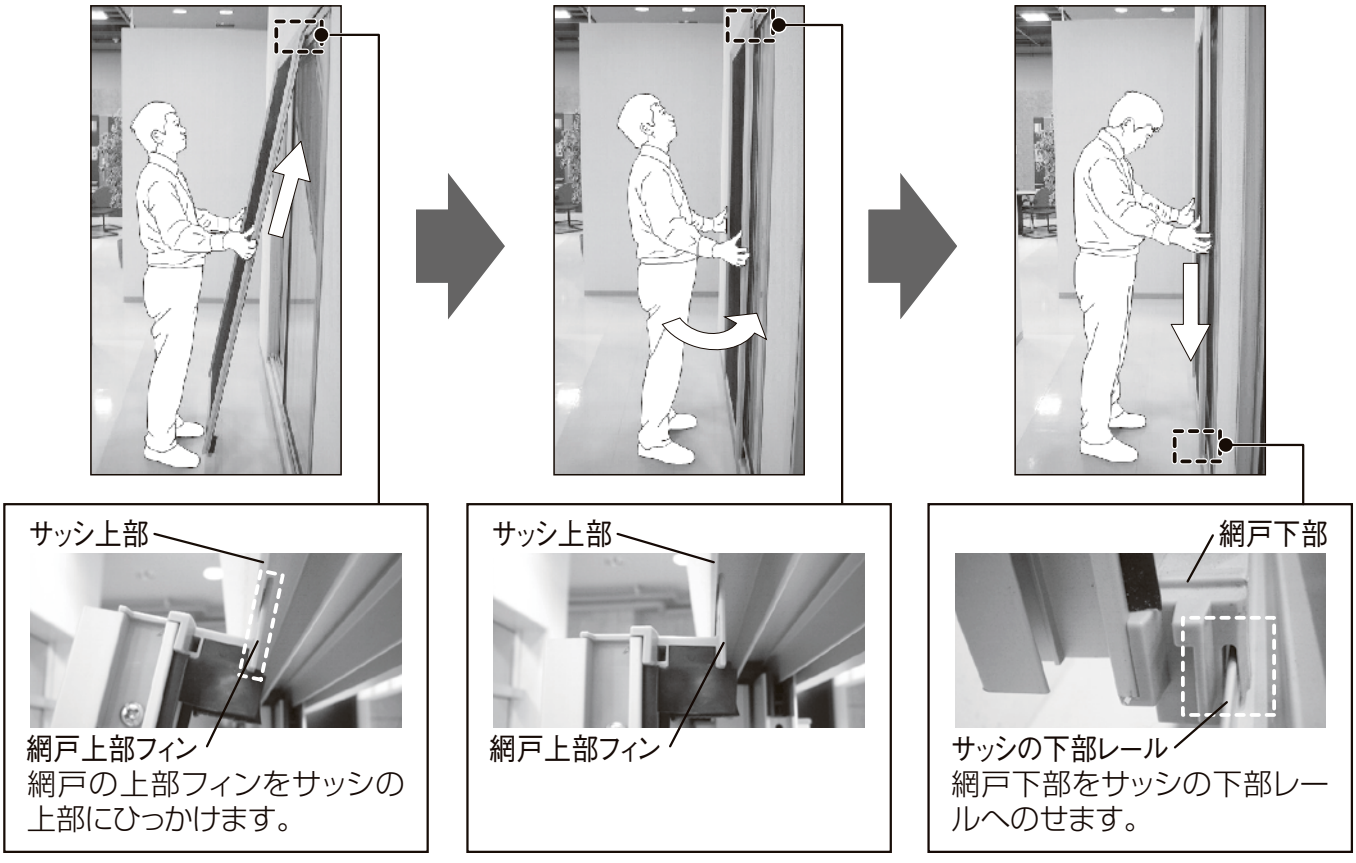
- ●網戸を持ち上げるときに、力をかけ過ぎないでください。外れ止めが破損し網戸が外れ人身事故や物損事故につながるおそれがあります。
- ●室内側から網戸を取り外す場合は、室外側に網戸を落下させないように注意してください。人身事故や物損事故につながるおそれがあります。

■網戸の取付け方（PRO-SE用網戸の場合）

①網戸上部の左右2箇所の外れ止め部品のレバーを止まるまでスライドし解除状態にしてください。



②網戸を上側に止まるところまで持ち上げた状態で室内側に押して、網戸をサッシの下部レールに取り付けてください。

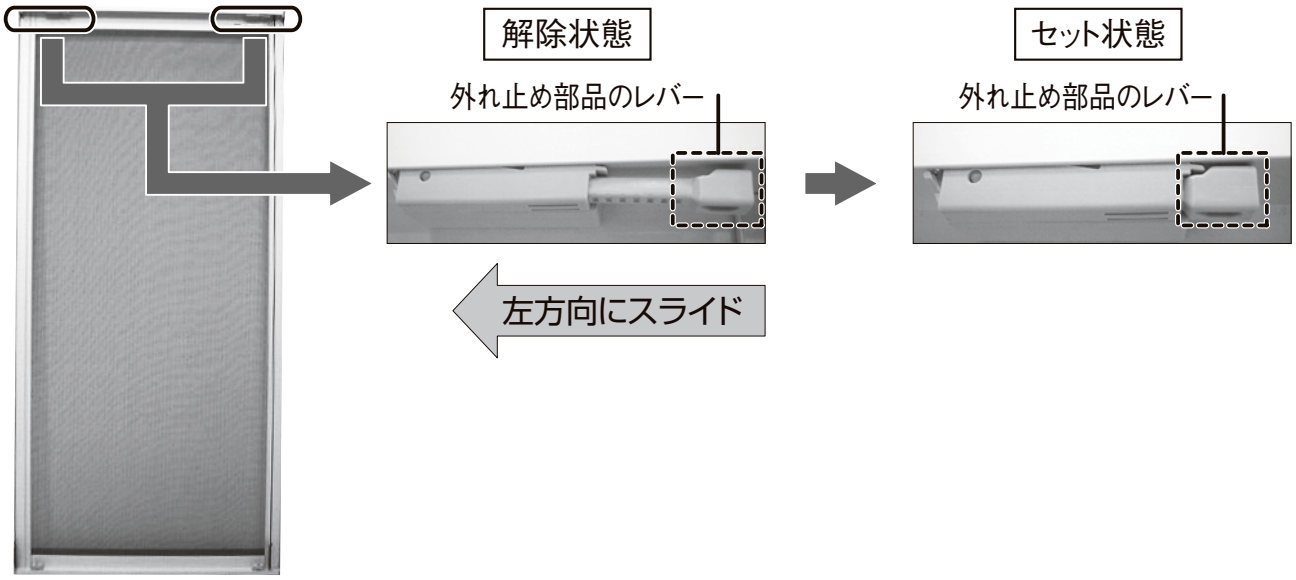


室外側に足場がない場合は、室内側から網戸を取り付けてください。

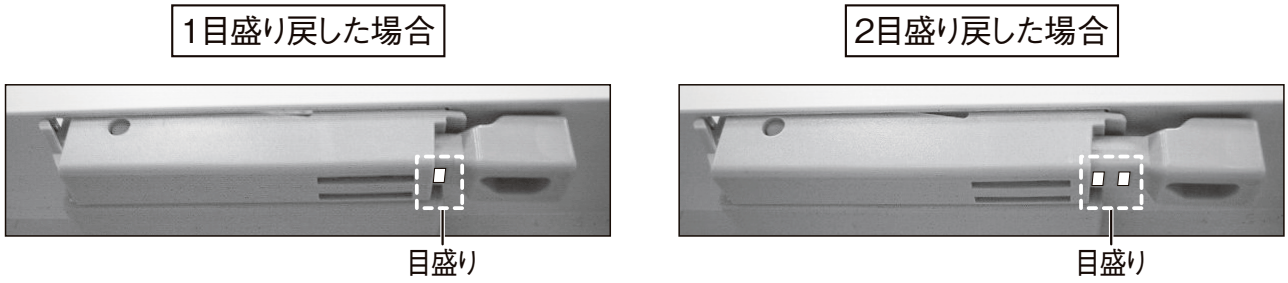
⚠注　意

●室内側から網戸を取り付ける場合は、室外側に網戸を落下させないように注意してください。人身事故や物損事故につながるおそれがあります。

③取り付けられた網戸上部の左右2箇所の外れ止め部品のレバーを止まるまでスライドし、セット状態にしてください。



④網戸を動かしてみて重い場合には、網戸上部の左右2箇所の外れ止め部品のレバーを1目盛り、または2目盛り戻してください。



⚠注　意

●網戸外れ止めのレバーは3目盛り以上戻さないでください。3目盛り戻すと網戸が外れ人身事故や物損事故につながるおそれがあります。

⑤網戸を上側に止まるところまで持ち上げた状態で室外側に引いて、網戸がサッシ下枠のレールから外れないことを確認してください。

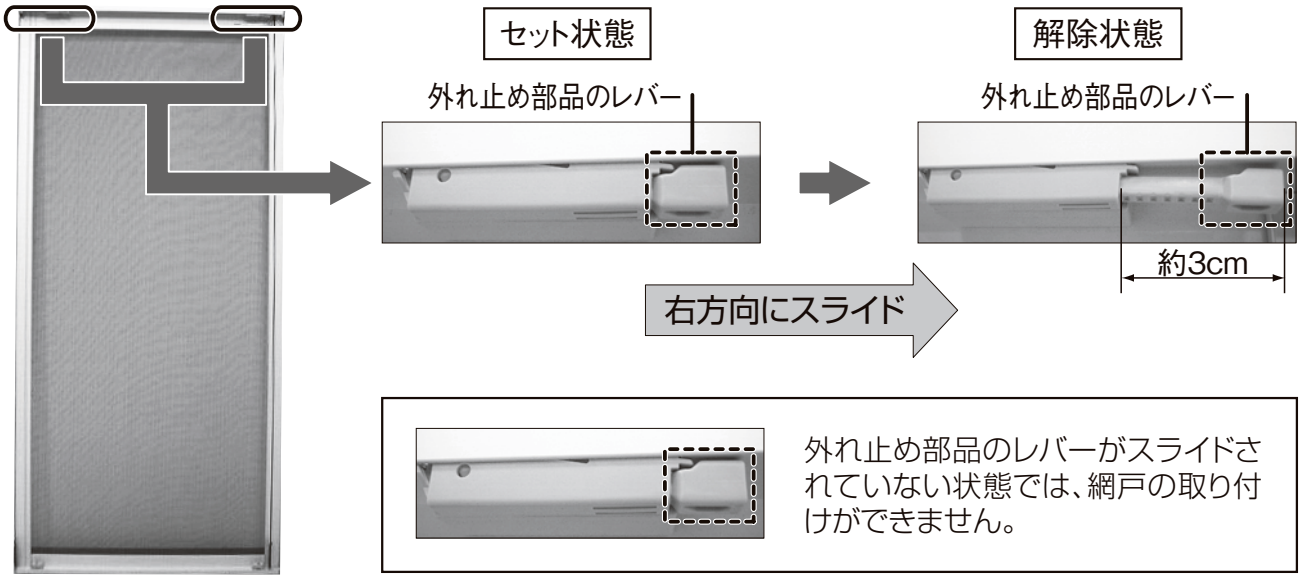


⚠注　意

●網戸を持ち上げるときに、力をかけ過ぎないでください。外れ止めが破損し網戸が外れ人身事故や物損事故につながるおそれがあります。

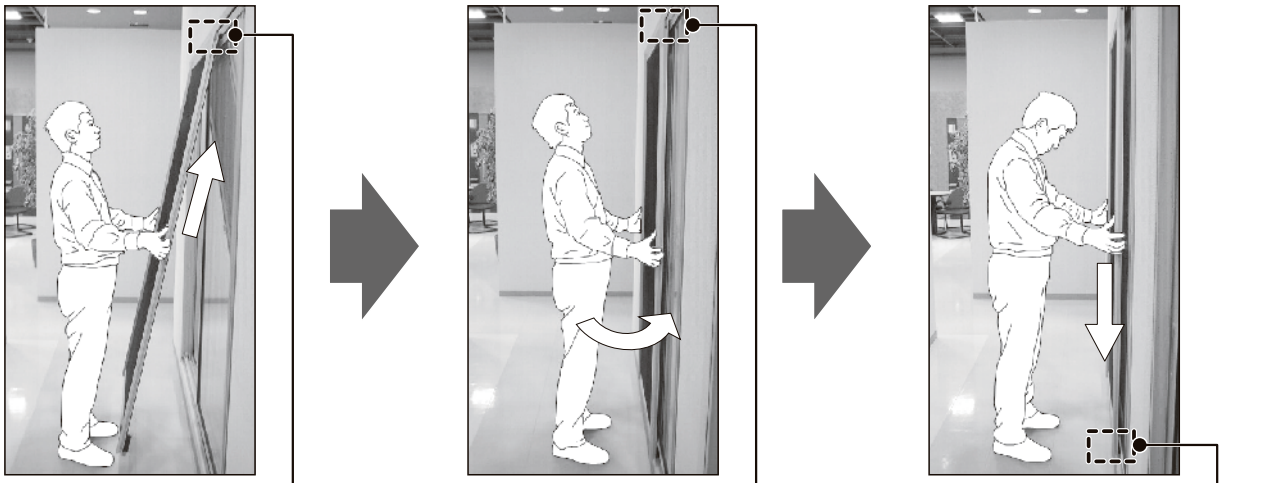
■網戸の取付け方（PRESEA-S用網戸の場合）

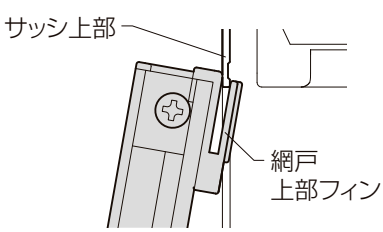
①網戸上部の左右2箇所の外れ止め部品のレバーを止まるまでスライドし解除状態にしてください。



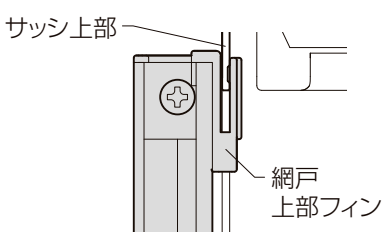
外れ止め部品のレバーがスライドされていない状態では、網戸の取り付けができません。

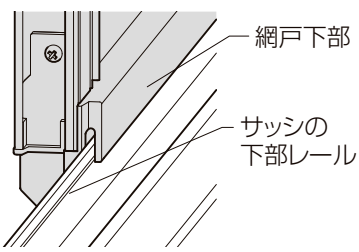
②網戸を上側に止まるところまで持ち上げた状態で室内側に押して、網戸をサッシの下部レールに取り付けてください。外れ止め部品のセットは60頁を参照ください。





網戸の上部フィンをサッシの上部に引っ掛けます。





網戸下部をサッシの下部レールへのせます。

室外側に足場がない場合は、室内側から網戸を取り付けてください。

⚠注　意

●室内側から網戸を取り付ける場合は、室外側に網戸を落下させないようご注意ください。
人身事故や物損事故につながるおそれがあります。

■ 外れ止め部品のセット（その2　RMA-70G･TC）

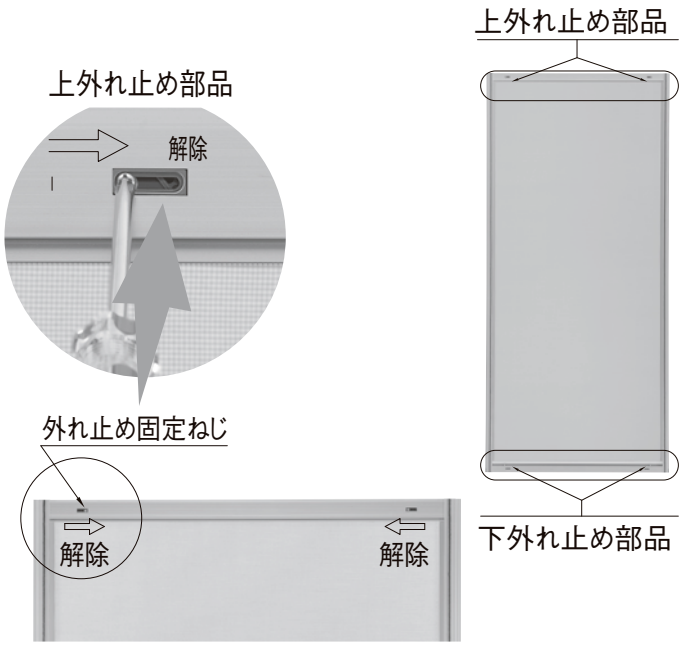
●外れ止め部品は網戸の落下を防止するために取付けられている部品です。必ずセットしてください。
●外れ止め部品セット後は、必ず網戸が外れないことを確認してください。
●掲載以外の商品は、外れ止め形式が異なりますので商品貼付の本体表示ラベルの表示内容をお守りください。

①外れ止めの解除

※必ず、上外れ止め部品から解除してください。

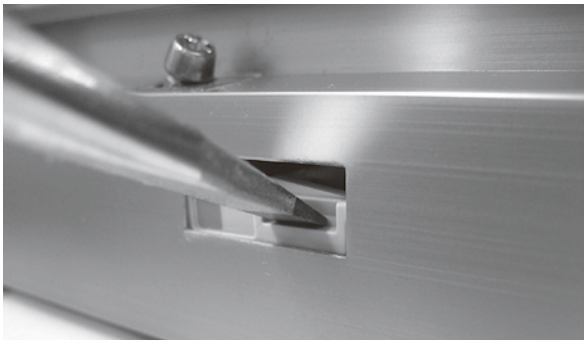
■上外れ止め部品の解除方法（左右2ヶ所）

（+）ドライバーで外れ止め固定ねじをゆるめ
そのまま解除方向へねじをスライドしてください。

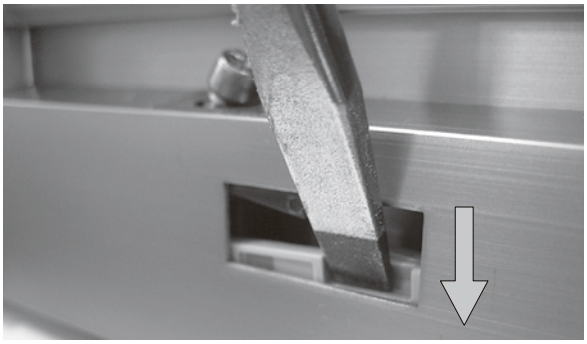


■下外れ止め部品の解除方法（左右2ヶ所）

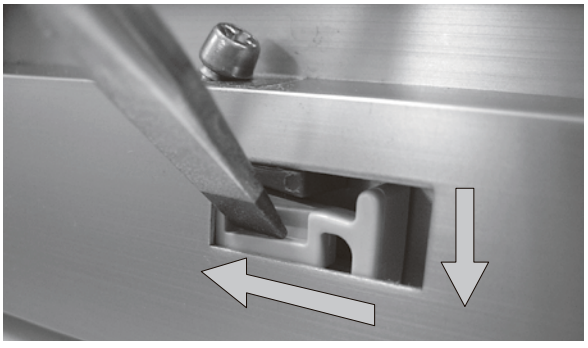
①（−）ドライバーをスライダーの溝に差込んでください。



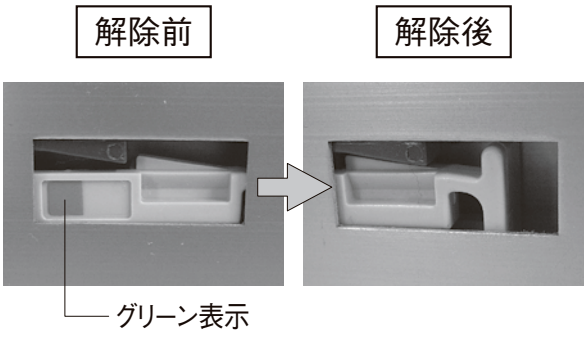
②差込んだ（−）ドライバーを下方に下げてください。



③下に下げながら解除方向へスライドしてください。
（この時、網戸を少し持上げるとスムーズにスライドします）



④スライドしてグリーン表示が見えなくなると解除完了です。



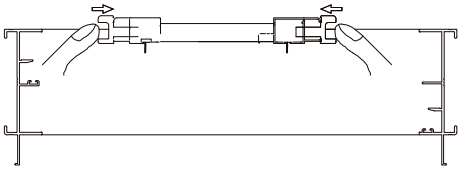
※上図①～④は左側部品の解除方法となります。（右側部品は対称となります）

②外れ止めのセット

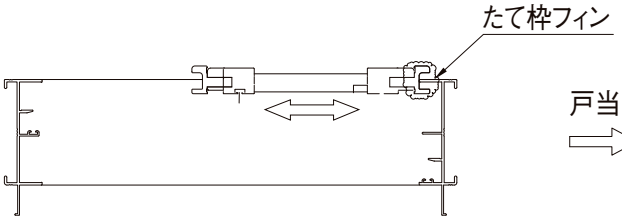
※必ず、下外れ止め部品からセットしてください。

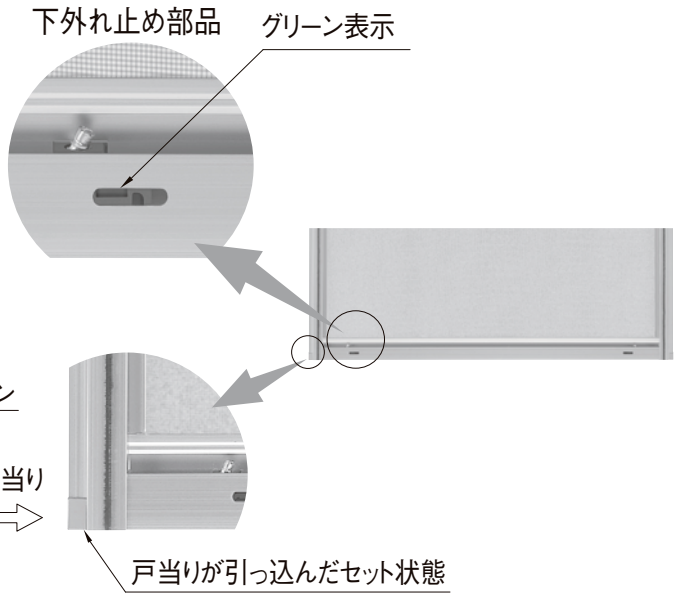
■下外れ止め部品のセット方法(左右2ヶ所)

①飛び出している戸当りを指で押し込んでください。
(網戸を少し持ち上げると押し込みやすくなります。)



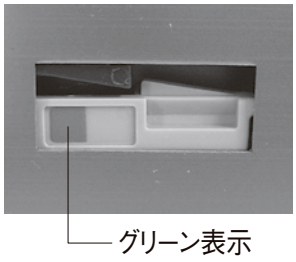
②手が届かず押し込みができない場合は、たて枠フィンや
障子ストッパーにそえた状態で押し込んでください。





※下外れ止め部品の戸当りは、確実に押し込んでください。

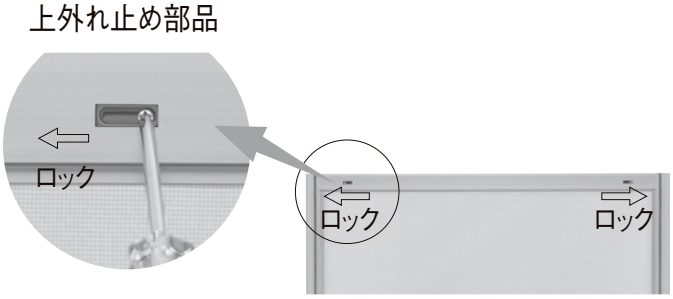
※セット状態になると、四角い切欠き部にグリーン表示が
見えます。



■上外れ止め部品のセット方法(左右2ヶ所)

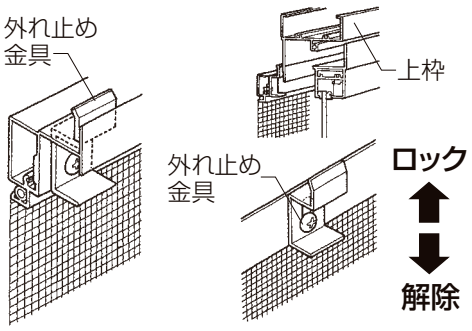
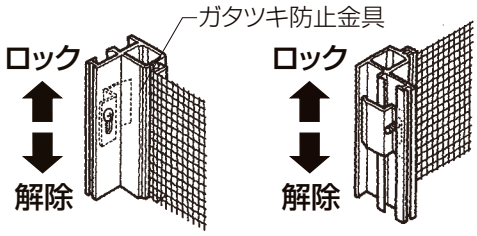
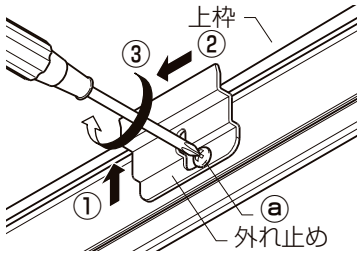
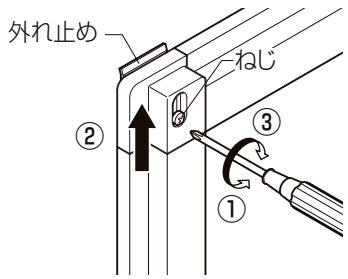
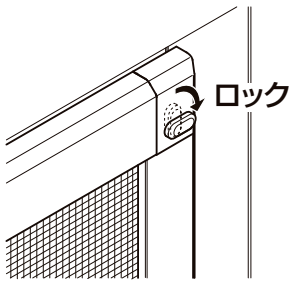
(+)ドライバーでねじをロック側にスライドさせ、
止まったところでねじを固定します。

※外れ止めねじの締めすぎに注意してください。



■外れ止め部品のセット（その3）

●外れ止め部品は網戸の落下を防止するために取付けられている部品です。必ずセットしてください。
●外れ止め部品セット後は、必ず網戸が外れないことを確認してください。
●掲載以外の商品は、外れ止め形式が異なりますので商品貼付の本体表示ラベルの表示内容をお守りください。

形式	商品名	外れ止め位置	取外し手順	セット手順	セット方法
内倒し窓用固定網戸	PRO PRO-SE		内倒し窓·外倒し窓の取扱いのページを参照してください。	①外れ止め金具のねじをゆるめます。 ②上枠に当るまで上に上げます。 ③ねじを締めます。 ④網戸を持上げ、下部を外に押して外れないことを確認します。	※商品により形式が異なります。**本体表示ラベルを貼付け**しています。表示内容をお守りください。
開き網戸	PRO PRO-SE ※1	**●上下スライド式（開き窓用）** 	①ガタツキ防止金具のねじをゆるめ下に下げます。 ②網戸を持ち上げ外します。 ※タテかまち中間にボールチェン式ストッパーがある場合は共にねじをゆるめて外してください。	①ねじをゆるめます。 ②ガタツキ防止金具を上に上げサッシ枠丁番に当てます。 ③ねじを締めます。 ④網戸を持上げ、下部を外に押して外れないことを確認します。	
上げ下げ窓用固定網戸	PRO-SE		上げ下げ窓の取扱いのページを参照してください。	①上部外れ止めのねじをゆるめます。 ②外れ止め金具を上に上げます。 ③外れ止め金具を横にスライドさせ、上枠に引っ掛けます。 ④ねじⓐを締めて固定します。	
ガラスルーバー用固定網戸	PRO-SE ガラスルーバー 外倒し窓（排煙） 突出し窓（排煙） （インベイ） PRESEA-S 外倒し窓（排煙）		①外れ止めねじをゆるめて、下にスライドします。 ②網戸を持ち上げ外します。	①ねじをゆるめます。 ②ねじを上にスライドさせます。 ③ねじを締めて固定します。	
オーニング窓用固定網戸	PRO-SE		①外れ止めのつまみを回転し縦向きにします。 ②網戸を持ち上げ外します。	●網戸の上·下にある外れ止めのつまみを回転し、横向きにすると、ロックされます。	

※1：開き網戸PRO-SEの外れ止め部品は、2012年7月より仕様変更のため、ありません。

横引き収納網戸の取扱い

□内付け

⚠注　意

●外れ止め部品が正しくかかっていないと、網戸が窓枠から外れて落下し、人身事故や物損事故につながるおそれがありますので、下記事項をお守りください。
・外れ止め部品が正しくかかっているか、ズレや破損がないか時々点検してください。
●網戸に寄りかかったりしないでください。この製品は防虫用であり、人が転落するおそれがあります。
●網戸に寄りかからないでください。また、押さないでください。網が破れたり、網戸が枠からはずれてケガをするおそれがあります。特に、お子さまにはご注意ください。

■ご使用上のお願い

●網戸を使用しないときは、必ず網を収納するようにしてください。網の特性上、開いた状態にしておくと折り目が弱くなって、たたみづらくなることがあります。
●強風時には使用しないでください。網の不具合やヒモ等部品の破損が生じるおそれがあります。
●本製品は網戸を折りたたむ構造のため、網の上下を枠部と固定していません。
従って風により網がたわむと網と枠の上下部にすき間が生じやすくなり、使用状況によっては虫が入ってくる場合があります。
●浴室等、常に水が掛かるおそれのあるところには使用できません。

■操作方法のお願い

●開閉操作は縦かまちの中央付近を持ってゆっくり行ってください。上部や下部を持って操作すると縦かまちが斜めになり開閉が重くなったり、ヒモに無理な力がかかって破損の原因になります。また、急な操作は紐の寿命を早める原因になります。
●両分けタイプ（Mh>2000）は突き合せかまち中央にマグネットが組込まれていますので、網戸引出し時は左右の突き合せかまちを組合せて、マグネットで必ず固定してください。

■網戸の防虫性について

●網戸の防虫性は、網目より大きい虫などを防ぐには効果があります。しかし、網戸を可動させるために微小すき間があるため、使用環境によっては、網目より小さな虫やはい回る虫などが侵入する場合があります。
はい回る虫（カメムシ、テントウムシ、アリ等）は、光や暖気、観葉植物を好みわずかなすき間からでも、押し入ろうとする習性があります。
従って、網戸があっても、この様な習性を持つ虫の侵入を完全に止めることはできません。
万一、虫が室内へ侵入した場合は、殺虫剤等による駆除をお願いします。

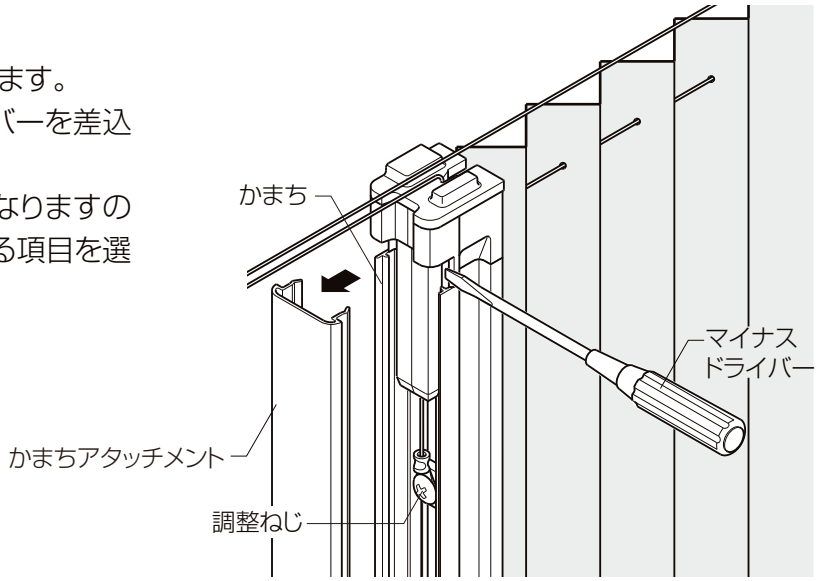
■建付け調整（現象別調整方法）

■建付けが悪くなった場合

①網戸のかまちからアタッチメントを取外します。

※かまちの端部にある溝にマイナスドライバーを差込むと外しやすくなります。

※不具合の内容により、調整するねじが異なりますので、下記の【現象別調整方法】から該当する項目を選んでください。



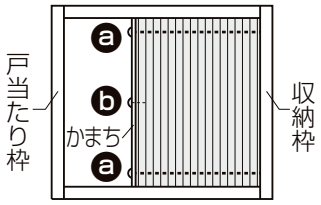
■網戸のタイプ

※調整ねじは下記の様に色分けしています。
ⓐ…シルバー
ⓑ…ホワイト
ⓒ…ブロンズ

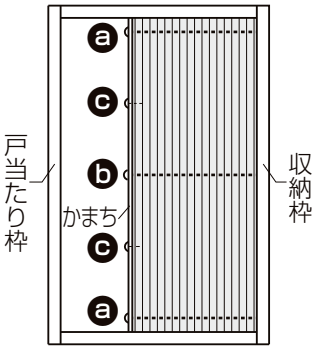
※図は片引きタイプ。

※両引きタイプも同様の調整方法。

●3本ねじタイプ



●5本ねじタイプ



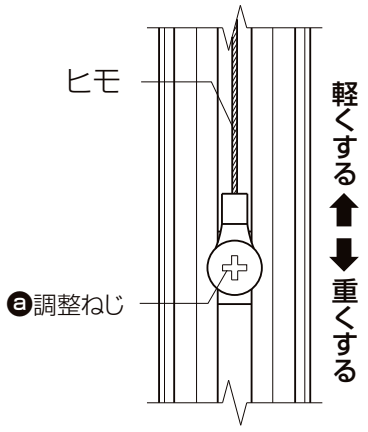
●現象別調整方法

■網戸の開閉が重い(軽い)

①ⓐねじをゆるめます。

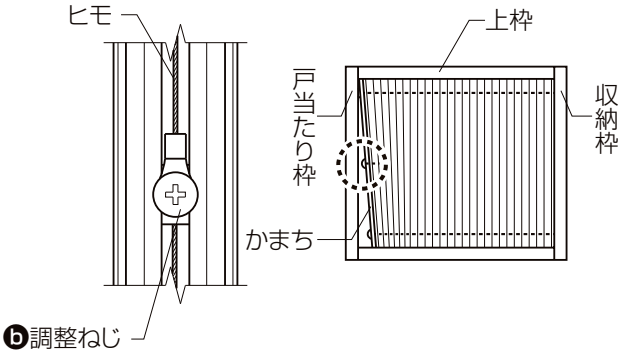
②軽くする場合は、調整ねじをヒモの見える方向に移動します。
重くする場合は、逆方向に移動します。

※ⓐねじは2本あります。通常は片方だけで調整できますが、調整しきれない場合は、もう一方のねじも使用してください。



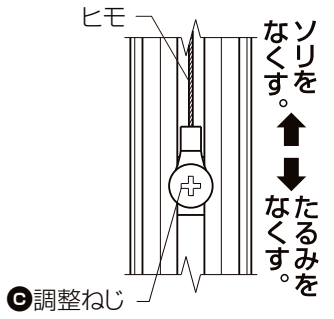
■網戸と戸当たり枠の間にすき間が発生

①ⓑねじをゆるめます。
②かまちを収納枠側に押付け、収納枠とかまちが平行になるようにします。
③ⓑねじをしめて固定します。
④網戸を数回開閉し、すき間がでないか確認してください。
⑤すき間が直らない場合、①～④をくり返してください。

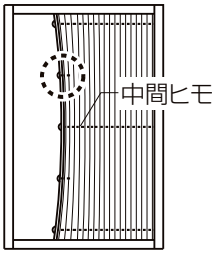


■中間ヒモのたるみ、またはかまちにソリが発生

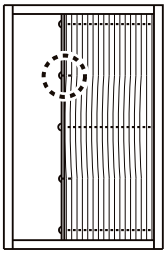
①ⓒねじをゆるめます。
②ソリをなくす場合は、調整ねじをヒモの見える方向に移動します。
たるみを取る場合は、逆方向に移動します。
※ⓒねじは2本あります。通常は片方だけで調整できますが、調整しきれない場合は、もう一方のねじも使用してください。



●ソリ

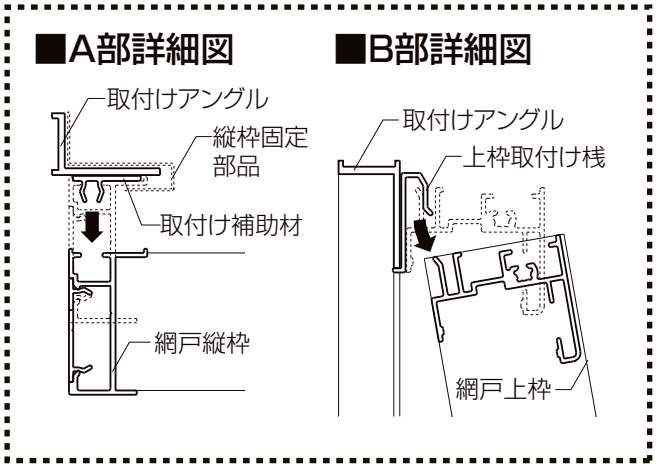


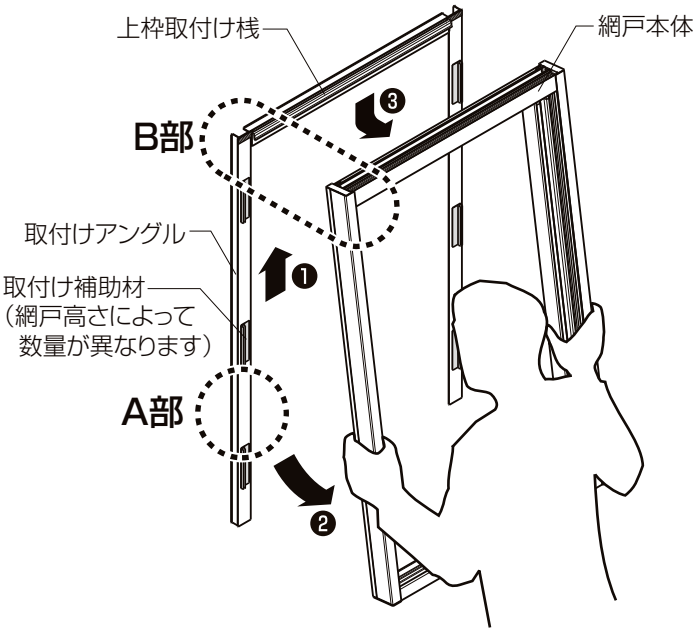
●たるみ

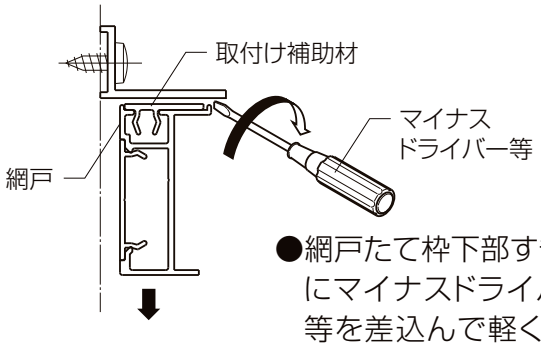


■網戸の外し方（補修の場合以外は外さないでください）

①網戸縦枠と取付けアングルに差込まれてねじ止めしてある、たて枠固定部品を外します。
②網戸全体を上に約3mm程度持ち上げます。
（高さ1700mmを超える網戸、または幅1690mmを超える網戸には下枠部、および幅1830mmを超える網戸には上枠部に固定部品がねじ止めしてありますので、先に外してください。またたて枠部に固定部品がねじ止めしてある場合も、先に外してください。）
③網戸を持ち上げた状態でたて枠下部すき間にマイナスドライバー等を差込んで軽くこじるようにして、取付けアングルの取付け補助材から外します。
④上枠取付け桟から網戸上枠部が外れるように、上枠を下にずらしながらたて枠下部を手前に引いてください。
⑤網戸を取付ける場合は、❸→❶の逆の操作をして取付けます。







●網戸たて枠下部すき間にマイナスドライバー等を差込んで軽くこじるようにして外してください。

横引きロール網戸の取扱い

⚠注　意

●網戸に寄りかかったりしないでください。この製品は防虫用であり、人が転落するおそれがあります。
●網戸に寄りかからないでください。また、押さないでください。網が破れたり、網戸が枠からはずれてケガをするおそれがあります。特に、お子さまにはご注意ください。

お願い

●本商品（中間ストップ仕様を除く）は、手を離すと自動で網が収納されますが、手掛けに手をそえてゆっくり開閉操作を行なってください。収納口付近に手や足などが無いことを確認してから、網を収納してください。はさまれて思わぬケガにつながるおそれがあります。

■ご使用上のお願い

●強風時には使用しないでください。網戸がひらいてしまう、または網を収納できなくなるなどの不具合が生じます。
●網を収納するとき、収納しきれなかった場合は、戸先かまちを大きく引出して2～3回出し入れを繰り返して収納し直してください。（網が折れ曲がったまま収納されますと、クセがつき収納しずらくなるおそれがあります。）
●網を引出したときに、網の一部にたるみや波打ちが発生する場合がありますが、商品の特性によるもので、機能上の問題ではありません。
●開閉時のスピードにより、網の収納部よりバタツキ音が発生しますが、商品の特性によるもので機能上の問題ではありません。
●浴室等、常に水が掛かるおそれのあるところには使用できません。

■操作方法のお願い

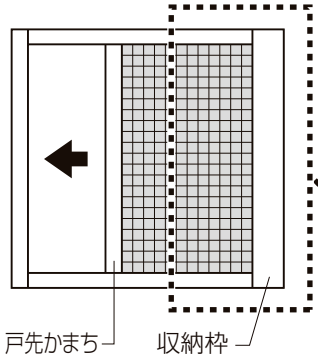
●網戸の開閉操作は、戸先かまちの中央付近を持って行なってください。上部や下部を持って操作すると、戸先かまちが極端に斜めになり開閉が重くなったり、網がレールから外れる原因になります。（高さのあるハイサッシに取付けてもスムーズな開閉操作を確保するため、戸先かまちの上下にクリアランスを設けています。中央付近を持って操作しないと戸先かまちが斜めになり、開閉が重くなるおそれがあります。）
●網を引出すとき、網が引っ掛かり戸先かまちが引出せなくなった場合はいったん戻して引出し直してください。

■網戸の防虫性について

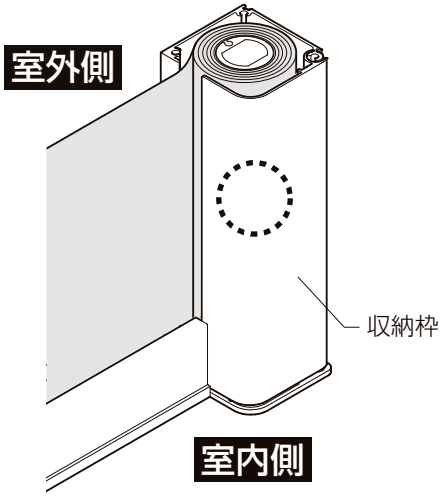
●網戸の防虫性は、網目より大きい虫などを防ぐには効果があります。しかし、網戸を可動させるために微小すき間があるため、使用環境によっては、網目より小さな虫やはい回る虫などが侵入する場合があります。
はい回る虫（カメムシ、テントウムシ、アリ等）は、光や暖気、観葉植物を好みわずかなすき間からでも、押し入ろうとする習性があります。
従って、網戸があっても、この様な習性を持つ虫の侵入を完全に止めることはできません。
万一、虫が室内へ侵入した場合は、殺虫剤等による駆除をお願いします。

■はじめに

●本商品は、「横引きロール網戸（額縁付タイプ）」と「横引きロール網戸（テラスタイプ）」の2タイプに分れています。網の収納部（収納枠）の形状で、タイプを見分けることができます。

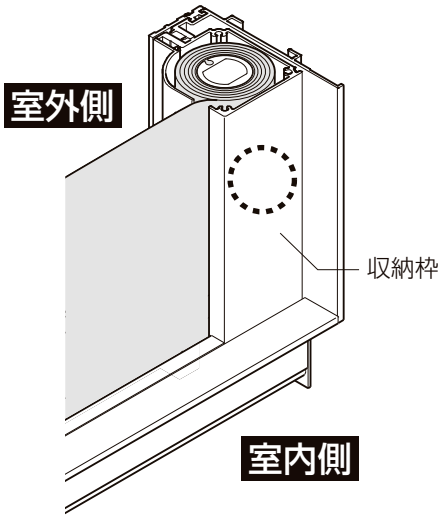


【額縁付タイプ】



※収納枠の室内側面は、丸みをおびた形状になっています。

【テラスタイプ】

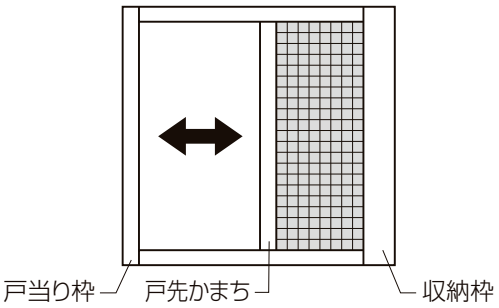


※収納枠の室内側面は、平らな面になっています。

※なお（テラスタイプ）については、さらに2タイプに分れます。

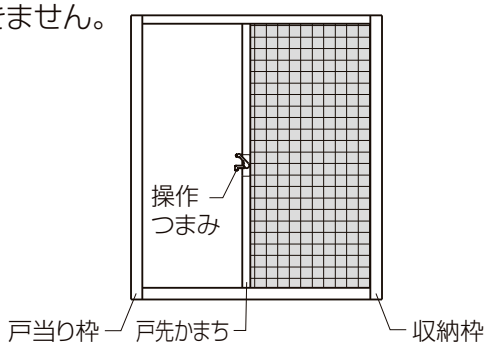
【全閉・全開仕様】

●手を離すと自動で網が収納されます。



【中間ストップ仕様】

●操作つまみがついており、操作つまみを握らないと戸先かまちがその位置で保持され、動かすことができません。



■タイプ区分

- 後付タイプ（額縁付タイプ）
  - 片開き（全開・全閉）
  - 両開き（上下ストッパーなし）（全開・全閉）
- 先付タイプ（テラスタイプ）
  - 中間ストップ仕様
    - 片開き
  - 全閉・全開仕様（中間ストップなし）
    - 片開き
    - 両開き（上下ストッパー付き）

■網戸の操作方法

1額縁付タイプ・テラスタイプ（全閉・全開仕様）

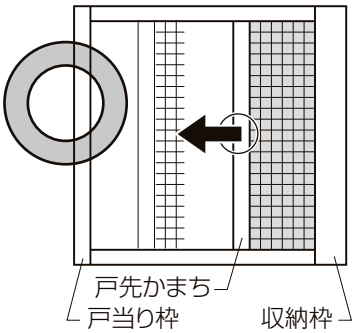
●開閉操作は戸先かまちの中央付近を持って行ってください。（なお、開閉操作中に、戸先かまちが少し斜めになる場合がありますが、問題はありません。ただし、上部や下部を持って操作すると、戸先かまちが極端に斜めになり開閉が重くなったり、網が上下レールから外れる原因になります。）

●戸先かまちから手を離すと、自動で網が収納されます。自動収納しきれなかった場合は、手を添えて最後まで収納してください。

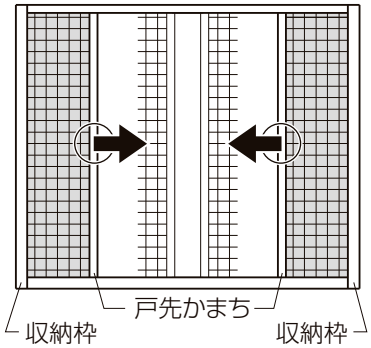
●勢いを付けて網を収納しないでください。破損の原因になります。

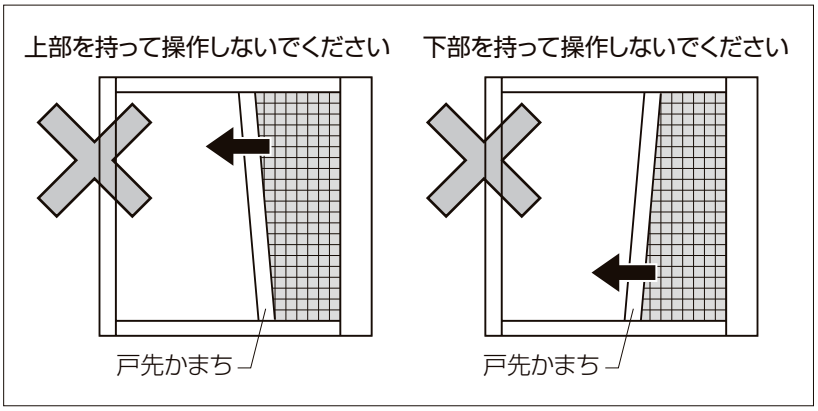
●網戸を閉めるときは、戸先かまちと戸当り枠もしくは戸先かまち同士のマグネットが合わさっていることを確認してから、手を離してください。

【片引き】 中央付近を持って操作してください



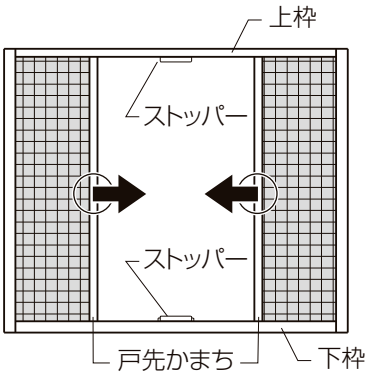
【両引き】





■両引き（上下枠・ストッパー付き）の操作方法

●テラスタイプ（全閉·全開仕様）の両引きを、テラスやベランダのような大きな窓に取付ける場合、上下枠中央にストッパーが付きます。このストッパーにより、片側だけの網戸を出し切ったままで保持することができます。



●網戸を使用する（閉める）とき

①片方の戸先かまちを上下枠のストッパーにロックするまで引出す。（上枠ストッパーはロックがなく磁石のみなので、ずれた場合はもう1度磁石に合せてください）

②もう一方の戸先かまちを引出し、かまち同士のマグネットを合せて、固定します。

●網戸を収納するとき

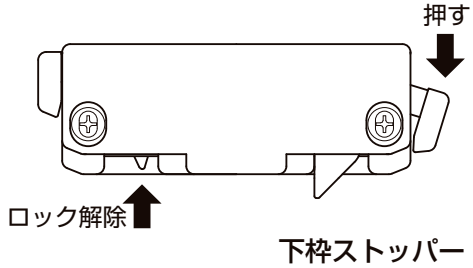
①ロックのかかっていない方の戸先かまちを動かします。（どちらか先に引出した方の戸先かまちだけロックがかかります）

②下枠ストッパーのつまみを押してロックを解除します。

③残っていた戸先かまちを動かします。

＜右のつまみを押したとき＞

●右のつまみを押すと左のロック、左のつまみを押すと右のロックが解除されます。

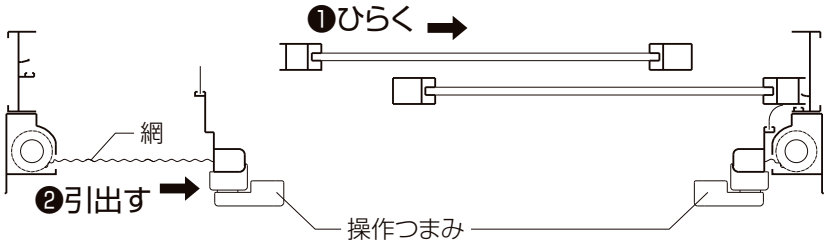


下枠ストッパー

❷テラスタイプ（中間ストップ仕様）

■網戸の操作方法

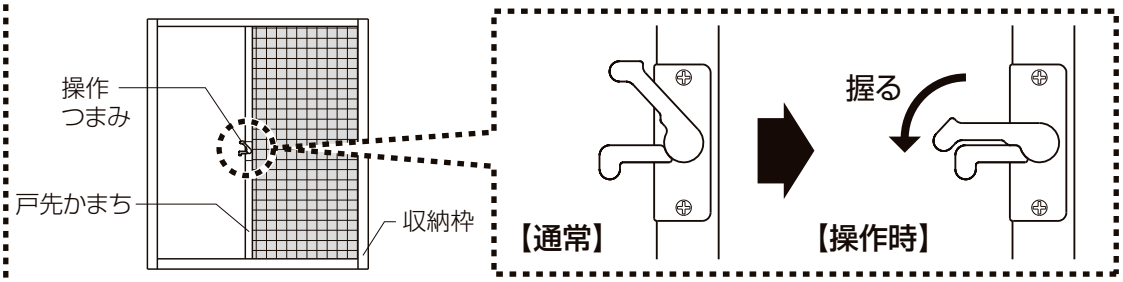
①サッシの障子をひらきます。
②操作つまみを握ってから、網戸を引出します。



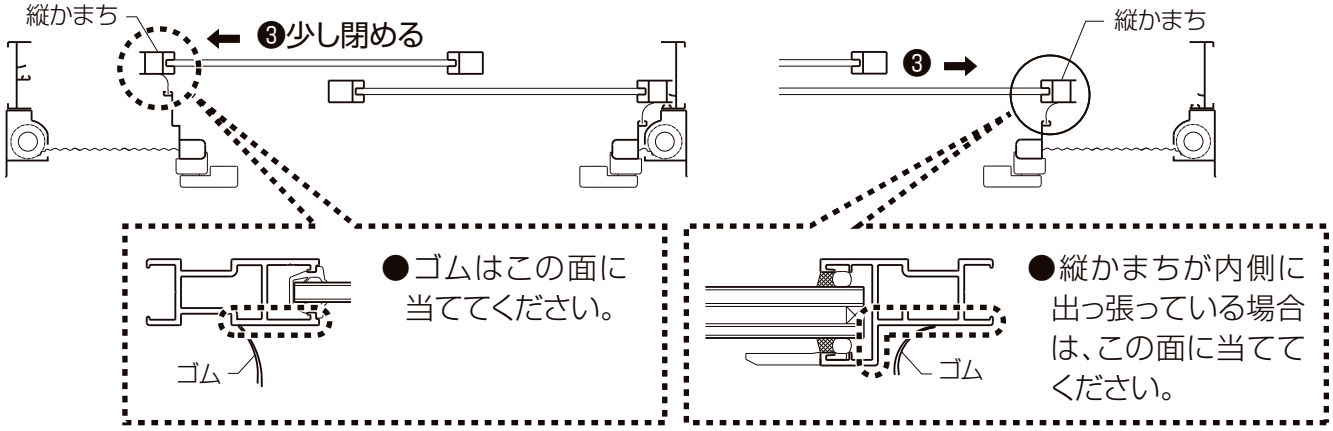
例）両開きのとき

■操作つまみについてのお願い

●戸先かまちを動かす場合は、操作つまみを握ってから動かしてください。
操作つまみを握らないと、戸先かまちがその位置で保持され、動かすことができません。



③網戸戸先かまちのゴムに、サッシの縦かまちが当たるところまでサッシの障子を閉めてください。



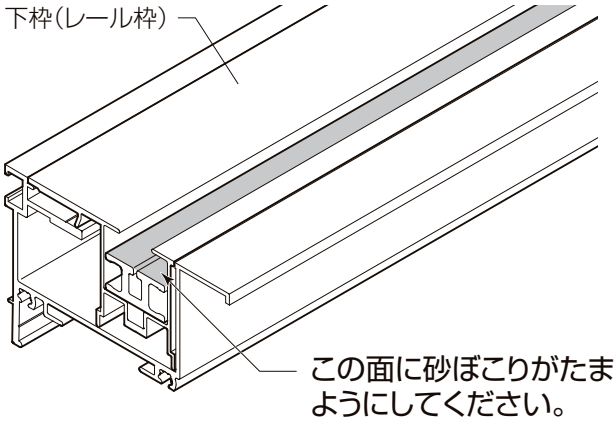
■操作上のお願い

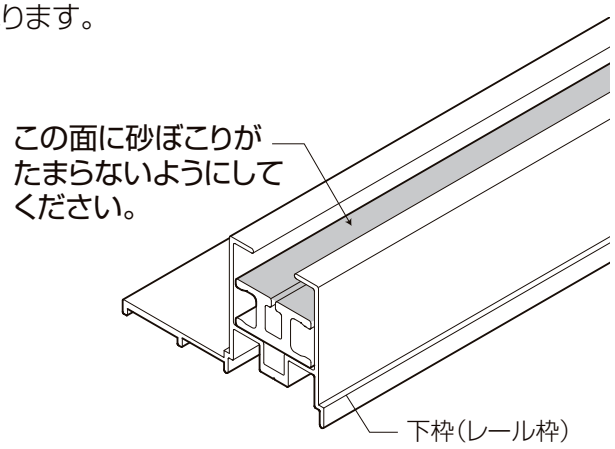
●網戸は障子の全開位置までは引出せない設定になっています。室外側から操作つまみを操作できるようにするためです。

■レール枠清掃時のご注意

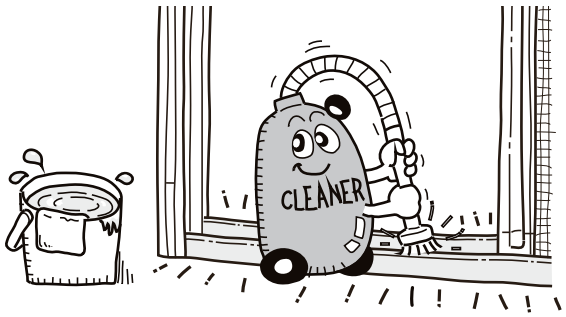
●下枠（レール枠）内に、砂ぼこりがたまらないように掃除機等で定期的に清掃してください。汚れを放置しておくと開閉できなくなります。（図1）

※中間ストップ仕様の場合は、戸先かまちが保持されなくなります。





（図1）



突き出し窓・すべり出し窓の取扱い

□PRO □PRO-SE

⚠注　意

●風の強いときは窓を閉めて、必ず錠（ハンドル）をかけてください。錠をかけないと障子が急激な開閉で衝撃を受け、破損・落下等のおそれがあり、思わぬケガや事故につながります。

■ご使用上のお願い

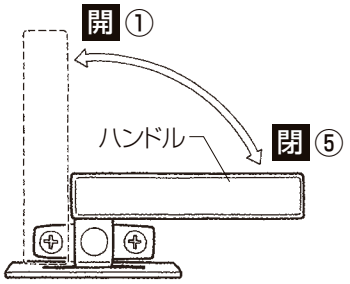
●障子開放時、ストップ機構はありませんので、障子をささえながら行ってください。風、あるいは物が当たって障子が閉まることがあります。

●窓を閉めるとき、無理な力を加えないでください。ハンドル等が破損するおそれがあります。

●開閉時に窓枠に手を置かないでください。開閉した障子に指をはさんで思わぬケガをするおそれがあります。

■障子の開閉

①障子を開けるときは、ハンドルを上に90°回転させ、ロックを解除してください。
②ハンドルを持ち、障子が止まるまで押出してください。
③窓の両側に付いているフリクションアーム・ステーが伸びて障子が止まります。（出寸法約200mm・突出し窓の場合）
④障子を閉めるときは、ハンドルを上向きのまま手前に引いてください。
⑤障子を閉めたら、必ずハンドルを横向きにしてロックしてください。



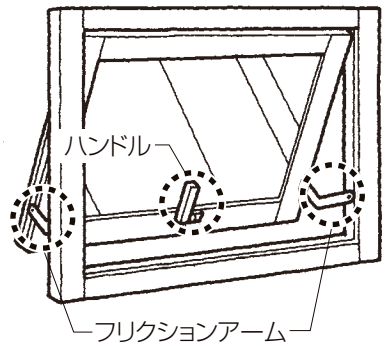
（※キー付の設定もあります）

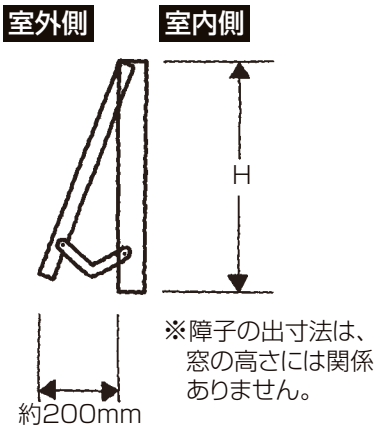
●商品に**注意ラベル**を貼付してありますので、その指示をお守りください。

⚠注　意

窓やガラスの落下防止のため、風の強いときは窓を閉めて、必ず施錠してください。

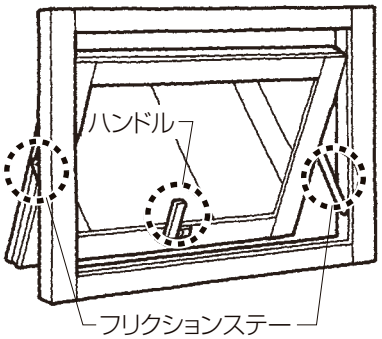
■突き出し窓

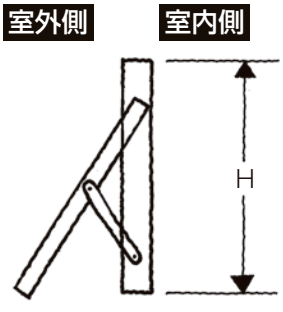




※障子の出寸法は、窓の高さには関係ありません。

■すべり出し窓

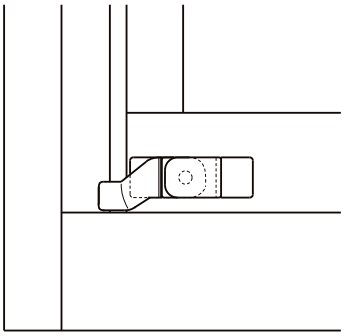




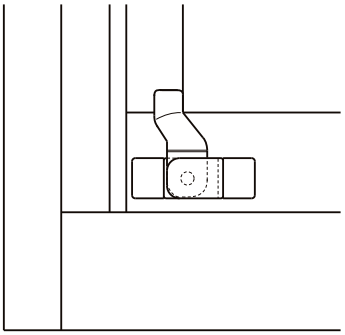
●開き角度
※サッシ高さにより、角度が違います。

■PRO-SE　サブロック（オプション）の操作方法

①ロック部を回転させて、ロック状態にすることで、ロック機構が働きます。
②解除するときは、ロック部を90°回転させます。
●防犯のため、就寝･外出時には必ず窓を閉めて、ハンドルで施錠すると同時にサブロックをかけてください。



ロック状態



解除状態

■PRO-SE　キー付ハンドル操作方法

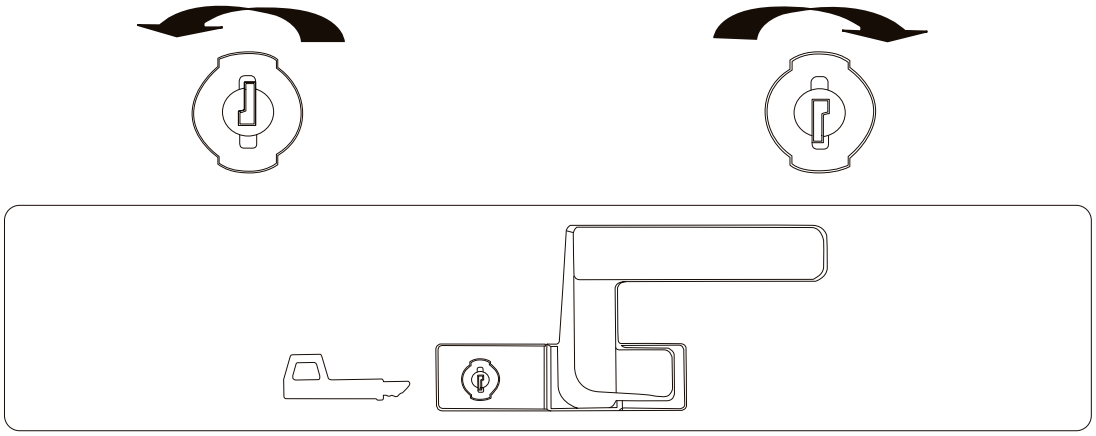
●キー付ハンドルの施解錠は、下記に示す要領にて行ってください。

●鍵をかけるとき

●鍵を差込み反時計回りに回す。

●鍵をあけるとき

●鍵を差込み時計回りに回す。



【サッシ金物の鍵について】
ハンドル等のサッシ金物の鍵は堅固な施錠を保証するものではありません。
いたずらや不正な解錠およびキーを完全に差し込まずに無理な力でキーを回す等の誤操作では、開いてしまう場合があります。

内倒し窓・外倒し窓の取扱い

□PRO □PRO-SE

⚠注　意

●風の強いときは窓を閉めて、必ず錠（トップラッチ）をかけてください。錠をかけないと障子が急激な開閉で衝撃を受け、破損・落下等のおそれがあり、思わぬケガや事故につながります。

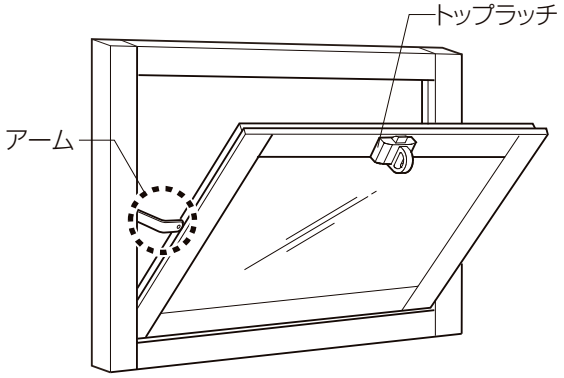
■ご使用上のお願い

●障子を閉めるときはトップラッチをしっかり持って閉めてください。風にあおられることがあります。

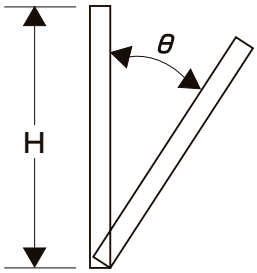
●開閉時に窓枠に手を置かないでください。開閉した障子に指をはさんで思わぬケガをするおそれがあります。

■障子の開閉（内倒し窓）

①トップラッチを下に引いてください。窓の位置が高くて手が届かない場合は、フック棒（オプション品）を使用してください。
②トップラッチを下に引いたまま、手前に引いてください。
③窓の両側に付いているアームが伸びて障子が止まります。
④障子を閉めるときは、トップラッチを持って押してください。
⑤トップラッチが完全に引っ掛かるまで押してください。

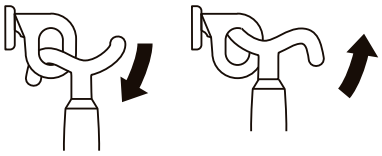


■障子の開き角度



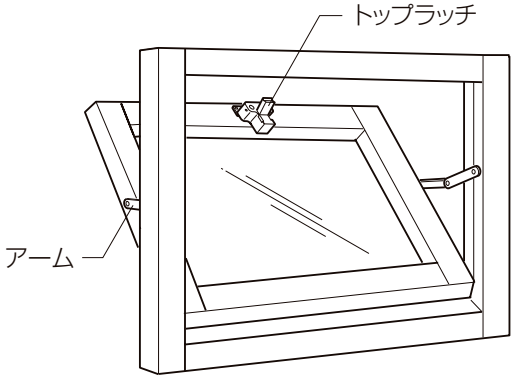
※サッシ高さにより角度が違います。

■フック棒（オプション品）

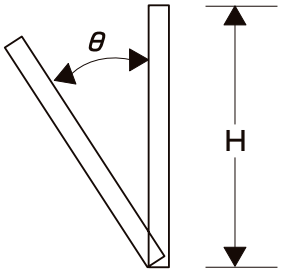


■障子の開閉（外倒し窓）

①トップラッチを下に引いてください。窓の位置が高くて手が届かない場合は、フック棒(オプション品)を使用してください。
②トップラッチを下に引いたまま、外側に押してください。
③窓の両側に付いているアームが伸びて障子が止まります。
④障子を閉めるときは、トップラッチを持って引いてください。
⑤トップラッチが完全に引っ掛かるまで引いてください。



■障子の開き角度



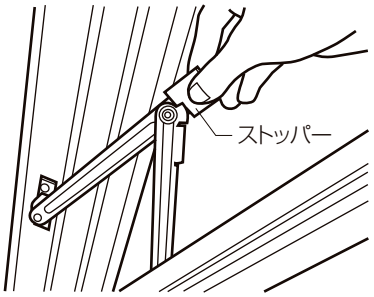
※サッシ高さにより角度が違います。

■内倒し窓の清掃時操作方法

■PRO-SE 2段ストッパー仕様のとき

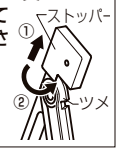
●アームストッパーを操作して、内倒し角度を大きくすることができ、ガラス外面の清掃ができます。操作するときは、必ず障子を手でささえながら行なってください。

①アームのストッパーを引きます。
②ストッパーを少し回転させ、アームのツメに引っ掛けます。
③反対側のストッパーを同様に操作します。
④窓を手でささえながら開きます。
⑤窓を閉めるときは、そのまま閉めることができます。
ストッパーはセット状態にもどります。



清掃時操作方法

●窓の開閉は、必ず窓を支えながら作業をしてください。
①ストッパーを引いてください。
②ストッパーを回転させ、アームのツメにひっかけてください。
③反対側のストッパーを同様に操作してください。
④窓を手で支えながら開いてください。



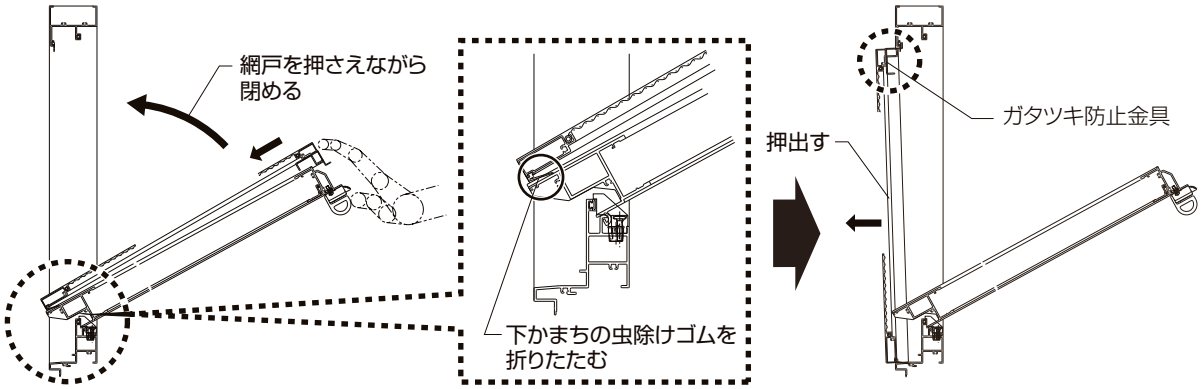
■PRO-SE 標準アームストッパー仕様のとき

●内倒し角度を大きくすることはできませんので、ガラス外面の清掃時は市販のモップ（柄付のクリーナー）等の活用をお願いします。

■内倒し窓用固定網戸の脱着方法

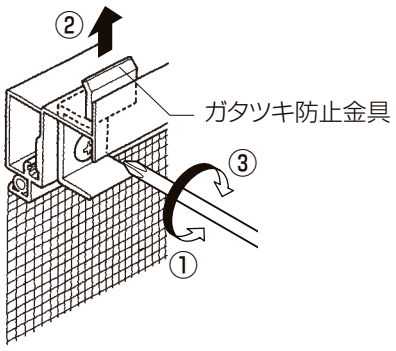
【網戸建て込み方法】

①障子の外側に網戸を乗せます。
②網戸を下に押さえながら障子を閉めます。
③障子を再度開き、網戸を外に押し出します。
④ガタツキ防止金具をセットします。



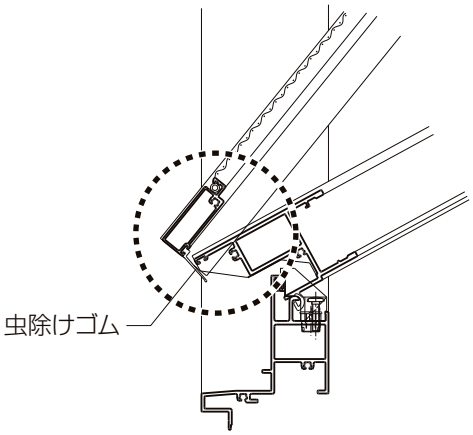
【ガタツキ防止金具セット方法】

①ねじをゆるめます。
②ガタツキ防止金具を上げます。
③ねじを締めます。



【網戸取外し方法】

①ガタツキ防止金具を解除します。
②網戸上かまちを室内側へ引き込みます。
③虫除けゴムのベース部が障子に引っ掛からないよう下かまちを持ち上げながら網戸を引き込みます。



上げ下げ窓の取扱い(クレセント方式・ラッチ方式)

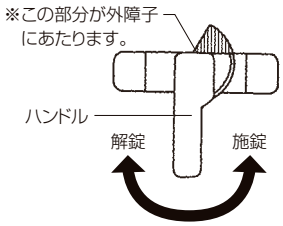
□PRO-SE

⚠注　意

●開閉時には「枠と障子の間」や「障子が交差する所」に手や指を置かないでください。
手や指がはさまれるなど、人身事故につながるおそれがあります。

■ご使用上のお願い

●クレセント方式上げ下げ窓のハンドルを左に180°回転させてから障子の開閉を行ってください。ハンドルを途中で止めると、障子に当たり形材にキズを付けたり、部品が破損したりします。



●下枠に砂やほこりがたまらないように掃除機で吸い取り、水ぶきしてください。汚れを放置すると水抜き穴がつまるおそれがあります。
また、下枠に砂やほこりがたまった状態のままにしておきますと、網戸との間に雨水が溜まる場合があります。ただし、これは不具合ではありません。定期的に、清掃してください。

●障子の動きが重くなったり、障子の動きが早くなったり開閉動作に異常を感じた場合は使用を中止し、建物管理責任者様などにご相談ください。そのままご使用を続けられた場合、突然障子が下がり、手や指をはさまれるなど、人身事故や物損事故につながるおそれがあります。

■障子の開閉

■クレセント方式

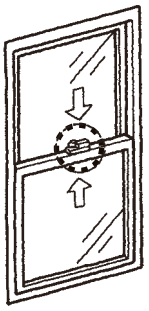
●クレセント方式の中には、障子が内外連動で動く「滑車タイプ」と、障子がそれぞれ内外独立して動く「バランサータイプ」があります。

①ハンドルを左に180°回してください。ロックが解除され、障子が移動可能になります。

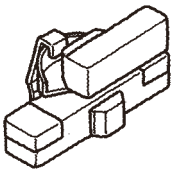
※ハンドルは必ず180°回転させてください。ハンドルを途中で止めると、障子が当たり、破損します。

②閉めるときは、ハンドルが当たらないことを確認し、障子をスライドさせてからハンドルを回してロックしてください。

■クレセント方式
（PRO-SE）



■クレセント



■ガラスの建込み方法(クレセント方式上げ下げ窓)

■滑車タイプ

●必ず内障子からガラスを入れてください。外障子に先に入れると内障子が動き、思わぬケガにつながるおそれがあります。

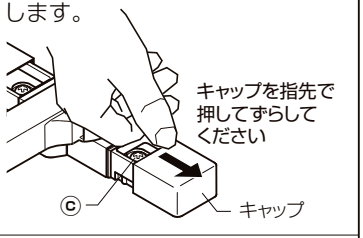
①左右の内·外障子ストッパーを外し、内外の障子がやりこせる状態にします。
②クレセントおよびクレセント受け取付け板を外します。
③障子を閉めて内障子にガラスを入れます。
④外障子にガラスを入れます。
⑤クレセントおよびクレセント受け取付け板を元通りに取付けます。
⑥左右の内·外障子ストッパーを元通りに取付けます。

■バランサータイプ

①クレセントをかけた状態で内障子にガラスを入れます。
②クレセントを開錠してクレセントを外します。
③内障子を開けて、外障子のクレセント受け取付け板を外します。
④外障子にガラスを入れます。
⑤クレセント·クレセント受け取付け板を元通りに取付けます。

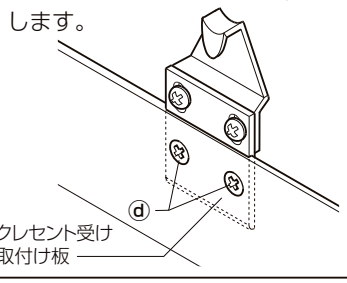
■クレセントの外し方

①キャップを左右にずらします。
②プラスドライバーでねじⓒを外します。



■クレセント受け取付け板の外し方

●プラスドライバーでねじⓓを外します。



■上げ下げ窓用網戸の取付け方法

⚠注　意

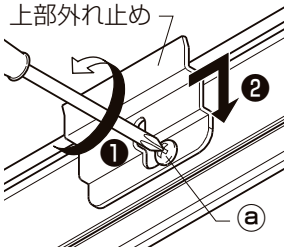
●網戸の建込み後、必ず上部外れ止めをセットしてください。網戸が落下するおそれがあります。

■取付け上のお願い

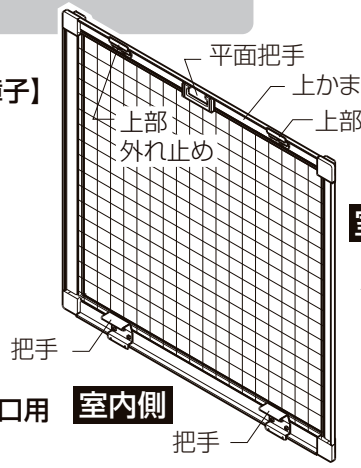
●網戸の建込みは、2人以上で行ってください。特に、外部にベランダなどがない場合の建込み作業は、網戸を落とさないよう慎重に行ってください。

■取付け順序

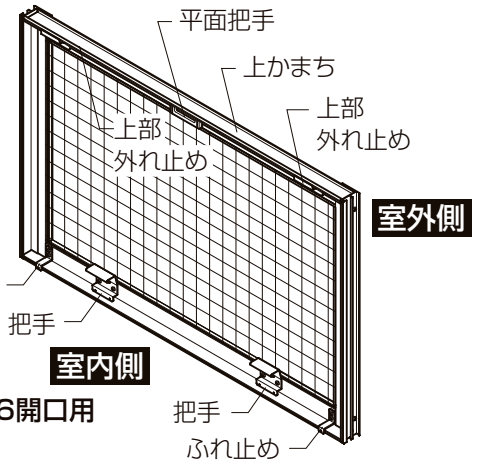
①建込み前に上部外れ止めのねじⓐをゆるめ、上部外れ止めを下げます。



【障子】



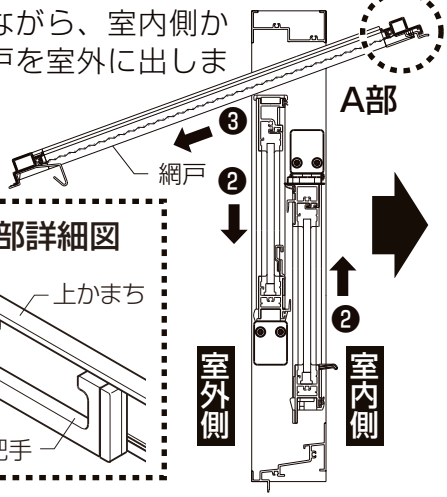
●17開口用



●36開口用

②障子を最大限開放します。

③網戸上部の平面把手を持ちながら、室内側から網戸を室外に出します。

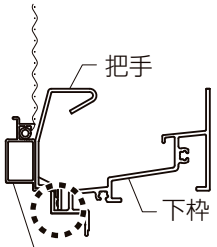


■A部詳細図

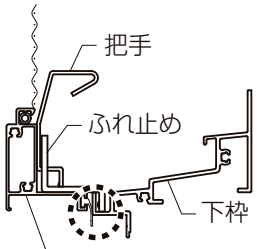
④下部の部品を下枠のレールに引っ掛けます。
※17開口用は把手、36開口用はふれ止めを引っ掛けます。

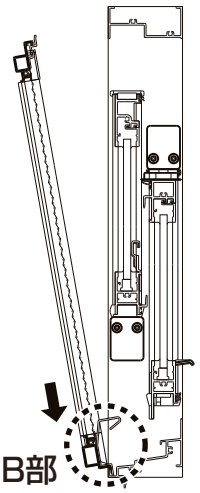
■B部詳細図

●17開口



●36開口

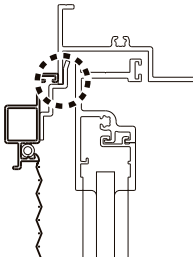




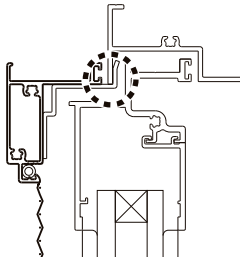
⑤平面把手を持って、網戸の上かまちを上枠に引寄せます。
⑥上部外れ止めを右図のようにセットして網戸を固定します。

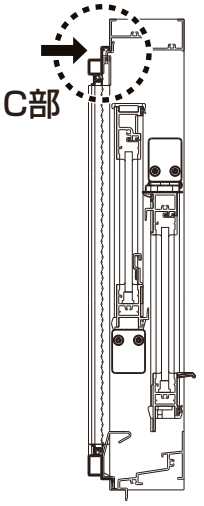
■C部詳細図

●17開口



●36開口

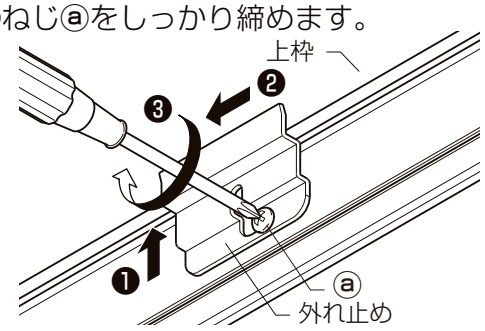




⑦網戸が外れないことを確認します。

■上部外れ止めセット方法

①上部外れ止めを上に上げます。
②上部外れ止めを横にスライドさせます。
③ねじⓐをしっかり締めます。



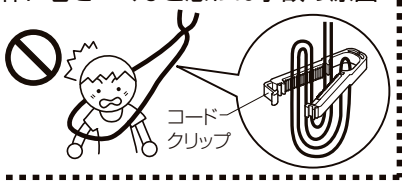
※セット後にねじのゆるみがないことを確認してください。

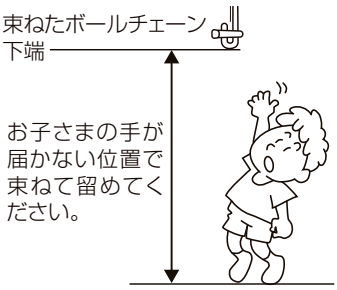
ガラスルーバーの取扱い

□PRO-SE

⚠ 警　告

操作ひもまたはボールチェーンが小さなお子さまの首や体に巻きつくなど思わぬ事故の原因となりますので、下記事項をお守りください。
- ●小さなお子さまを操作ひもまたはボールチェーンやその周囲で遊ばせないようにご注意ください。
- ●ご使用後は必ず付属のコードクリップを使用しお子さまの手が届かない位置で束ねて留めてください。





■ご使用上のお願い

- ●ガラスの切り口部分は面取りしてありますが、清掃時などに直接指でふれることがないように注意してください。思わぬケガをするおそれがあります。
- ●開閉終了後はハンドルの回転が重くなったらそれ以上回さないでください。破損のおそれがあります。
- ●ガラスルーバーが開いた状態では、外からガラスが外しやすくなります。就寝時・外出時は、必ずガラスルーバーを閉じてください。
- ●網入りガラスを使用する場合は切断面に網が露出しているため、条件（水分の存在など）によっては網にサビが発生します。切断小口四方に防錆処理を施すことで発生を遅延していますが、サビを発生させないことではありません。

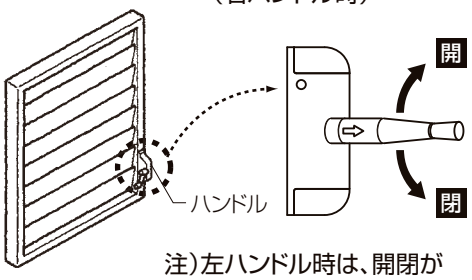
■お手入れ時のお願い

- ●ステンレス製ガラスアタッチメントは、サビにくい材質を使っていますが、環境条件によっては、汚れや塩分やもらいサビを放置するとサビ発生のおそれがあります。
  7頁の「お手入れ方法」を参照の上、汚れの軽いうちに清掃してください。

■ルーバーの開閉操作

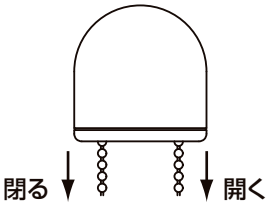
①ハンドルを回すと、ルーバー（羽根）が開きます。（商品により、70～90°位まで開きます。）
②ハンドルを逆に回すと、ルーバー（羽根）が閉まります。
※開閉金具は下記のハンドル式、滑車式ハンドル·チェーンの他に
にぎり式もあります。

■ハンドル
（右ハンドル時）

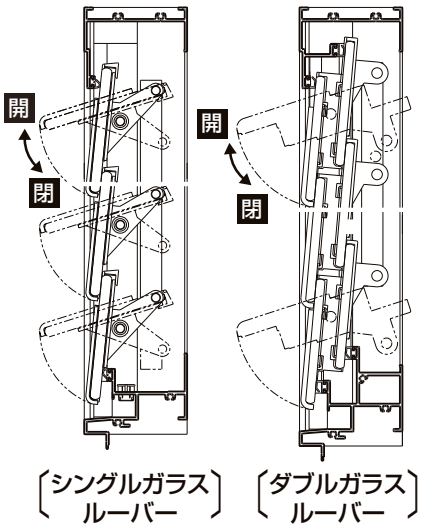


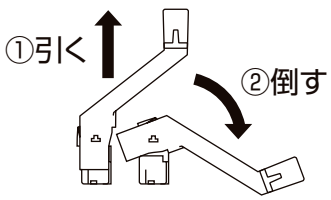
注）左ハンドル時は、開閉が逆になります。

■滑車式ハンドル·チェーン
（右ハンドル時）



注）左ハンドル時は、開閉が逆になります。





図のようにハンドルを引くと折りたためます。
※開閉の際はハンドルを引いた状態のまま操作しないでください。
故障の原因になります。

オーニング窓の取扱い

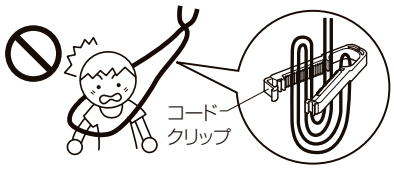
□PRO-SE

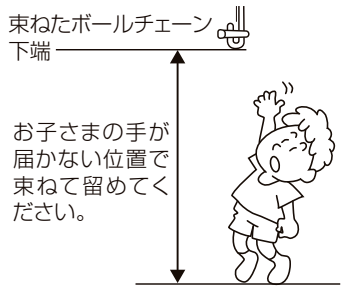
⚠ 警　告

操作ひもまたはボールチェーンが小さなお子さまの首や体に巻きつくなど思わぬ事故の原因となりますので、下記事項をお守りください。

●小さなお子さまを操作ひもまたはボールチェーンやその周囲で遊ばせないようにご注意ください。

●ご使用後は必ず付属のコードクリップを使用しお子さまの手が届かない位置で束ねて留めてください。





⚠注　意

●風の強いときはハンドルを回して窓を閉めてください。窓を閉めないと障子が急激な開閉で衝撃を受け、破損･落下などのおそれがあり、思わぬケガや事故につながります。

■ご使用上のお願い

【障子開閉について】

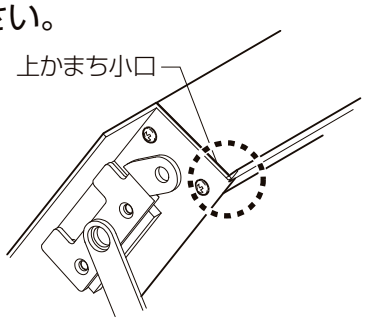
●窓を閉める際はハンドルが動かなくなるまで回してください。

●開閉終了後はハンドルが動かなくなったらそれ以上回さないでください。破損のおそれがあります。

●開閉時に窓枠に手を置かないでください。開閉した障子に指をはさんで思わぬケガをするおそれがあります。

【お手入れについて】

●清掃時などに上かまちの小口部分には手を触れないよう注意してください。ケガにつながるおそれがあります。



■障子の開閉

●ハンドルを回転させることによりすべての障子が同時に開閉します。

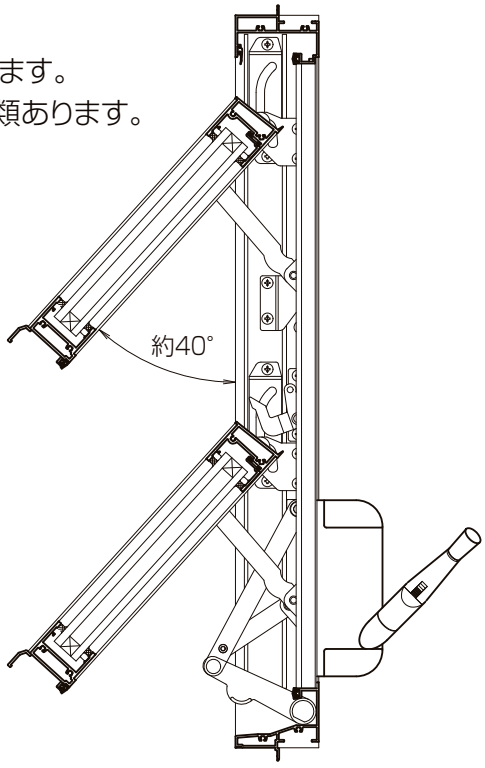
●窓の角度はハンドル操作により0～約40°の位置で無段階に調節できます。

●ハンドル形状は標準ハンドルと高窓用滑車式ハンドル･チェーンの2種類あります。

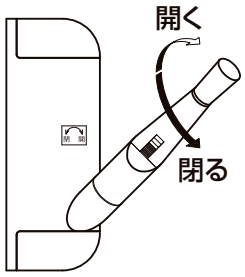
①ハンドルを時計回りに回すと障子が開きます。

②ハンドルを逆に回すと障子が閉まります。窓が閉まってもハンドルが動かなくなるまで回してください。

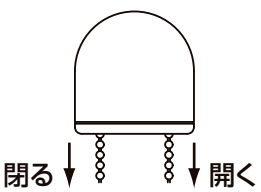
③高窓用滑車式ハンドル･チェーン使用時はボールチェーンを操作し、障子を開閉してください。



■ハンドル



■滑車式ハンドル･チェーン



排煙窓、ラッチ&ステーの取扱い（開口形式:外倒し窓・内倒し窓・横軸回転窓）

⚠注　意

●風の強いときは窓を閉めて、必ず錠をかけてください。錠をかけないと障子が急激な開閉で衝撃を受け、破損・落下等のおそれがあり、思わぬケガや事故につながります。

■ご使用上のお願い

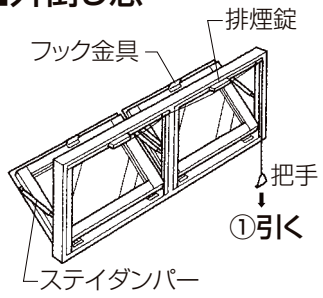
●非常時開放操作をスムーズに行うために、下記のことをお守りください。
・チェーン把手まわりに物を置かないでください。
・把手のチェーンを何かにまきつけておかないでください。
●フック棒での外倒し窓の閉鎖は、窓高さと開き角度により操作範囲に制限があります。（上枠の高さが床面より2.4m程度が上限で、開き角度は60°より小さいこと。）
●窓の大きさによって錠が2カ所になります。障子を閉める場合は、フック金具を使って確実に閉めてください。

■窓の開閉操作

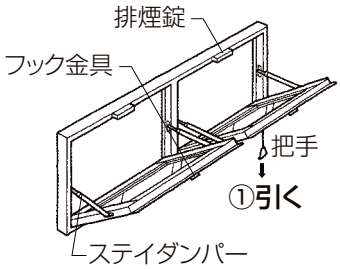
■障子開放

●把手チェーンを引いてください。上枠にあるロックが解除され、ステーダンパーの力で障子が開き、設定角度で自動停止します。

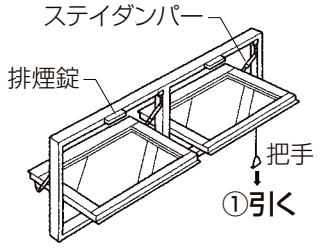
■外倒し窓



■内倒し窓



■横軸回転窓



■障子閉鎖

●上かまちにあるフック金具にフック棒（オプション品）をかけ、引きます。内倒し窓・横軸回転窓の場合は、押上げます。
●外倒し窓、内倒し窓にはワイヤーにて窓を閉める排煙復帰装置（オプション品）の設定もあります。

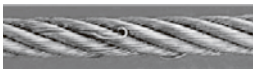
■定期点検のお願い

●安全で快適にご使用していただくためにも、月に1回程度の開閉の実施をお願いいたします。下記のようなことの防止に役立ちます。
・窓の気密材の固着による開閉不良の防止
・開閉部品の固着により、作動不良防止
点検内容としては、
1．開閉作動時に異音、ガタツキ、ブレなどがないか確認してください。
2．ワイヤーの素線切れ・飛び出し、撚り線の飛び出しがないか確認してください。



・ワイヤーロープからひげの様に素線の切れた物が多数飛び出している。


キンク


素線飛び出し


撚り線飛び出し

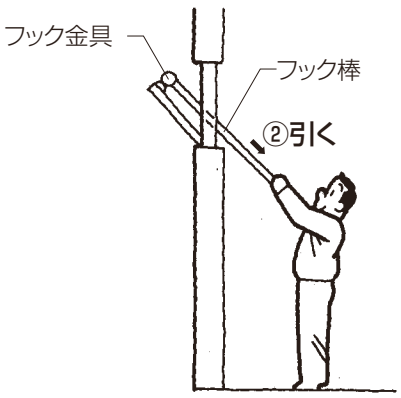
・キンク、撚り線の飛び出し、パーマ状によじれが発生している。

但し、排煙窓は非常開放用を目的とした窓のため、1日に何回も開閉すると故障の原因になりますので、ご注意ください。

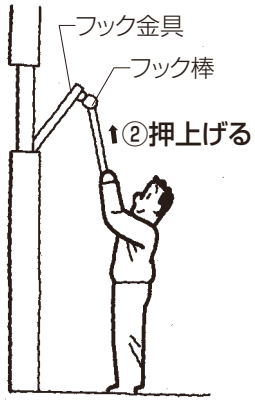
●浴場、プールなどに使用されている場合は、環境条件により、装置のサビ、劣化が早く進みます。定期的な点検（月1回程度）や清掃を行なってください。

■閉鎖方式

●外倒し窓



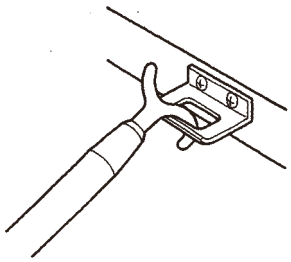
●内倒し窓



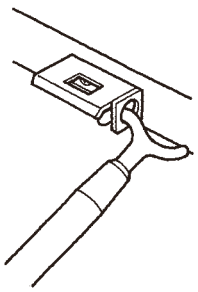
●横軸回転窓



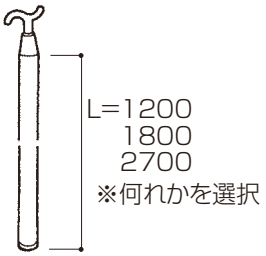
【フック金具】



【フック金具】



【フック棒】
（オプション品）



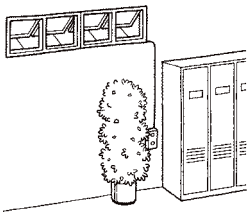
排煙換気窓開閉装置の取扱い（開口形式:外倒し窓・内倒し窓・突き出し窓・横軸回転窓・内動片引き窓・ユラード）

⚠注　意

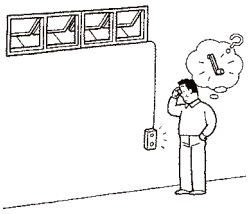
●分解したり修理・改造しないでください。ハンドルボックスや操作スイッチを分解や修理・改造をすると指づめ等のケガや、感電、火災の原因になるおそれがあります。
●風の強いときは窓を閉めて、必ず錠をかけてください。錠をかけないと障子が急激な開閉で衝撃を受け、破損・落下等のおそれがあり、思わぬケガや事故につながります。

■ご使用上のお願い

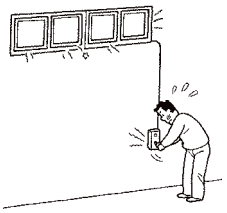
●ハンドルボックスの周囲には、物を置かないでください。非常時の解放操作が遅れてしまうおそれがあります。



●ハンドルは、いつでも使えるよう保管場所を決めて保管してください。



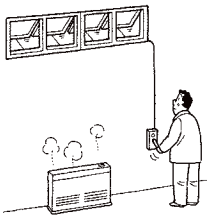
●閉鎖操作時にハンドルレバーの回転が重くなったら、それ以上回さないでください。開閉不良や部品の破損するおそれがあります。



■定期点検のお願い

●安全で快適にご使用していただくためにも、月に1回程度の開閉の実施をお願いいたします。下記のようなことの防止に役立ちます。

・窓の気密材の固着による開閉不良の防止
・開閉部品の固着により、作動不良防止



点検内容としては、

1．開閉作動時に異音、ガタツキ、ブレ等がないか確認してください。
2．ワイヤーの素線切れ・飛び出し、撚り線の飛び出しがないか確認してください。



・ワイヤーロープからひげの様に素線の切れた物が多数飛び出している。


キンク


素線飛び出し


撚り線飛び出し

・キンク、撚り線の飛び出し、パーマ状によじれが発生している。

但し、排煙窓は非常開放用を目的とした窓のため、1日に何回も開閉すると故障の原因になりますので、ご注意ください。

●浴場、プールなどに使用されている場合は、環境条件により、装置のサビ、劣化が早く進みます。定期的な点検（月1回程度）とともに清掃を行なってください。
●オペレータは、保証期間が1年になっていますので、メンテナンス契約をお勧めします。当社支店・営業所へご相談ください。

■障子の開閉（ハンドルボックスの正しい操作方法）

⚠注　意

●ハンドルの下を指などで押したり、叩いて振動を加えないでください。衝撃でハンドルが倒れ、ケガをするおそれがあります。

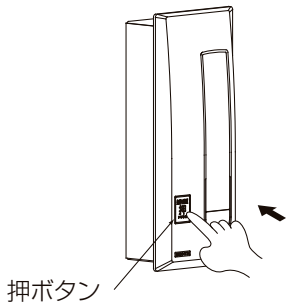
■ご使用上のお願い

●閉窓の際は、ハンドルを化粧カバー面に押し付けるように操作してください。ハンドルの根元がねじれて、ハンドルが破損するおそれがあります。

※ご採用されている排煙開閉装置によって操作が異なる場合がありますので、ご使用の製品の詳細は各オペレーターメーカーから配布される取扱説明書をご覧ください。

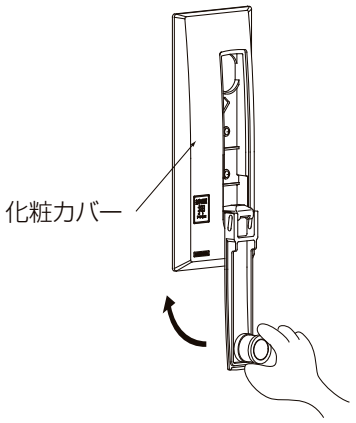
■開窓操作

●ハンドルボックスの開あるいは押ボタンを押し込んでください。各窓が自動的に開きます。



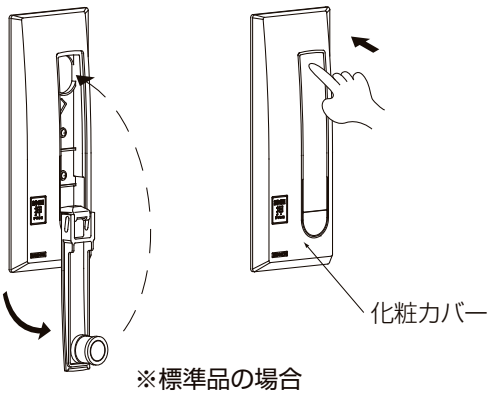
■閉窓操作

●ハンドルを手前に引き出し、180°下に倒します。ハンドル操作は、軽く（約1kg程度）化粧カバー面に押しつけるようにして右に回し閉窓します。



■ハンドル収納

すべての窓が閉まると、必ずハンドルを1回転以上左へ逆回りに回して真下に来るようにします。ハンドルを真下から真上に折りたたみハンドル表面が化粧カバーと同じ面になるように押し込んで収納します。



※標準品の場合

※1 上記内容はハンドルボックス（手動）が標準品を使用されている場合の説明になります。
標準品以外が取り付けられている場合は別途取扱説明書が配布されていますので、配布されている取扱説明書をご参照ください。

※2 強風雨時には、安全のため窓が閉鎖されているかどうか目視で確認してください。

開き窓の取扱い

□PRO □PRO-SE □RM-100N·TB □RXシリーズ

⚠注　意

●風の強いときは窓を閉めて、必ず錠（ハンドル）をかけてください。錠をかけないと障子が急激な開閉で衝撃を受け、破損·落下等のおそれがあり、思わぬケガや事故につながります。

●非常用進入口（ガラスに▼マークが付いている窓）は、非常時に消防活動等のために使用する窓です。風による窓やガラスの落下防止のため、常時は閉鎖し、施錠してください。

●障子の開閉時は、障子が動き出したら枠と障子の間で指を挟まないように、アームストッパーまたは調整器から手を離してください。手や指を挟み、思わぬケガにつながるおそれがあります。

●脱着ハンドルを使用し窓を開ける場合は、ハンドルを90°に回して、確実にハンドルがロックされて外れないことを確認してから窓を開けてください。ハンドルがロックされていないと外れて落下するおそれがあります。

■ご使用上のお願い

●障子を開けたときは必ずアームストッパーまたは開き調整器で固定してください。突風により閉まる場合があります。

●アームストッパー、開き調整器または小開口ストッパーの操作はハンドルをしっかり持って行ってください。風にあおられることがあります。

●障子を動かすときは、必ずアームストッパーや調整器を解除してから行ってください。障子や金物が破損するおそれがあります。

●障子を閉めるときは、ハンドルを水平に保ったまま（開位置）閉めて、障子が枠のパッキン材に当たってからハンドルを閉位置にしてください。ハンドルやサッシが破損するおそれがあります。

●開閉時に窓枠に手を置かないでください。開閉した障子に指を挟んで思わぬケガをするおそれがあります。

■障子の開閉

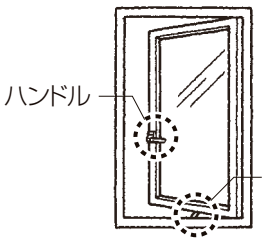
①ハンドルを上に90°（RM-100N·TBは120°）回してください。（ロックが解除され、障子が開閉可能となります。）

②ハンドルを持ち障子が止まるまで内開きは手前に、外開きは押出してください。（開き調整器が動き、設定された角度で自動的に障子がストップし、固定されます。）

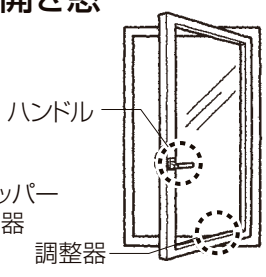
③さらに開く場合は、アームストッパーまたは開き調整器の「押」を押しながら、障子を開いてください。 次の設定角度で止まります。

④障子を閉めるときは、アームストッパーまたは開き調整器の「押」を押し動き出したら離し、障子を閉めてください。

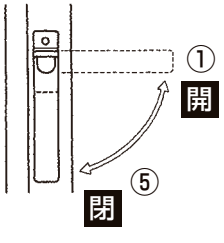
■外開き窓



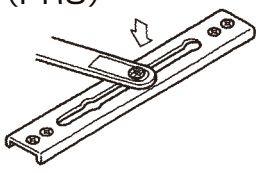
■内開き窓



■ハンドル

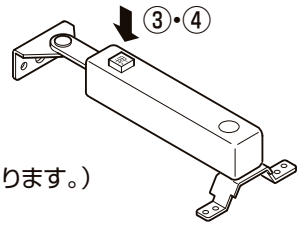


■アームストッパー
（PRO）



⑤障子を閉めたら必ずハンドルを下向きにしてロックしてください。
※ガラスに▼マークが付いている窓は、非常用進入口で障子が90° まで開くように設定されています。

■開き調整器



（※キー付の設定もあります。）

●商品に**注意ラベル**を貼付けしています。表示内容をお守りください。

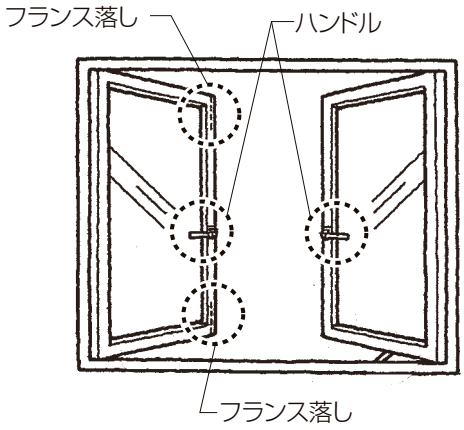


⚠ 注意
窓や、ガラスの落下防止のため、風の強いときは窓を閉めて、必ず施錠してください。

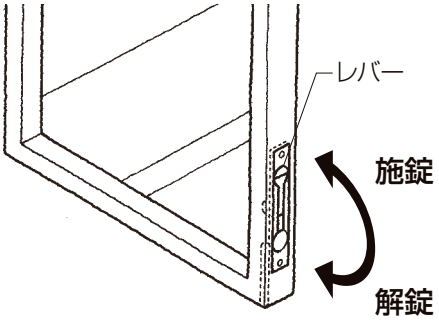
⚠ 注 意
この窓は、非常時に消防活動等のために使用する窓です。風による窓やガラスの落下防止のため、常時閉鎖し、施錠してください。

■フランス落し

●両開き窓の場合、片側を固定するフランス落しが上下に取付けられています。障子を閉める場合は、上下のフランス落しを固定してください。
※フランス落しの固定忘れがあると、ハンドルが施錠されていても扉が開くおそれがあります。

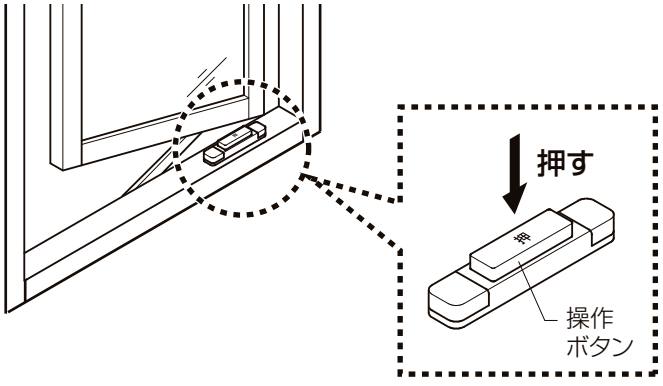


■フランス落し



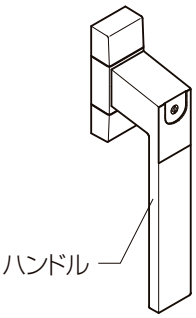
■インペイ式調整器（オプション）

●下枠にあるボタンの「押」を押しながら障子の開閉を行なってください。障子が動きだしたら、ボタンから手を離してください。



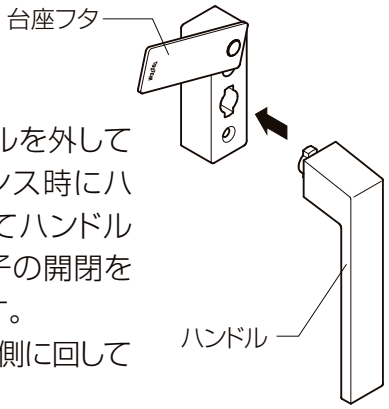
■ハンドルの種類（オプション）

■キー付ハンドル



●ハンドルの鍵穴にキーを挿入して操作することにより、ハンドルの回転を止めたり、動かしたりすることができるタイプです。
※キー施錠時はハンドルがロックされます。その際無理な力でハンドルを回そうとすると破損する場合があります。

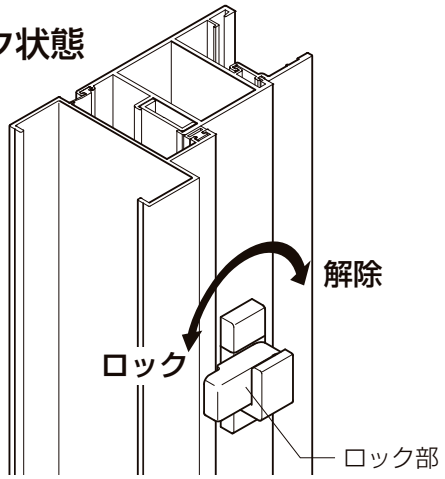
■脱着ハンドル



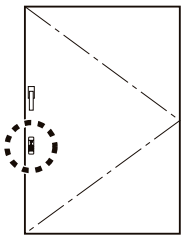
●通常時はハンドルを外しておき、メンテナンス時にハンドルを挿入してハンドルを回転させ、障子の開閉を行なうタイプです。
※台座フタは、吊元側に回してください。

■サブロック（オプション）の操作方法

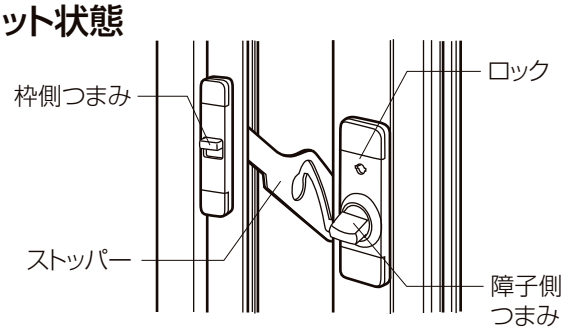
①ロック部を回転させて、ロック状態にすることで、ロック機能が働きます。
②解除するときは、ロック部を180°回転させます。
●防犯のため、就寝、外出時には必ず窓を閉めて、ハンドルで施錠すると同時にサブロックをロックしてください。



■小開口ストッパー（オプション）の操作方法

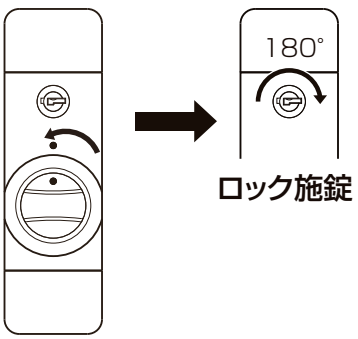


●換気時にセット状態にして使います。
●障子を閉めるときは障子のハンドルを持って枠側のつまみを下げながら閉め、動き出したらつまみを離し障子をそのまま閉めます。
※障子側つまみの無いタイプもあります。このタイプは、ストッパーの解除はできません。



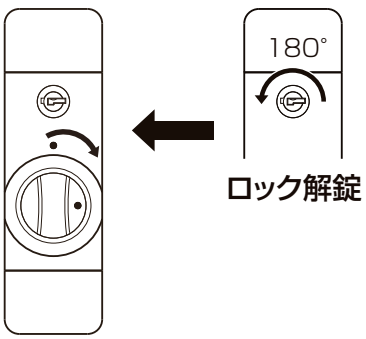
■ストッパーのセット方法

①障子を閉めます。
②障子側のつまみを90°左に回してマーク（ストッパーセット）を合わせます。
③ロックを、キーまたはコインで回し施錠します。（ロック施錠）



■ストッパーの解除方法

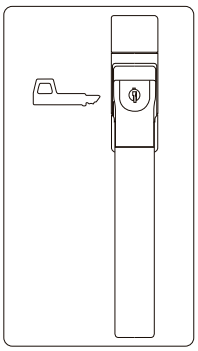
①枠側のつまみを下げ、障子を閉めます。
②障子側のロックを、キーまたはコインで回し解錠します。（ロック解除）
③障子側のつまみを右へ90°回します。（ストッパー解除）



※ストッパーのロック施解錠はキー式、コイン式のタイプがあります。タイプに合わせてロックを施解錠してください。

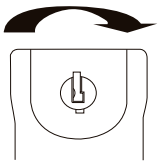
■PRO-SE　キー付ハンドル操作方法

●キー付ハンドルの施解錠は、下記に示す要領にて行ってください。



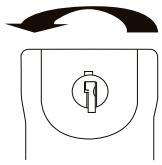
●鍵をかけるとき

●鍵を差込み
時計回りに
回す。



●鍵をあけるとき

●鍵を差込み
反時計回りに
回す。



※施錠時はハンドルを無理な力で回そうとすると破損する場合があります。

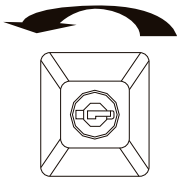
■PRO-SE　キー付開き調整器操作方法

●キー付開き調整器の施解錠は、下記に示す要領にて行ってください。

①対象品種:外開き窓、たてすべり出し窓の場合

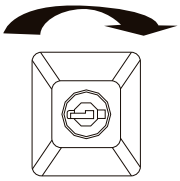
●鍵をかけるとき

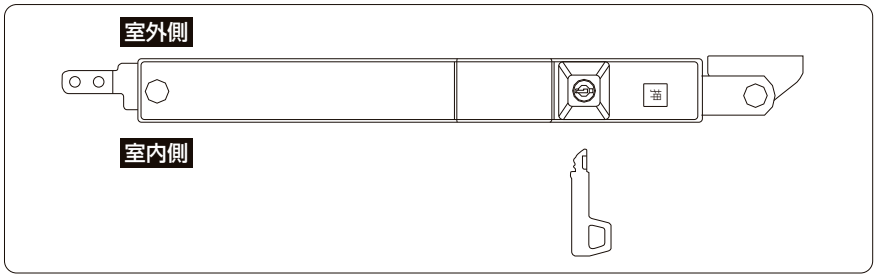
●鍵を差込み
反時計回りに
回す。



●鍵をあけるとき

●鍵を差込み
時計回りに
回す。

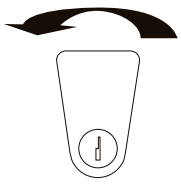




②対象品種:内開き窓の場合

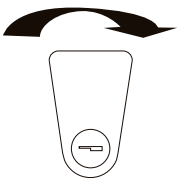
●鍵をかけるとき

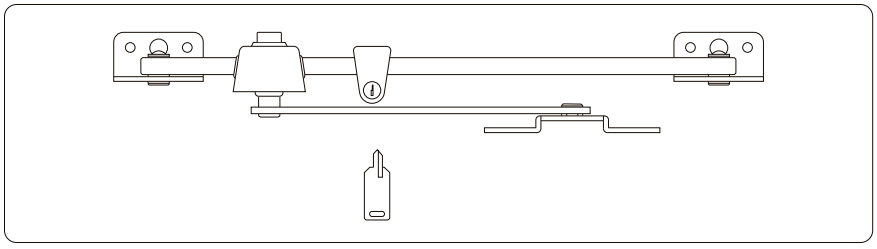
●鍵を差込み
反時計回りに
90°回す。



●鍵をあけるとき

●鍵を差込み
時計回りに
90°回す。





【サッシ金物の鍵について】
ハンドルや調整器等のサッシ金物の鍵は、堅固な施錠を保証するものではありません。
いたずらや不正な解錠およびキーを完全に差し込まずに無理な力でキーを回す等の誤操作では、開いてしまう場合があります。

たてすべり出し窓の取扱い

□PRO □EXシリーズ □PRO-SE □PRO-SE100 □RMA-70G･TC □RXシリーズ

⚠注　意

●風の強いときは窓を閉めて、必ず錠（ハンドル）をかけてください。風で障子が動くため、錠をかけないと障子が急激な開閉で衝撃を受け、破損･落下等のおそれがあり、思わぬケガや事故につながります。

●非常用進入口（ガラスに▼マークがついている窓）は、非常時に消防活動等のために使用する窓です。常時は閉鎖し、施錠してください。風により窓やガラスが落下するおそれがあります。（外部開放対応小開口調整器仕様を除く）

●外部開放対応小開口調整器仕様の場合、開口制限の解除は窓のメンテナンス時および清掃時のみとし、換気等のために解除はしないでください。また、開口制限を解除して窓を開けている間は、必ず障子固定フックで障子を固定してください。窓を閉め開口制限の施錠操作後、必ず窓を開けて施錠されていることを確認してください。風により窓やガラスが落下するおそれがあります。

●障子の開閉時は、障子が動き出したら枠と障子の間で指を挟まないように、アームストッパーまたは調整器から手を離してください。手や指を挟み、思わぬケガにつながるおそれがあります。

●脱着ハンドルを使用し窓を開ける場合は、ハンドルを90°に回して、確実にハンドルがロックされて外れないことを確認してから窓を開けてください。ハンドルがロックされていないと外れて落下するおそれがあります。

■ご使用上のお願い

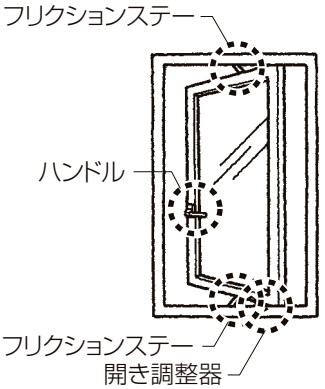
●障子を開けたときは必ずアームストッパーまたは開き調整器で固定してください。突風により閉まる場合があります。

●アームストッパーまたは開き調整器の操作はハンドルをしっかり持って行ってください。風にあおられることがあります。

●障子を動かすときは、必ずアームストッパーや調整器を解除してから行ってください。障子や金物が破損するおそれがあります。

●障子を閉めるときは、ハンドルを水平に保ったまま（開位置）閉めて、障子が枠のパッキン材に当たってからハンドルを閉位置にしてください。ハンドルやサッシが破損するおそれがあります。

●開閉時に窓枠に手を置かないでください。開閉した障子に指を挟んで思わぬケガをするおそれがあります。



■障子の開閉

■調整器仕様（オプション）

①ハンドルを上に90°回してください。（ロックが解除され、障子が開閉可能になります。）

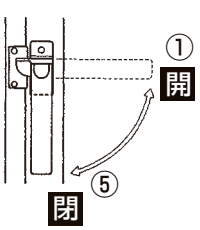
②ハンドルを持ち障子を押出してください。（開き調整器が働き、設定された角度で自動的に障子がストップし、固定されます。）

③さらに開く場合は、「押」を押しながら、障子を開いてください。

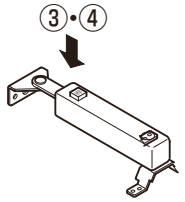
④障子を閉めるときは、開き調整器の「押」を押し動き出したら離し、障子を閉めてください。

⑤障子を閉めたら、必ずハンドルを下向きにしてロックしてください。

■ハンドル



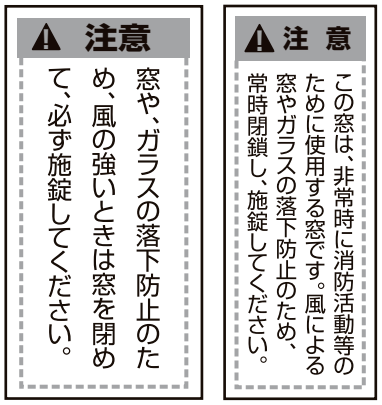
■開き調整器



（※キー付の設定もあります。）

●キー付開き調整器操作方法については、89頁を参照ください。
※ガラスに▼マークが付いている窓は非常用進入口で障子が90°開くように設定されています。

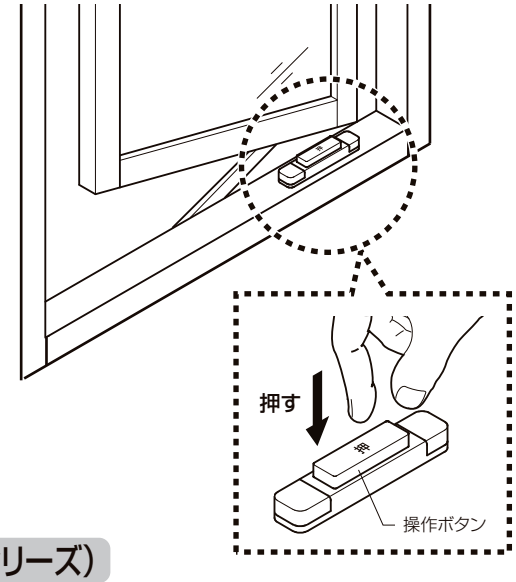
●商品に**注意ラベル**を貼付けしています。
表示内容をお守りください。



■ストップ付フリクションステー（オプション）

●下枠にあるボタンの「押」を押しながら障子の開閉を行ってください。障子が動きだしたら、ボタンから手を離してください。（開き調整器を使わないときにオプションで使用します。）

●下記オプション部品は、開き窓の頁を参照願います。
・サブロック
・小開口ストッパー

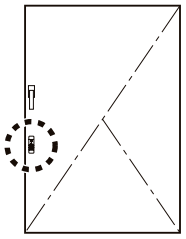


■ハンドルの種類（オプション）

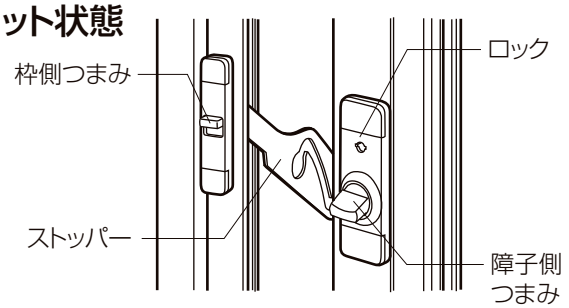
・キー付ハンドル、脱着ハンドル操作方法は88頁を参照願います。

■小開口ストッパー（オプション）の操作方法（PRO-SE、RXシリーズ）

●換気時にセット状態にして使います。
●障子を閉めるときは障子のハンドルを持って枠側のつまみを下げながら閉め、動き出したらつまみを離し障子をそのまま閉めます。
※障子側つまみの無いタイプもあります。
このタイプは、ストッパーの解除はできません。

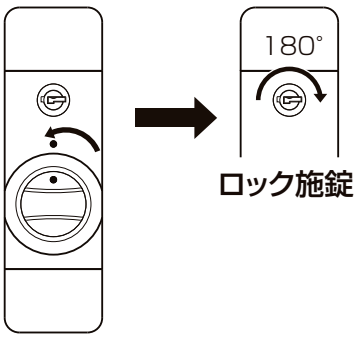


セット状態



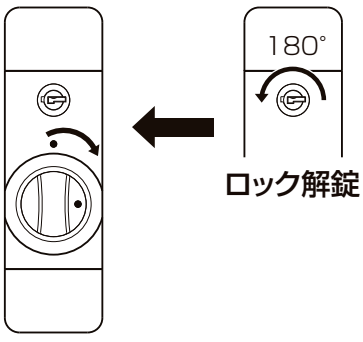
■ストッパーのセット方法

①障子を閉めます。
②障子側のつまみを90°左に回してマーク（ストッパーセット）を合わせます。
③ロックを、キーまたはコインで回し施錠します。（ロック施錠）



■ストッパーの解除方法

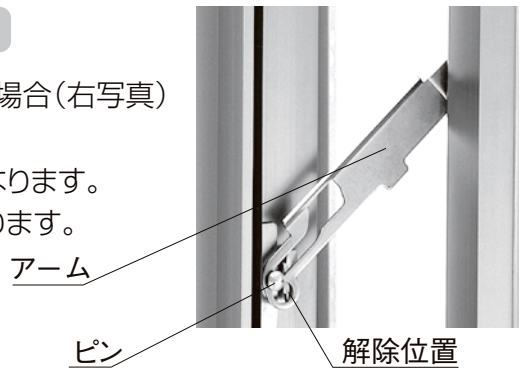
①枠側のつまみを下げ、障子を閉めます。
②障子側のロックを、キーまたはコインで回し解錠します。（ロック解除）
③障子側のつまみを右へ90°回します。（ストッパー解除）



※ストッパーのロック施解錠はキー式、コイン式のタイプがあります。タイプに合わせてロックを施解錠してください。

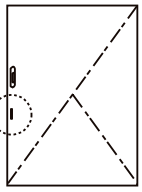
■開口制限部品（RMA-70G･TCオプション）

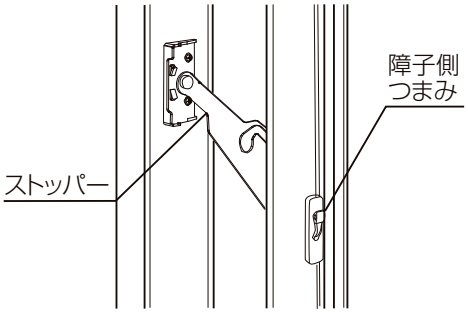
●たて枠とたてかまちの間に開口制限部品が取り付いてる場合（右写真）は、障子の開口が制限されます。
解除位置でアームピンを抜いていただくと、全開可能になります。
開口制限部品を解除した状態で障子を閉めると、元に戻ります。



■小開口ストッパーの操作方法（PRO-SE100）

●窓を開けるときは常にセット状態にして使います。
●障子を閉めるときは障子のハンドルを持って障子側のつまみを下げながら閉め、動き出したらつまみを離し障子をそのまま閉めます。



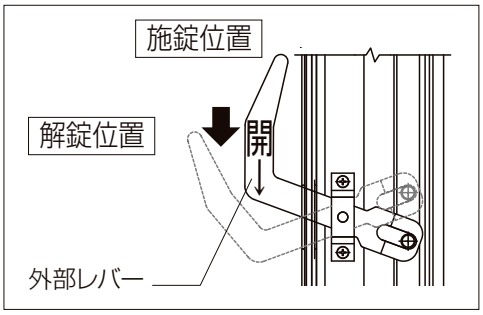


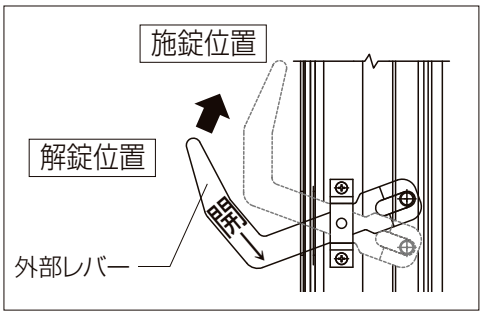
■非常用進入口の操作方法（PRO-SE、PRO-SE100、EXシリーズ）

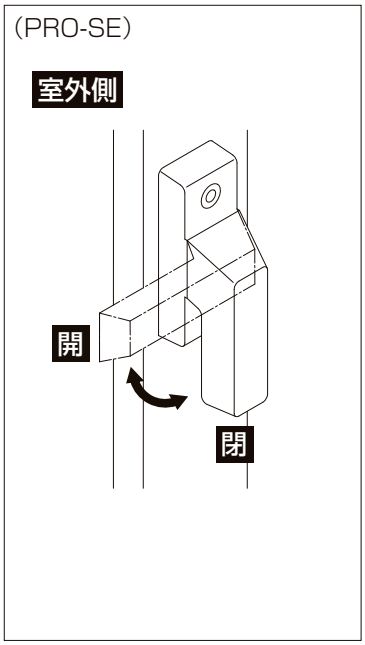
1室外から操作するとき
（PRO-SE100、EXシリーズ）

●開ける時
外部レバーを真下方向（⬇）に
止まるまで引いてください。
動き出すと回転します。

●閉める時
外部レバーを斜め上方向（⬆）に
止まるまで押してください。

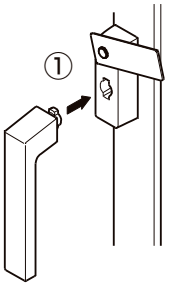


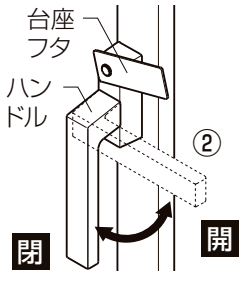




2室内から操作するとき

●開ける時
①台座フタを開き、ハンドルを差込みます。
②ハンドルを手前90°回して 開 の位置にします。
※台座フタは、吊元側に回してください。





●閉める時
開ける時と逆の手順で施錠し、
ハンドルを抜いて台座フタを閉じてください。

■外部開放対応小開口調整器仕様（PRO-SE、RXシリーズオプション）

●通常時の使用方法は、調整器仕様（オプション）を参照ください。ただし、障子は少ししか開きません。

●窓のメンテナンス時および清掃時に全開にする場合

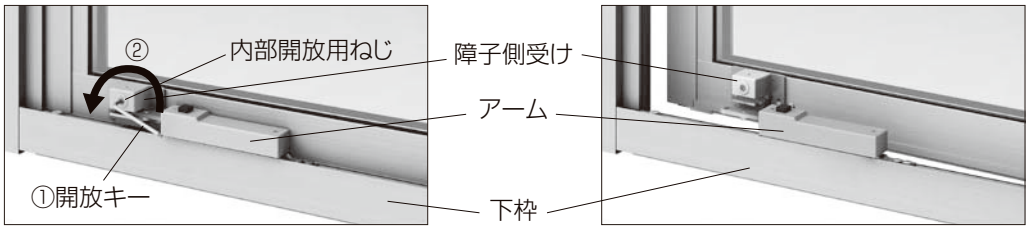
■開口制限の解除方法

①開放キーを内部開放用ねじ部に差し込みます。
②開放キーを反時計回りに180度回転させます。
③障子側受けとアームが分離します。
④分離したアームは、障子や人にぶつからないよう、下枠と平行にしておきます。

■開放制限を解除して窓を開けている間の障子固定フックのセット方法

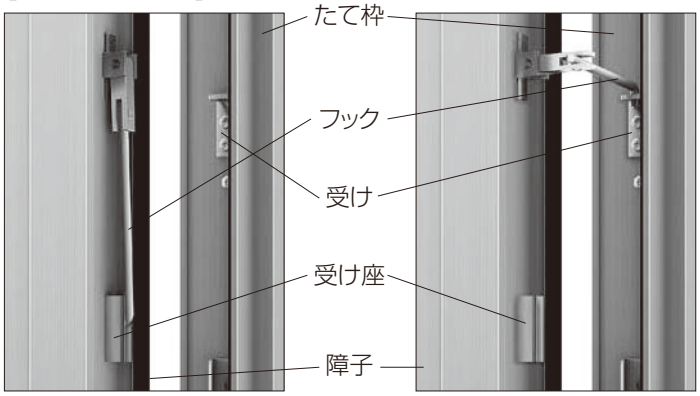
①障子側のフックを引っ張り、受け座からフック先端を外します。
②フック先端をたて枠側の受けに差し込みます。

【外部開放対応小開口調整器】



セット状態　　解除状態

【障子固定フック】



解除状態　　セット状態

●全開時から閉鎖する場合

■障子固定フックの解除方法

①フック先端を持ち上げ、たて枠側の受けから外します。
②フック先端を障子側の受け座へ押し込みます。

■開口制限のセット方法

①アームを障子側受けに差し込みます。
②開放キーを内部開放用ねじ部に差し込みます。
③開放キーを時計回りに180度回転させます。
④窓を開けて、施錠されていることを確認します。

※外部ハンドルを操作して解除した場合には、外部ハンドルを元の状態（水平）に戻した後に開放キーを操作してください。

たて軸回転窓の取扱い

□PRO □EXシリーズ □PRO-SE □RM-100N･AT □RM-100N･TB

⚠注　意

●風の強いときは窓を閉めて、必ず錠（ハンドル）をかけてください。錠をかけないと障子が急激な開閉で衝撃を受け、破損･落下等のおそれがあり、思わぬケガや事故につながります。

●非常用進入口(ガラスに▼マークが付いている窓)は、非常時に消防活動等のために使用する窓です。風による窓やガラスの落下防止のため、常時は閉鎖し、施錠してください。また、障子が90°まで開きます。風にあおられるおそれがありますので、開閉に注意してください。

●障子の開閉時は、障子が動き出したら枠と障子の間で指を挟まないように、アームストッパーまたは調整器から手を離してください。手や指を挟み、思わぬケガにつながるおそれがあります。

●脱着ハンドルを使用し窓を開ける場合は、ハンドルを90°に回して、確実にハンドルがロックされて外れないことを確認してから窓を開けてください。ハンドルがロックされていないと外れて落下するおそれがあります。

■ご使用上のお願い

●障子を開けたときは必ずアームストッパーまたは開き調整器で固定してください。突風により閉まる場合があります。

●アームストッパーまたは開き調整器の操作は、ハンドルをしっかり持って行ってください。風にあおられることがあります。

●障子を動かすときは、必ずアームストッパーや調整器を解除してから行ってください。障子や金物が破損するおそれがあります。

●障子を閉めるときは、ハンドルを水平に保ったまま（開位置）閉めて、障子が枠のパッキン材に当たってからハンドルを閉位置にしてください。ハンドルやサッシが破損するおそれがあります。

●開閉時に窓枠に手を置かないでください。開閉した障子に指を挟んで思わぬケガをするおそれがあります。

■障子の開閉

■開き調整器仕様

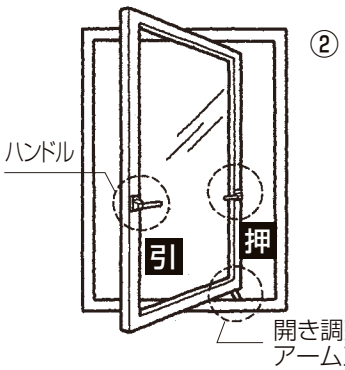
①両側のハンドルを上に90°回してください。
（ロックが解除され、障子が回転可能になります。）
（片側ハンドルの場合もあります。）

②ハンドルを持ち障子を回転させ、止まったところで固定されます。
（開き調整器が働き、設定された角度で自動的に障子がストップし、固定されます。）

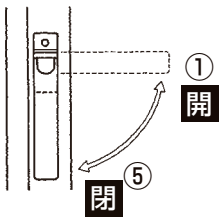
③さらに開く場合は、開き調整器の「押」を押し、開きます。（調整器のみ）

④障子を閉めるときは、開き調整器の「押」を押し動き出したら離し、障子を閉めます。

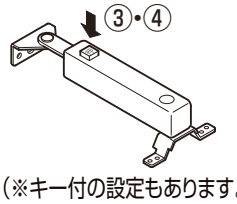
⑤障子を閉めたら必ず両側のハンドルを下向きにしてロックしてください。



■ハンドル

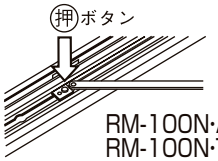


■開き調整器
（外開きタイプ）



（※キー付の設定もあります。）

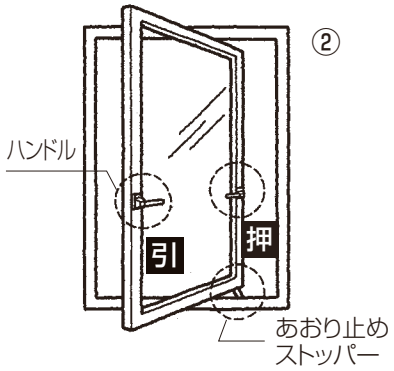
■調整器



※ガラスに▼マークが付いている窓は非常用進入口で、障子が90°まで開くよう設定されています。

■あおり止めストッパー仕様（PRO）

①両側のハンドルを上に90°回してください。（ロックが解除され、障子が回転可能になります。）
②両側のハンドルを持ち障子を約90°まで回転させてください。
③アームストッパーを受け金具の丸穴に確実に差込んで固定してください。
④障子を閉めるときはアームストッパーを受け金具より外し、アームストッパー受け台に戻してください。
⑤障子を閉めたら必ず両側のハンドルを下向きにしてロックしてください。

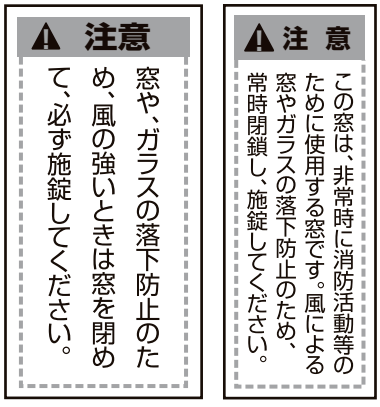


■開き調整器（内開きタイプ）（PRO-SE）

①両側のハンドルを上に90°回してください。（ロックが解除され、障子が回転可能になります）
②ハンドルを持ち障子を回転させ、止まったところで固定されます。（開き調整器が働き、設定角度で自動的に障子がストップし固定されます）
③さらに開く場合は、開き調整器の「押」を押し開きます。
④障子を閉めるときは、開き調整器の「押」を押し、動き出したら離し、閉めます。
⑤障子を閉めたら必ず両側のハンドルを下向きにしてロックしてください。

※商品に**注意ラベル**を貼付けしています。表示内容をお守りください。

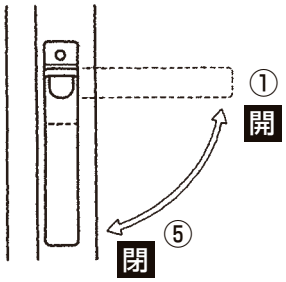




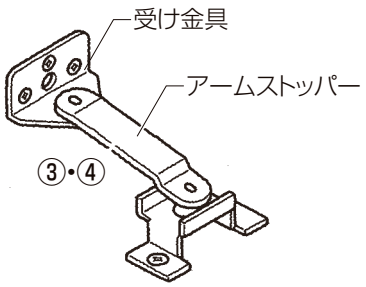
■ハンドルの種類（オプション）

・キー付ハンドル、脱着ハンドル操作方法は88頁を参照願います。

■ハンドル

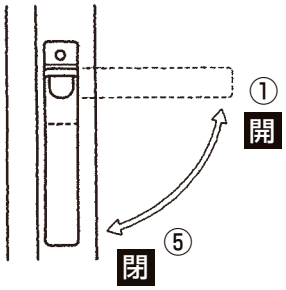


■あおり止めストッパー

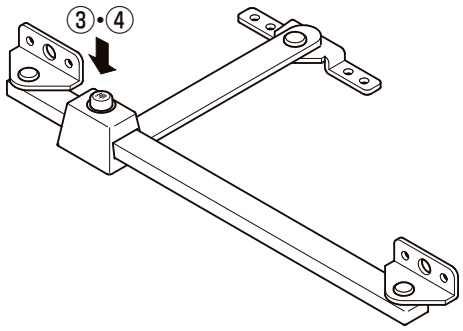


（※キー付ハンドル、脱着ハンドルは開き窓の頁を参照願います。）

■ハンドル



■開き調整器（内開きタイプ）



■PRO-SE　キー付開き調整器操作方法

●キー付開き調整器の施解錠は、下記に示す要領にて行ってください。

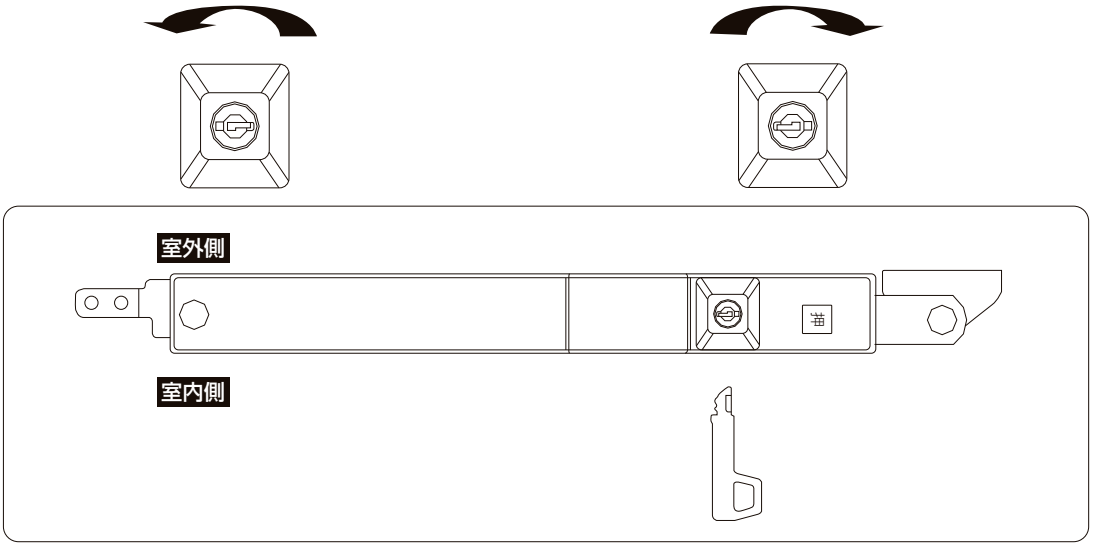
①対象品種:たて軸回転窓（長辺外開き）の場合

●鍵をかけるとき

●鍵を差込み反時計回りに回す。

●鍵をあけるとき

●鍵を差込み時計回りに回す。



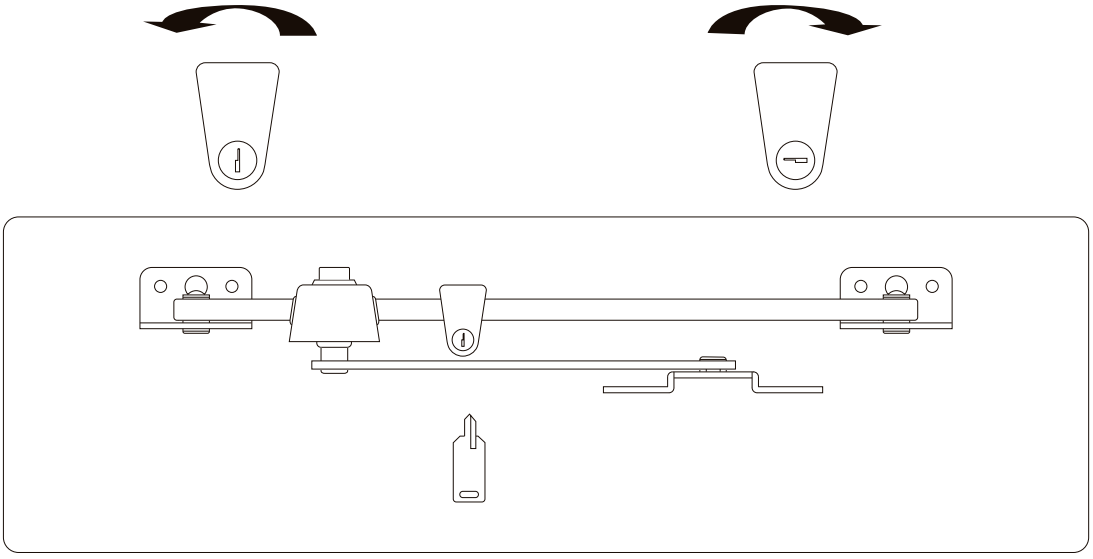
②対象品種:たて軸回転窓（長辺内開き）の場合

●鍵をかけるとき

●鍵を差込み反時計回りに90°回す。

●鍵をあけるとき

●鍵を差込み時計回りに90°回す。



【サッシ金物の鍵について】
ハンドルや調整器等のサッシ金物の鍵は、堅固な施錠を保証するものではありません。
いたずらや不正な解錠およびキーを完全に差し込まずに無理な力でキーを回す等の誤操作では、開いてしまう場合があります。

横軸回転窓の取扱い

□RM-100N･AT □RM-100N･TB

⚠注　意

●風の強いときは窓を閉めて、必ず錠（ハンドル）をかけてください。錠をかけないと障子が急激な開閉で衝撃を受け、破損･落下等のおそれがあり、思わぬケガや事故につながります。

●障子の開閉時は、障子が動き出したら枠と障子の間で指を挟まないように、アームストッパーまたは調整器から手を離してください。手や指を挟み、思わぬケガにつながるおそれがあります。

■ご使用上のお願い

●障子を開けたときは必ず開き調整器で固定し、強風等に備えできるだけ小さな開き角度使用してください。

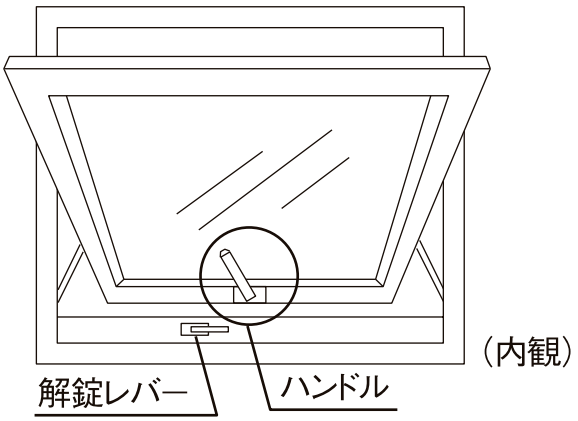
■ 障子の開閉

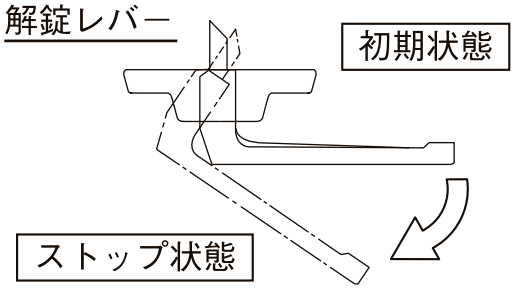
■開ける場合

①障子を開ける時は、ハンドルを上に120°回してください。ロックが解除されます。
②ハンドルを持って、静かに押してください。一段目でストップ装置が働いて、障子が固定されます。
③更に大きく開けたい時は、下枠の解錠レバーを左手で手前に引き、右手でハンドルを持って押し出してください。障子が動き始めたら、解錠レバーは戻してください。障子が固定されます。

■閉める場合

①障子を閉める時は、左手で解錠レバーを手前に引きながら、右手でハンドルを引いてください。
②障子が動き始めたら、解錠レバーは戻してください。
③障子を閉めたら、必ずハンドルを横向きに回して、ロックされたことを確認してください。





ブラインド内蔵たて軸回転窓の取扱い

□RM-100N･AT □RM-100N･TB

⚠注　意

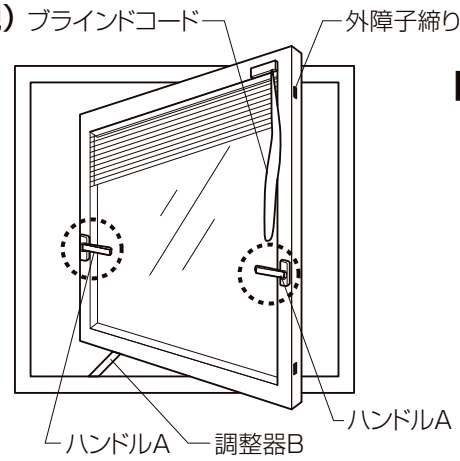
●風の強いときは窓を閉めて、必ず錠（ハンドル）をかけてください。錠をかけないと障子の急激な開閉で衝撃を受け、破損･落下等のおそれがあり、思わぬケガや事故につながります。

●障子の開閉時は、障子が動き出したら枠と障子の間で指を挟まないように、アームストッパーまたは調整器から手を離してください。手や指を挟み、思わぬケガにつながるおそれがあります。

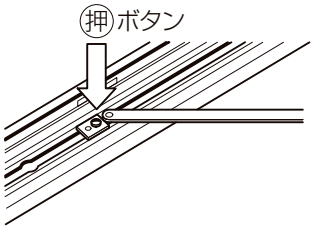
■障子の開閉

①左右のハンドルAを上に120°回します。
②ハンドルを持ち、障子を静かに回転させてください。一段目でストップ装置が働いて、障子が固定されます。
③下枠の調整器の「押」ボタンを押すと障子のストップが解除でき、障子が開閉できます。

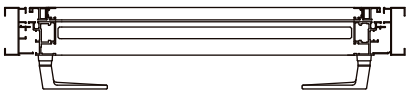
（内観）



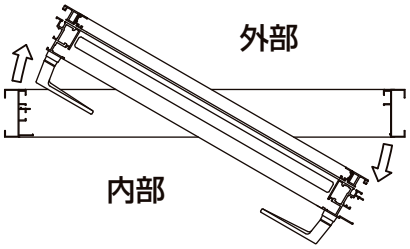
■調整器



①の状態



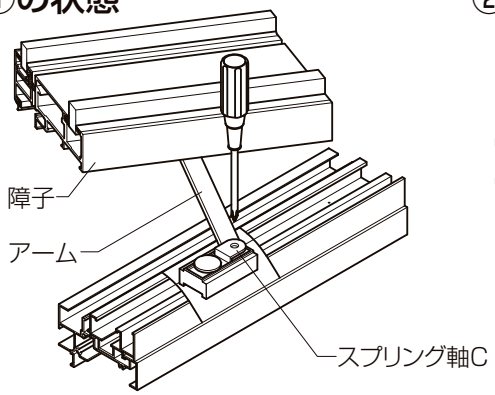
②の状態



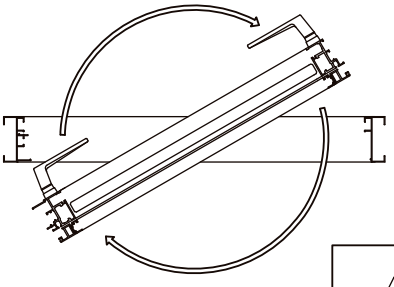
■メンテナンス時の操作方法

①障子を反転させる時、調整器Bのスプリング軸Cをドライバー等で押し、アームをはずします。
②障子を150°位に開きます。（W寸法の小さい窓は90°開きで可）
③室内側たてかまちの上下に外障子締りDが2ヵ所あります。そのつまみを押し上げて外障子を開きます。
④外障子を開きます。
反転した障子の縦の下部にある外障子締りを押し上げて（左右共）外障子アームがストッパーにあたるまで開きます。（約25°）
ブラインドおよびガラスの清掃作業に入る前に反転状態が安定していることを確認してから作業してください。
注）外障子を開けたままではバランスが悪いため絶対に障子を回転させないでください。

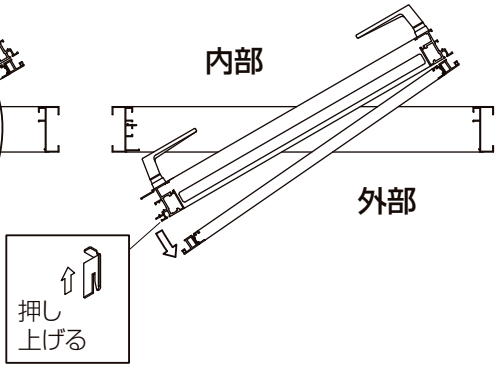
①の状態



②の状態



③の状態



ブラインド内蔵横軸回転窓の取扱い

□RM-100N･AT □RM-100N･TB

⚠注　意

●風の強いときは窓を閉めて、必ず錠（ハンドル）をかけてください。錠をかけないと障子の急激な開閉で衝撃を受け、破損･落下等のおそれがあり、思わぬケガや事故につながります。

●障子の開閉時は、障子が動き出したら枠と障子の間で指を挟まないように、アームストッパーまたは調整器から手を離してください。手や指を挟み、思わぬケガにつながるおそれがあります。

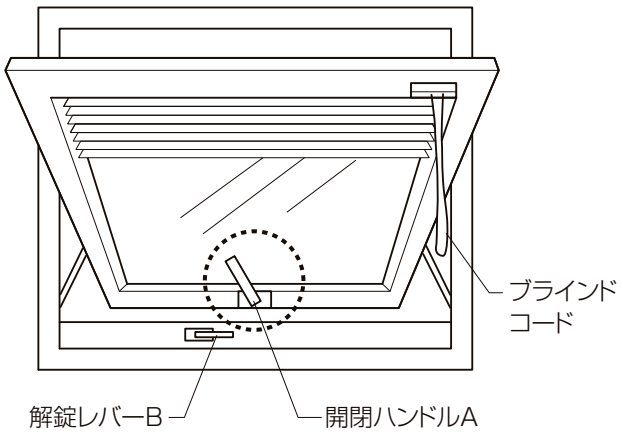
■障子の開閉

①開閉ハンドルAを反時計回りに120°回します。

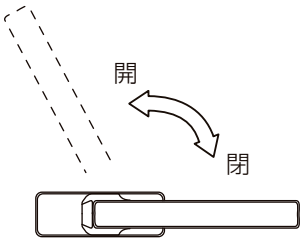
②ハンドルを持って障子を押し出すと1段目で障子がストップ（100mm）します。

③障子を閉める時、または2段目まで障子を開ける時は、解錠レバーBを手前に引いて障子を開閉します。
※解錠レバーBを引く時は、障子が急激に回転するのを避けるため　必ずハンドルAを持って作動させてください。

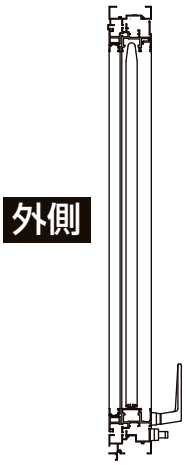
（内観）



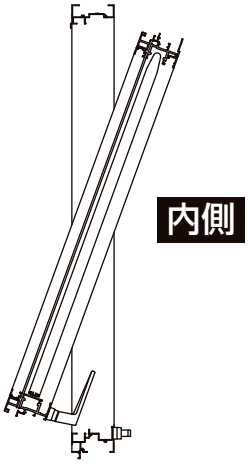
■開閉ハンドル



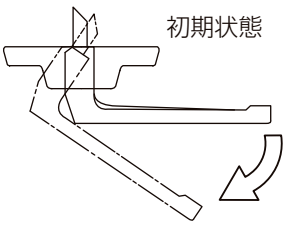
①の状態



②の状態



■解錠レバー



■メンテナンス時の操作方法

二人で操作してください。

①ハンドルAでロックを解除し、障子の換気位置でストップさせます。（解錠レバーは閉のまま）

②スライダーCとアームDを切り離します。
ドライバー等でスプリング軸Eを押しながらアームDを外します。 外れたアームは障子に沿うようにしておきます。（一人がアームを外し他の一人が障子を持っているようにしてください）

③障子の完全反転。
アームが外れてから最初75°ぐらいの位置で安定します。（軸が2軸目に移動する）さらに回転させて解錠レバーへ障子が激しく当 たらないように注意して、ゆっくり完全反転します。この時、ブラインドの操作コードを持って反転しないでください。（ブラインドは上げたままにしてください）

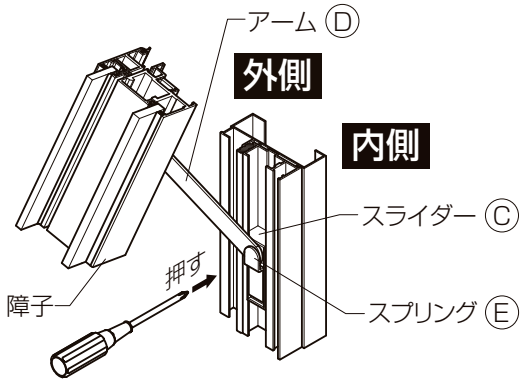
④外障子を開きます。
反転した障子の縦の下部にある外障子締りFを押し下げて（左右共）外障子アームGがストッパーにあたるまで開きます。（約25°）ブラインドおよびガラスの清掃作業に入る前に反転状態が安定していることを確認してから作業してください。
注）外障子を開けたままではバランスが悪いため絶対に障子を回転させないでください。

⑤外障子を閉めます。
ストップ状態の外障子アームを手で戻し、障子を閉めて外障子締りFで確実に固定する。

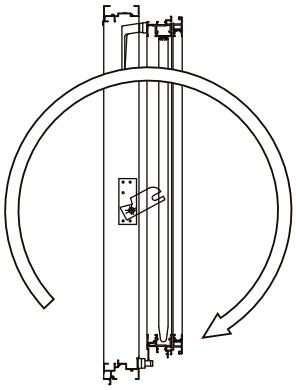
⑥スライダーとアームの締結。
障子全体を②の状態に戻し、先程とは逆にスプリング軸Eを押しながら、アームDの孔にスプリング軸Eを入れます。（カチッという音がする）

⑦ストップ解除→障子を閉めます。
解錠レバーBを引いてストップを解除し、障子を閉じる最後に解錠レバーBを押し戻します。

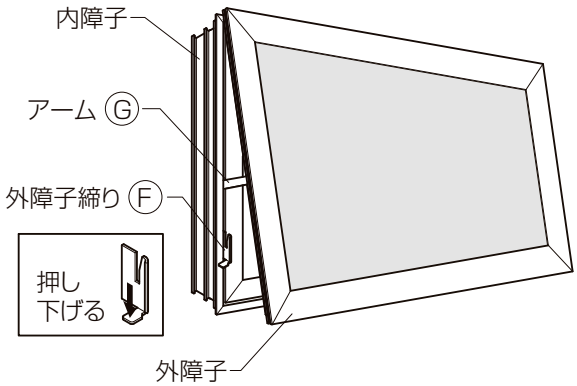
②の状態



③の状態



④の状態



ブラインド内蔵内開き窓の取扱い

□RM-100N･AT □RM-100N･TB

⚠注　意

●風の強いときは窓を閉めて、必ず錠（ハンドル）をかけてください。錠をかけないと障子の急激な開閉で衝撃を受け、破損･落下等のおそれがあり、思わぬケガや事故につながります。

●障子の開閉時は、障子が動き出したら枠と障子の間で指を挟まないように、アームストッパーまたは調整器から手を離してください。手や指を挟み、思わぬケガにつながるおそれがあります。

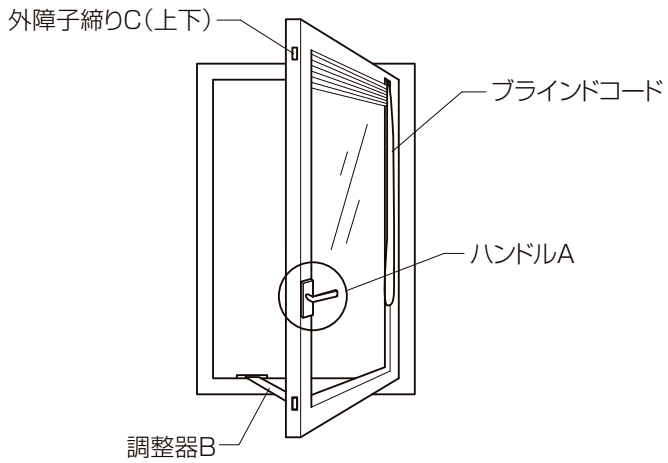
■障子の開閉

①ハンドルAを上に120°回します。

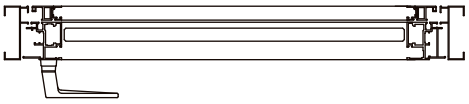
②障子を手前に引けば換気位置で軽くボールストップします。さらに引けば45°で障子が固定します。

③調整器Bのプッシュボタンを押すと障子のストップが解除でき障子が開閉できます。

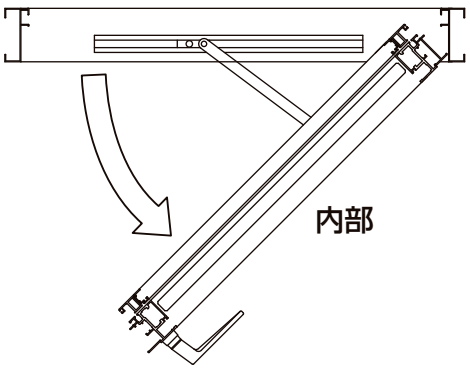
内観（R勝手）



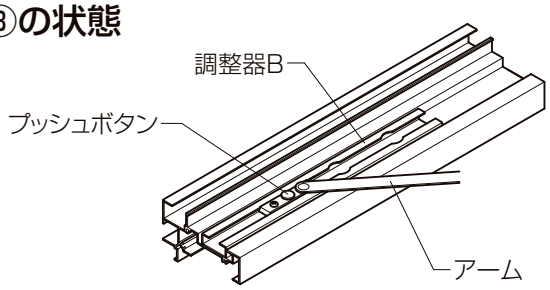
①の状態



②の状態



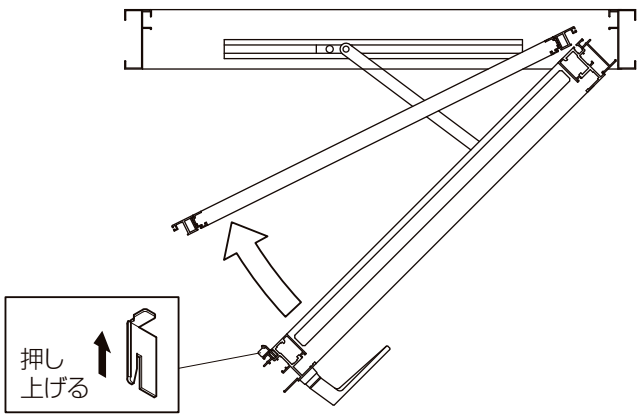
③の状態



■メンテナンス時の操作方法

室内側たてかまちの上下に外障子締りCが2ヶ所ありつまみを押し上げて外障子を開きます。

クリーニング時の状態

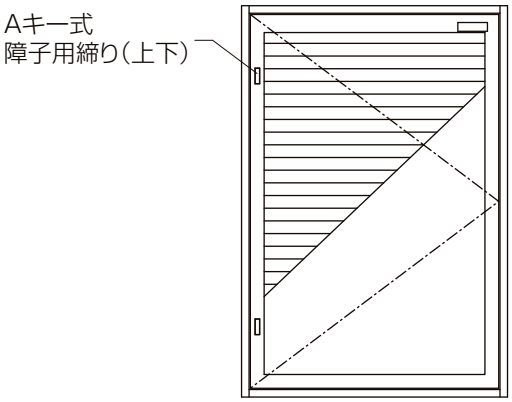


ブラインド内蔵FIX窓の取扱い

□RM-100N･AT □RM-100N･TB

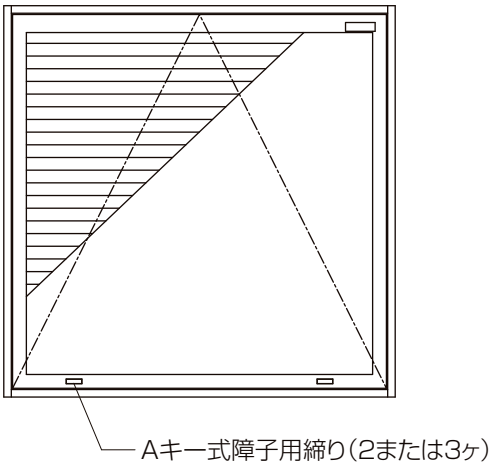
■丁番たて吊りタイプ

内観（R勝手）ー閉窓時



■丁番上吊りタイプ

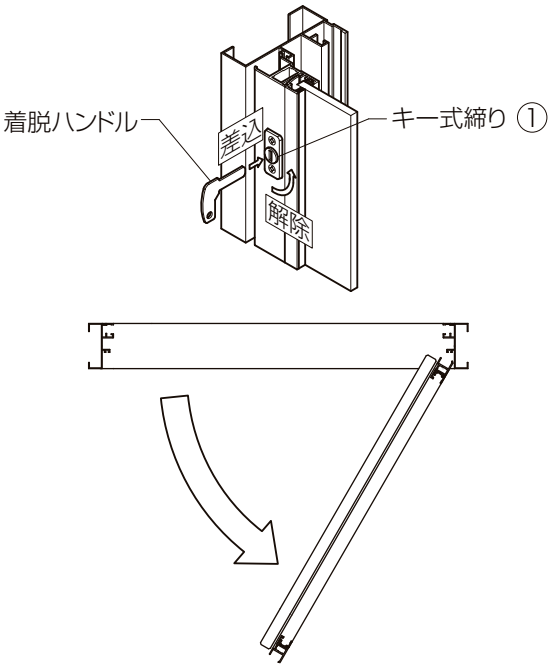
内観ー閉窓時



■メンテナンス時の操作方法

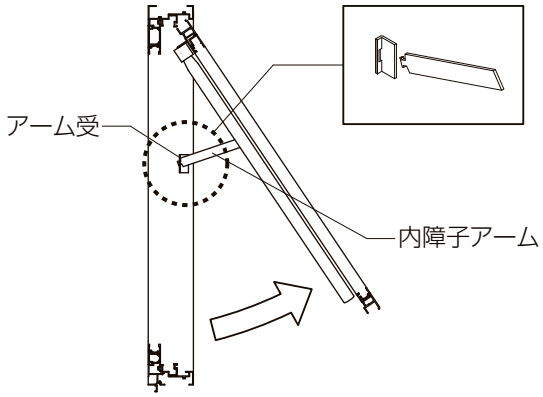
■丁番たて吊りタイプ

キー式締りAに着脱ハンドルを差し込み、ロックを解除し障子を開くとブラインドおよびガラス内面のクリーニングができます。



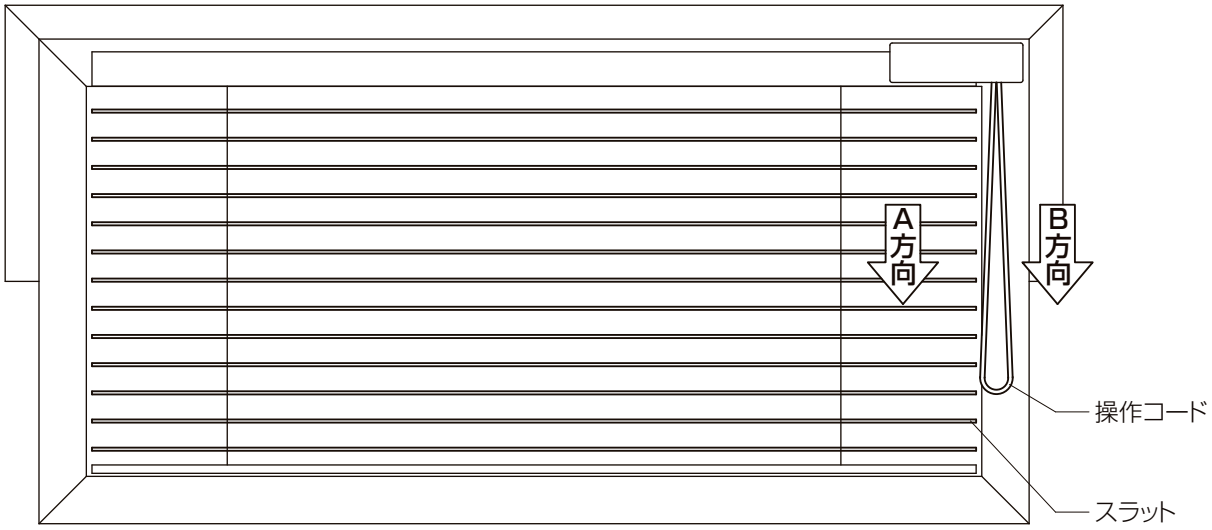
■丁番上吊りタイプ

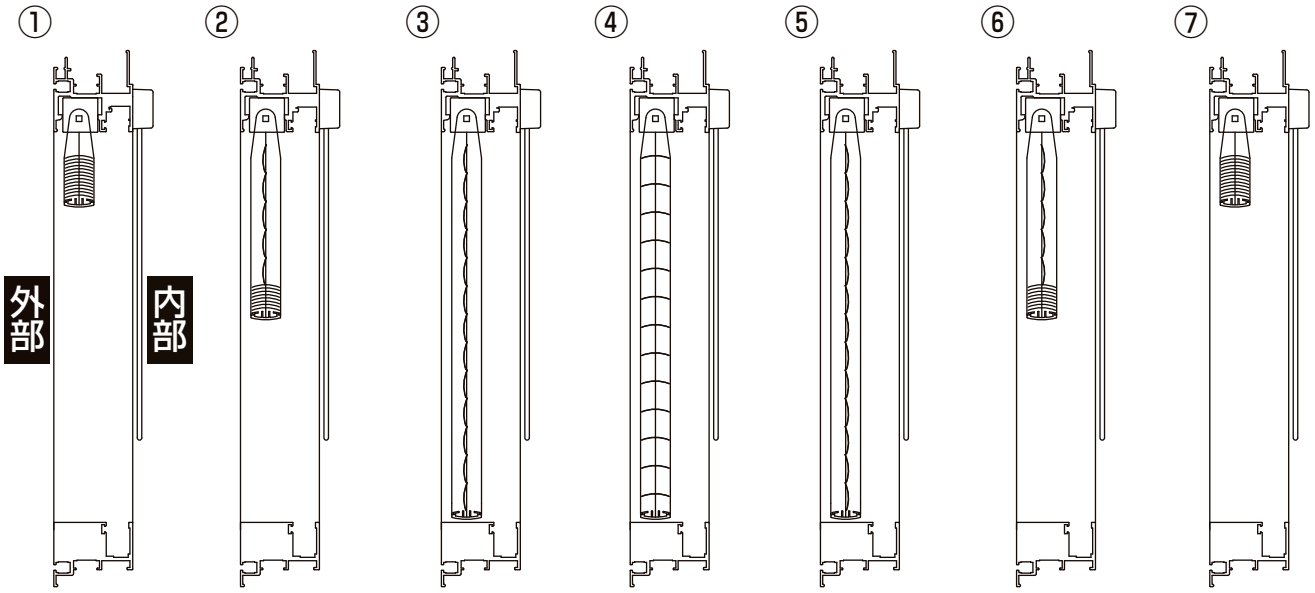
①キー式締りAに着脱ハンドルを差し込み、ロックを解除します。
②障子を引き上げてたてかまち内蔵の内障子アームを枠固定のアーム受の溝に固定します。(左右共)
③ブラインドおよび内面ガラスのクリーニングを行ないます。
※ ②の作業は二人で操作してください。



ブラインドの取扱い

■ブラインド･採光調整方法





1）操作コードをA方向に引くと、スラットは①の状態から②の状態となり、さらに引き続けるとブラインドは下降し終わり、③の状態となります。

2）操作コードをB方向に引くと、スラットは③の状態から④の状態に角度が変わり、⑤の状態となります。さらに引き続けると⑥の状態となり、⑦のたたみ込んだ状態となります。

3）②および⑥の状態からスラット角度を変える場合は、それぞれ操作コードBおよびAを引くことによって操作します。

4）ブラインドが故障した場合には、スラットの最下部分のラベルに連絡先が明示されていますので、連絡してください。

ツープレイオープンの取扱い　70mm見込

⚠注　意

●風の強い時は窓を閉めて、必ず錠（ハンドル）をかけてください。
錠をかけないと障子が急激な開閉で衝撃を受け、破損･落下等のおそれがあり、思わぬケガや事故につながります。

■ご使用上のお願い

●障子が開いている時は、ハンドルを回転させないでください。
ハンドルの破損の原因になります。

●ハンドルの回転が重い場合は、無理に回転させないでください。

●内開きにして清掃を行う場合は、足場を確保し注意しておこなってください。

■障子の開閉

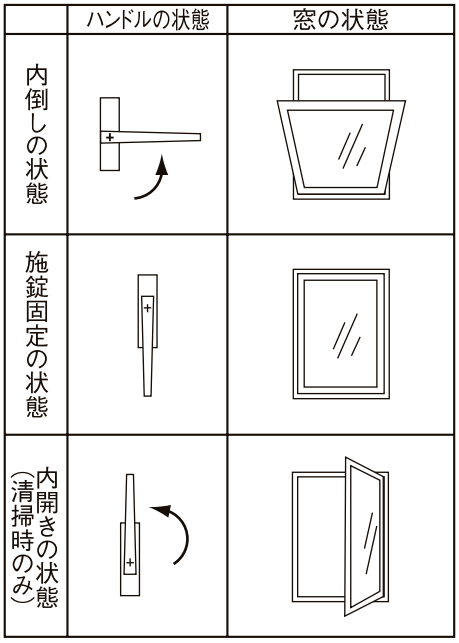
●ハンドル操作により内倒し･内開きの2つの機能が使分けできます。

●施錠時の状態
施錠の時は、必ずハンドルを下向きにしてください。

●内倒し状態（通常:換気用として使用）
ハンドルを90°回転させ水平にして静かに手前に引いてください。

●内開き状態（通常:清掃時のみに使用）
内開き止めの鍵が障子下端に付いている場合は鍵を解除してからハンドルを180°回転させ上向きにして静かに手前に引いてください。
･鍵を解除する場合は必ず施錠状態（ハンドル下向き）で行ってください。
･窓を閉めた後は必ず鍵をかけて使用してください。
･清掃時以外の内開きでの使用はおやめください。
･ガラスに▼マークが付いている窓は、非常進入口（火災時に消防隊が外部から進入できる窓）であるため内開き止めが付いていない場合がありますので、清掃時以外窓の開閉はおやめください。

●ツープレイオープンはH寸法が大きい場合やハンドルが下方についている場合、通常の操作だけでは障子の上部が完全に閉まりきらない場合があります。障子が完全に閉まっていない状態でハンドルを操作すると、誤作動や部品の破損につながりますので、たてかまち上部をささえ、障子が完全に閉まったことを確認してからハンドルの操作をお願いいたします。



ヘーベシーベフェンスターの取扱い（大型片引き窓・引違い窓）

■ご使用上のお願い

●障子を外すときは、特殊な工具（吸盤）が必要になります。（最寄りの弊社営業事業所へご相談ください。）

●窓を開けておくときおよび閉じているときは、必ずレバーハンドルを上にしてください。レバーハンドルを下げたままにすると、戸車がいたみやすくなり、動きが悪くなることがあります。

●開閉操作はゆっくり行ってください。急激な操作は、思わぬケガや事故につながります。

●閉める時、ハンドルと枠の間に手を挟まないように注意してください。

●清掃される場合は、足場をしっかり確保し、窓を身体の支えにしないでください。

●ハンドル開閉時に異音がある場合、障子ギア装置にシリコーンスプレーなどを塗布してください。

■障子の開閉

●開ける場合

①障子を開ける時は、ハンドルを180°回転して下向きにしてください。ロックが解除され、障子が浮き上がり、可動状態になります。

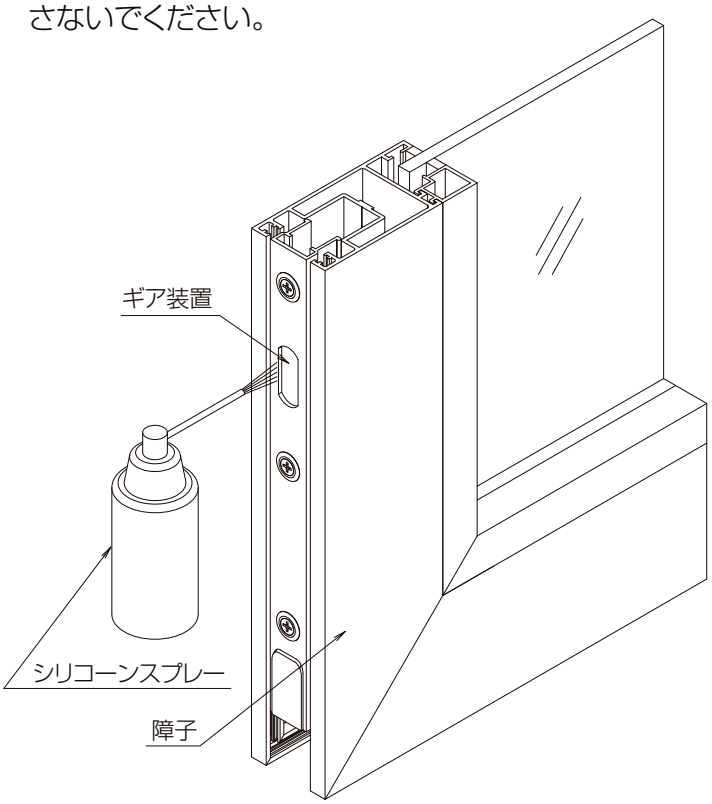
②ハンドルを持って、静かに移動させてください。急激な開閉は、事故や故障の原因になります。

●閉める場合

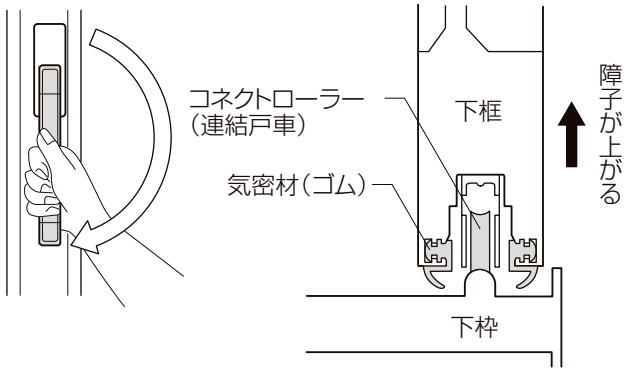
①障子を閉める時は、ハンドルを持って静かに閉めてください。

②ハンドルを180°回転させて、上向きにしてください。障子が下がりロックされます。

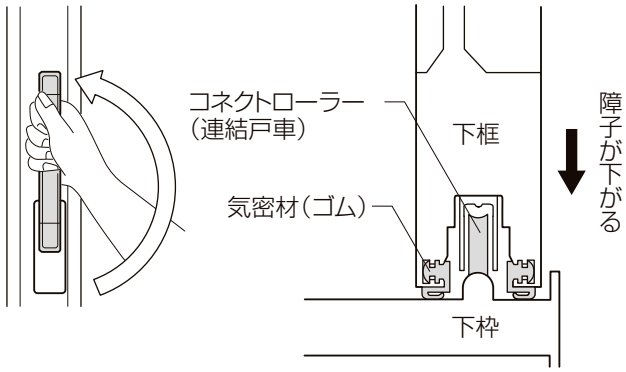
★ハンドルの回転が重い場合は、無理にハンドルを回さないでください。



■窓のロックを解除するとき



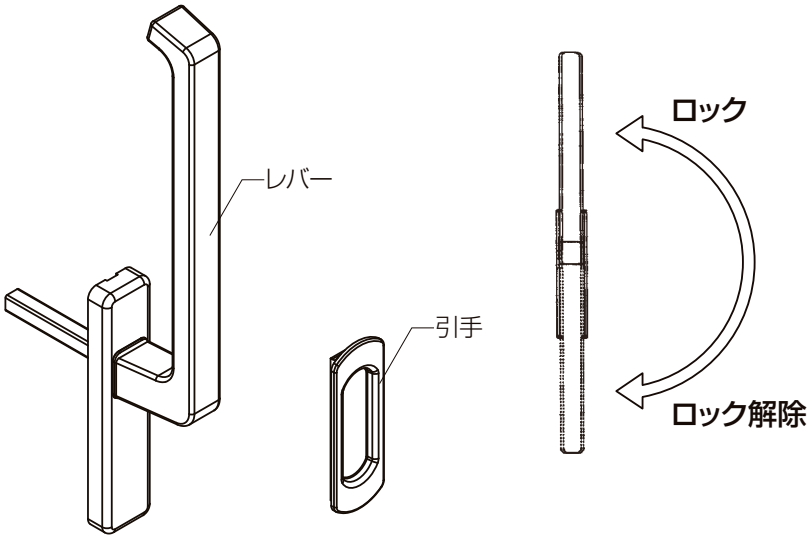
■窓をロックするとき（閉鎖、開放固定）



■レバーハンドルの種類（代表例）

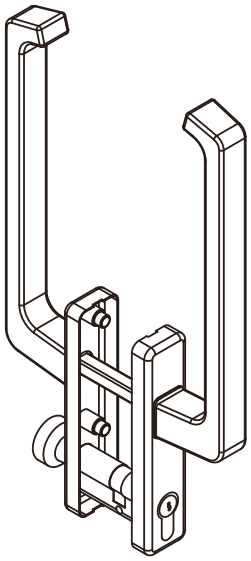
■標準型レバーハンドル

●レバーハンドルを180°回転させることにより、ロックとロックの解除ができます。



■キー付きレバーハンドル

●キーを操作することによりレバーハンドルを固定することができます。

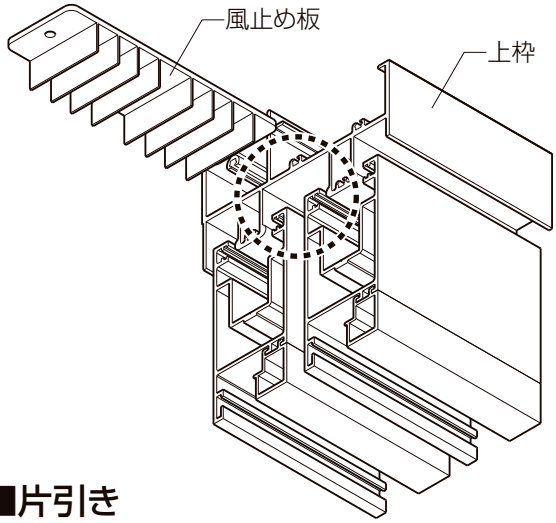


■風止め板

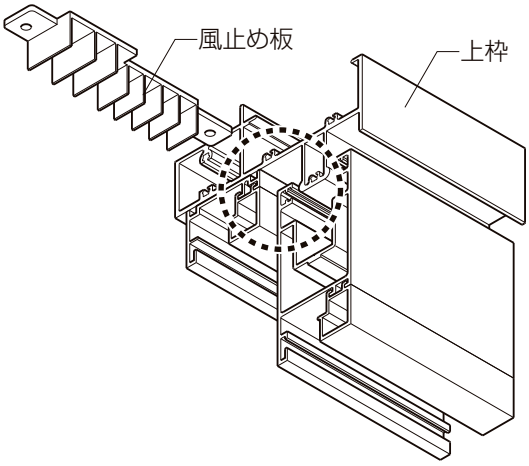
●召合せ上部からの風の進入を防ぐためにサッシの上枠に取付けられている、EPDMゴム製の部品です。

※位置がずれていたら、元の位置に戻してください。部品がなくなった場合は、取寄せてください。（障子を外すときは取外してください。）

■引違い



■片引き



ヘーベシーベフェンスター用網戸の取扱い

⚠注　意

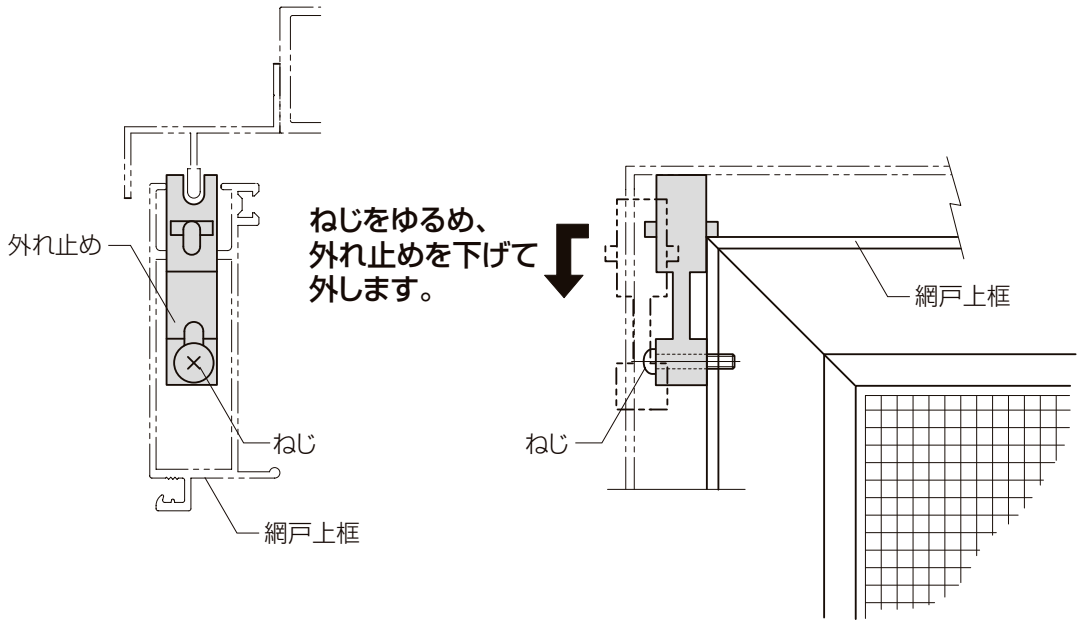
●網戸を窓枠に取付けたときは、表示ラベルに従って外れ止め部品を必ずかけてください。正しくかかっていないと網戸の落下による事故（人身、物損）が発生するおそれがあります。またご使用中、外れ止め部品がずれることがあります。時々点検してください。

■ご使用上のお願い

●この製品は防虫用であり、人の転落防止用ではありません。網戸によりかかったりしないでください。

■外れ止め金具のセット方法

①ねじをゆるめます。
②外れ止めを下げます。
③網戸を持上げ、建込みます。
④外れ止めを上げます。
（ダボを上框の位置にのせます。）
⑤ねじを締めます。
⑥網戸を持上げ、外れないことを確認してください。



ウィングオープンの取扱い

□ウィングオープン

お願い

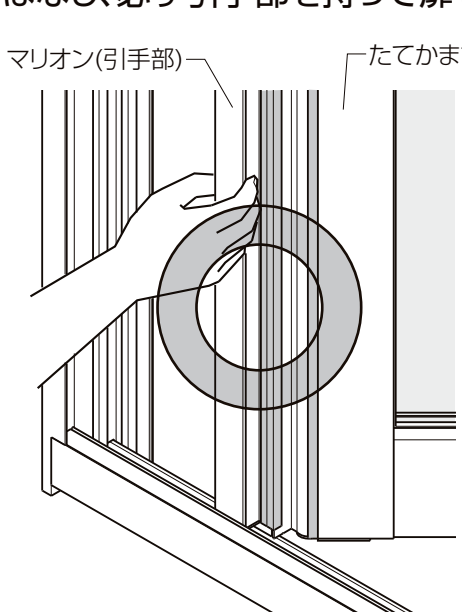
●ドアの開閉時には、丁番側のすき間に手を置かないでください。指をはさんで大ケガのおそれがあります。特にお子さまにはご注意ください。

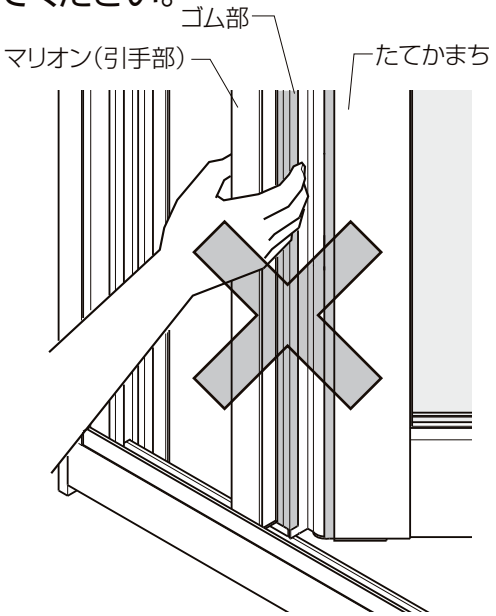
●風の強いときはドアを閉めて、必ず錠をかけてください。風によりドアが急に開閉することがあり、ドアの破損やケガにつながるおそれがあります。

●ドアの開閉にあたっては、必ずハンドルを持って操作してください。ハンドルから手を放したり、ドアの先端に手を置くと、突風等でドアが急に閉まったとき、ドアと枠の間で指を挟み、思わぬケガをするおそれがあります。特にお子さまにはご注意ください。

■ご使用上のお願い

●扉を閉めるときは、マリオンと折戸たてかまちの間に指をはさまれないように、ゴム部から指をはなし、必ず引手部を持って扉を閉めてください。





●折戸が開いたときはストッパーをかけて、必ず固定してください。よりかかったりすると障子が不意に動いたりすることがあります。

●折戸を開けたら人の接触、風などで折戸が閉まらないよう、ストッパーをかけて折戸を固定してください。

●折戸を閉めたら人の接触、風などで折戸が開かないよう、必ず施錠して折戸を固定してください。

●3枚建のドア部は外部ハンドル付きですので、防犯上必ず施錠してください。

●防犯仕様で障子を全開にするときは必ずストッパー部品を解除してから操作してください。部品が破損するおそれがあります。また、ストッパー位置（109頁、図20-2）よりも大きく開けないでください。部品同士が当って破損するおそれがあります。

■操作方法

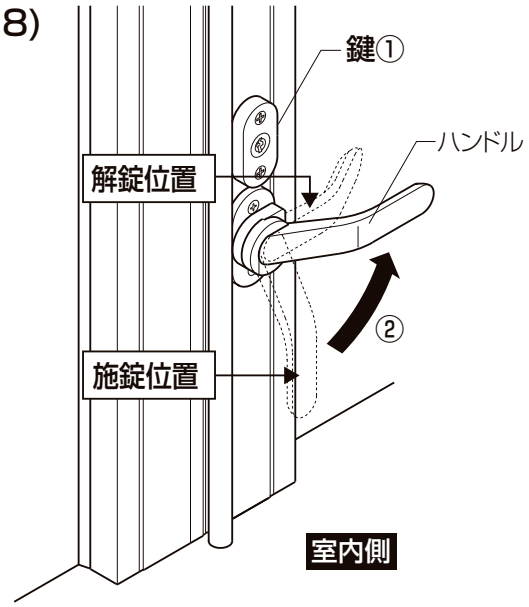
1折戸を開けるとき

①鍵付きの場合、鍵で解錠します。
②ハンドルを90°回します。(解錠位置)(図18)
③20cmほど外へ押出します。(図19)
④ハンドル部を持ってスライドさせ全開します。
⑤ストッパーつまみを下げます。(図20-1)
⑥折戸がうごかないことを確認します。

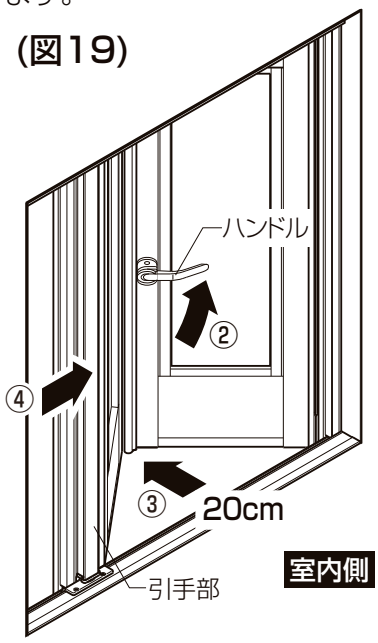
※折戸が開いている状態でハンドルを解錠位置から回そうとすると、安全装置が働いてハンドルが回らなくなりますので無理に回したりしないでください。破損や故障の原因になります。

※折戸を施錠しているとき以外は、ハンドルを必ず解錠位置にしてください。その他の位置で折戸の開閉を行うと、ハンドルや折戸が破損するおそれがあります。

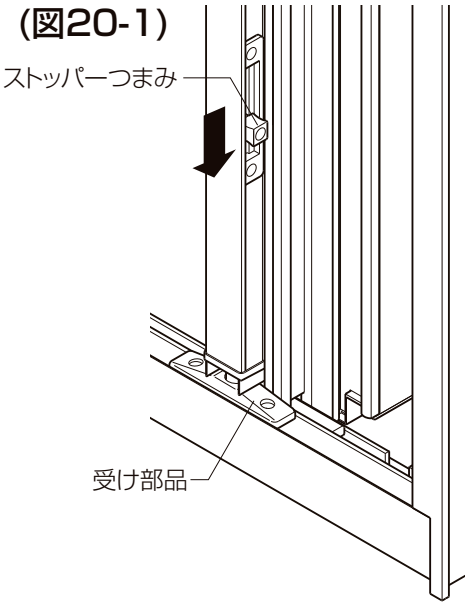
(図18)



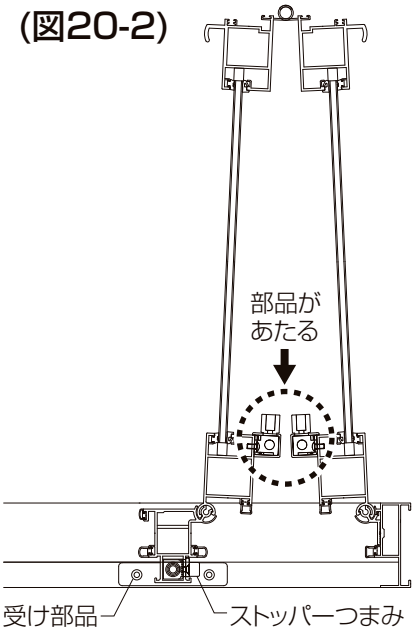
(図19)



(図20-1)



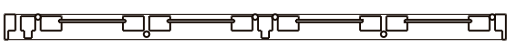
(図20-2)



【4枚建折戸(片引き)の開け方】

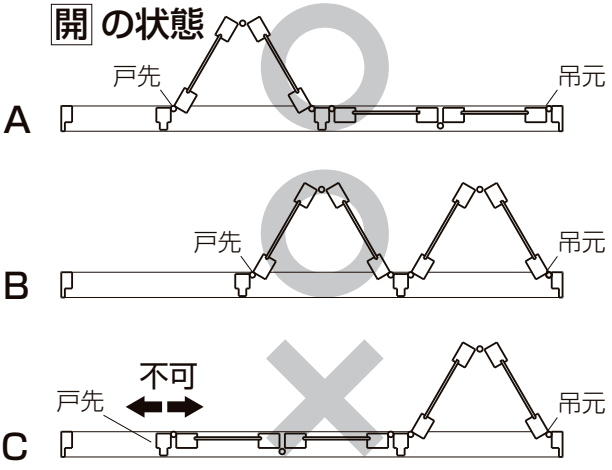
※4枚建の折戸(片引き)は、右図A、Bのように戸先側から順番に開けてください。
Cの様に吊元側から開けないでください。

閉 の状態



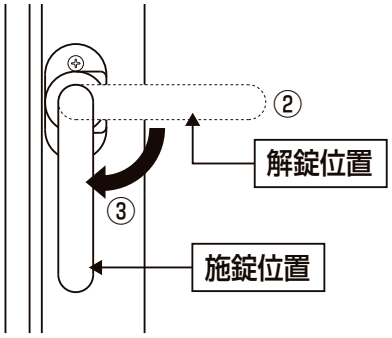
(図21)

開 の状態

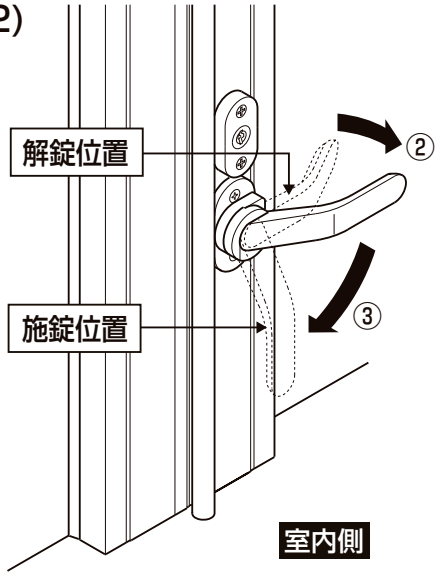


2折戸を閉めるとき

①折戸のストッパーを上げてください。
②ハンドルを手前に引きます。(図22)
③ハンドルをそのまま下へ回し、ハンドルを垂直にします。
※鍵付(オプション品)の場合は必要に応じて、その施錠をしてください。



(図22)

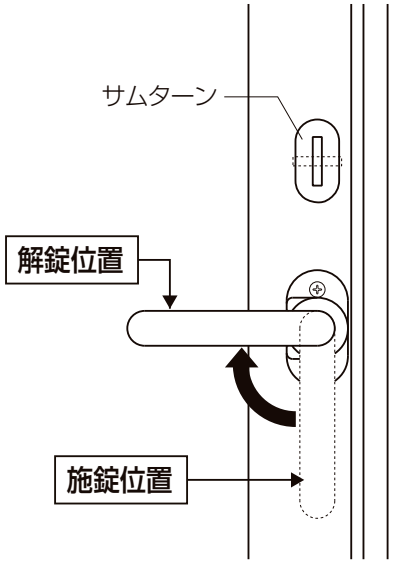


3ドアを開けるとき

①サムターンを垂直にし解錠します。
②ハンドルを上に90°回してください。(解錠位置)

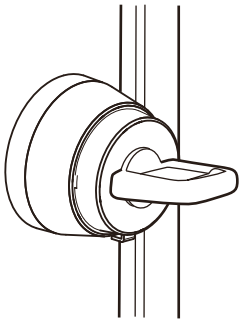
4ドアを閉めるとき

●ドアを開けるときと逆の操作をして施錠します。

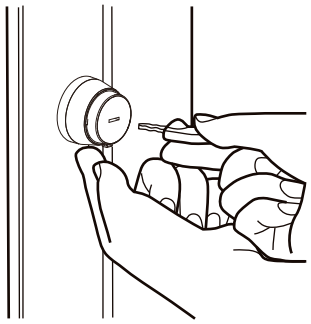


5セキュリティサムターンの操作(オプション)

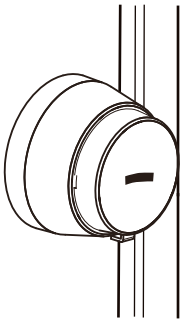
●防犯のため、就寝時や外出時は、室内側のサムターンを取外してください。
●室内側に付いているサムターンは、ボタンを押すだけで簡単に取外すことができます。万一ガラスを割られて外から手を入れられても、サムターンがないため鍵が開けられないシステムです。(なお、サムターンのキーで外部シリンダーは操作できません)



サムターンが装着されている状態



シリンダー下部のボタンを押すだけでサムターンを取外せます。

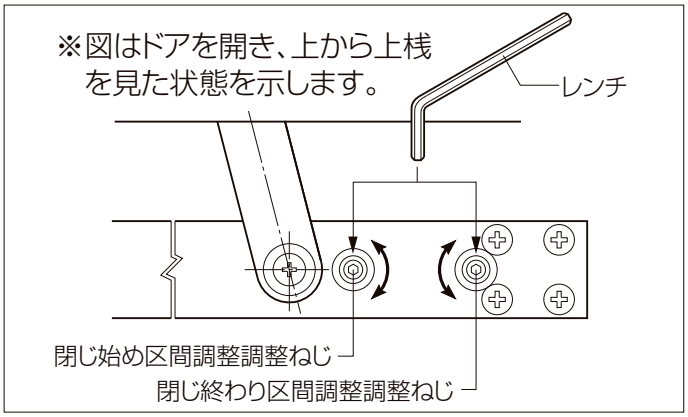


サムターンを取外した状態

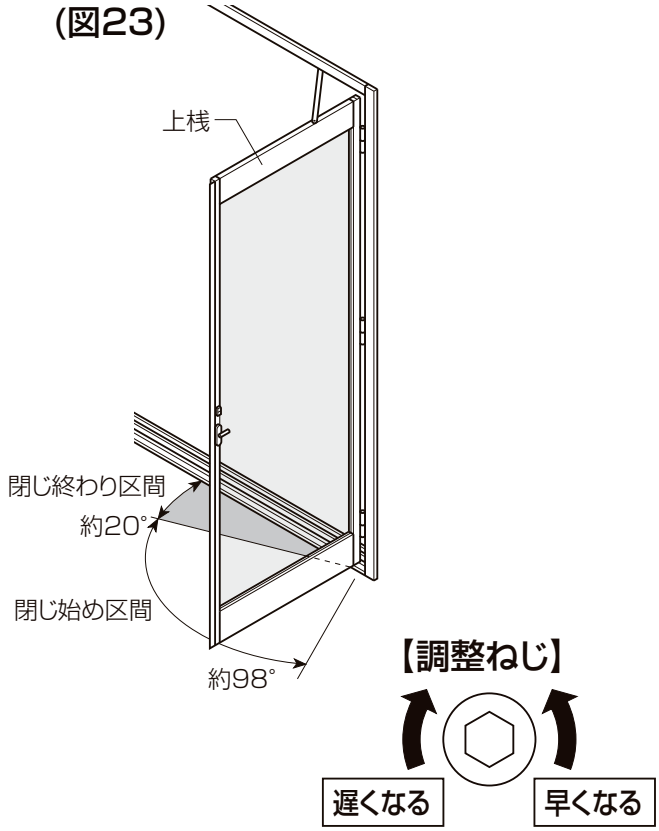
■調整方法

1ドア閉じ速度調整

●閉じ速度は引渡し時に調整しておりますが、使用中に変化してきますので定期的な点検が必要です。
●速度調整区間は閉じ始めと閉じ終わりの2区間に分かれています。
①閉じ始め区間を調整します。
②閉じ終わり区間を調整します。
※調整は六角レンチ（付属）で調整します。
※速度調整ねじは3回転以上回さないでください。
※ドアクローザーはメーカー保証期間が2年になっております。



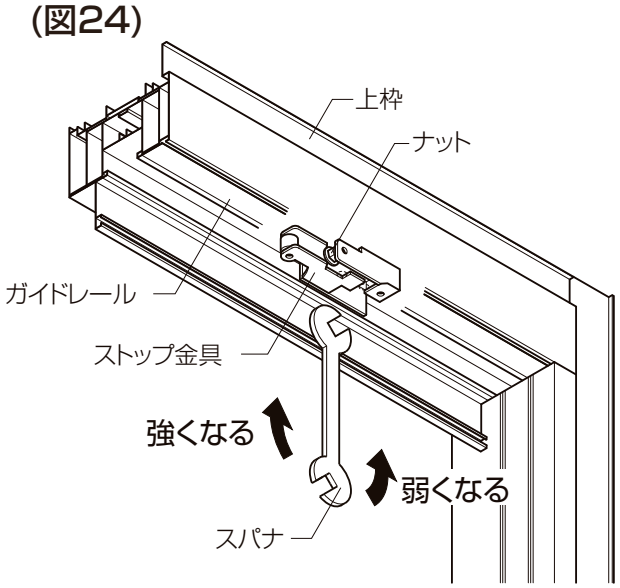
(図23)



2ストップ保持力調整

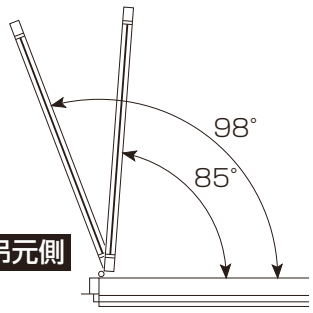
●ストップ保持力を調整したい場合は、ストップ金具のナットをスパナ（付属）で回転させます。

(図24)

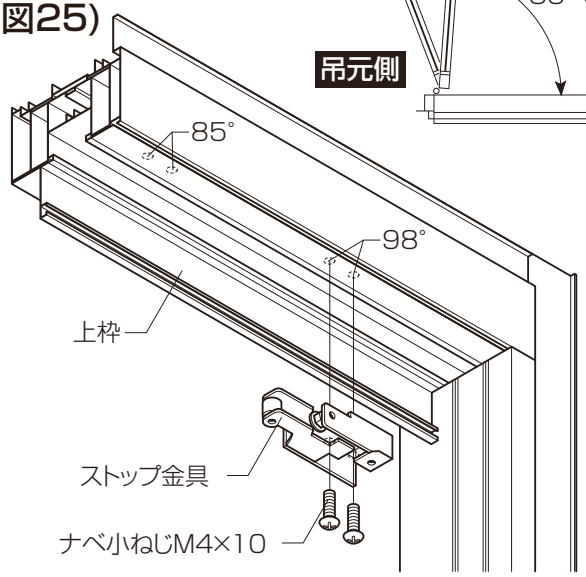


3ストップ角度の変更方法

●開き角度は標準で85°に設定されています。ストップ金具を吊元側に移すと開き角度は98°に変更できます。
①ストップ金具のねじを外します。
②ストップ金具を吊元側に加工穴に合わせます。
③ねじでストップ金具を固定します。



(図25)



シーガルウィンドウの取扱い

□シーガルウィンドウ

⚠注　意

●風の強いときは窓を閉めて、必ず錠（締り装置）をかけてください。錠をかけないと障子が急激な開閉で衝撃を受け、破損･落下等のおそれがあり、思わぬケガや事故につながります。

■ご使用上のお願い

●障子を開けるときは、必ず締り装置を解除(ロック、レバーを開の位置)してから行ってください。障子や金物が破損するおそれがあります。

●障子の開けきり、閉めきり付近において、ハンドルの回転が重くなったら、それ以上回さないでください。破損のおそれがあります。特に開放方向では、障子は50°程度しか開きませんのでそれ以上回さないでください。

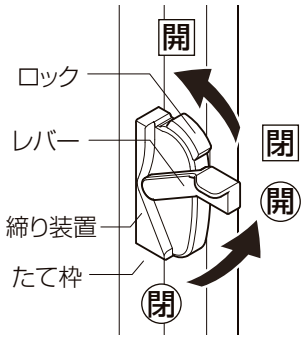
●障子を閉めた後は必ず錠(締り装置)をかけてください。障子が引き寄せられず、サッシの諸性能(耐風圧、気密、水密等)が保持できません。

●雨天の場合は障子を開けたままにしないでください。
雨水の浸入が原因で思わぬところから水漏れをするおそれがあります。

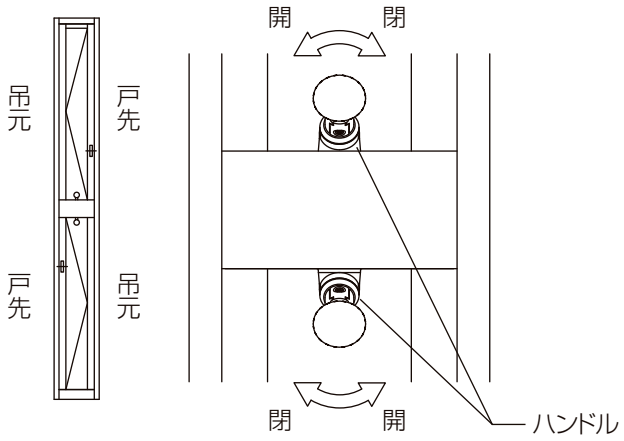
●障子が開いた状態で、障子をもって内外にゆすると動きます。
これは、機構上によるもので不具合ではありません。

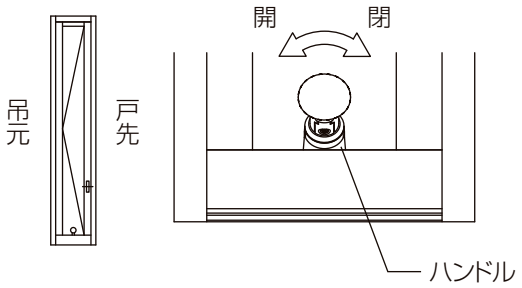
■障子の開閉

①錠(締り装置)のロックを 開 位置にし、レバーを (開) 位置にして開錠してください。
②ハンドルを回すと障子が開きます。(約50度)
③ハンドルを逆に回すと障子が閉まります。(障子の開く向きとハンドルを回す方向は下図の通りです。障子の戸先-吊元が逆の場合、ハンドルを回す方向は下図とは逆になります。)
④障子を閉めたら必ず締り装置のレバーを (閉) の位置にしてください。



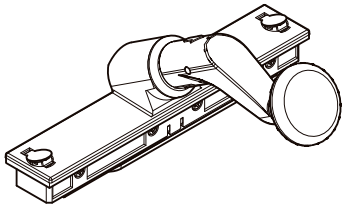
<締り装置>



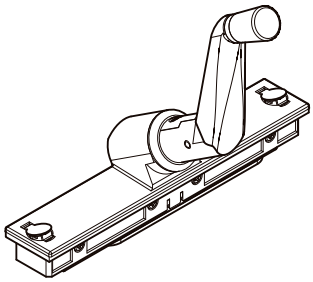


■ハンドルの種類(オプション)

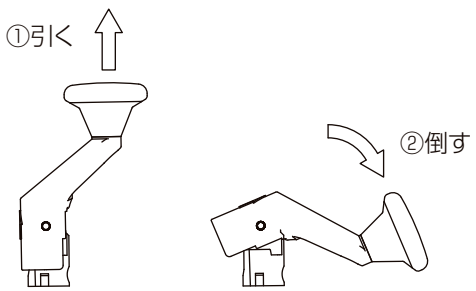
■オプションハンドルA



■オプションハンドルB



●オプションハンドルは下図のようにハンドルを引くと折りたためます。



※開閉の際はハンドルを引いた状態のまま操作しないでください。故障の原因になります。

シーガルウィンドウ用網戸の取扱い

□シーガルウィンドウ

⚠注　意

●網戸を外したままにしないでください。また網戸無し仕様時に取り付ける溝カバーは外さないでください。雨漏りの原因になるおそれがあります。

■ご使用上のお願い

●網戸によりかかったり、網を押したりしないでください。網がたるんだり、網戸本体や網が外れるおそれがあります。

●網戸の取付け、取外しは本取扱い説明書内の手順･注意事項を守ってください。
網戸を破損するおそれがあります。

●網戸の網や網を押さえているアタッチメントおよび網戸溝カバーは樹脂部品です。
直接日光があたったり、ご使用いただいている立地条件や自然環境によって、劣化が早く進むことがあります。時々点検をして、網の破れ、大きなたるみ、網の外れ、アタッチメントのひび割れなどがないか確認してください。異常があれば早めに交換してください。

■網戸の防虫性について

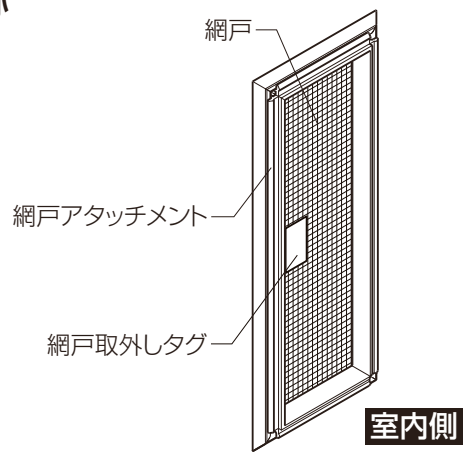
●網戸の防虫性は、網目より大きい蚊などを防ぐ効果があります。しかし、使用環境によっては、網目より小さい虫やはい回る虫などの防虫性が劣る場合があります。

■網戸の特徴

●本製品はお客様が網を外して水洗いや破れによる交換（取外し･取付け）できる構造にしていますので、お客様が簡単に交換できます。そのため、一般的な網戸とは違い、網の張り状態を緩めに設定しています。

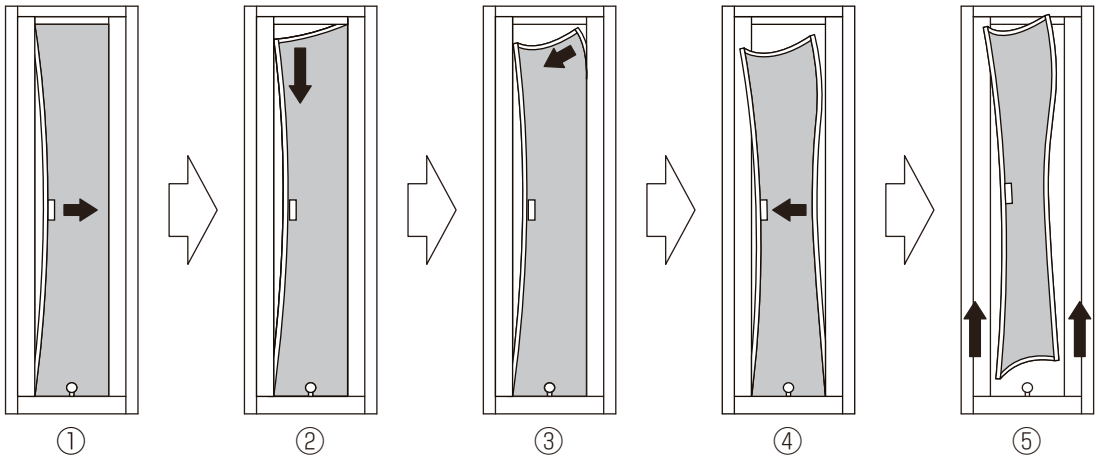
■網戸付き仕様

■網戸各部の名称



■網戸の取外し

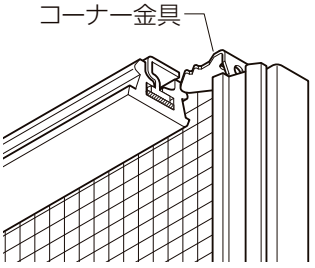
●網戸の取外し順序



①網戸取外しタグを持ち、横方向に引っ張り、たてのアタッチメントを外してください。
※アタッチメントは上下コーナー部付近を除き全長を外してください。
②次にたてのアタッチメントを下方向へゆっくりと引っ張り、上のアタッチメントのコーナー部を外してください。
③さらに上のアタッチメントをゆっくり横方向に引っ張り、反対側のたてのアタッチメントのコーナー部を外してください。
④たてのアタッチメントのコーナー部が外れたら、残りの部分は横方向に引っ張って外してください。
⑤両側のたてのアタッチメントが外れたら、下のアタッチメントのコーナー部付近のたてのアタッチメントをゆっくり上方向に引っ張って、下のアタッチメントを外してください。
(上図はハンドルが下側にある場合を示します。ハンドルが上側にある場合は、上下のアタッチメントを外す順序を逆にしてください。)

お願い

※アタッチメントは、手前に引かないでください。
横方向、上下方向ともまっすぐゆっくりと引っ張ってください。
外し方により網戸のコーナー金具が外れたり、破損する場合があります。
コーナー金具が外れたり破損した場合は網戸の交換をしてください。

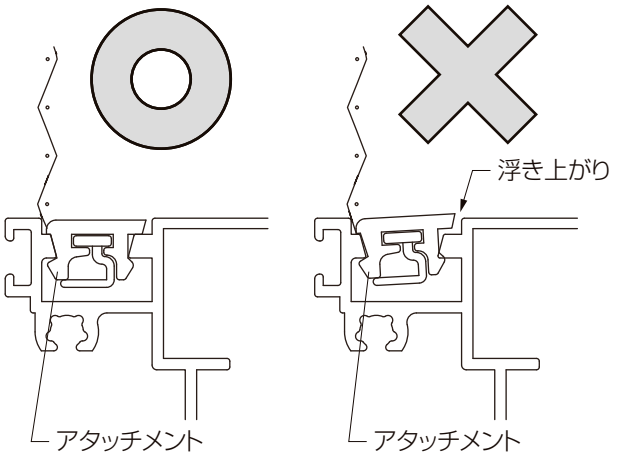


■網戸の取付け

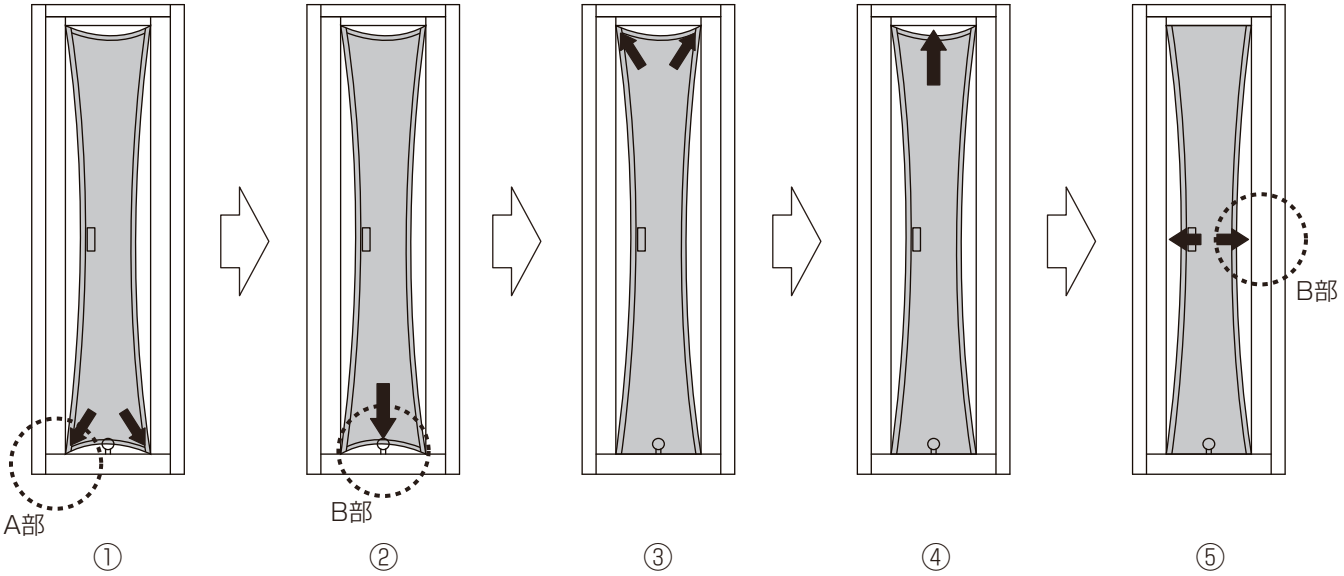
お願い

※取付け前に、サッシ枠の溝部のゴミを除去してください。

※アタッチメントは、最後まではめ込んでください。サッシ枠よりも浮き上がっている状態では、最後まではめ込まれていません。
この場合、気密性能が低下し、サッシの諸性能(気密、水密等)が保持できません。



●網戸の取付け順序



網戸アタッチメントを、枠の面の溝部へはめ込んでください。

①アタッチメントコーナー部を、ハンドルがある側の枠のコーナー溝部へ押込みはめ込んでください。(A部)
※アタッチメントは樹脂製のため、たわませながらはめ込みできます。

②残りの直線部をはめ込んでください。(B部)

③④同様にハンドルがない側の枠の溝部にアタッチメントをはめ込んでください。

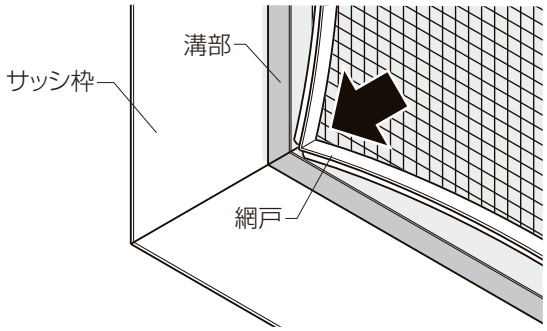
⑤両たてのアタッチメントをはめ込んでください。(B部)
※コーナー部の網が、シワにならないようにアタッチメントをはめ込んでください。

お願い

■A部詳細図

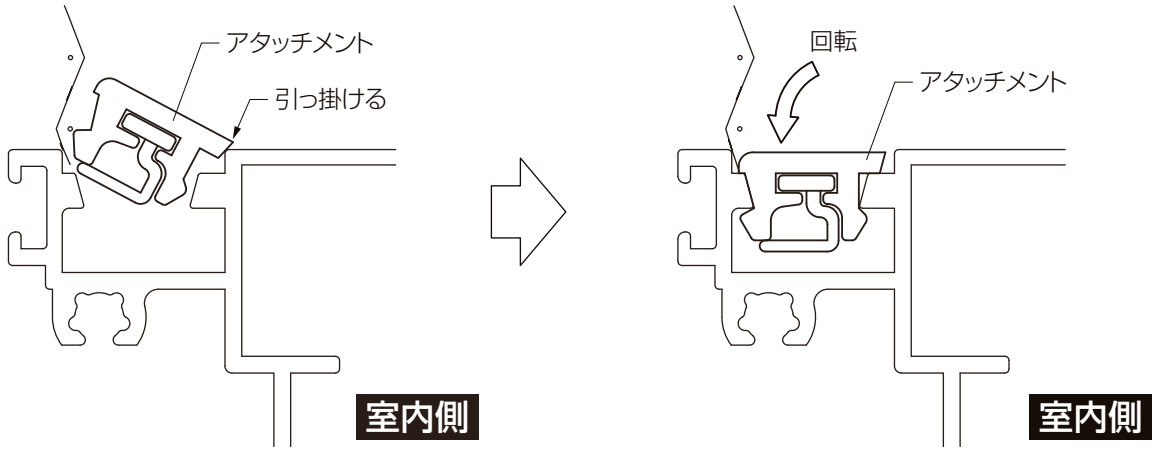
※アタッチメントは、ねじらないでまっすぐはめ込んでください。

※アタッチメントの角を枠の角に合わせてください。



■B部詳細図

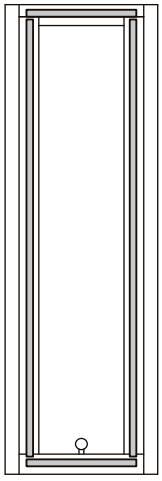
※室内側を先に引っ掛け、回転させてはめ込んでください。



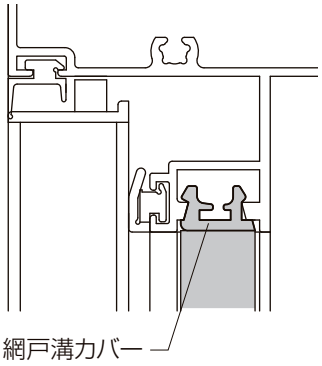
■網戸無し仕様

■網戸溝カバー

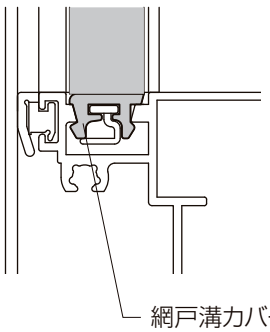
網戸を取付けない場合には枠の溝部にカバー材がはめ込まれています。



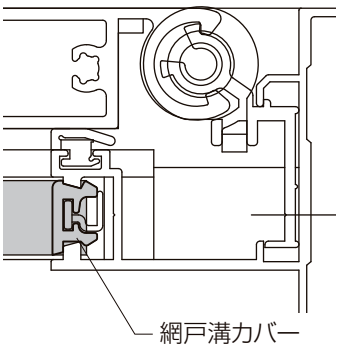
■上部



■下部



■たて部



シーガルスリットの取扱い

□シーガルスリット

お願い

●降雨時は、必ず錠（ハンドル）をかけてください。錠をかけないと雨水が室内に入るおそれがあります。

■ご使用上のお願い

●ハンドルを回すときは商品に張付けしてあります操作ラベルの記載手順をお守りください。

●ステンレス網に、ほこりをためないよう、時々清掃してください。
十分な換気が出来なくなるおそれがあります。

●ステンレス網の清掃は先端ブラシ付きの掃除機で吸い取るか、雑巾で軽く拭いてください。先端ブラシの無い掃除機で吸ったり、拭く時に網を強く押すと、網が変形したり外れるおそれがあります。

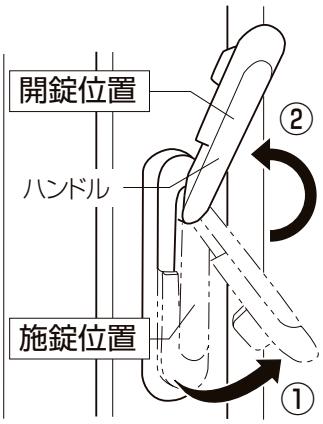
●ステンレス網を清掃する際に外すカバーは、まっすぐ引っ張らず、下端からカバーをねじりながら片側ずつはめ合いを外してください。
まっすぐ引っ張ると、カバーの変形や部品が破損するおそれがあります。

■換気装置の開閉

1換気装置を開けるとき

①施錠位置のハンドルを手前に引きます。
②そのまま、矢印の方向に180°、開錠位置までハンドルを回します。

これで換気装置は開いた状態になります。
（矢印の方向は操作ラベルに記載されています。）



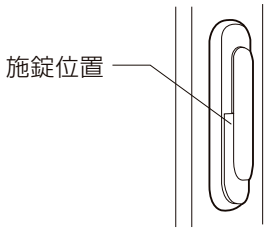
2換気装置を閉めるとき

●逆の手順でハンドルを操作して施錠位置に戻して、換気装置を閉めます。

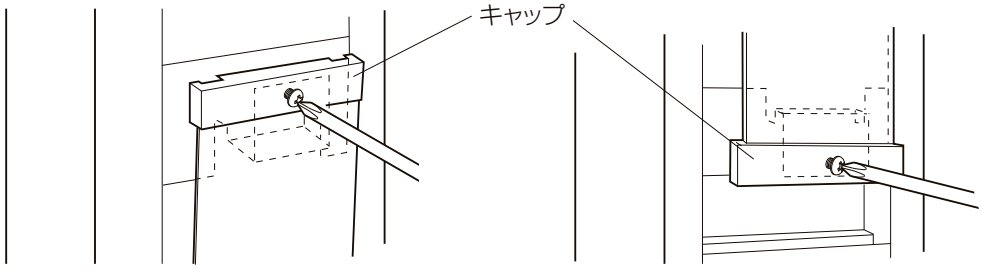
■ステンレス網の清掃方法

❶カバーの外し方

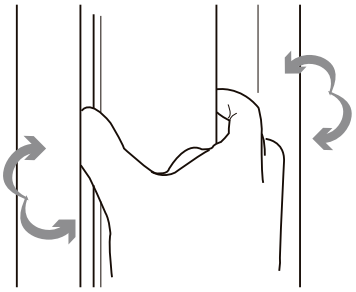
①ハンドルが施錠位置にあることを確認してください。

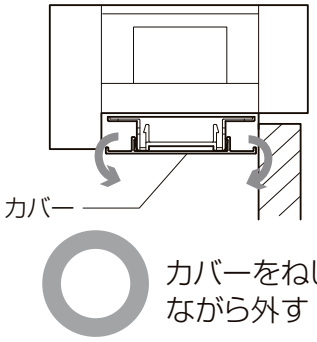


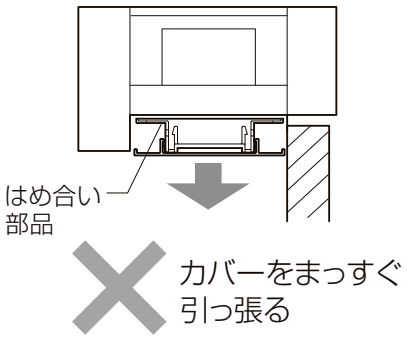
②カバー上下のキャップのねじを外してください。
（外したねじは清掃後につけ直すまで、無くさないように保管してください。）



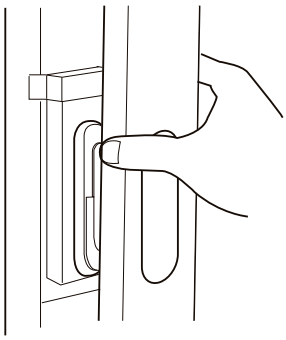
③カバーを持って下端からねじりながら片側ずつはめ合いを外してください。
まっすぐ引っ張ると、カバーの変形や部品が破損するおそれがあります。





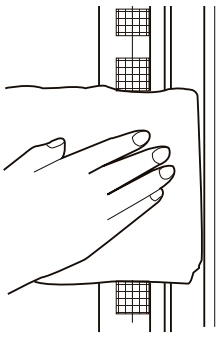


④はめ合いがすべて外れたら、カバーを
手前に引いて取り外してください。



❷清掃方法

●ステンレス網を先端ブラシ付きの掃除機で吸い取るか、雑巾で
軽く拭いてください。
網を強く押すと、変形したり、外れるおそれがあります。



インプラスの取扱い

□インプラス

⚠注　意

「インプラス」は、既存外窓の内側に取り付けることを前提とした商品です。
外窓と比較すると耐風圧強度や水密性能が低いため、
以下のことに注意してご使用ください。

●風が強い時は、「インプラス」の外側の外部サッシも必ず閉めてください。

「インプラス」は既存外窓の内側に取り付けることを前提としていますので、耐風圧強度は外窓より低くなっています。外窓が開いている状態で「インプラス」に強風が当たると、障子が脱落して事故やケガにつながることがあります。

●雨が降りこむときは、外部サッシも閉めてください。

「インプラス」は水密性能は考慮されていません。外窓が開いている状態で「インプラス」に雨が当たると、室内側に漏水する可能性があります。

●上下枠や額縁などにぶらさがったりしないでください。

重さによって破損や脱落したりして、事故やケガにつながることがあります。

●ガラス障子に寄りかからないでください。

障子がはずれたり、ガラスが割れたりして、事故やケガにつながることがあります。

●引違い窓の障子の建て込み･建付け調整後、必ず外れ止めを取付けてください。

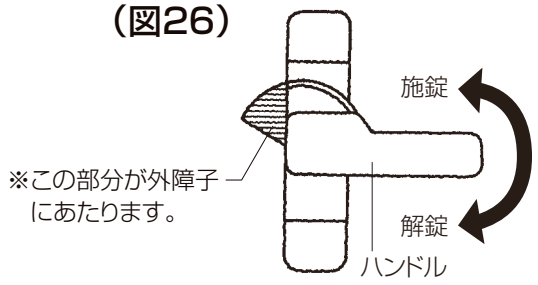
障子が落下するおそれがあります。

■ご使用上のお願い

●マンションなどで、台風など特に強風時に、外部サッシをしっかり閉めた上で、「インプラス」を3cm以上開けてください。
台風などの強風時に玄関や外気に面した窓が開くと、急激な負圧が「インプラス」にかかり、障子が外れるおそれがあります。

●オプションでクレセントが取付いている場合は、ハンドルを下に180°回転させてから障子の開閉を行ってください。ハンドルを途中で止めると、障子に当たり形材にキズを付けたり、部品が破損したりします。（図26）（ロック付き、キー付きはその解除を先に操作してください。）

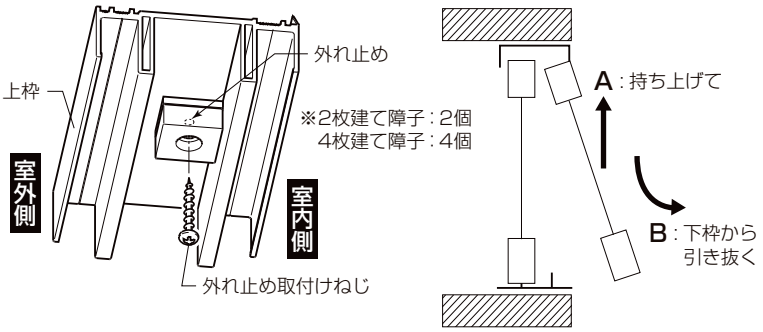
（図26）



□インプラス

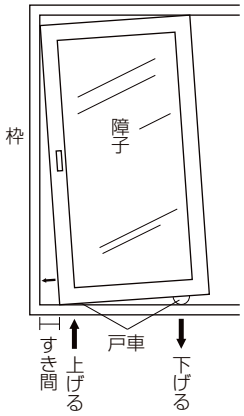
■引違い窓の障子のとりはずし方

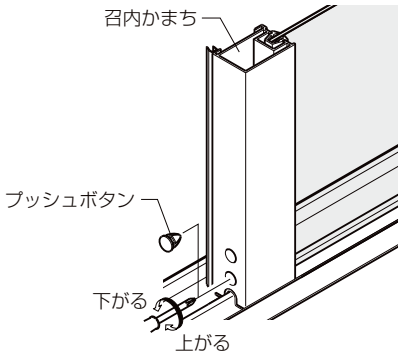
障子をはずすときは、下記を参照してください。
①上枠に付いている「外れ止め」をはずします。
②内側の障子からA→Bの手順ではずします。
③同じ要領で外側の障子をはずします。
※再度障子を建て込む際は、逆の手順で行います。



■引違い窓の戸車調整（建付け調整）

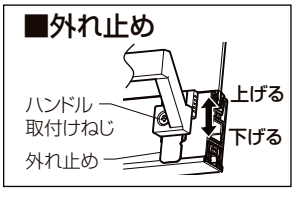
開口部に狂いが生じて、建付けが悪いときに、戸車の高さ調整をしてください。
①障子の下端にあるプッシュボタンをいったんはずし、調整ねじを回し、高さを調整します。
※障子を上げたい場合……右に回す（時計回り）
　障子を下げたい場合……左に回す（反時計回り）
②調整後はプッシュボタンを戻してください。

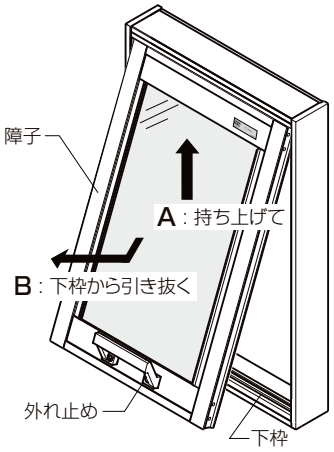




■FIX窓の障子のはずし方

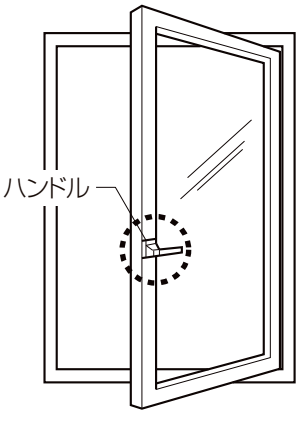
①ハンドル右側の取付けねじを反時計回りにゆるめ、外れ止めをいっぱいに上げてください。
②ハンドル右側の取付けねじを時計回りに締め付け固定します。
③A→Bの手順で外します。
※再度障子を建て込む際は、逆の手順で行います。





■開き窓・テラスドアの障子の開閉

①ハンドルを上に90°回してください。（ロックが解除され、障子が開閉可能になります。）
②ハンドルを持ち、手前に引いてください。
③障子を閉めたら必ずハンドルを下向きにロックしてください。



手すり(ベランダ・廊下用)の取扱い

⚠警　告

人の転落・製品の破損による被害のおそれがありますので、下記事項を守ってください。
●製品の上には絶対にのらないでください。転落するおそれがあります。
●製品から身をのりださないでください。

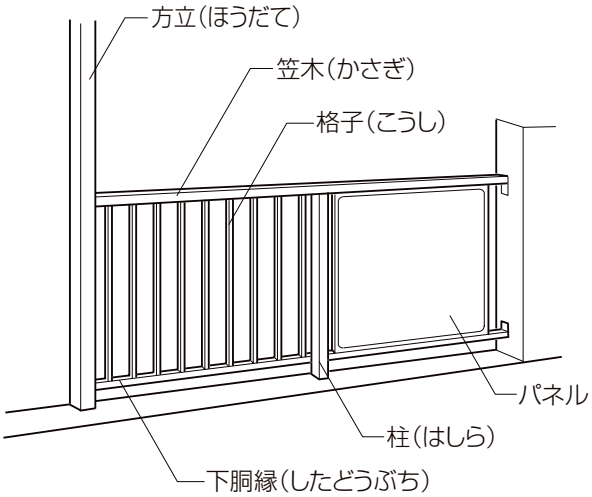
※お子さまが手すりの側にいるときは、絶対に目を離さないでください。また、手すりの近くには、植木台や箱などのように足掛かりとなる物を置かないでください。



■保守点検について

ご使用中に不具合が発生することがあります。そのままにしておきますと、手すりが破損し、人身事故などの原因になるおそれがあります。次の様な不具合がないかどうか、お手入のときなどを利用して点検してください。
●手すりを手でゆするとグラグラする。
●格子(パネル)や部材が外れたり、曲ったりしている。
●パネルに大きなキズや、ひび割れがある。
●ねじや部品などが外れたり、ゆるんでいる。
●部材や部品が腐食している。
●柱の埋込み部や建物との取付け部に腐食や、コンクリートのひび割れがある。

※上記の不具合があった場合は、建築物の管理責任者・販売店・施工店または、当社支店・営業所へご連絡ください。
※その他、日常点検において、開閉や施錠等に不具合を発見された場合は、早急に弊社へご相談ください。
※メンテナンス、修理は必ず販売店、弊社の地域ごとの営業事業所またはLIXIL修理受付センターへご用命ください。



Vルーバの取扱い

■ご使用上のお願い

●開閉操作はルーバーを手で持って行わないでください。故障の原因となります。

■操作方法

●開閉操作盤のつまみを上下させることで、ルーバーの角度調整ができ、その位置でルーバーが自動的に固定されます。

・一般タイプは左右どちらか1個所に開閉操作盤がつきます。

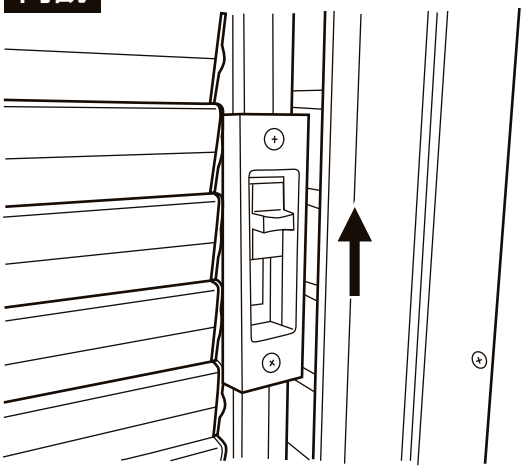
・中方立付の場合は、左右に1個所ずつに開閉操作盤がつきます。

・上下分割可動仕様の場合は、片側の上下2個所に開閉操作盤がつきます。

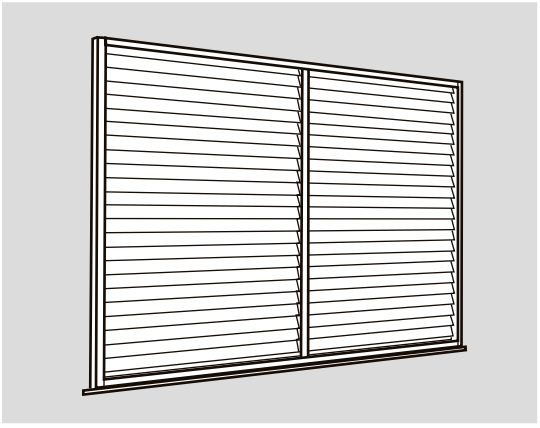
●閉めるとき

●開閉操作盤のつまみを上いっぱいに移動させると、全閉状態になります。

内観



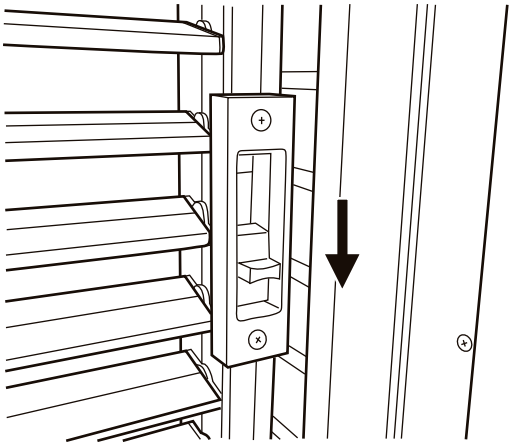
外観



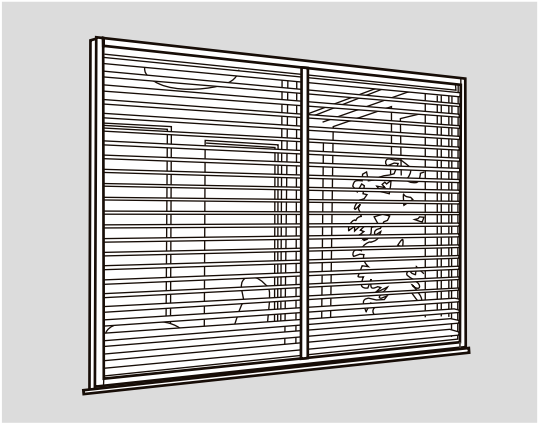
●開けるとき

●開閉操作盤のつまみを下いっぱいに移動させると、全開状態（ルーバーがほぼ水平）になります。

内観



外観



網付面格子の取扱い

⚠注　意

●お手入れなどのために面格子を外した後、再び窓枠に取付けたときは、表示ラベルに従って外れ止め部品を必ず所定の位置にセットし固定してください。またご使用中、外れ止め部品がずれることがあります。時々点検してください。外れ止め部品が正しくかかっていないと、面格子の落下による事故（人身・物損）につながるおそれがあります。

■網付面格子の取付け・取外し方法

●取付け方法

①上部外れ止め部品（フック）のねじを緩め、上枠の外れ止め部品をいっぱいに下げます。（図1、4）
②中桟がある場合には中桟外れ止め部品のねじを緩め、壁側に寄せます。（図1）
③網付面格子本体を建て込みます。（図2）
④上部外れ止め部品を上げてねじで固定し、次に中桟の外れ止めを中央側に寄せてねじで固定して面格子が外れないことを確認してください。（図3、4）

図1 取外し時外れ止め

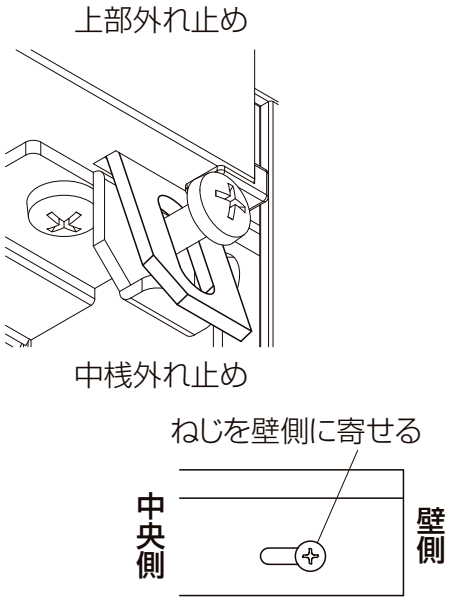
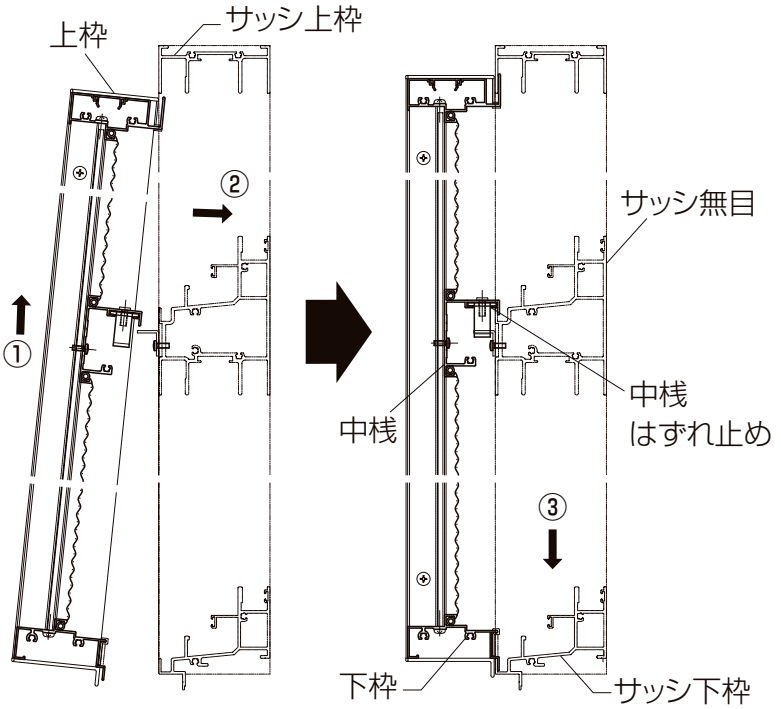


図2 建て込み方法



※面格子に中桟が取付けられている場合は中桟をサッシ無目にひっかけて取付けてください。

図3 取付け時外れ止め

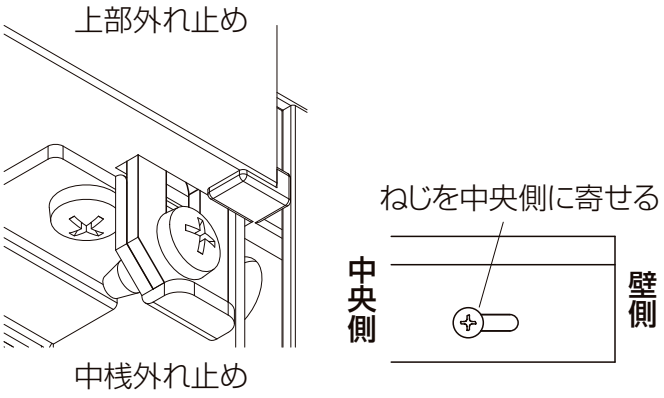
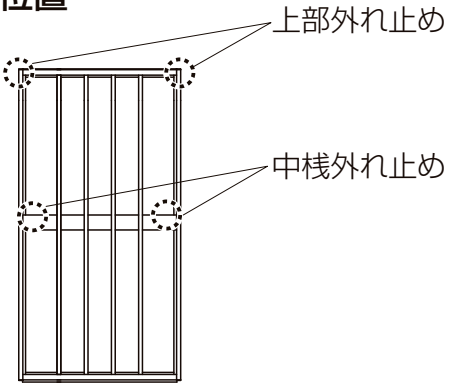


図4 外れ止め位置



●取外し方法

●取外しは、取付けと逆の手順で行ってください。

換気口用消音ボックス（クレール）の取扱い

お願い

●本製品は自然換気（第3種換気方式＝自然給気+機械排気）用として外壁ダクト端末部に取付ける給気専用の換気ボックスです。台所等油煙の多い場所では使用しないでください。（目詰まりによる換気量不足の原因となります。）

●清掃は、普通の汚れの場合水で濡らしたやわらかい布かスポンジで拭いた後、乾いた布で水分をふき取ってください。
洗剤を使用する際は中性洗剤を用い真水で十分洗い流してください。残っていますと腐食の原因となります。

●吸気口防虫ネットは目詰まり防止の為、定期的に外部側よりはたきややわらかい布で破損に注意の上土ぼこり等を落としてください。掃除機での吸引や、ブラシで強くこすると内部吸音材や防虫ネットが破損するおそれがありますので使用はお控えください。

●本製品は焼付け塗装を施しております。洗剤を含め酸性またはアルカリ性の溶剤は腐食や変色の原因となりますので使用はお控えください。

E-SHAPEの取扱い（非常用進入口）

□E-SHAPE　□E-SHAPE Window

⚠注　意

●非常用進入口（ガラスに▼マークがついている窓）は、非常時に消防活動等のために使用する窓です。風による窓やガラスの落下防止のため、常時は閉鎖し施錠してください。

●障子の開閉時は、障子が動き出したら枠と障子の間で指を挟まないように、フリクションステーから手を離してください。手や指を挟み、思わぬケガにつながるおそれがあります。

■ご使用上のお願い

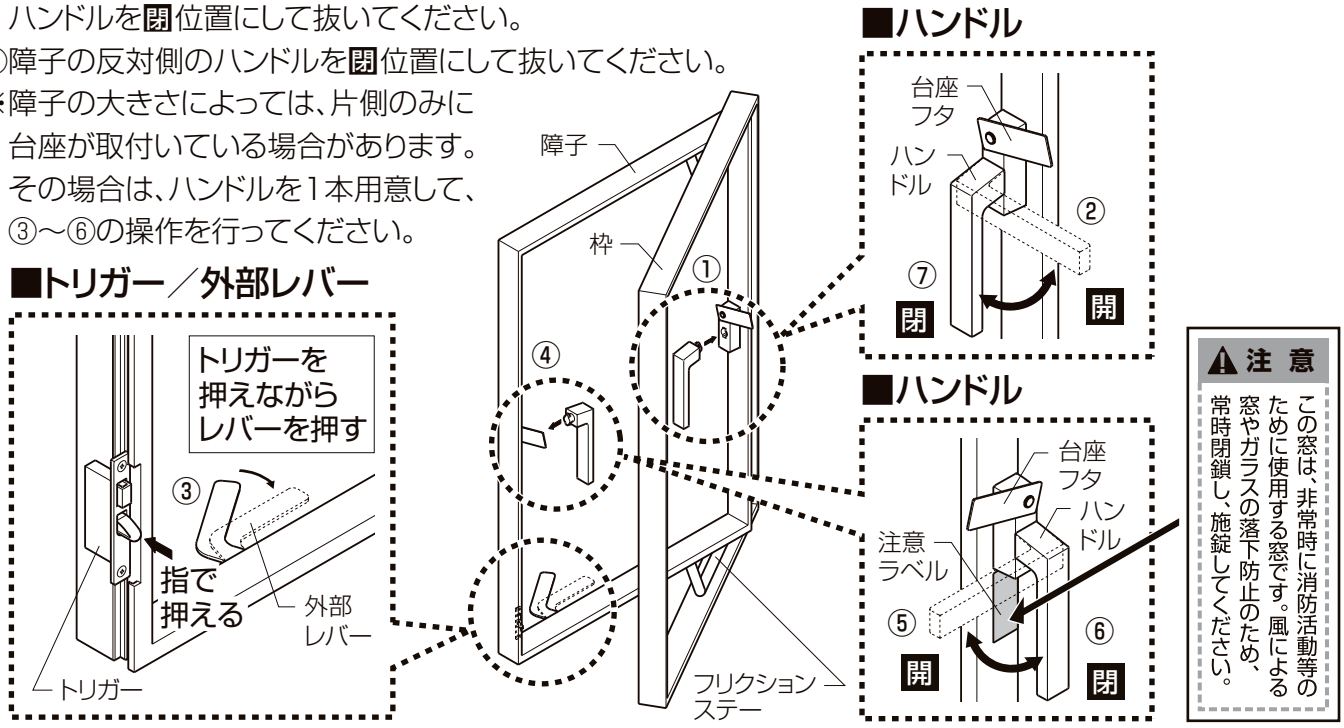
●外部レバーの誤操作により、万が一、室外からあけてしまった場合、非常用進入口の障子は、そのまま閉めないでください。鍵が破損するおそれがあります。
ご自分で閉めずに、必ず建物管理責任者にご連絡ください。

■室外からあけた後の非常用進入口の閉め方

■建物管理責任者様へのお願い

●操作は下記内容で行えますが、操作を誤ると不具合につながります。下記内容をよく理解した上で、操作を行ってください。
※不明な場合は、当社営業事業所にお問合せください。

※台座が障子の左右両側に取付いている場合、ハンドルを2本用意します。
①注意ラベルを貼っていない側（ヒンジ側）の台座フタを開き、ハンドルを差込みます。
②ハンドルを手前に90°回して、開位置にします。（ハンドルは差込んだままの状態にします。）
③トリガーを指で押えながら、障子と平行になるまで外部レバーを押します。
④注意ラベルを貼っている側の台座フタを開き、ハンドルを差込みます。
⑤ハンドルを手前に90°回して、開位置にします。（ハンドルは差込んだままの状態にします。）
⑥そのままハンドルを持って、障子が枠のパッキン材に当たるまで引寄せてから、
ハンドルを閉位置にして抜いてください。
⑦障子の反対側のハンドルを閉位置にして抜いてください。
※障子の大きさによっては、片側のみに台座が取付いている場合があります。
その場合は、ハンドルを1本用意して、③～⑥の操作を行ってください。



E-SHAPEの取扱い（たてすべり出し窓）

□E-SHAPE　□E-SHAPE Window

⚠注　意

●風の強いときは窓を閉めて、必ず錠（ハンドル）をかけてください。風で障子が動くため、錠（ハンドル）をかけないと障子が急激な開閉で衝撃を受け、破損・落下等のおそれがあり、思わぬケガや事故につながります。

●障子の開閉時は、障子が動き出したら枠と障子の間で指を挟まないように、セーフティストッパーに触れないでください。手や指を挟み、思わぬケガにつながるおそれがあります。

■ご使用上のお願い

●障子を閉めるときは、ハンドルを水平に保ったまま（開位置）閉めて、障子が枠のパッキン材に当たってからハンドルを閉位置にしてください。途中の位置で操作すると、ハンドルやサッシが破損するおそれがあります。

■障子の開閉

①ハンドルを上に90°回してください。
（ロックが解除され、障子が開閉可能になります。）

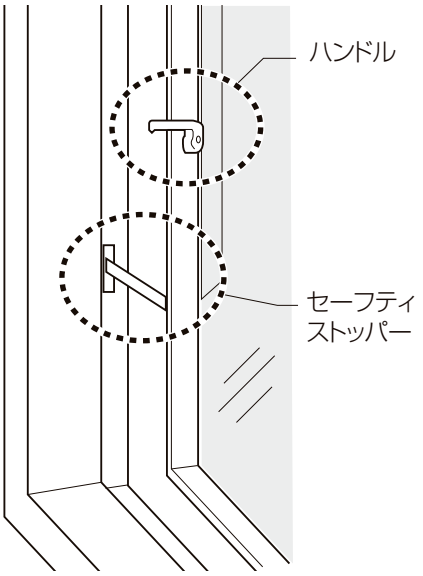
※左右にハンドルのあるタイプは、両方のハンドルを操作してください。片方のみの操作は故障の原因になります。

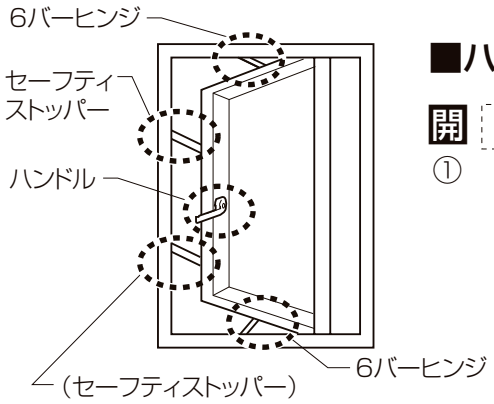
②ハンドルを持ち障子を押出してください。

※障子がストップするまで開けると、セーフティストッパーの働きで自動的に固定されます。

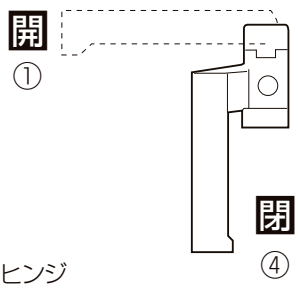
③障子を閉めるときは、開き方と逆の手順で行ってください。その際にセーフティストッパーを解除する為にハンドルを強く引いてください。

④障子を閉めたら、必ずハンドルを下向きにしてロックしてください。



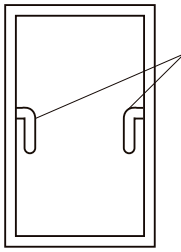


■ハンドル



※（　）のセーフティストッパーはサッシサイズが大きい時に付きます。

〈ハンドル両側タイプ〉

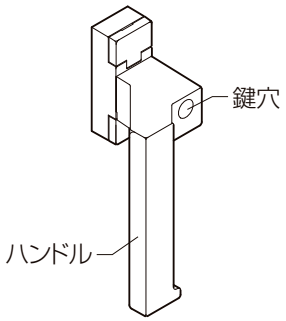


※両方のハンドルを操作してください。片方のみの操作は故障の原因になります。

■ハンドルの種類

■キー付ハンドル

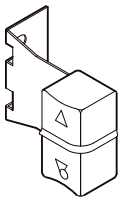
●ハンドルの鍵穴にキーを挿入して操作することにより、ハンドルの回転を止めたり、動かしたりすることができるタイプです。
※鍵施解錠時はハンドルを無理な力で回そうとすると破損する場合があります。



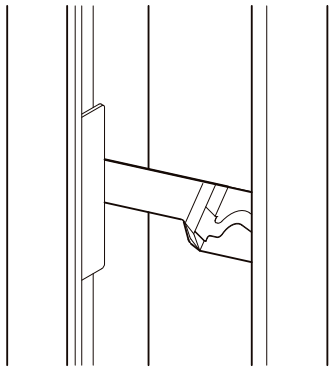
■セーフティストッパーの操作方法(E-SHAPE、E-SHAPE Window)

●セーフティストッパーは、常にセット状態であるため、70mm以上開けることはできません。
●セーフティストッパーを解除(障子を90度開放)するためには、『セーフティストッパー脱着ボタン』を使用します。

脱着ボタン

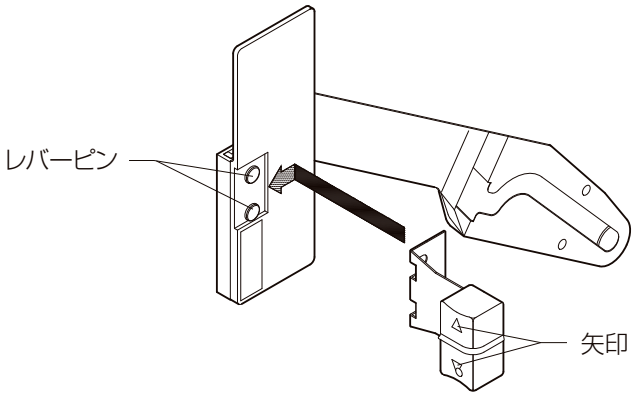


セット状態

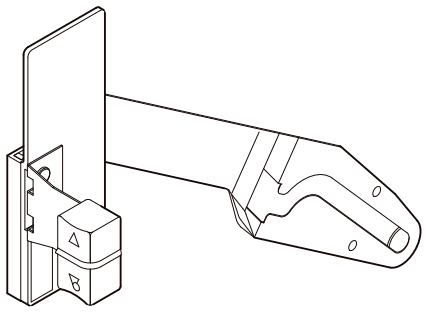


■セーフティストッパーの解除方法

①窓を開けます。
②脱着ボタンをセーフティストッパー本体のレバーピンに取り付けます。



脱着ボタン取付状態



③窓を閉めます。
④脱着ボタンを矢印▽の方向へ下げます。
窓は全開で開閉が行えます。
脱着ボタンを矢印△の方向へ上げればセット状態になります。

E-SHAPE Window TYPE-Sの取扱い（たてすべり出し窓）

□E-SHAPE Window TYPE-S

⚠注　意

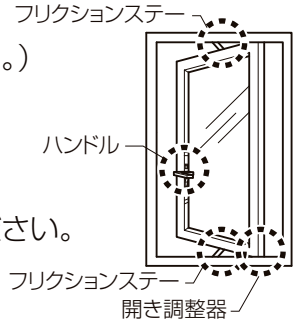
●障子の開閉時は、障子が動き出したら、枠と障子の間で指を挟まないように、フリクションステーまたはアームストッパーから手を離してください。手や指を挟み、思わぬケガにつながるおそれがあります。
●風の強いときは窓を閉めて、必ず錠（ハンドル）をかけてください。風で障子が動くため、錠をかけないと障子が急激な開閉で衝撃を受け、破損・落下等のおそれがあり、思わぬケガや事故につながります。
●非常用進入口（ガラスに▼マークがついている窓）は、非常時に消防活動等のために使用する窓です。風による窓やガラスの落下防止のため、常時は閉鎖し施錠してください。
●開閉時に窓枠に手を置かないでください。開閉した障子に指を挟んで思わぬケガをするおそれがあります。
●清掃などの必要があるときを除いて、障子は全開しないでください。風で障子が動くため急激な開閉で衝撃を受け、破損・落下等のおそれがあり、思わぬケガや事故につながります。

お願い

●障子を開けたときは必ず開き調整器またはアームストッパーで固定してください。突風により閉まる場合があります。
●障子を全開するときは、ハンドルまたは把手（オプション）をしっかり持って行ってください。風にあおられることがあります。
●障子を動かすときは、必ず開き調整器を解除してから行ってください。障子や金物が破損するおそれがあります。
●障子を閉めるときは、操作ボタンを指で押し下げてハンドルを引いてください。障子が動き出したら操作ボタンから指を離して閉めてください。または操作ボタンを押しながらハンドルを引いてそのまま閉めてください。
●障子を閉めるときは、ハンドルを水平に保ったまま（開位置）閉めて、障子が枠のパッキン材に当たってからハンドルを閉位置にしてください。ハンドルやサッシが破損するおそれがあります。

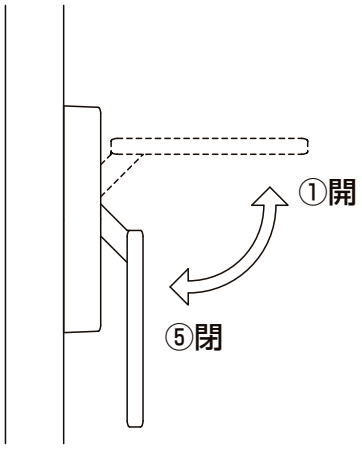
■障子の開閉

■換気時（開き調整器）

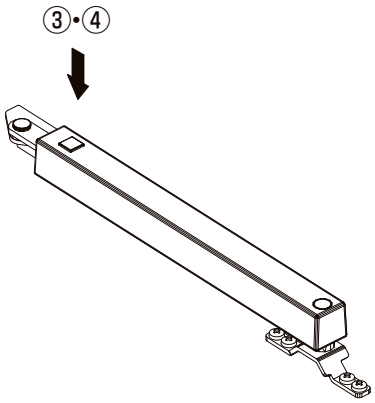


①ハンドルを上に90°回してください。（ロックが解除され、障子が開閉可能になります。）
②ハンドルを持ち障子を押出してください。（開き調整器が働き、設定された角度で自動的に障子がストップし、固定されます。）
③さらに開く場合は、「押」を押しながら、障子を開いてください。
④障子を閉めるときは、開き調整器の「押」を押し動き出したら離し、障子を閉めてください。
⑤障子を閉めたら、必ずハンドルを下向きにしてロックしてください。
●キー付ハンドル操作方法については、次項を参照ください。
※ガラスに▼マークが付いている窓は非常用進入口で障子が90°開くように設定されています。

■ハンドル

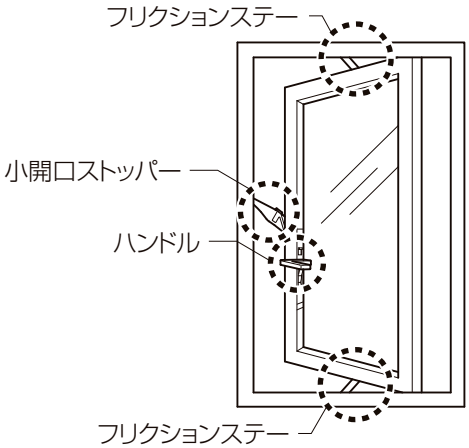


■開き調整器

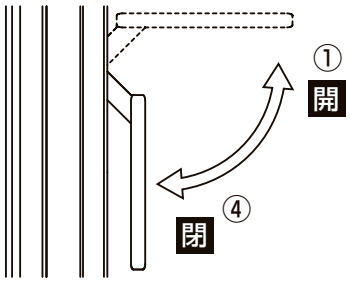


■換気時（小開口ストッパー）

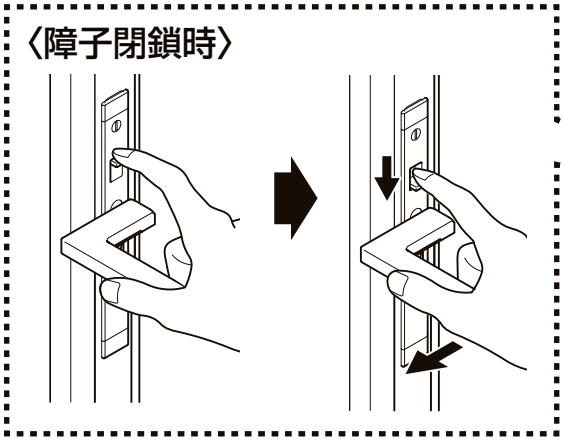
①ハンドルを上に90°回してください。
（ロックが解除され、障子が開閉可能になります。）
②ハンドルを持ち障子を押出してください。（小開口ストッパーが働き、設定された有効開口（戸先側約60mm）で障子がストップし、固定されます。）
③障子を閉めるときは、操作ボタンを指で押し下げてハンドルを引いてください。障子が動き出したら操作ボタンから指を離して閉めてください。または操作ボタンを押しながらハンドルを引いてそのまま閉めてください。
④障子を閉めたら、必ずハンドルを下向きにしてロックしてください。

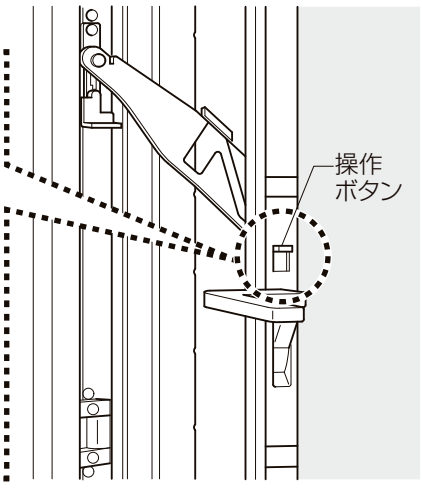


■ハンドル



■小開口ストッパー一体化ハンドル

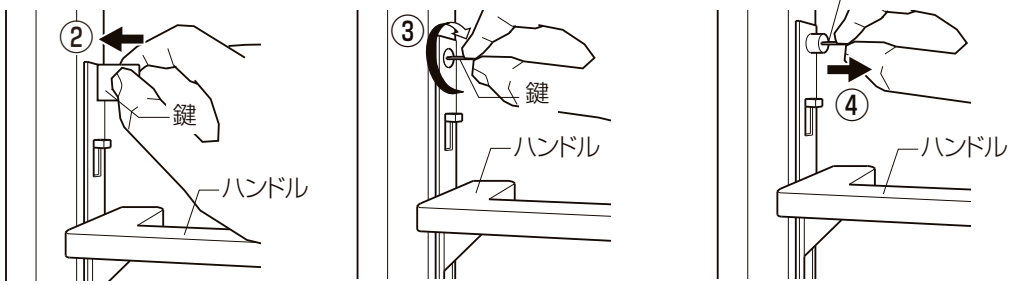




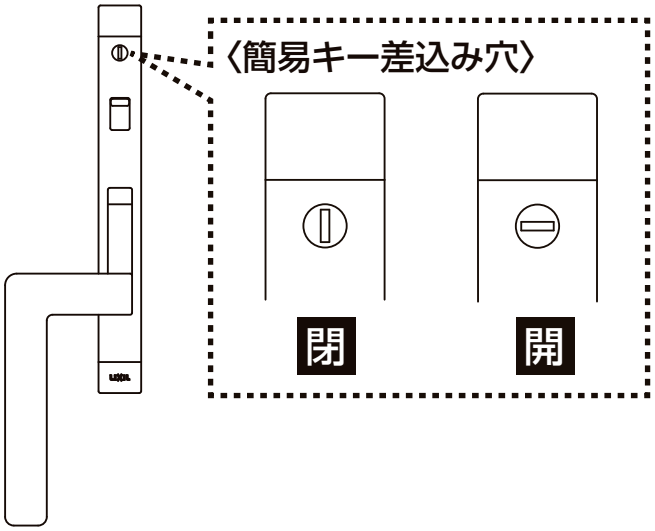
■全開時（清掃などで小開口ストッパーを解除する場合）

①ハンドルを上に90°回してください。
（ロックが解除され、障子が開閉可能になります。）
②全開用簡易キーを差し込みます。
③差し込んだ簡易キーを90°回してください。
④簡易キーを手前に引いた状態のまま障子を開けてください。
⑤障子を閉めるときはハンドルを水平に保ったまま閉めてください。
（操作ボタンを押し下げる必要はありません。）
⑥障子を閉めたら、必ずハンドルを下向きにしてロックしてください。

〈全開用簡易キー操作手順〉



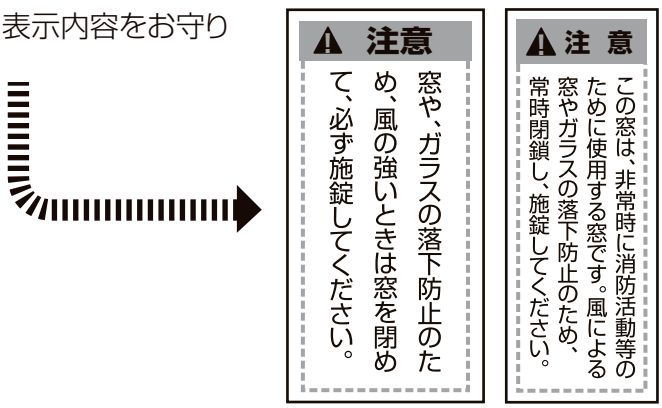
■小開口ストッパー一体化ハンドル



■全開用簡易キー



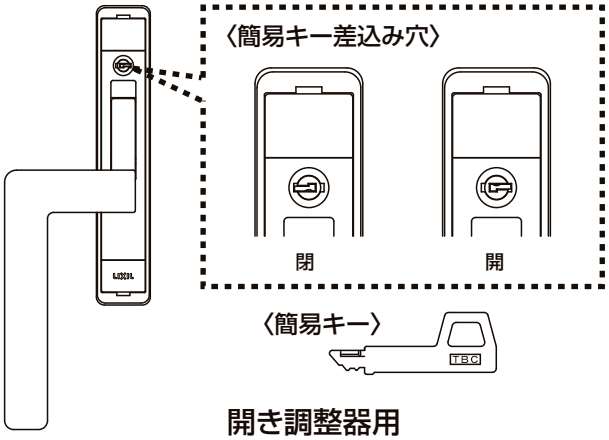
●商品に**注意ラベル**を貼付けしています。表示内容をお守りください。



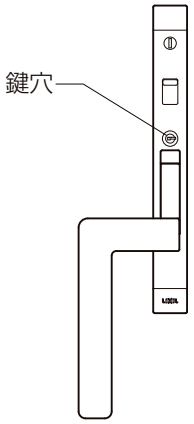
■ハンドルの種類（オプション）

■キー付ハンドル

●ハンドルの鍵穴に鍵を挿入して操作することにより、ハンドルの
回転を止めたり、動かしたりすることができるタイプです。



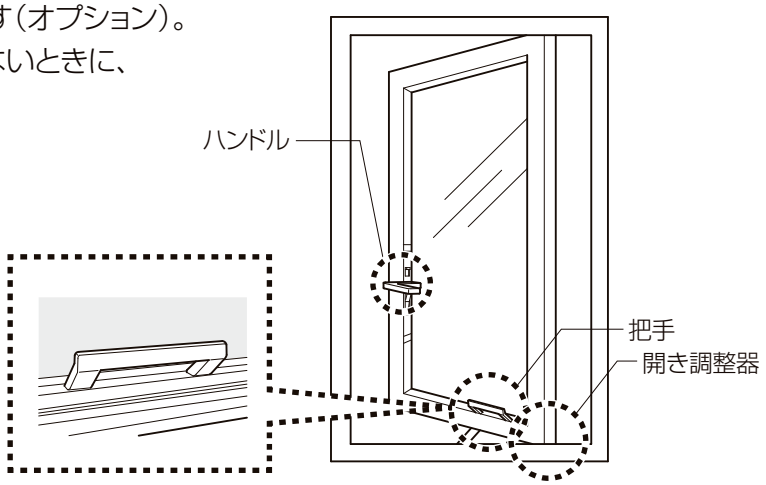
開き調整器用



小開口ストッパー用

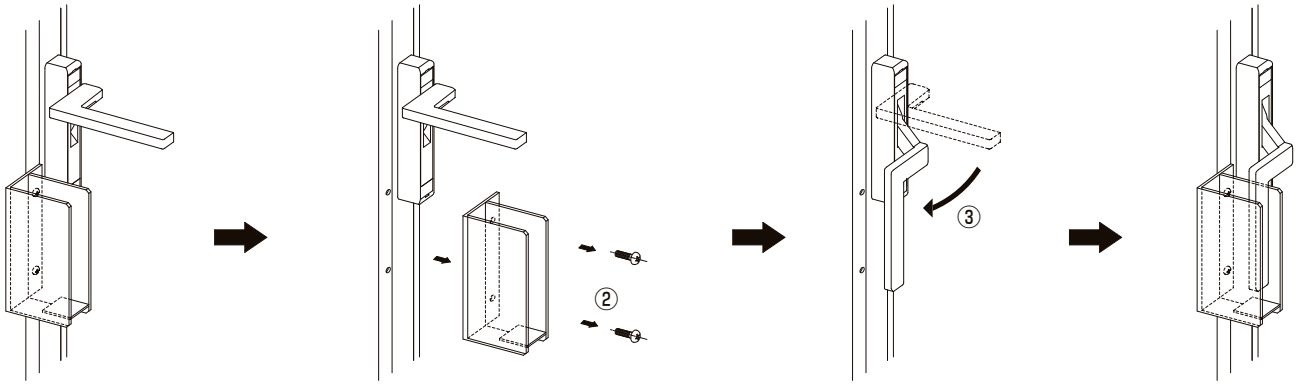
■把手（オプション）の操作方法

●窓サイズが大きいときに障子下に取付けます（オプション）。
障子全開時にハンドルを持って操作ができないときに、
この把手を握って開閉操作をしてください。



■室外からあけた後の非常用進入口の閉め方

※外部ハンドルでは障子を閉めることができない為、障子を閉めるときは必ず室内のハンドルで閉めてください。
①障子を閉めてください。
②非常進入口用カバーを取外してください。
③ハンドルを下向きにロックしてください。
④非常進入口用カバーを取付けてください。



E-SHAPE Window +Woodの取扱い

木部のお手入れ方法について

定期的なお手入れが、長持ちのひけつです。
いつまでも美しくお使いいただくために、以下のようなお手入れをお願いします。

■お手入れはやわらかい布で

傷をさけるため、やわらかい布を使用してください。化学ぞうきん、金属ブラシ、金ベラは表面がはげたりすることがありますので使用しないでください。



■清掃のしかた

固く絞った布でホコリなどを取り除いた後に、乾いた布で水分を拭き取ってください。
シンナー、ベンジンなどの有機溶剤、ワックスの使用はさけてください。またガラスクリーナーで木部の清掃は行わないでください。



■横桟の上面の清掃はこまめに

横桟の上面に砂･ホコリなどの異物が付着したまま放置しますと、腐食･塗装はがれ･変色のおそれがあります。固く絞った布で砂･ホコリなどの異物を取り除いた後に、乾いた布で水分を拭き取ってください。

木部の定期的なメンテナンス

木の風合いを保つために、5年に一度、塗装を塗り直すメンテナンスをおすすめしています。(塗料は水性ポリウレタン系塗料をおすすめします。)
依頼されるときは、「アフターメンテナンスについて」をご確認ください。

Segel Swingの取扱い（シーガルスウィング）

□Segel Swing

お願い

●換気ホッパーを閉める際に指をはさまれないように、ハンドルレバーを持って操作してください。

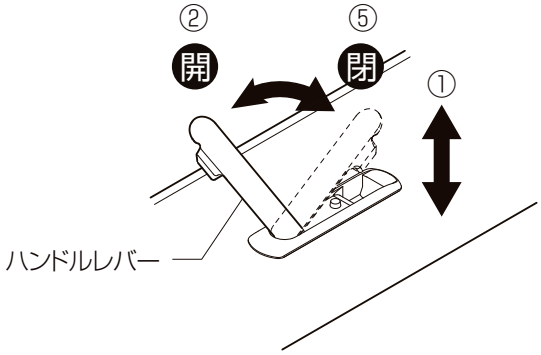
●換気ホッパーの内部に手を入れないでください。手や指をはさみ、思わぬケガにつながるおそれがあります。

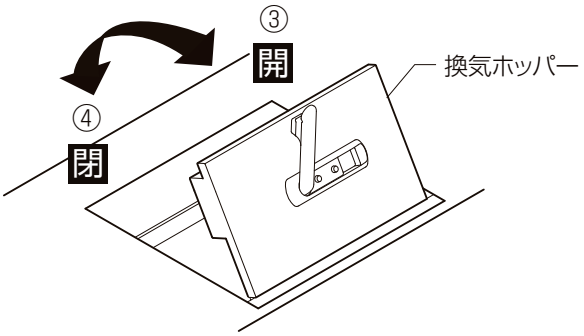
■ご使用上のお願い

●強風雨時には、換気ホッパーを閉めてハンドルレバーにて施錠してください。

■換気ホッパーの開閉

①ハンドルレバーを持ち上げてください。
②ハンドルレバーを㊐方向に90°回してください。（ロックが解除され、換気ホッパーが開閉可能になります。）
③ハンドルレバーを持って換気ホッパーを手前に引いてください。（約70°開きます。）
④換気ホッパーを閉めるときは、ハンドルレバーを持って換気ホッパーを倒して閉めてください。
⑤換気ホッパーを閉めたら、ハンドルレバーを㊒方向に回して施錠してください。

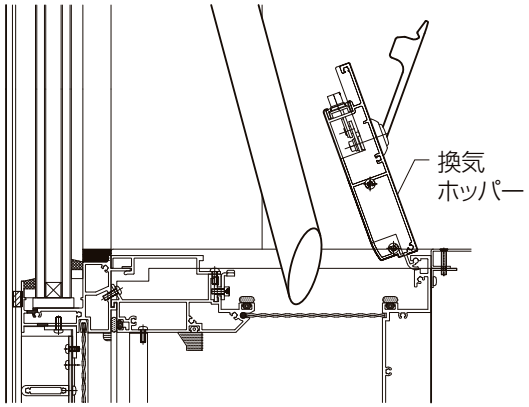




■網のお手入れ

■お掃除はなるべくマメに

●網は通風時にゴミやホコリが付着することがあり、それだけ汚れるのも早く風通しも悪くなります。なるべくこまめなお手入れをおすすめします。



■お手入れ方法

●換気ホッパーを最大まで開き、網の汚れを掃除機で吸引してください。掃除機を使用する際、ノズルは先の細いものなどを使用すると効果的です。

■お手入れのご注意

●清掃時に網を強く押すと、網が外れることがあります。力を入れすぎないでください。
●網はご自分で取外したり分解しないでください。分解すると開閉操作に支障が生じるおそれがあります。
●酸性薬品、アルカリ性薬品、塩素系薬品、およびアルコール·シンナー等の有機溶剤は、アルミ部品などの金属部分を腐食させたり、塗膜はがれを引き起こしますので、絶対に使用しないでください。

Segel Swing電動開閉の取扱い（シーガルスウィング）

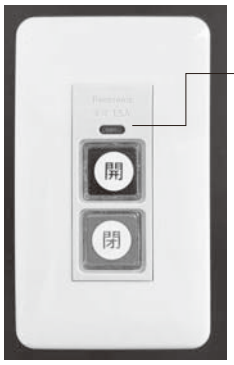
□Segel Swing電動開閉

■ご使用上のお願い

●手動モードの時、強風雨時には、手元スイッチで羽根を全閉状態にしてください。
グレージングから雨水が浸入するおそれがあります。
（開閉機構により、全閉にするまでに約2分程度かかります。）

■手元スイッチの操作方法

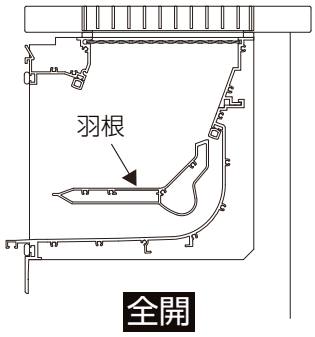
※弊社標準品の場合を示す。



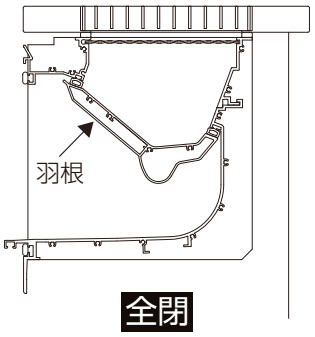
開表示パイロットランプ

●開表示パイロットランプ赤色点灯
全開

●開表示パイロットランプ赤色消灯
全閉



全開



全閉

●羽根全開操作
「開」スイッチを押すと、赤色のパイロットランプが点灯し羽根が全開します。
●羽根全閉操作
「閉」スイッチを押すと、赤色のパイロットランプが消灯し羽根が全閉します。

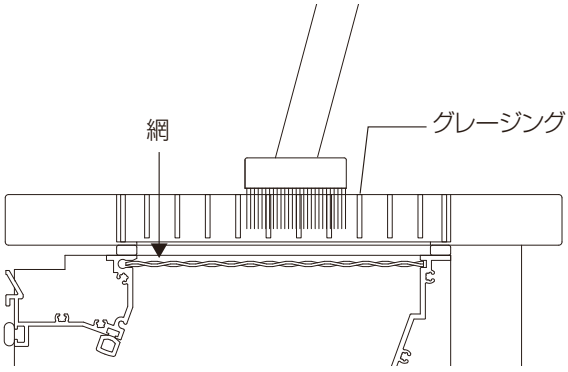
■網のお手入れ

■お掃除はなるべくマメに

●網は通風時にゴミやホコリが付着することがあり、それだけ汚れるのも早く風通しも悪くなります。
なるべくこまめなお手入れをおすすめします。

■お手入れ方法（網がある場合）

●膳板のグレージングから、網の汚れを掃除機で吸引してください。掃除機を使用する際、ノズルは先の細いものや毛足の長いブラシ状のものなどを使用すると効果的です。



■お手入れのご注意

●清掃時に網を強く押すと、網が外れることがあります。力を入れすぎないでください。
●網はご自分で取外したり分解しないでください。分解すると開閉操作に支障が生じるおそれがあります。
●酸性薬品、アルカリ性薬品、塩素系薬品、およびアルコール·シンナー等の有機溶剤は、アルミ部品などの金属部分を腐食させたり、塗膜はがれを引き起こしますので、絶対に使用しないでください。

■停電時の操作方法

●停電時は、停電前の羽根位置のままです。そのため、換気時または強風雨時は、下記の手順にしたがい、手動にて羽根の開閉操作を行ってください。

1.点検用幕板を取り外す。

2.手動操作機に電池式ドライバーまたはフレキシブルドライバー(ドライバービット(−)7mmまたは8mm)を差込んで、スイッチカムを全開側または全閉側のマイクロスイッチに当たるまで回転させる。
(全開 ↔ 全閉 約32回転。電池式ドライバー(回転数:210回転/分) の場合 約10秒)

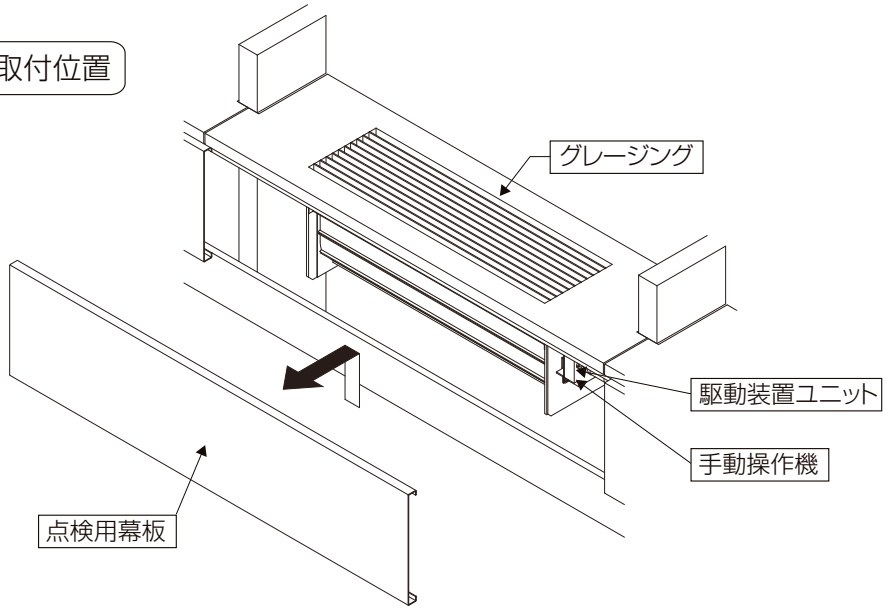
・スイッチカムがマイクロスイッチにあたると、抵抗がかかり重くなりますので、そこで回転を停止してください。回転を続けると、手動操作機およびマイクロスイッチを破損するおそれがあります。

・羽根全開操作
手動操作機を反時計まわりに回転させる。

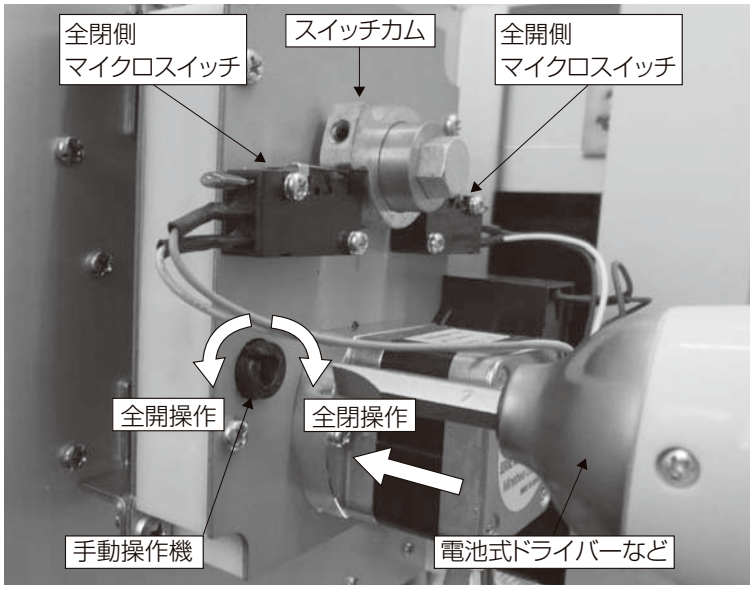
・羽根全閉操作
手動操作機を時計まわりに回転させる。

※高トルクドライバー(インパクトなど)を使用しないでください。手動操作機およびマイクロスイッチを破損するおそれがあります。

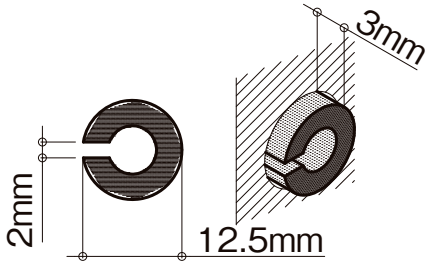
駆動装置ユニット 取付位置



駆動装置ユニット 詳細



手動操作機 詳細形状



カーテンウォールのメンテナンス方法

□カーテンウォール

清掃はアルミニウム建材の汚れの程度および表面の種類により異なりますが、その関係はおよそ（表1）のとおりであります。
よってそれに適した清掃方法および洗剤を選ぶことが大切で実施にあたっては次のような注意が必要です。

1）清掃用具としてワイヤーブラシ、スチールウール、金べらなどは使用しないでください。また、清掃時、小石、砂、金属片が用具に付着してもアルミニウム建具をキズ付けることがあります。
2）酸性またはアルカリ性の洗剤（例えば塩酸、硝酸、タイル洗浄剤、か性ソーダなど）は一時的に汚れがよく取れるように見えますが、腐食や変色を起こしますので使用をさけてください。
3）市販のクリーナーの中には、アルミニウムを腐食させるものがありますので注意してください。
4）清掃はアルミニウムの圧延または押出しによる筋目方向にそって行うときれいにできます。
5）中性洗剤の使用後は十分に水洗いを行い、乾いた布で水分をふきとってください。

表1）メタルカーテンウォールの汚れの程度とメンテナンス方法

種別＼汚れの程度		軽　い	ひどい	著しくひどい（汚れが著しく腐食（点食）を含む）
アルミニウム	陽極酸化皮膜	**①除去しやすい汚れの場合** ※洗剤の使用を避け清水拭きをする。 ブラッシング→清水拭き→乾布で乾拭き。 **②落ちない汚れの場合** ※中性洗剤（注1）を使用する。 洗剤（1～2%希釈液）拭き→清水拭き→乾布で乾拭き。（洗剤分の残留のないよう十分に配慮）	※中性洗剤、ナイロンパッド（注2）を使用する。 ブラッシング→洗剤塗布→ナイロンパッドでこすり洗い（筋目方向に従う）→拭きとり→清水拭き→乾布で乾拭き。 （洗剤分の残留のない様十分に配慮）（材質保全のために表面保護膜剤の使用がよい）	※中性洗剤、ナイロンパッド、表面保護膜剤（注3） ※酸化皮膜促進剤（注4）を使用する。（要技術） ブラッシング→洗剤塗布→ナイロンパッドでこすり洗い（筋目方向に従う）→汚れ、腐食生成物の除去まで数回繰り返す→拭きとり→清水拭き→乾布で乾拭き→保護膜剤または、酸化皮膜促進剤の塗布→乾布で乾拭き。
	塗　膜	**①除去しやすい汚れの場合** ※洗剤の使用を避け清水拭きをする。 やわらかい布で表面のほこりの除去→清水拭き→やわらかい乾布で乾拭き。 **②落ちない汚れの場合** ※中性洗剤を使用する。 （洗剤分の残留に注意）	※中性洗剤、スポンジを使用する。 やわらかい布で表面のほこりの除去→洗剤塗布→スポンジでこすり洗い→拭きとり→清水拭き→やわらかい乾布で乾拭き（溶剤系洗剤クリーナーの使用は不可、洗剤分の残留に注意）	※中性洗剤、ナイロンパッド、水ペーパー（注5）を使用する（要高技術）。 洗剤塗布→ナイロンパッドでこすり洗い→水ペーパー掛け→汚れ、腐食生成物の除去まで数回繰り返す→清水拭き→乾布で乾拭き→シンナー拭き（脱脂）→乾布で乾拭き→防錆→表面塗装

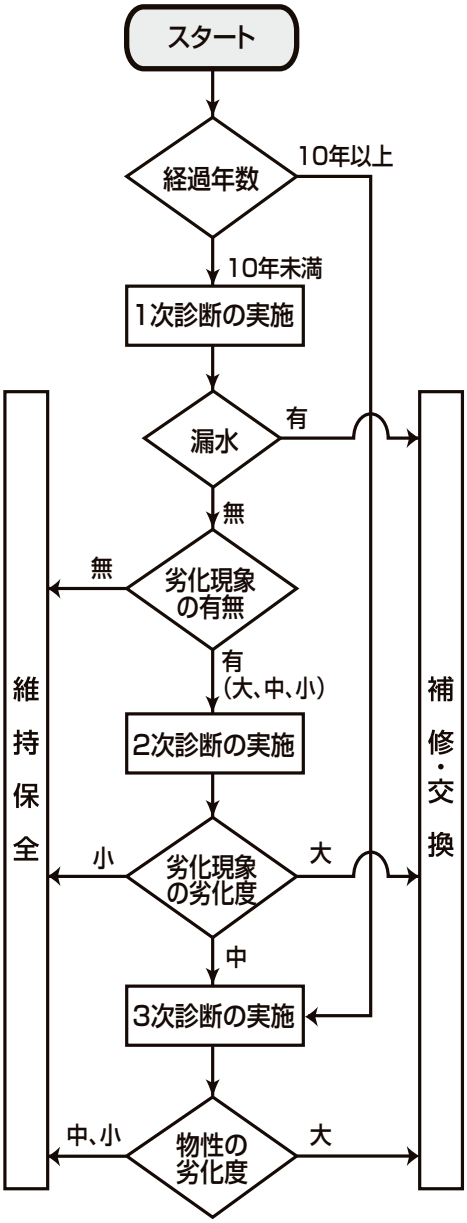
（注1）PH6.0～8.0の洗剤　（注2）スコッチブライト8448（緑:#400）、7440（茶:#180）または同等品
（注3）市販数種仕様に従う　（注4）アルミン仕様に従う　（注5）#600

種別＼汚れの程度	軽　い	ひどい	著しくひどい （汚れが著しく腐食（点食）を含む）
ステンレス	**①除去しやすい汚れの場合** 乾布で乾拭き、または清水拭き→乾布で乾拭き。	**表面にさびが生じてる場合** ※中性洗剤または薬液ナイロンパッドを使用する。 清水拭き→洗剤または薬液塗布→ナイロンパッドでこすり洗い（筋目方向に従う）→拭きとり→清水拭き→乾布で乾拭き。 （薬液がアルミ等にかからぬよう注意）	**①表面にさびが固着し黄褐色に変色してる場合** ※洗剤（中性か弱アルカリ性）または薬液、炭酸カルシウム（200メッシュ以下）を使用する。洗剤または薬液に炭酸カルシウムを加えナイロンパッドで筋目方向にこする→拭きとり→清水拭き→乾布で乾拭き。 **②鉄さびが付着してさびが生じてる場合** 硝酸（15%～20%希釈液）で拭きとる。
スチールのホーロー塗膜	アルミニウム塗膜と同じ。		

メタルカーテンウォールのシーリングのメンテナンスについて

シーリング材とは、各種の部材間の接合部や隙間（総称して目地と呼ぶ）に充てんまたは、装着して目地に水密・気密を付与する外、ガラスなどに対しては固定する働きを有する材料です。
シーリング材は、建築物の防水材料である以上、その機能は長期的に維持させなければなりません。また、同時に建築意匠上の観点から、美観を損なうようなことが、生じてはなりません。しかし、特に外装用の場合、紫外線、温度、水分などの影響を直接長期間受けることになり、劣化は免れません。
シーリング材の劣化判定基準は、下記の「劣化診断のフロー」と「調査項目ごとの劣化の分類」を参考に、シーリングの検査と補修を、お奨めいたします。

■劣化診断のフロー



■調査項目ごとの劣化度の分類

調査項目		劣化度		
		大	中	小
防水機能関連項目	漏水またはその痕跡	あり	−	なし
	シーリング材の被着面からの剥離	深さの1/2以上または深さ5mm以上	深さの1/4〜1/2または深さ2〜5mm	深さの1/4未満または深さ2mm未満
	シーリング材の破断（口開き）	厚みの1/2以上または深さ5mm以上	厚みの1/4〜1/2または深さ2〜5mm	厚みの1/4未満または深さ2mm未満
	被着体の破損（ひびわれ、欠落）	ひびわれ幅は0.3mm以上	同左0.1〜0.3mm	同左0.1mm未満
	シーリング材の変形（だれ、くびれ）	凹凸が厚みの1/2以上または深さ5mm以上	凹凸が厚みの1/4〜1/2または深さ2〜5mm	凹凸が厚みの1/4未満または深さ2mm未満
	シーリング材の軟化	指先にきわめて多量に付着	指先かなり付着	指先にわずかに付着
意匠関連項目	しわ	凹凸の深さ1〜2mm	同左0.5〜1mm	わずかに波打っている
	変色	変色がきわめて著しい	変色がかなり認められる	変色がわずかに認められる
	ひびわれ	ひびわれ幅は1〜2mm	同左0.5〜1mm	同左0.5mm未満
	チョーキング	指先に粉末がきわめて多量に付着する	指先に粉末がかなり付着する	指先に粉末がわずかに付着する
	仕上材の浮き、変色	剥離や変色が認められる	ひびわれ、浮きがあるやや変色している	左の現象が軽微である

既存シーリング材の種類判定方法の目安

判定項目 / シーリング材種類	外観状態			切取後の試片の状態			燃焼テストの状態(試片)		
	シーリング材表面		目地周辺の汚れ方	硬さ 柔軟性	内部気泡の状態	臭　い	燃え方	燃えカス	臭　い
	目　視	指　触							
シリコーン系	ゴミの付着が多い 表面に凹みが目立つ	指触でゴミの付着が取れきれいな面ができる つるつるする	目地の上下左右共ゴミの付着による汚れ大	柔らかく柔軟性が大(2成分形) 硬いが弾力性がある(1成分形)	内部気泡はほとんど見られない	ほとんど感じられない	白い煙を出して燃える 比較的燃えにくい 炭火のようになる パチパチはねることもある	白色の粉が残る 燃えてない周辺も白くなる	パラフィン(ローソク)の燃えた臭いと同じ
変成シリコーン系	ゴミの付着が多い 表面の凹みは少ない	指触でゴミが取れない タックがある	目地周辺の汚れはほとんどないが、場合によっては目地下に筋状の汚れ	柔らかく柔軟性が大 切断面がべとべとする	内部気泡はほとんど見られない	ほとんど感じられない	煙のない炎でよく燃える 炎は赤黄色	黒っぽい燃えカスが残る 指にべとつく	パラフィン(ローソク)の燃えた臭いと同じ
ポリサルファイド系	ゴミの付着が非常に少ない 表面に凹凸がみられる	タックが全くない 指触で硬めの弾力性がある	目地周辺の汚れが全くない	比較的硬めの弾力性がある 切断面にタックがない	比較的内部に細かい気泡がある	ほとんど感じられない	煙のない炎で燃える場合と黒い煙で燃える場合がある	灰は白いが、燃えカスは指にべとつく	硫黄化合物独特のくさい臭いがある 鼻につんとくる 硫化水素、硫黄泉などの臭い

判定項目 / シーリング材種類	外観状態			切取後の試片の状態			燃焼テストの状態(試片)		
	シーリング材表面		目地周辺の汚れ方	硬さ 柔軟性	内部気泡の状態	臭　い	燃え方	燃えカス	臭　い
	目　視	指　触							
ポリウレタン系	初期段階ではごみの付着があるが、長期ではゴミが取れる 表面にひび割れが目立つ	指触でチョーキングにより指に粉がつく 長期ではタックがとれる	目地周辺の汚れはほとんど見られない	柔らかいが弾力性がある 長期では軟化したもの硬化したものがある	内部気泡は比較的多い 発泡している場合もある(ふくれ)	ほとんど感じられない	煙のない炎で燃える 燃える前に溶けて泡が出る 消えると白い煙が出る	白くなり、ざらざらの粉が残る 粉の内部は黒い	パラフィン(ローソク)の燃えた臭いと同じ
アクリル系	表面はほとんど仕上げ塗材が施工されている	表面はほとんど仕上げ塗材が施工されている	目地周辺の汚れは全くない	白色系が多い ゴム弾性がなく比較的硬い	内部気泡はほとんどない	かわった臭いが少しする(アクリルモノマーの臭い)			
油性コーキング系	ゴミの付着がある しわがある	押すと凹んで表面に皮膜があるが、内部は柔らかい	目地周辺に油じみがあり、そのため汚れもある	表面から数mmに皮膜があり、内部(奥)は比較的柔らかい	内部気泡はほとんどない(分からない)	油の臭いがする			

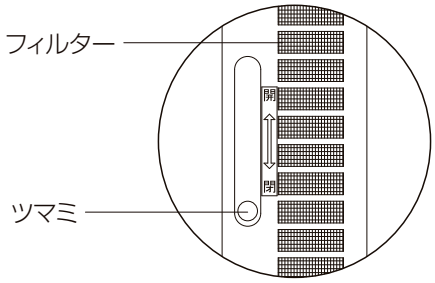
エアート（通風換気機能付玄関ドア）の取扱い

□マンションドア NXPⅡ

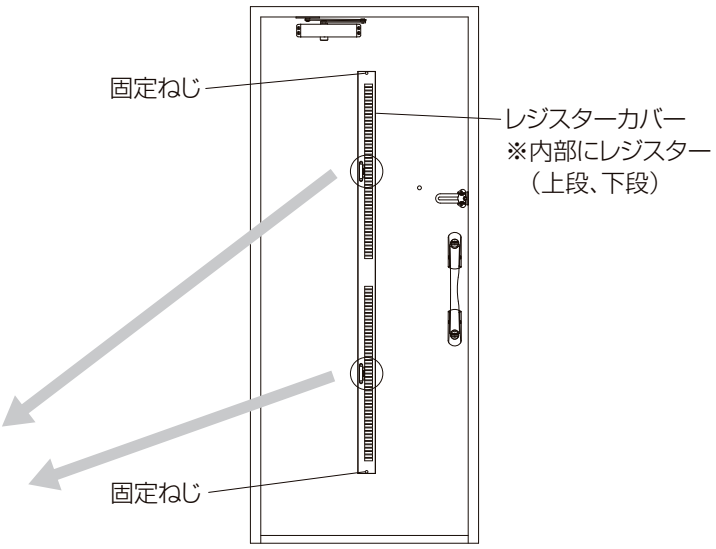
■主要部材名称

■操作方法

レジスターを開けるときは、操作部のツマミを上にスライドさせてください。
閉めるときは、ツマミを押しながら下にスライドさせてください。
※固定ねじはメンテナンス時以外は外さないでください。



【操作部】



【扉内観】

●お手入れ方法

●日常の清掃は、レジスターカバー表面の汚れを乾いたやわらかい布で拭きとってください。



【レジスターカバー表面】

アフターメンテナンスについて

保証について

保証期間中は、保証の規定にしたがって修理をさせていただきます。
保証期間中でも有料になる場合がありますので**「■商品保証について」**の内容をよくご確認ください。

保証期間を過ぎている場合は、ご希望により有料で修理をさせていただきます。修理用部品の保有期間が過ぎている場合は、修理ができないこともあります。

修理を依頼されるときは

点検および修理を依頼される前に、各商品の『**取扱い説明書**』をもう一度ご確認の上、それでも故障が直らない場合やご不明な点がある場合は、必ず販売店、弊社の地域ごとの営業事業所または**「LIXIL修理受付センター」**にご相談ください。その際、下記のことをご連絡ください。

①ご住所・お名前・電話番号
②商品名・品番
③ご購入日またはご入居日
※分譲住宅（建売）、分譲マンションは建設業者から売主への引渡し日となります。
④故障または異常の内容
⑤訪問ご希望日
⑥LIXIL修理受付センターにご連絡の際は、商品のご購入者様名

個人情報保護について

当社は、当社取扱商品のユーザーさまおよび流通業者さま等の個人情報を商品納入にあたって取得し、将来にわたる品質保証、メンテナンス、その他当社プライバシーポリシーに記載の目的のために利用させていただきます。個人情報の取扱いについての詳細は、LIXILオフィシャルサイトの「プライバシーポリシー」をご覧ください。

点検および修理の依頼先

・お求めの取扱い店
・製品に表示している連絡先
・LIXIL修理受付センター

点検および修理料金のしくみ

修理料金は技術料・部品代・出張料などで構成されています。
技術料は、点検および故障個所の修理および部品交換・調整などの作業にかかる費用です。
部品代は、修理に使用した部品代です。
出張料は、修理士を派遣する場合の費用です。なお修理により交換した部品・製品は、特段のお申し出がない場合は当社にて引き取らせていただきます。

修理用部品の保有期間

この商品の修理用部品（商品の機能維持には問題ない範囲内で色やデザインが異なる代替部品も含みます。）の最低保有期間は、製造打切り後10年です。電装系部品については製造打切り後7年、室内建具などの扉・引出しなどの面材については、製造打切り後2年としております。
※機器類など専用の取扱い説明書があるものは除きます。添付の取扱い説明書をご確認ください。
また、修理用部品の供給が難しい場合は新シリーズの類似商品を供給させていただくこともありますのでご了承ください。

交換用部品について

お客さまご自身でお取替えいただける部品については、LIXILオフィシャルサイトよりご注文いただけます。
●LIXIL PARTS SHOP　https://partsshop.lixil.co.jp/shop/default.aspx

掲載のない部品につきましては、お求めの取扱い店または当社お客さま相談センター0120-126-001にご連絡ください。

【安全・安心にご使用いただくには専門業者による定期的な維持管理が重要です】
日頃からサッシに異常が無いか、操作・作動状況の変化が無いかを注意していただき、異常を感じたら速やかに専門業者にご相談ください。
安全に係る部品として、引違い窓等の戸車、はずれ止め、ストッパーなどは、10年を目安※に交換することを推奨します。
異常が確認されない場合でも、時間とともに故障のリスクが高まる可能性があります。
（※使用環境により異なります。また保証期間ではありません。）

ビル商品取扱説明書

株式会社 LIXIL

納　付　書（配布依頼書）

年　月　日

御中

工 事 名	
所 在 地	

上記工事の商品を正しく使用していただき、性能・機能保持のため、

ビル商品取扱説明書を建主さま（ご使用者）にお渡しください。

社名

キリトリ

キ　リ　ト　リ

Ⓑ ビル商品取扱説明書

株式会社 LIXIL

受　領　書

年　月　日

御中

工 事 名	
所 在 地	

上記工事の **ビル商品取扱説明書** を受領致しました。

施工者よりの引き渡し日　　年　　月　　日

社名

株式会社 LIXIL

商品についてのお問い合わせ・部品のご購入は、お客さま相談センターまで
受付時間/月～金 9:00～18:00　土・日・祝日 9:00～17:00（ゴールデンウィーク、夏期休暇、年末年始等を除く）

TEL. **0120-126-001**　FAX.**03-3638-8447**

●旭トステム外装株式会社のサイディング材に関する商品相談は
旭トステム外装（株）サービスデスクナビダイヤル　TEL.0570-001-117

修理のご依頼は、LIXIL修理受付センターまで
受付時間/月～金 9:00～18:00（祝日、年末年始、夏期休暇等を除く）

TEL. **0120-413-433**　FAX. **0120-413-436**

https://www.lixil.co.jp/support/

安全に関するご注意
ご使用の前に「取扱説明書」をよくご覧の上、正しくお使いください。また、取付設置工事は「取付設置説明書・施工説明書」に従ってください。いずれの場合も、取り扱いを誤ると事故や故障の原因となります。

個人情報保護について
当社は、当社取扱商品のユーザーさま及び流通業者さま等の個人情報を商品納入にあたって取得し、将来にわたる品質保証、メンテナンス、その他当社プライバシーポリシーに記載の目的のために利用させていただきます。個人情報の取り扱いについての詳細は、当社オフィシャルサイトの「プライバシーポリシー」をご覧ください。

●写真は印刷のため、実際の色と異なる場合がございます。現物またはサンプルなどにてご確認ください。
●仕様・価格は予告なく変更する場合がありますので、ご了承ください。
●本カタログ掲載内容及び写真・図版の無断転載はかたくお断りします。

株式会社 LIXIL

地球環境のためにLIXILは
業界トップランナーとして
先進的な取組をしていきます。

会社や商品についての情報のご確認は、LIXIL オフィシャルサイトまで

https://www.lixil.co.jp/

※ショールームの所在地、カタログの閲覧・請求、図面・CAD データなどの各種情報は、上記オフィシャルサイトから
ご確認ください。

業務用 | AF8300 | 19 | 2021.9.30 発行

AF8300